

科目名	HIPHOP A(1)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	岩崎浩太郎
学科・専攻	メディア＆テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	講師歴16年、バックダンサー、振付、ミュージカル、メディア出演など						
授業の学習 内容	体の使い方を知る。またそのための体作り。基礎的な動きをしっかりと音に合わせてレッスン。いろいろな曲でいろいろな踊りにトライ。自分を客観的にま見て自分研究。						
到達目標	リズムに慣れる(音楽を聴く事に慣れる)。体全体を1つに繋げる。音楽にしっかり合った踊りが出来るようにする。踊り(体の使い方)のレパートリーを増やす。自分を知る。技術だけではなく社会人として良いダンサーになる。						
評価方法と基準	出席率60%、授業や課題の取り組み方30%、テスト10%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義、演習	自己紹介、レベルチェック	
2		演習	アイソレーション、リズムのとり方を覚える	
3		演習	リズム&ボディコントロール、振り	
4		演習	リズム&ボディコントロール、振り	
5		演習	リズム&ボディコントロール、振り	
6		演習	リズム&ボディコントロール、振り	
7		演習	リズム&ボディコントロール、振り	
8		演習	リズム&ボディコントロール、振り	
9		演習	リズム&ボディコントロール、振り	
10		演習	リズム&ボディコントロール、振り	
11		演習	リズム&ボディコントロール、振り	
12		試験	学んだ事の確認、客観的に自分を知る	
13		演習	リズム確認&応用、振り	
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

東京ダンス・俳優&舞台芸術専門学校

科目名	HIPHOP A(2)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	岩崎浩太郎
		授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
学科・専攻	メディア＆テクノロジー科(昼間部二)						
教員の略歴	講師歴16年、バックダンサー、振付、ミュージカル、メディア出演など						
授業の学習 内容	体の使い方を知る。またそのための体作り。基礎的な動きをしっかりと音に合わせてレッスン。いろいろな曲でいろいろな踊りにトライ。自分を客観的にま見て自分研究。						
到達目標	リズムに慣れる(音楽を聴く事に慣れる)。体全体を1つに繋げる。音楽にしっかり合った踊りが出来るようにする。踊り(体の使い方)のレパートリーを増やす。自分を知る。技術だけではなく社会人として良いダンサーになる。						
評価方法と基準	出席率60%、授業や課題の取り組み方30%、テスト10%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	リズム&ボディコントロール、振り	
2		演習	リズム&ボディコントロール、振り	
3		演習	リズム&ボディコントロール、振り	
4		演習	リズム&ボディコントロール、振り	
5		演習	リズム&ボディコントロール、振り	
6		演習	リズム&ボディコントロール、振り	
7		演習	リズム&ボディコントロール、振り	
8		演習	リズム&ボディコントロール、振り	
9		演習	リズム&ボディコントロール、振り	
10		演習	リズム&ボディコントロール、振り	
11		演習	リズム&ボディコントロール、振り	
12		試験	学んだ事の確認、客観的に自分を知る	
13		演習	リズム確認&応用、振り	
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

東京ダンス・俳優&舞台芸術専門学校

科目名	HIP HOP B(1)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	YU JURRY
		授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
学科・専攻	メディア＆テクノロジー科(昼間部二)						
教員の略歴	ダンサーや振付でLIVE等に参加(BTS、MIYAVI、KESHA、w-inds.など)						
授業の学習 内容	①基礎的なダンスを深めると共に魅せることを意識する ②ダンスに関しては全般 ③一線で活躍できるアーティスト ④単純な振り落としの授業ではなく、体の使い方なども含めた内容						
到達目標	ダンスの技術的向上、その習慣化						
評価方法と基準	実技テストによる採点と授業の出席率による平常点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	業界の仕事をするということ。授業を受けるうえでの心構え	授業内容を自主練習
2		講義・演習	筋トレストレッチによる体づくり	授業内容を自主練習
3		講義・演習	基礎的な振付	授業内容を自主練習
4		講義・演習	振付けの踊りこみ	授業内容を自主練習
5		講義・演習	振付の応用	授業内容を自主練習
6		講義・演習	応用の踊り込み	授業内容を自主練習
7		講義・演習	HIPHOPの振付け	授業内容を自主練習
8		講義・演習	HIPHOPの要素を多く入れた振付け開始。	授業内容を自主練習
9		講義・演習	HIPHOPの要素を多く入れた振付けの応用	授業内容を自主練習
10		講義・演習	HIPHOPの要素を多く入れた振付けの応用踊りこみ	授業内容を自主練習
11		講義・演習	HIPHOPの要素を多く入れた振付けの応用踊りこみ②	授業内容を自主練習
12		講義・演習	テスト振付	授業内容を自主練習
13		講義・演習	テスト	授業内容を自主練習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	HIP HOP B(2)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	YU JURRY
学科・専攻	メディア＆テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	ダンサーや振付でLIVE等に参加(BTS、MIYAVI、KESHA、w-inds.など)						
授業の学習 内容	①基礎的なダンスを深めると共に魅せることを意識する ②ダンスに関しては全般 ③一線で活躍できるアーティスト ④単純な振り落としの授業ではなく、体の使い方なども含めた内容						
到達目標	ダンスの技術的向上、その習慣化						
評価方法と基準	実技テストによる採点と授業の出席率による平常点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	前期の復習。体づくりの見直し	授業内容を自主練習
2		講義・演習	前期のダンスの見直し、復習。	授業内容を自主練習
3		講義・演習	前期より難易度を高めた振付	授業内容を自主練習
4		講義・演習	難易度を高めた振付の踊り込み	授業内容を自主練習
5		講義・演習	より難しい振付	授業内容を自主練習
6		講義・演習	応用の踊り込み	授業内容を自主練習
7		講義・演習	これまでの物を入れたうえで自由度を高めた振付	授業内容を自主練習
8		講義・演習	自由度を高めた振付の踊り込み	授業内容を自主練習
9		講義・演習	より自由度と難易度の高い振付	授業内容を自主練習
10		講義・演習	前週の踊り込み	授業内容を自主練習
11		講義・演習	自己表現を求めた踊り	授業内容を自主練習
12		講義・演習	テスト振付	授業内容を自主練習
13		講義・演習	テスト	授業内容を自主練習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	HIPHOP C(1)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	相沢圭祐
学科・コース	メディア＆テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)		
教員の略歴	ダンサー・講師						
授業の学習 内容	基礎となる身体の使い方や体力作りとステップ、表現トレーニング						
到達目標	自分の体の使い方を知り、タメや表現力を身に着ける						
評価方法と基準	実技テストによる採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	基礎トレーニング・リズム・振付	復習
2		講義・演習	基礎トレーニング・リズム・振付	復習
3		講義・演習	基礎トレーニング・リズム・振付	復習
4		講義・演習	基礎トレーニング・リズム・振付	復習
5		講義・演習	基礎トレーニング・リズム・振付	復習
6		講義・演習	基礎トレーニング・リズム応用・振付	復習
7		講義・演習	基礎トレーニング・リズム応用・振付	復習
8		講義・演習	基礎トレーニング・リズム応用・振付	復習
9		講義・演習	基礎トレーニング・リズム応用・振付	復習
10		講義・演習	基礎・ステップ・振付	復習
11		講義・演習	基礎・ステップ・振付	復習
12		講義・演習	基礎・ステップ・振付	復習
13		講義・演習	基礎・ステップ・振付	復習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	HIPHOP C(2)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	相沢圭祐
学科・コース	メディア＆テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)		
教員の略歴	ダンサー・講師						
授業の学習 内容	基礎となる身体の使い方や体力作りとステップ、表現トレーニング						
到達目標	自分の体の使い方を知り、タメや表現力を身に着ける						
評価方法と基準	実技テストによる採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	基礎トレーニング・リズム・振付	復習
2		講義・演習	基礎トレーニング・リズム・振付	復習
3		講義・演習	基礎トレーニング・リズム・振付	復習
4		講義・演習	基礎トレーニング・リズム・振付	復習
5		講義・演習	基礎トレーニング・リズム・振付	復習
6		講義・演習	基礎トレーニング・リズム応用・振付	復習
7		講義・演習	基礎トレーニング・リズム応用・振付	復習
8		講義・演習	基礎トレーニング・リズム応用・振付	復習
9		講義・演習	基礎トレーニング・リズム応用・振付	復習
10		講義・演習	基礎・ステップ・振付	復習
11		講義・演習	基礎・ステップ・振付	復習
12		講義・演習	基礎・ステップ・振付	復習
13		講義・演習	基礎・ステップ・振付	復習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	JAZZ FUNK(1)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	IORI SOMA
学科・専攻	メディア＆テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	アメリカ・ロサンゼルスでダンサーとして活動、日本ではWS、MV等出演						
授業の学習 内容	ベーシックなJazzFunkダンスの内容。クラシックバレエやFunkの基礎も取り入れながら、JAZZFunkで主に使われる技を練習、習得。曲でのコンビネーションによるダンス実施。						
到達目標	正しいウォーミングアップ、ストレッチによる体作り。基本的な知識、オーディションなどにも対応できるようにスキルを身に付けていく。早くて正確な振り覚えができるようになる。曲に合わせた感情表現、踊りの魅せ方ができるようになる。						
評価方法と基準	実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	授業概要説明。ウォーミングアップ解説	次週に向けての自主練習。
2		講義・演習	筋トレ レベルアップ	前週の復習。次週に向けての自主練習。
3		講義・演習	ストレッチの強化	次週に向けての自主練習。
4		講義・演習	アイソレーションを中心に。	前週の復習。次週に向けての自主練習。
5		講義・演習	ウォーキング	前週の復習。次週に向けての自主練習。
6		講義・演習	フロアでセクシーに表現。	前週の復習。次週に向けての自主練習。
7		講義・演習	フォーメーションで踊る①	前週の復習。次週に向けての自主練習。
8		講義・演習	フォーメーションで踊る②	前週の復習。次週に向けての自主練習。
9		講義・演習	フリーでのダンス強化	前週の復習。次週に向けての自主練習。
10		講義・演習	セクシーな振り付けで踊る。	前週の復習。次週に向けての自主練習。
11		講義・演習	胸部と腰をしっかり使う。	前週の復習。次週に向けての自主練習。
12		講義・演習	魅せ方、表現の練習	前週の復習。次週に向けての自主練習。
13		講義・演習	テスト	復習
14		講義・演習	レポート提出	これまでの授業の復習
15		講義・演習	レポート提出	これまでの授業の復習
準備学習 時間外学習			個人での入念なストレッチ。授業内の不安点は個人で要復習、要練習。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	JAZZ FUNK(2)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	IORI SOMA
学科・専攻	メディア＆テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	アメリカ・ロサンゼルスでダンサーとして活動、日本ではWS、MV等出演						
授業の学習 内容	ベーシックなJazzFunkダンスの内容。クラシックバレエやFunkの基礎も取り入れながら、JAZZFunkで主に使われる技を練習、習得。曲でのコンビネーションによるダンス実施。						
到達目標	正しいウォーミングアップ、ストレッチによる体作り。基本的な知識、オーディションなどにも対応できるようにスキルを身に付けていく。早くて正確な振り覚えができるようになる。曲に合わせた感情表現、踊りの魅せ方ができるようになる。						
評価方法と基準	実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	授業概要説明。ウォーミングアップ解説	次週に向けての自主練習。
2		講義・演習	筋トレ レベルアップ	前週の復習。次週に向けての自主練習。
3		講義・演習	ストレッチの強化	次週に向けての自主練習。
4		講義・演習	アイソレーションを中心に。	前週の復習。次週に向けての自主練習。
5		講義・演習	ウォーキング	前週の復習。次週に向けての自主練習。
6		講義・演習	フロアでセクシーに表現。	前週の復習。次週に向けての自主練習。
7		講義・演習	フォーメーションで踊る①	前週の復習。次週に向けての自主練習。
8		講義・演習	フォーメーションで踊る②	前週の復習。次週に向けての自主練習。
9		講義・演習	フリーでのダンス強化	前週の復習。次週に向けての自主練習。
10		講義・演習	セクシーな振り付けで踊る。	前週の復習。次週に向けての自主練習。
11		講義・演習	胸部と腰をしっかり使う。	前週の復習。次週に向けての自主練習。
12		講義・演習	魅せ方、表現の練習	前週の復習。次週に向けての自主練習。
13		講義・演習	テスト	復習
14		講義・演習	レポート提出	これまでの授業の復習
15		講義・演習	レポート提出	これまでの授業の復習
準備学習 時間外学習			個人での入念なストレッチ。授業内の不安点は個人で要復習、要練習。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	JAZZ A(1)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	久次亜希子
学科・専攻	メディア＆テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)		
教員の略歴	バレエを5歳から、ジャズダンスを16歳から始める。高校を卒業後、国内にしながら数々のアメリカ人講師のクラスを受け続け、1995年渡米。LAでも様々なクラスを受け、経験と知識を増やす。帰国後は作品作りと並行して関東だけにとどまらず、関西の専門学校などでもダンサーの育成に努める。						
授業の学習 内容	やみくもに体を動かしているのではなく、踊りやすくなるために基礎があることを理解する						
到達目標	正しい姿勢でポジションを知り、それらを利用して踊ることができる						
評価方法と基準	出席率40% 実技テスト60%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	はじめての振りを踊ってみる	次週に向けての自主練習。
2		講義・演習	ウォームアップの説明	前週の復習。次週に向けての自主練習。
3		講義・演習	フラットバックの説明	前週の復習。次週に向けての自主練習。
4		講義・演習	パラレルとターンアウトの説明	前週の復習。次週に向けての自主練習。
5		講義・演習	正しい立ち方の説明	前週の復習。次週に向けての自主練習。
6		講義・演習	手の伸ばし方の説明	前週の復習。次週に向けての自主練習。
7		講義・演習	足の甲、つま先の伸ばし方を理解する	前週の復習。次週に向けての自主練習。
8		講義・演習	正しい足の伸ばし方の説明	前週の復習。次週に向けての自主練習。
9		講義・演習	足の出るポジションを理解する	前週の復習。次週に向けての自主練習。
10		講義・演習	片足の重心を知る	前週の復習。次週に向けての自主練習。
11		講義・演習	以上のどれかを気を付けながら踊ることができる	前週の復習。次週に向けての自主練習。
12		講義・演習	テスト	前週の復習。次週に向けての自主練習。
13		講義・演習	鏡無しで踊ることができる	復習
14		講義・演習	レポート提出	これまでの授業の復習
15		講義・演習	レポート提出	これまでの授業の復習
準備学習 時間外学習			個人での入念なストレッチ。授業内の不安点は個人で要復習、要練習。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	JAZZ A(2)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	久次亜希子
学科・専攻	メディア&テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)		
教員の略歴	バレエを5歳から、ジャズダンスを16歳から始める。高校を卒業後、国内にしながら数々のアメリカ人講師のクラスを受け続け、1995年渡米。LAでも様々なクラスを受け、経験と知識を増やす。帰国後は作品作りと並行して関東だけにとどまらず、関西の専門学校などでもダンサーの育成に努める。						
授業の学習 内容	基礎を知ると無知に合わせなくても体の方向や手の向きが一緒に踊る人とそろってることが実感する						
到達目標	他人とそろえることも自分なりに踊ることもパートによってできるようになる						
評価方法と基準	出席率40% 実技テスト60%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	新しいウォームアップの習得	次週に向けての自主練習。
2		講義・演習	自分たちでウォームアップができる	前週の復習。次週に向けての自主練習。
3		講義・演習	足の裏の使い方の説明	前週の復習。次週に向けての自主練習。
4		講義・演習	正しくルルベができる	前週の復習。次週に向けての自主練習。
5		講義・演習	インパッセでバランスをとることができる	前週の復習。次週に向けての自主練習。
6		講義・演習	ピルエットダブルができる	前週の復習。次週に向けての自主練習。
7		講義・演習	片足から片足への体重移動ができる	前週の復習。次週に向けての自主練習。
8		講義・演習	ピケターンができる	前週の復習。次週に向けての自主練習。
9		講義・演習	手の先まで神経を入れて踊ることができる	前週の復習。次週に向けての自主練習。
10		講義・演習	鏡がなくても正しいポジションに手足を出せる	前週の復習。次週に向けての自主練習。
11		講義・演習	鏡がなくても正しいポジションに手足を出せる	前週の復習。次週に向けての自主練習。
12		講義・演習	テスト	前週の復習。次週に向けての自主練習。
13		講義・演習	一人で踊ることができる	復習
14		講義・演習	レポート提出	これまでの授業の復習
15		講義・演習	レポート提出	これまでの授業の復習
準備学習 時間外学習			個人での入念なストレッチ。授業内の不安点は個人で要復習、要練習。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	JAZZ B(1)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	BE THERE
学科・専攻	メディア & テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	ダンスの基礎となる身体の使い方、リズム感、空間認識能力を養うことを目的とします。 JAZZダンスの要素を多く取り入れながら、身体の柔軟性・筋力・バランス感覚を向上させ、表現力の基礎を築きます。						
到達目標	ダンスに必要な基本的な身体の動き(立つ、歩く、跳ぶ、回るなど)を習得し、正確かつスムーズに行うことができる。 音楽のリズムや拍子に合わせて身体を動かすことができる。 簡単な振り付けを習得し、表現することができる。						
評価方法と基準	授業への積極的な参加度(姿勢、意欲、質問など) 基本的な動きの習得度(正確性、スムーズさ、リズム感など) グループワークにおける協調性						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	ウォーミングアップの基礎	
2		講義・演習	身体の軸とバランス	
3		講義・演習	リズムを感じる	
4		講義・演習	ステップの導入	
5		講義・演習	空間と方向の理解	
6		講義・演習	身体の使い方と表現1	
7		講義・演習	身体の使い方と表現2	
8		講義・演習	簡単なコンビネーションに挑戦	
9		講義・演習	バレエの基礎	
10		講義・演習	ジャズダンスの基礎	
11		講義・演習	表現力を高める―顔と視線	
12		講義・演習	表現力を高める―感情表現1	
13		講義・演習	表現力を高める―感情表現2	
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
上記の内容を状況や学生に合わせて、向上するよう努める。				

科目名	JAZZ B(2)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	BE THERE
学科・専攻	メディア＆テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	ダンスの基礎となる身体の使い方、リズム感、空間認識能力を養うことを目的とします。 JAZZダンスの要素を多く取り入れながら、身体の柔軟性・筋力・バランス感覚を向上させ、表現力の基礎を築きます。						
到達目標	ダンスに必要な基本的な身体の動き(立つ、歩く、跳ぶ、回るなど)を習得し、正確かつスムーズに行うことができる。 音楽のリズムや拍子に合わせて身体を動かすことができる。 簡単な振り付けを習得し、表現することができる。						
評価方法と基準	授業への積極的な参加度(姿勢、意欲、質問など) 基本的な動きの習得度(正確性、スムーズさ、リズム感など) グループワークにおける協調性						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	ウォーミングアップの基礎	
2		講義・演習	身体の軸とバランス	
3		講義・演習	リズムを感じる	
4		講義・演習	ステップの導入	
5		講義・演習	空間と方向の理解	
6		講義・演習	身体の使い方と表現1	
7		講義・演習	身体の使い方と表現2	
8		講義・演習	簡単なコンビネーションに挑戦	
9		講義・演習	バレエの基礎	
10		講義・演習	ジャズダンスの基礎	
11		講義・演習	表現力を高める―顔と視線	
12		講義・演習	表現力を高める―感情表現1	
13		講義・演習	表現力を高める―感情表現2	
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
上記の内容を状況や学生に合わせて、向上するよう努める。				

科目名	JAZZ C(1)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	松村武司
学科・専攻	メディア＆テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	「地球ゴージャス」ミュージカル出演・「木村カエラ」バックダンサー・「サカナクション」ダンサー						
授業の学習 内容	ダンサーを職業とする為に必要な、技術・心構え・コミュニケーション力を授業内容全般を通して学んでいく。 身体を鍛え抜く事で精神力も鍛え、社会人として必要なマナーも学んで行く。業界で必要とされる人材の研究。□						
到達目標	自身の個性を、自身のダンススキルで表現出来るようになる。将来の目標としている分野に進んで行けるよう、自身で考え行動して行ける人物になる。協調性を磨き良好なチームワークを体現する。						
評価方法と基準	定期テスト70％・出席率30％						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		実習	JAZZ基礎・筋トレ・ターン&ジャンプ・コレオ	ストレッチ、振付練習、スタイルの研究
2		実習	JAZZ基礎・筋トレ・ターン&ジャンプ・コレオ	ストレッチ、振付練習、スタイルの研究
3		実習	JAZZ基礎・筋トレ・ターン&ジャンプ・コレオ	ストレッチ、振付練習、スタイルの研究
4		実習	JAZZ基礎・筋トレ・ターン&ジャンプ・コレオ	ストレッチ、振付練習、スタイルの研究
5		実習	JAZZ基礎・筋トレ・ターン&ジャンプ・コレオ	ストレッチ、振付練習、スタイルの研究
6		実習	JAZZ基礎・筋トレ・ターン&ジャンプ・コレオ	ストレッチ、振付練習、スタイルの研究
7		実習	JAZZ基礎・筋トレ・ターン&ジャンプ・コレオ	ストレッチ、振付練習、スタイルの研究
8		実習	JAZZ基礎・筋トレ・ターン&ジャンプ・コレオ	ストレッチ、振付練習、スタイルの研究
9		実習	JAZZ基礎・筋トレ・ターン&ジャンプ・コレオ	ストレッチ、振付練習、スタイルの研究
10		実習	JAZZ基礎・筋トレ・ターン&ジャンプ・コレオ	ストレッチ、振付練習、スタイルの研究
11		実習	JAZZ基礎・筋トレ・ターン&ジャンプ・コレオ	ストレッチ、振付練習、スタイルの研究
12		実習	定期テスト	自身の踊りの研究
13		実習	前期まとめ	次年度に向けての目標を立てる
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			色々なジャンルのエンターテインメントの研究	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	JAZZ C(2)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	松村武司
学科・専攻	メディア&テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	「地球ゴージャス」ミュージカル出演・「木村カエラ」バックダンサー・「サカナクション」ダンサー						
授業の学習 内容	ダンサーを職業とする為に必要な、技術・心構え・コミュニケーション力を授業内容全般を通して学んでいく。 身体を鍛え抜く事で精神力も鍛え、社会人として必要なマナーも学んで行く。業界で必要とされる人材の研究。□						
到達目標	自身の個性を、自身のダンススキルで表現出来るようになる。将来の目標としている分野に進んで行けるよう、自身で考え行動して行ける人物になる。協調性を磨き良好なチームワークを体現する。						
評価方法と基準	定期テスト70％・出席率30％						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		実習	JAZZ基礎・筋トレ・ターン&ジャンプ・コレオ	ストレッチ、振付練習、スタイルの研究
2		実習	JAZZ基礎・筋トレ・ターン&ジャンプ・コレオ	ストレッチ、振付練習、スタイルの研究
3		実習	JAZZ基礎・筋トレ・ターン&ジャンプ・コレオ	ストレッチ、振付練習、スタイルの研究
4		実習	JAZZ基礎・筋トレ・ターン&ジャンプ・コレオ	ストレッチ、振付練習、スタイルの研究
5		実習	JAZZ基礎・筋トレ・ターン&ジャンプ・コレオ	ストレッチ、振付練習、スタイルの研究
6		実習	JAZZ基礎・筋トレ・ターン&ジャンプ・コレオ	ストレッチ、振付練習、スタイルの研究
7		実習	JAZZ基礎・筋トレ・ターン&ジャンプ・コレオ	ストレッチ、振付練習、スタイルの研究
8		実習	JAZZ基礎・筋トレ・ターン&ジャンプ・コレオ	ストレッチ、振付練習、スタイルの研究
9		実習	JAZZ基礎・筋トレ・ターン&ジャンプ・コレオ	ストレッチ、振付練習、スタイルの研究
10		実習	JAZZ基礎・筋トレ・ターン&ジャンプ・コレオ	ストレッチ、振付練習、スタイルの研究
11		実習	JAZZ基礎・筋トレ・ターン&ジャンプ・コレオ	ストレッチ、振付練習、スタイルの研究
12		実習	定期テスト	自身の踊りの研究
13		実習	後期まとめ	次年度に向けての目標を立てる
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			色々なジャンルのエンターテインメントの研究	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	バレエA(1)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	久次亜希子
学科・専攻	メディア&テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	バレエを5歳から、ジャズダンスを16歳から始める。高校を卒業後、国内にしながら数々のアメリカ人講師のクラスを受け続け、1995年渡米。LAでも様々なクラスを受け、経験と知識を増やす。帰国後は作品作りと並行して関東だけにとどまらず、関西の専門学校などでもダンサーの育成に努める。						
授業の学習 内容	角ポジションや手足の向き、方向などを理解し、実践させる						
到達目標	バレエがダンスを踊るうえで必要であると身をもって知る						
評価方法と基準	出席率40% 実技テスト60%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	ブリエからロンデジャンプまでやってみる	次週に向けての自主練習。
2		講義・演習	難しバランスをやった後にビルエットをやってみる	前週の復習。次週に向けての自主練習。
3		講義・演習	1番や5番に戻る意味の説明	前週の復習。次週に向けての自主練習。
4		講義・演習	長く足を使い切る	前週の復習。次週に向けての自主練習。
5		講義・演習	ブリエから跳んでみる	前週の復習。次週に向けての自主練習。
6		講義・演習	前・横・後ろの説明→バーから離れてできるのかやってみる	前週の復習。次週に向けての自主練習。
7		講義・演習	片足のあてーるでバランスをとることができる	前週の復習。次週に向けての自主練習。
8		講義・演習	体重移動から片足になることができる	前週の復習。次週に向けての自主練習。
9		講義・演習	アームスの説明	前週の復習。次週に向けての自主練習。
10		講義・演習	もう一度ビルエットをやってみる	前週の復習。次週に向けての自主練習。
11		講義・演習	バーなしでタンデュをすることができる	前週の復習。次週に向けての自主練習。
12		講義・演習	テスト	前週の復習。次週に向けての自主練習。
13		講義・演習	トンベパドブレビルエットをやってみる	復習
14		講義・演習	レポート提出	これまでの授業の復習
15		講義・演習	レポート提出	これまでの授業の復習
準備学習 時間外学習			個人での入念なストレッチ。授業内の不安点は個人で要復習、要練習。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	バレエA(2)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	久次亜希子
学科・専攻	メディア＆テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	バレエを5歳から、ジャズダンスを16歳から始める。高校を卒業後、国内にしながら数々のアメリカ人講師のクラスを受け続け、1995年渡米。LAでも様々なクラスを受け、経験と知識を増やす。帰国後は作品作りと並行して関東だけにとどまらず、関西の専門学校などでもダンサーの育成に努める。						
授業の学習 内容	バレエをやることでシェネなどもきれいに回ることができると実感できる。						
到達目標	フロアでのアンシェヌマンがいくつかできるようになる。						
評価方法と基準	出席率40% 実技テスト60%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	アンシェumannをすぐに覚えることができる	次週に向けての自主練習。
2		講義・演習	プリエを正しく行うことができる	前週の復習。次週に向けての自主練習。
3		講義・演習	正しい方向にダンデュを出すことができる	前週の復習。次週に向けての自主練習。
4		講義・演習	バーありでそれぞれのポジションにアンレールで出せる	前週の復習。次週に向けての自主練習。
5		講義・演習	バーなしで2番プリエからパッセにいくことができる	前週の復習。次週に向けての自主練習。
6		講義・演習	バーなしで4番プリエからパッセにいくことができる	前週の復習。次週に向けての自主練習。
7		講義・演習	ビケでクロスフロアができる	前週の復習。次週に向けての自主練習。
8		講義・演習	細かくシェネができる	前週の復習。次週に向けての自主練習。
9		講義・演習	トンペパドブレピリエットができる	前週の復習。次週に向けての自主練習。
10		講義・演習	ピリエットからシェネに続けることができる	前週の復習。次週に向けての自主練習。
11		講義・演習	バーなしで2×8のアンシェumannができる	前週の復習。次週に向けての自主練習。
12		講義・演習	テスト	前週の復習。次週に向けての自主練習。
13		講義・演習	ジャンプをやってみる	復習
14		講義・演習	レポート提出	これまでの授業の復習
15		講義・演習	レポート提出	これまでの授業の復習
準備学習 時間外学習			個人での入念なストレッチ。授業内の不安点は個人で要復習、要練習。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	バレエB(1)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	下島功佐
学科・専攻	メディア＆テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	ロシアワガノワバレエアカデミー留学卒業、元谷桃子バレエ団ソリスト						
授業の学習 内容	① バレエは、ダンス全般及び演技に共通して通用する部分が非常に多いので、将来、ダンス関係及び舞台関係への就職を少しでも考えているならば必須です。 ② ダンス全般の授業と関係します。しなやかで強い筋肉、軸のぶれない体幹、美しい身体のライン、音の聞き方感じ方、以上の体得という位置付けです。 ③ バレエは専門的且つ基礎的で地味な練習が多いが毎時間繰り返す事で精神力も鍛え、自分の身体、自分の可能性としっかりと向き合い、卒業後の進路の可能性を広げていってほしい。 ①～③をふまえて 柔軟性を高めるためのストレッチ、体幹強化とバレエの基礎知識習得の為のバーレッスン、バレエのステップへの理解を深める為、ジャンプ、回転も多用したセンターレッスン(バーレッスン、センターレッスン、共に音楽に合わせて行う)						
到達目標	当たり前ではあるが、休まず毎時間出席する事が第1目標。最終的にはバレエのポジション、ステップコンビネーションの説明の理解が出来、尚且つ実践できるようになる。						
評価方法と基準	定期テストの点数と普段の授業への取り組み方を総合的に評価						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・発表	腹筋、背筋、腹斜間の筋力強化の為のトレーニング バーレッスン、手のポジション(アンバー、アンナヴァン、アン オー、アラセゴン)足のポジション(1〜6番)の説明を重点的に	知っているストレッチをしておく。
2		講義・発表	プリエ:身体をまっすぐにたてる意識を持つ事を重点的に。	1で学んだストレッチ、筋力トレーニング。手のポジション、足の ポジションの復習。
3		講義・発表	タンジュとジュテ:自分の前横後ろへ身体がぶれずに真っ直ぐに 足を出せる事を重点的に。	2で学んだストレッチ、筋力トレーニング。プリエの復習。
4		講義・発表	タンジュとジュテ:足の指、ドゥミをきちんと使えるように意識する ことを重点的に。	3で学んだストレッチ、筋力トレーニング。タンジュ、ジュテの復 習。
5		講義・発表	ロンデジャンプ:前横後ろのタンジュを連続して繋げて動かす事 を覚える、動かすときに身体、腰がブレない事を意識して。パッ セの説明。	4で学んだストレッチ、筋力トレーニング。タンジュ、ジュテの復 習。
6		講義・発表	フォンデュ:片足のプリエ、及びクベの形を理解、習得	5で学んだストレッチ、筋力トレーニング。ロンデジャンプ、パッセ の復習。
7		講義・発表	フラッペ:体幹がブレずに音、リズムに合わせてはつきりと素早く 足を動かせる。	6で学んだストレッチ、筋力トレーニング。フォンデュ、クベの復習
8		講義・発表	アダジオとグランバットマン:タンジュを通して足を高く上げ、キー ブ出来るように。素早く高く上げられるように。	7で学んだストレッチ、筋力トレーニング。フラッペの復習。
9		講義・発表	アダジオとグランバットマン:デベロッパの習得。	8で学んだストレッチ、筋力トレーニング。アダジオ、グランバット マンの復習。
10		講義・発表	ルルベの確認。	9で学んだストレッチ、筋力トレーニング。デベロッパの復習。
11		講義・発表	スシュとエシャッペの説明。	10で学んだストレッチ、筋力トレーニング。ルルベの復習。
12		講義・発表	シャンジュマンの説明。	11で学んだストレッチ、筋力トレーニング。スシュとエシャッペの 復習。
13		試験	12までのバーレッスン及びセンターレッスンの内容に対する理 解力の確認。	12で学んだストレッチ、筋力トレーニング。シャンジュマンの復 習。
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	バレエB(2)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	下島功佐
学科・専攻	メディア＆テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	ロシアワガノワバレエアカデミー留学卒業、元谷桃子バレエ団ソリスト						
授業の学習 内容	① バレエは、ダンス全般及び演技に共通して通用する部分が非常に多いので、将来、ダンス関係及び舞台関係への就職を少しでも考えているならば必須です。 ② ダンス全般の授業と関係します。しなやかで強い筋肉、軸のぶれない体幹、美しい身体のライン、音の聞き方感じ方、以上の体得という位置付けです。 ③ バレエは専門的且つ基礎的で地味な練習が多いが毎時間繰り返す事で精神力も鍛え、自分の身体、自分の可能性としっかりと向き合い、卒業後の進路の可能性を広げていってほしい。 ①～③をふまえて 柔軟性を高めるためのストレッチ、体幹強化とバレエの基礎知識習得の為のバーレッスン、バレエのステップへの理解を深める為、ジャンプ、回転も多用したセンターレッスン(バーレッスン、センターレッスン、共に音楽に合わせて行う)						
到達目標	当たり前ではあるが、休まず毎時間出席する事が第1目標。最終的にはバレエのポジション、ステップコンビネーションの説明の理解が出来、尚且つ実践できるようになる。						
評価方法と基準	定期テストの点数と普段の授業への取り組み方を総合的に評価						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・発表	センターレッスンでの角度、身体の向きの説明、エファセ、クロワゼ、エカルテ等。	前期に学んだストレッチ、筋力トレーニング。
2		講義・発表	バーを使わずに体幹を保ってタンジュ、グランバットマンと片足でパッセのバランス。	1で学んだストレッチ、筋力トレーニング。センターレッスンでの身体の向き、角度の復習。
3		講義・発表	回転をする時の首から上、顔の使い方、アンデダンとアンデオールのビルエットの説明と実践。	2で学んだストレッチ、筋力トレーニング。センターでのタンジュ、グランバットマン、パッセのやり方の復習。
4		講義・発表	バーを使わずにアダジオ、デベロップの実践。	3で学んだストレッチ、筋力トレーニング。ビルエットのアンデオールとアンデダンの違いの復習。
5		講義・発表	センターでのスシュとエシャッペ、スモールジャンプ(シャンジュマンやスーブルソーなど)前後左右に動かないその場でやるものの、説明と実践。	4で学んだストレッチ、筋力トレーニング。センターレッスンでのアダジオの復習。
6		講義・発表	グリッサードとアッサンブレの説明と実践。	5で学んだストレッチ、筋力トレーニング。スシュ、エシャッペとスモールジャンプの復習。
7		講義・発表	5.6.7の内容を応用したコンビネーション	6で学んだストレッチ、筋力トレーニング。グリッサードとアッサンブレの復習。
8		講義・発表	大きなジャンプ、グランワルツ、基本的なコンビネーションで。	7で学んだストレッチ、筋力トレーニング。アレグロジャンプの復習。
9		講義・発表	グランワルツを少し複雑なコンビネーションで。	8で学んだストレッチ、筋力トレーニング。グランワルツの復習。
10		講義・発表	シェネ、ピケアンデダン等、早い回転の連続技の説明と実践。	9で学んだストレッチ、筋力トレーニング。グランワルツの復習。
11		講義・発表	シェネとピケアンデダンのコンビネーション。	10で学んだストレッチ、筋力トレーニング。シェネとピケアンデダンの復習。
12		講義・発表	ジャンプとターンのコンビネーション。	11で学んだストレッチ、筋力トレーニング。連続回転コンビネーションの復習。
13		試験	後期12までのバーレッスン及びセンターレッスンの内容に対する理解力の確認	12で学んだストレッチ、筋力トレーニング。今までに習ったコンビネーションや回転技が出来るか試してみる
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	バレエ前期	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	ERIKO
		授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)		
学科・コース	メディア＆テクノロジー科(昼間部二)						
教員の略歴	ロシア国立ペルミバレエ学校卒業、英国Ballet Ruseバレエ団、USJダンサー、東京ディズニーリゾートダンサー						
授業の学習 内容	❶ ストレッチ、フロアバレエ ❷ パーレッスン ❸ センターレッスン						
到達目標	①ダンサーとしての身体作り ②プロフェッショナルな表現者となる為の基礎を学ぶ。③テクニック強化						
評価方法と基準	実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	ディスカッションと実技	一人一人の自己紹介と 目標を知る
2		講義・演習	フロアバレエとバーレッスン	フロアバレエで身体の使い方を知る
3		講義・演習	基礎レッスンの踊り込み	身体の使い方を知り、筋力をつける。
4		講義・演習	バーレッスンを理解できているか測る	分からないところをさらに確認する
5		講義・演習	バーレッスンの内容をさらに深める	バーレッスンの意味を理解する
6		講義・演習	苦手なバを 苦手なバを練習する	自分の弱点と 向き合う
7		講義・演習	センターレッスンやテクニック練習	ここからの課題を 自覚してもらう
8		講義・演習	バーレッスンとセンターレッスンを進める	回数をこなし、軸をしっかり作る
9		講義・演習	さらに練習する	毎回成長を 自身が感じれるまで練習する
10		講義・演習	センターレッスンの内容を深める	バーレッスンを活かせるか 自覚してもらう
11		講義・演習	センターレッスン、ジャンプの種類を覚える	ジャンプの種類を覚え、振りに活かしてもらう
12		講義・演習	バーレッスン、センターレッスンを踊り込む	自分自身何ができるようになったのかを 自覚する
13		講義・演習	前期の総括、成績判断	実技演習を通した前期の総括。
14		講義・演習	レポート提出	これまでの授業の復習
15		講義・演習	レポート提出	これまでの授業の復習
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	バレエ後期	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	ERIKO
		授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)		
学科・コース	メディア & テクノロジー科(昼間部二)						
教員の略歴	ロシア国立ペルミバレエ学校卒業、英国Ballet Ruseバレエ団、USJダンサー、東京ディズニーリゾートダンサー						
授業の学習 内容	●バーレッスン●センターレッスン●テクニック強化						
到達目標	①身体作り ②プロフェッショナルな表現者となる為の基礎を学ぶ ③スキルアップ						
評価方法と基準	実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	後期への意気込みをお互いに共有する	後期の授業への取り組みを有意義なものにする
2		講義・演習	バレエの表現をもっと考えながらレッスンする	客観的に見えるように考える
3		講義・演習	基礎レッスンの踊り込み	ポジションや動きの意味を理解し深める
4		講義・演習	自身の苦手なところを練習する	自分自身を理解する
5		講義・演習	基礎レッスンの内容を深める	さらに新しい事を覚えていく
6		講義・演習	基礎レッスンの内容を深める	ジャンプでもブレない軸を作る
7		講義・演習	基礎レッスンと回転系、ジャンプを強化	自分の苦手なところを強化
8		講義・演習	身体の使い方を忘れずにテクニック練習	自分自身で成長が感じられるまで、やりこむ
9		講義・演習	オーディションなども想定し練習する	客席を意識し何を伝えなきゃいけないかを考え動く
10		講義・演習	テクニック練習、発表練習	苦手なところをさらにやりこむ、振付に挑戦
11		講義・演習	バーとセンターのレッスン、発表練習	踊りを通して、基礎の大切さを知る
12		講義・演習	発表会練習	みんなで踊る事の大切さを知る
13		講義・演習	後期の総括、成績判断日	実技演習を通した後期の総括
14		講義・演習	レポート提出	これまでの授業の復習
15		講義・演習	レポート提出	これまでの授業の復習
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	コンテンポラリー(1)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	能美健志
		授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
学科・専攻	メディア&テクノロジー科(昼間部二)						
教員の略歴	コンテンポラリーダンス教師・振付家・ダンサー						
授業の学習 内容	①なぜこの授業を受けなければならないのか ②どの科目と関係するのか、その位置づけ ③学生にどうなって欲しいか ④※1~3をふまえたような授業を展開するか ①コンテンポラリーダンスは高い柔軟性と強い体幹が必然です。つまりあらゆるダンスの動きに適用する身体になるという事。 ②バレエ、テーマパーク、ジャズダンス等に応用可能。 ③最初は、ポジション、ムーブメントなど分からない事ばかりですが、継続することでダンサーの身体になっていきます。 ④コンテンポラリーダンスの基礎とポジション、ダンスクラシックの理解。姿勢、骨と筋肉の正しい使い方を学ぶ。						
到達目標	初歩的な身体構造の理解。正しい姿勢と立ち方、骨と筋肉の使い方を習得する。目標→骨とインナーマッスルの正しい連動を理解する事で外側に見える動きのクオリティーの向上を目指す。						
評価方法及び基準	出席率60%、授業態度20%、実技試験20% 理想レベル85%、標準レベル75% * 時間外学習→毎日ストレッチ等をするこ柔軟性と関節の可動域を広げる。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	オリエンテーションと身体の骨と筋肉の説明と理解。	シラバス等を見て準備する。
2		講義・演習	①腸腰筋の引き上げと正しい姿勢。立ち方。	前回授業復習(確認、理解)・ストレッチ等
3		講義・演習	②インナーマッスルの理解と応用。①の反復。	前回授業復習(確認、理解)・ストレッチ等
4		講義・演習	③フロアエクササイズとストレッチの理解。①～②の反復。	前回授業復習(確認、理解)・ストレッチ等
5		講義・演習	④センターエクササイズとストレッチの理解。①～③の反復。	前回授業復習(確認、理解)・ストレッチ等
6		講義・演習	⑤クロスフロアステップの理解。 ①～④の反復。	前回授業復習(確認、理解)・ストレッチ等
7		講義・演習	⑥コンビネーションの理解。 ①～⑤の反復。	前回授業復習(確認、理解)・ストレッチ等
8		講義・演習	⑦クロスフロアステップの基礎。 ①～⑦の反復。	前回授業復習(確認、理解)・ストレッチ等
9		講義・演習	⑧コンビネーションの基礎。①～⑧の反復。	前回授業復習(確認、理解)・ストレッチ等
10		講義・演習	⑨クロスフロアの応用。①～⑨の反復。	前回授業復習(確認、理解)・ストレッチ等
11		講義・演習	⑩コンビネーションの応用。①～⑩の反復。	前回授業復習(確認、理解)・ストレッチ等
12		講義・演習	⑪動きとインナーマッスル繋ぎの理解。	前回授業復習(確認、理解)・ストレッチ等
13		講義・演習	①～⑪の反復。	試験結果の反省と今後の対策。
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			授業内容の確認、理解し自身のスキルアップを計画的に考えて復習、ストレッチ等を反復をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				
レッスン着は身体ラインが見える物。裸足or靴下。				

科目名	コンテンポラリー(2)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	能美健志
学科・専攻	メディア＆テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	コンテンポラリーダンス教師・振付家・ダンサー						
授業の学習 内容	①なぜこの授業を受けなければならないのか ②どの科目と関係するのか、その位置づけ ③学生にどうなって欲しいか ④※1~3をふまえどのような授業を展開するか ①コンテンポラリーダンスは高い柔軟性と強い体幹が必然です。つまりあらゆるダンスの動きに適用する身体になるという事。 ②バレエ、テーマパーク、ジャズダンス等に応用可能。 ③最初は、ポジション、ムーブメントなど分からない事ばかりですが、継続することでダンサーの身体になっていきます。 ④コンテンポラリーダンスの基礎とポジション、ダンスクラシックの理解。姿勢、骨と筋肉の正しい使い方を学ぶ。						
到達目標	初歩的な身体構造の理解。正しい姿勢と立ち方、骨と筋肉の使い方を習得する。目標→骨とインナーマッスルの正しい運動を理解する事で外側に見える動きのクオリティーの向上を目指す。						
評価方法及び基準	出席率60%、授業態度20%、実技試験20% 理想レベル85%、標準レベル75% * 時間外学習→毎日ストレッチ等をするこ柔軟性と関節の可動域を広げる。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	①成長する為の心構え。骨とインナーマッスルの確認と内転筋の理解	前期のレッスン経験の確認。
2		講義・演習	②腸腰筋の引き上げと腹筋と内転筋の繋がりを理解。	①の授業復習(確認、理解)ストレッチする。
3		講義・演習	③エクササイズ、ストレッチの更なる理解と新ステップの理解。	②の授業復習(確認、理解)ストレッチする。
4		講義・演習	④新ステップ、新コンビネーションの理解。 ①～③の反復。	③の授業復習(確認、理解)ストレッチする。
5		講義・演習	⑤新ステップ、新コンビネーションの反復。 ①～④の反復	④の授業復習(確認、理解)ストレッチする。
6		講義・演習	⑥新ステップ、新コンビネーションの反復。 ①～⑤の反復。	⑤の授業復習(確認、理解)ストレッチする。
7		講義・演習	⑦新ステップ、新コンビネーションの応用。 ①～⑥の反復。	⑥の授業復習(確認、理解)ストレッチする。
8		講義・演習	⑧新ステップ、新コンビネーションの応用。 ①～⑦の反復。	⑦の授業復習(確認、理解)ストレッチする。
9		講義・演習	⑨新ステップの反復。新々コンビネーションの理解。①～⑧の反復。	⑧の授業復習(確認、理解)ストレッチする。
10		講義・演習	⑩新ステップの反復。新々コンビネーションの反復。①～⑨の反復。	⑨の授業復習(確認、理解)ストレッチする。
11		講義・演習	実技試験	試験結果の反省と今後の対策。
12		講義・演習	成長のプロセスのメンタル講義	筆記用具持参。復習、理解。
13		講義・演習	ポジティブ、ネガティブのメンタル講義	筆記用具持参。復習、理解。
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			授業内容を理解力、確認して自身のスキルアップを計画的に考えて復習。ストレッチ等反復をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				
レッスン着は身体ラインがハッキリ見える物。裸足or靴下。				

科目名	テーマパークA(1)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	南山光徳
学科・コース	メディア & テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)		
教員の略歴	テーマパークダンサー・ダンス講師						
授業の学習 内容	クラシックバレエを基礎としたアイソレーションを繰り返し行い、基礎を身につける。 身体の柔軟性を上げるためのストレッチ。 ターン、ジャンプなどの基本的なテクニック向上のためのクロスフロア。						
到達目標	基礎練習の積み重ねによって、しっかりとしたダンス能力を身につける。 プロの世界でも通用するような基礎となるダンススキル習得を目指す。						
評価方法と基準	実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	アイソレーションを覚える	授業内容を自主練習
2		講義・演習	身体の使い方を学ぶ	授業内容を自主練習
3		講義・演習	アームスの正しいポジションを学ぶ	授業内容を自主練習
4		講義・演習	ストレッチのやり方を学ぶ	授業内容を自主練習
5		講義・演習	バレエポジションを覚える	授業内容を自主練習
6		講義・演習	身体の軸の作り方を学ぶ	授業内容を自主練習
7		講義・演習	様々なターンの説明	授業内容を自主練習
8		講義・演習	ターンをきれいに回る	授業内容を自主練習
9		講義・演習	様々なジャンプの説明	授業内容を自主練習
10		講義・演習	ジャンプを正しく飛ぶ	授業内容を自主練習
11		講義・演習	ターンとジャンプの組み合わせ	授業内容を自主練習
12		講義・演習	クロスフロアを行う	授業内容を自主練習
13		講義・演習	今までの授業内容のテストを行う	授業内容を自主練習
14		講義・演習	これまでやってきたことを復習	授業内容を自主練習
15		講義・演習	これまでやってきたことを復習	授業内容を自主練習
準備学習 時間外学習			常に自分が目指すための舞台観劇をする。ネットなどでのオーディション情報をチェックする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	テーマパークA(2)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	南山光徳
学科・コース	メディア & テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)		
教員の略歴	テーマパークダンサー・ダンス講師						
授業の学習 内容	クラシックバレエを基礎としたアイソレーションを繰り返し行い、基礎を身につける。 身体の柔軟性を上げるためのストレッチ。 ターン、ジャンプなどの基本的なテクニック向上のためのクロスフロア。						
到達目標	基礎練習の積み重ねによって、しっかりとしたダンス能力を身につける。 プロの世界でも通用するような基礎となるダンススキル習得を目指す。						
評価方法と基準	実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	アイソレーションを覚える	授業内容を自主練習
2		講義・演習	身体の使い方を学ぶ	授業内容を自主練習
3		講義・演習	アームスの正しいポジションを学ぶ	授業内容を自主練習
4		講義・演習	ストレッチのやり方を学ぶ	授業内容を自主練習
5		講義・演習	バレエポジションを覚える	授業内容を自主練習
6		講義・演習	身体の軸の作り方を学ぶ	授業内容を自主練習
7		講義・演習	様々なターンの説明	授業内容を自主練習
8		講義・演習	ターンをきれいに回る	授業内容を自主練習
9		講義・演習	様々なジャンプの説明	授業内容を自主練習
10		講義・演習	ジャンプを正しく飛ぶ	授業内容を自主練習
11		講義・演習	ターンとジャンプの組み合わせ	授業内容を自主練習
12		講義・演習	クロスフロアを行う	授業内容を自主練習
13		講義・演習	今までの授業内容のテストを行う	授業内容を自主練習
14		講義・演習	これまでやってきたことを復習	授業内容を自主練習
15		講義・演習	これまでやってきたことを復習	授業内容を自主練習
準備学習 時間外学習			常に自分が目指すための舞台観劇をする。ネットなどでのオーディション情報をチェックする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

東京ダンス・俳優&舞台芸術専門学校

科目名	ヴォイストレーニング A(1)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	細井康行
学科・コース	メディア &テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2単位)		
教員の略歴	東京音楽大学研究科オペラコース卒 滋慶学園勤務18年 ヴォイストレーナー歴30年						
授業の学習 内容	1.歌う為に必要不可欠な身体の仕組みと呼吸を学ぶ為 2.ダンスと歌唱は身体表現が密接に関係しており双方にメリットがある 3.この授業を通して歌っておどってもブレない疲れにくい身体と呼吸を作り上げて行って欲しい 4.オリジナルの基本姿勢と呼吸法と発声法を細かく1人1人のコンディションに合わせて展開して行く 5.オーディションやステージ上でも揺るがないメンタルを構築する						
到達目標	1.オリジナルの体幹理論により姿勢、呼吸、発声法を矯正し、よりクオリティの高いパフォーマンスが可能となる 2.Dance&singに必要な呼吸法と発声法を学ぶ事により更にハイスベックな歌唱力が手に入れる事ができる 3.最終的にDance&singでブレない発声法とつかれない身体とキレのあるDanceパフォーマンスが可能になる 4.メンタルを鍛える事によりブレないパフォーマンスが期待できる 5.学生それぞれに適したマイキングを学び、よりクオリティの高い歌唱へと導く 6.Dance&Singでしか習得できないパフォーマンスの精度を上げる						
評価方法と基準	1.授業の出席率と日々の授業態度 50% 2.歌唱&パフォーマンステスト30% 3.礼儀 * 機材セッティング等の協力体制20%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	ヴォイストレーニング及びオリジナル体幹理論による呼吸法・姿勢	講師サイドでオリジナル教材準備、配布
2		講義・演習	現時点での音域チェック及び曲選定	音域チェックシート及び音源準備
3		講義・演習	歌唱に寄る個人の声のチェック	コメントシート準備
4		講義・演習	前週の歌唱を細かく矯正	コメントシート記入
5		講義・演習	マイキング(Dance無し)	iPad撮影
6		講義・演習	マイキング(Danceあり)	iPad撮影
7		講義・演習	ダンスをしながらマイキング矯正	コメントシート記入&iPad撮影
8		講義・演習	ダンスをしながらマイキング矯正	コメントシート記入&iPad撮影
9		講義・演習	表情筋と歌唱を繋げる	ミラーチェック
10		講義・演習	表情筋と歌唱とダンスの融合	ミラーチェック及びipad撮影
11		講義・演習	テスト前の呼吸法と体幹理論と発声のチェック	ミラーチェック及びipad撮影
12		講義・演習	前期中間Dance&Singテスト	コメントシート記入&iPad撮影
13		講義・演習	前期中間Dance&Singテスト	コメントシート記入&iPad撮影
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			歌唱する曲の音源と手書きの歌詞カード及び音源準備	
【使用教科書・教材・参考書】				
Visible body/ オリジナルトライ体幹理論／人体模型				

科目名	ヴォイストレーニング A(2)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	細井康行
学科・コース	メディア &テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2単位)		
教員の略歴	東京音楽大学研究科オペラコース卒 滋慶学園勤務18年 ヴォイストレーナー歴30年						
授業の学習 内容	1.歌う為に必要不可欠な身体の仕組みと呼吸を学ぶ為 2.ダンスと歌唱は身体表現が密接に関係しており双方にメリットがある 3.この授業を通して歌っておどってもブレない疲れにくい身体と呼吸を作り上げて行って欲しい 4.オリジナルの基本姿勢と呼吸法と発声法を細かく1人1人のコンディションに合わせて展開して行く 5.オーディションやステージ上でも揺るがないメンタルを構築する						
到達目標	1.オリジナルの体幹理論により姿勢、呼吸、発声法を矯正し、よりクオリティの高いパフォーマンスが可能となる 2.Dance&singに必要な呼吸法と発声法を学ぶ事により更にハイスベックな歌唱力が手に入れる事ができる 3.最終的にDance&singでブレない発声法とつかれない身体とキレのあるDanceパフォーマンスが可能になる 4.メンタルを鍛える事によりブレないパフォーマンスが期待できる 5.学生それぞれに適したマイキングを学び、よりクオリティの高い歌唱へと導く 6.Dance&Singでしか習得できないパフォーマンスの精度を上げる						
評価方法と基準	1.授業の出席率と日々の授業態度 50% 2.歌唱&パフォーマンステスト30% 3.礼儀 * 機材セッティング等の協力体制20%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	ヴォイストレーニング及びオリジナル体幹理論による呼吸法・姿勢	講師サイドでオリジナル教材準備、配布
2		講義・演習	現時点での音域チェック及び曲選定	音域チェックシート及び音源準備
3		講義・演習	歌唱に寄る個人の声のチェック	コメントシート準備
4		講義・演習	前週の歌唱を細かく矯正	コメントシート記入
5		講義・演習	マイキング(Dance無し)	iPad撮影
6		講義・演習	マイキング(Danceあり)	iPad撮影
7		講義・演習	ダンスをしながらマイキング矯正	コメントシート記入&iPad撮影
8		講義・演習	ダンスをしながらマイキング矯正	コメントシート記入&iPad撮影
9		講義・演習	表情筋と歌唱を繋げる	ミラーチェック
10		講義・演習	表情筋と歌唱とダンスの融合	ミラーチェック及びiPad撮影
11		講義・演習	テスト前の呼吸法と体幹理論と発声のチェック	ミラーチェック及びiPad撮影
12		講義・演習	前期中間Dance&Singテスト	コメントシート記入&iPad撮影
13		講義・演習	前期中間Dance&Singテスト	コメントシート記入&iPad撮影
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			歌唱する曲の音源と手書きの歌詞カード及び音源準備	
【使用教科書・教材・参考書】				

東京ダンス・俳優&舞台芸術専門学校

科目名	ヴォイストレーニング B(1)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	KYO-HEY
学科・専攻	メディア＆テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	* 実務経験(Dance & Vocal):WDC東北予選POP SIDE 優勝、アメリカNYC「BATTLE 101」BEST 8、その他、優勝8回、準優勝5回の経歴有り。 □2018年9月 1st ALBUM CD「MUSEUM」リリース(iTunes Store・R&B/ソウルトップアルバム・日本・6位)□2019年 ヴォーカルグループ「イエローソーダ」として東京、名古屋、京都、群馬の4都市ツアー開催□2021年6月 2ndアルバム「Inside」リリース(iTunes Store・R&B/ソウルトップアルバム・日本 1位)□2021年10月 「Lovely Place」リリース(iTunes Store・R&B/ソウルトップレング・日本2位) □2022年8月 NY Apollo Theater Amateur Night 出演□2018年4月～NSM,DA,TSM渋谷にてVocal&Dance講師を行なっている。)						
授業の学習 内容	①ヴォーカリストとして□必要な実戦に活かせる知識を習得する。 ②自らスキル向上、調整を行えるようにアーティストマインドも含め習得する。						
到達目標	ステージパフォーマンス強化を目的とする。ダンスにヴォーカルを融合させた場合のステージングスキル、ヴォーカルスキル、ダンススキル、セルプロデュース力を向上させる。						
評価方法と基準	・課題成果「出席・授業態度」:40%・実技試験:60%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	個人目標設定を行う	
2		演習	横隔膜を意識した腹式呼吸が出来るようになる	次の講義までに復習を要する
3		演習	ボディマップを正確に理解する	次の講義までに復習を要する
4		演習	筋感覚を意識することで包括的認識力を知る	次の講義までに復習を要する
5		演習	歌唱時の正しい口の形を知る	次の講義までに復習を要する
6		演習	正しい口の形を意識した歌唱が出来る	次の講義までに復習を要する
7		演習	共鳴(頭部)について理解する	次の講義までに復習を要する
8		演習	歌唱前のストレッチから正しい体の使い方のアプローチ方法を知る。	次の講義までに復習を要する
9		演習	AO関節のバランスを取れるようになる(首の無駄な緊張をなくす)	次の講義までに復習を要する
10		演習	腰椎と胸郭のバランス、股関節のバランスを理解する	次の講義までに復習を要する
11		演習	ブレスとリズムの関係性を知る	次の講義までに復習を要する
12		演習	試験	これまでの復習を要する
13		演習	試験総括(改善点を知る)	これまでの復習を要する
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			・パフォーマンスをする楽曲は歌詞を暗記して来ること ・歌詞をノートに書いて持って来ること	
【使用教科書・教材・参考書】				
iPad(カラオケ音源)、マイク、キーボード				

科目名	ヴォイストレーニング B(2)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	KYO-HEY
学科・専攻	メディア＆テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	* 実務経験(Dance & Vocal):WDC東北予選POP SIDE 優勝、アメリカNYC「BATTLE 101」BEST 8、その他、優勝8回、準優勝5回の経歴有り。 □2018年9月 1st ALBUM CD「MUSEUM」リリース(iTunes Store・R&B/ソウルトップアルバム・日本・6位)□2019年 ヴォーカルグループ「イエローソーダ」として東京、名古屋、京都、群馬の4都市ツアー開催□2021年6月 2ndアルバム「Inside」リリース(iTunes Store・R&B/ソウルトップアルバム・日本 1位)□2021年10月 「Lovely Place」リリース(iTunes Store・R&B/ソウルトップレング・□日本2位) □2022年8月 NY Apollo Theater Amateur Night 出演□2018年4月～NSM,DA,TSM渋谷にてVocal&Dance講師を行なっている。)						
授業の学習 内容	①ヴォーカリスト として□必要な実戦に活かせる知識を習得する。 ②自らスキル向上、調整を行えるようにアーティストマインド□も含め習得する。						
到達目標	ステージパフォーマンス強化を目的とする。ダンスにヴォーカルを融合させた場合のステージングスキル、ヴォーカルスキル、ダンススキル、セルプロデュース力を向上させる。						
評価方法と基準	・課題成果「出席・授業態度」:40%・実技試験:60%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	共鳴の仕組み、効果を知る	次の講義までに復習を要する
2		演習	鼻腔共鳴が出来るようになる	次の講義までに復習を要する
3		演習	頭部共鳴(ヘッドボイス)が出来るようになる	次の講義までに復習を要する
4		演習	母音歌唱を通してメロディのコード感を理解する	次の講義までに復習を要する
5		演習	膝関節と足関節のバランスと体重が伝わる道筋を理解する	次の講義までに復習を要する
6		演習	腕構造を理解しプレスを改善することで豊かな表現力を習得する	次の講義までに復習を要する
7		演習	胸部共鳴が出来るようになる	次の講義までに復習を要する
8		演習	ビブラートの仕組み、練習法を知る	次の講義までに復習を要する
9		演習	ビブラートが出来るようになる	次の講義までに復習を要する
10		演習	リズムを意識したビブラートを出来るようになる	次の講義までに復習を要する
11		演習	フェイクの仕組み、練習法を知る	次の講義までに復習を要する
12		演習	フェイクの仕組み、練習法を知る	これまでの復習を要する
13		演習	試験総括(改善点を知る)	これまでの復習を要する
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			・パフォーマンスをする楽曲は歌詞を暗記して来ること ・歌詞をノートに書いて持って来ること	
【使用教科書・教材・参考書】				
iPad(カラオケ音源)、マイク、キーボード				

科目名	ヴォイストレーニングC(1)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	鮎川麻弥
		授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
学科・専攻	メディア & テクノロジー科(昼間部二)						
教員の略歴	「機動戦士Z・ガンダム」エンディング・テーマや主題歌、また200曲以上のCMソングを担当するなどヴォーカリストとして活躍中。						
授業の学習 内容	「体感・腹筋・姿勢・呼吸法・発声・滑舌」などの基礎レッスン。課題曲の歌唱及びレクチャー。 アーティストとして、またはキャラを作りながらの「発声・音程・リズム・表現・歌唱テクニック」など、あらゆる角度から指導する。個々の理想を大切にしながら、目標に則した歌唱レッスンを行う。						
到達目標	ボーカルの大切な基礎を反復練習することにより「歌う声」とは何か？を理解できるようになる。 「歌える声と体」及び「声優アーティストとしてのメンタル」を持てるようになる。 「趣味としての歌」から「仕事としての歌」へシフトできるようになる。						
評価方法と基準	平常点(出席率・授業態度) 50% 歌唱テスト 50%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	ガイダンス、課題曲ディスカッション、ボイトレ基礎	決まった課題曲の歌詞の準備 歌唱ができるように練習
2		演習	ボイトレ基礎～課題曲、歌唱レッスン 短所長所を見極めながら歌唱指導	もらったアドバイスの対しての練習
3		演習	ボイトレ基礎～課題曲、歌唱レッスン 短所長所を見極めながら歌唱指導	もらったアドバイスの対しての練習
4		演習	ボイトレ基礎～課題曲、歌唱レッスン 短所長所を見極めながら歌唱指導	もらったアドバイスの対しての練習
5		演習	ボイトレ基礎～課題曲、歌唱レッスン 短所長所を見極めながら歌唱指導	もらったアドバイスの対しての練習
6		演習	ボイトレ基礎～課題曲、歌唱レッスン 個性を伸ばし、表現力を中心とした歌唱指導	もらったアドバイスの対しての練習
7		演習	ボイトレ基礎～課題曲、歌唱レッスン 個性を伸ばし、表現力を中心とした歌唱指導	もらったアドバイスの対しての練習
8		演習	ボイトレ基礎～課題曲、歌唱レッスン 個性を伸ばし、表現力を中心とした歌唱指導	もらったアドバイスの対しての練習 表現をすることを考える
9		演習	ボイトレ基礎～課題曲、歌唱レッスン 音程・リズム・表現・ステージングを総合的に習熟度をチェックしながら完成を目指す	もらったアドバイスの対しての練習 表現をすることを考える
10		演習	ボイトレ基礎～課題曲、歌唱レッスン 音程・リズム・表現・ステージングを総合的に習熟度をチェックしながら完成を目指す	もらったアドバイスの対しての練習 表現をすることを考える
11		演習	ボイトレ基礎～課題曲、歌唱レッスン 音程・リズム・表現・ステージングを総合的に習熟度をチェックしながら完成を目指す	もらったアドバイスの対しての練習 表現をすることを考える
12		演習	ボイトレ基礎～課題曲、歌唱レッスン 音程・リズム・表現・ステージングを総合的に習熟度をチェックしながら完成を目指す	もらったアドバイスの対しての練習 表現をすることを考える
13		演習	歌唱テスト 発声・音程・リズム・表現	後期に向けた、歌唱への課題を見つける
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
課題曲は最初の授業でディスカッション選曲。次週その曲の歌詞を各自2部プリントアウトして持参。服装は稽古着。持ち物は筆記用具と飲み物。				

科目名	ヴォイストレーニング C(2)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	鮎川麻弥		
		授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位				
学科・専攻	メディア & テクノロジー科(昼間部二)								
教員の略歴	「機動戦士Z・ガンダム」エンディング・テーマや主題歌、また200曲以上のCMソングを担当するなどヴォーカリストとして活躍中。								
授業の学習 内容	「体感・腹筋・姿勢・呼吸法・発声・滑舌」などの基礎レッスン。課題曲の歌唱及びレクチャー。 アーティストとして、またはキャラを作りながらの「発声・音程・リズム・表現・歌唱テクニック」など、あらゆる角度から指導する。個々の理想を大切にしながら、目標に則した歌唱レッスンを行う。								
到達目標	ボーカルの大切な基礎を反復練習することにより「歌う声」とは何か？を理解できるようになる。 「歌える声と体」及び「声優アーティストとしてのメンタル」を持てるようになる。 「趣味としての歌」から「仕事としての歌」へシフトできるようになる。								
評価方法と基準	平常点(出席率・授業態度) 50% 歌唱テスト 50%								

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	ガイダンス、課題曲ディスカッション、ボイトレ基礎	決まった課題曲の歌詞の準備 歌唱ができるように練習
2		演習	ボイトレ基礎～課題曲、歌唱レッスン 短所長所を見極めながら歌唱指導	もらったアドバイスに対しての練習
3		演習	ボイトレ基礎～課題曲、歌唱レッスン 短所長所を見極めながら歌唱指導	もらったアドバイスに対しての練習
4		演習	ボイトレ基礎～課題曲、歌唱レッスン 短所長所を見極めながら歌唱指導	もらったアドバイスに対しての練習
5		演習	ボイトレ基礎～課題曲、歌唱レッスン 短所長所を見極めながら歌唱指導	もらったアドバイスに対しての練習
6		演習	ボイトレ基礎～課題曲、歌唱レッスン 個性を伸ばし、表現力を中心とした歌唱指導	もらったアドバイスに対しての練習
7		演習	ボイトレ基礎～課題曲、歌唱レッスン 個性を伸ばし、表現力を中心とした歌唱指導	もらったアドバイスに対しての練習
8		演習	ボイトレ基礎～課題曲、歌唱レッスン 個性を伸ばし、表現力を中心とした歌唱指導	もらったアドバイスに対しての練習 表現をすることを考える
9		演習	ボイトレ基礎～課題曲、歌唱レッスン 音程・リズム・表現・ステージングを総合的に習熟度をチェックしながら完成を目指す	もらったアドバイスに対しての練習 表現をすることを考える
10		演習	ボイトレ基礎～課題曲、歌唱レッスン 音程・リズム・表現・ステージングを総合的に習熟度をチェックしながら完成を目指す	もらったアドバイスに対しての練習 表現をすることを考える
11		演習	ボイトレ基礎～課題曲、歌唱レッスン 音程・リズム・表現・ステージングを総合的に習熟度をチェックしながら完成を目指す	もらったアドバイスに対しての練習 表現をすることを考える
12		演習	ボイトレ基礎～課題曲、歌唱レッスン 音程・リズム・表現・ステージングを総合的に習熟度をチェックしながら完成を目指す	もらったアドバイスに対しての練習 表現をすることを考える
13		演習	歌唱テスト 発声・音程・リズム・表現	来年に向けた、歌唱への課題を見つける
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
課題曲は最初の授業でディスカッション選曲。次週その曲の歌詞を各自2部プリントアウトして持参。服装は稽古着。持ち物は筆記用具と飲み物。				

科目名	K-POP A(1)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	ジョン
学科・専攻	メディア＆テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	ダンスインストラクター2019年～現在まで。						
授業の学習 内容	K-POPダンスにおけるリズム感・基礎テクニック・グルーヴの習得を目指す。 また、実際の振付を通して個人の表現力と模倣力を養い、後期の応用発展に備える。						
到達目標	K-POPに特有のリズムと身体の使い方を理解し、再現できる グルーヴ・角度・テンポ・アクセント等の基礎テクニックを習得する 実際の振付をカバーしながら、表現を「真似る力」を高める 振付習得のスピードと正確性を向上させる						
評価方法と基準	平常点(授業態度・出席率) 50% テスト成績 50%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	K-POPの特徴分析	
2		講義・演習	リズムトレーニング(8ビート／16ビート)	前回の復習
3		講義・演習	フットワーク基礎とステップ練習	前回の復習
4		講義・演習	振付カバー①	前回の復習
5		講義・演習	振付カバー②	前回の復習
6		講義・演習	振付カバー③	前回の復習
7		講義・演習	フォーメーショントレーニング(2人～3人)	前回の復習
8		講義・演習	振付カバー④	前回の復習
9		講義・演習	振付カバー⑤	前回の復習
10		講義・演習	腕と上半身の流れを使う振付	前回の復習
11		講義・演習	ミニグループでの振付共有	前回の復習
12		講義・演習	カバーダンス練習①(構成練習あり)	前回の復習
13		講義・演習	カバーダンス練習②(前半のおさらい)	前回の復習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	K-POP A(2)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	ジョン
学科・専攻	メディア & テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	ダンスインストラクター2019年～現在まで。						
授業の学習 内容	前期で培った基礎力をもとに、より高難度の振付・表現力・グループパフォーマンス力を発展させる。自分らしさの探求や魅せ方にも重点を置く。						
到達目標	高速／複雑な振付の習得・再現力を高める 表情・視線・身体表現のバリエーションを増やす グループでのフォーメーションとシンクロ力を高める 「魅せる」ことを意識したパフォーマンス力を身につける						
評価方法と基準	平常点(授業態度・出席率) 50% テスト成績 50%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	前期の振り返り／応用課題の確認	
2		講義・演習	表現トレーニング(目線・感情)	前回の復習
3		講義・演習	フォーメーション応用(3～5人編成)	前回の復習
4		講義・演習	振付導入①(テンポの速い楽曲)	前回の復習
5		講義・演習	個別フィードバック①(フォーム確認)	前回の復習
6		講義・演習	グループ練習①:ユニゾン精度アップ	前回の復習
7		講義・演習	振付導入②(セクシー／ガールクラッシュ)	前回の復習
8		講義・演習	グループ振付挑戦(自主創作課題)	前回の復習
9		講義・演習	カメラ意識トレーニング	前回の復習
10		講義・演習	振付導入③(力強いパフォーマンス系)	前回の復習
11		講義・演習	グループ練習②:ディティール修正	前回の復習
12		講義・演習	個別フィードバック②(表現・視線)	前回の復習
13		講義・演習	パフォーマンス練習(映像撮影想定)	前回の復習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	K-POP A(1)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	ジョン
学科・専攻	メディア & テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	ダンスインストラクター2019年～現在まで。						
授業の学習 内容	K-POPダンスにおけるリズム感・基礎テクニック・グルーヴの習得を目指す。 また、実際の振付を通して個人の表現力と模倣力を養い、後期の応用発展に備える。						
到達目標	K-POPに特有のリズムと身体の使い方を理解し、再現できる グルーヴ・角度・テンポ・アクセント等の基礎テクニックを習得する 実際の振付をカバーしながら、表現を「真似る力」を高める 振付習得のスピードと正確性を向上させる						
評価方法と基準	平常点(授業態度・出席率) 50% テスト成績 50%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	K-POPの特徴分析	
2		講義・演習	リズムトレーニング(8ビート／16ビート)	前回の復習
3		講義・演習	フットワーク基礎とステップ練習	前回の復習
4		講義・演習	振付カバー①	前回の復習
5		講義・演習	振付カバー②	前回の復習
6		講義・演習	振付カバー③	前回の復習
7		講義・演習	フォーメーショントレーニング(2人～3人)	前回の復習
8		講義・演習	振付カバー④	前回の復習
9		講義・演習	振付カバー⑤	前回の復習
10		講義・演習	腕と上半身の流れを使う振付	前回の復習
11		講義・演習	ミニグループでの振付共有	前回の復習
12		講義・演習	カバーダンス練習①(構成練習あり)	前回の復習
13		講義・演習	カバーダンス練習②(前半のおさらい)	前回の復習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	K-POP A(2)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	ジョン
学科・専攻	メディア＆テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	ダンスインストラクター2019年～現在まで。						
授業の学習 内容	前期で培った基礎力をもとに、より高難度の振付・表現力・グループパフォーマンス力を発展させる。自分らしさの探求や魅せ方にも重点を置く。						
到達目標	高速／複雑な振付の習得・再現力を高める 表情・視線・身体表現のバリエーションを増やす グループでのフォーメーションとシンクロ力を高める 「魅せる」ことを意識したパフォーマンス力を身につける						
評価方法と基準	平常点(授業態度・出席率) 50% テスト成績 50%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	前期の振り返り／応用課題の確認	
2		講義・演習	表現トレーニング(目線・感情)	前回の復習
3		講義・演習	フォーメーション応用(3～5人編成)	前回の復習
4		講義・演習	振付導入①(テンポの速い楽曲)	前回の復習
5		講義・演習	個別フィードバック①(フォーム確認)	前回の復習
6		講義・演習	グループ練習①:ユニゾン精度アップ	前回の復習
7		講義・演習	振付導入②(セクシー／ガールクラッシュ)	前回の復習
8		講義・演習	グループ振付挑戦(自主創作課題)	前回の復習
9		講義・演習	カメラ意識トレーニング	前回の復習
10		講義・演習	振付導入③(力強いパフォーマンス系)	前回の復習
11		講義・演習	グループ練習②:ディティール修正	前回の復習
12		講義・演習	個別フィードバック②(表現・視線)	前回の復習
13		講義・演習	パフォーマンス練習(映像撮影想定)	前回の復習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	BREAKIN(1)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	岩崎浩太郎			
		授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)					
学科・コース	メディア＆テクノロジー科(昼間部二)									
教員の略歴	バックダンサー、振付、舞台、イベント出演など、DA TOKYO&TSMその他講師…約15年									
授業の学習 内容	ブレイクダンサーにとって必要な身体作り、フロアムーブを中心に、フットワーク、フリーズ、ムーブメントの知識を取り入れ次実践。 必要なメソッドの習得、またソロアブローチ方やインプロテクニクを学ぶ									
到達目標	ブレイクダンスはstreet danceだけではなく身体作り・筋肉トレーニングが取り入れられているので幅の広いダンステクニックを習得する									
評価方法と基準	実技テストによる採点									

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	ブレイクダンスに必要なストレッチ法の習得	各自授業内容を復習
2		演習	基本的なステップムーブの習得・実践	各自授業内容を復習
3		演習	チェアー・スピンの習得・実践	各自授業内容を復習
4		演習	トップブロックまでの振付をスムーズに行う	各自授業内容を復習
5		演習	フットワーク・6ステップの実践	各自授業内容を復習
6		演習	バックスピンの実践	各自授業内容を復習
7		演習	これまでの流れを取り入れた振付・実践	各自授業内容を復習
8		演習	フリーズの種類を習得・実践	各自授業内容を復習
9		演習	チェアー・エアチェアー・マックス・ジョーダン(片手フリーズ系)	各自授業内容を復習
10		演習	倒立・ラビット・片手ラビット(ステッピン)の実践	各自授業内容を復習
11		演習	マカコ・バク転の実践	各自授業内容を復習
12		演習	これまでの流れを取り入れた振付・実践	各自授業内容を復習
13		試験	振付けられた振りとインプロが実践できる	各自授業内容を復習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	BREAKIN(2)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	岩崎浩太郎
		授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)		
学科・コース	メディア＆テクノロジー科(昼間部二)						
教員の略歴	バックダンサー、振付、舞台、イベント出演など、DA TOKYO&TSMその他講師…約15年						
授業の学習 内容	ブレイクダンサーにとって必要な身体作り、フロアムーブを中心に、フットワーク、フリーズ、ムーブメントの知識を取り入れ次実践。 必要なメソッドの習得、またソロアブローチ方やインプロテクニクを学ぶ						
到達目標	ブレイクダンスはstreet danceだけではなく身体作り・筋肉トレーニングが取り入れられているので幅の広いダンステクニクを習得する						
評価方法と基準	実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	ブレイクダンスに必要なストレッチ法の習得	各自授業内容を復習
2		演習	基本的なステップムーブの習得・実践	各自授業内容を復習
3		演習	チェアー・スピンの習得・実践	各自授業内容を復習
4		演習	トップブロックまでの振付をスムーズに行う	各自授業内容を復習
5		演習	フットワーク・6ステップの実践	各自授業内容を復習
6		演習	バックスピンの実践	各自授業内容を復習
7		演習	これまでの流れを取り入れた振付・実践	各自授業内容を復習
8		演習	フリーズの種類を習得・実践	各自授業内容を復習
9		演習	チェアー・エアチェアー・マックス・ジョーダン(片手フリーズ系)	各自授業内容を復習
10		演習	倒立・ラビット・片手ラビット(ステッピン)の実践	各自授業内容を復習
11		演習	マカコ・バク転の実践	各自授業内容を復習
12		演習	これまでの流れを取り入れた振付・実践	各自授業内容を復習
13		試験	振付けられた振りとインプロが実践できる	各自授業内容を復習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	POP(1)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	西野恭平
		授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)		
学科・コース	メディア & テクノロジー科(昼間部二)						
教員の略歴	＊実務経験(Dance & Vocal):WDC東北予選POP SIDE 優勝、アメリカNYC「BATTLE 101」BEST 8、その他、優勝8回、準優勝5回の経歴有り 2018年9月 1st ALBUM CD「MUSEUM」リリース(iTunes Store・R&B/ソウル トップアルバム・日本・6位) 2019年 ヴォーカルグループ「イエローソーダ」として東京、名古屋、京都、群馬の4都市ツアー開催 2021年6月 2ndアルバム「Inside」リリース(iTunes Store・R&B/ソウル トップアルバム・日本 1位) 2021年10月「Lovely Place」リリース(iTunes Store・R&B/ソウル トップアルバム・日本2位) 2022年8月 NY Apollo Theater Amateur Night 出演 (2018年4月～NSM,DA,TSM渋谷にてVocal&Dance講師を行なっている。)						
授業の学習 内容	ダンサーにとって必要な身体作り、street dance 特にPOPPIN DANCEに必要なメソッドの習得、またソロアプローチやインプロテクニックを学ぶ						
到達目標	Poppinはstreet danceだけではなくjazzやコンテンポラリーにも多く取り入れられているので幅の広いダンステクニックを習得する						
評価方法と基準	実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	ヒットが実践できる	各自授業内容を復習
2		演習	ダイムストップが実践できる	各自授業内容を復習
3		演習	ハンドウェーブが実践できる	各自授業内容を復習
4		演習	ボディウェーブが実践できる	各自授業内容を復習
5		演習	キングコブラが実践できる	各自授業内容を復習
6		演習	ティックキングが実践できる	各自授業内容を復習
7		演習	フローティングが実践できる	各自授業内容を復習
8		演習	ブガルーリズムが実践できる	各自授業内容を復習
9		演習	ブガルーステップが実践できる	各自授業内容を復習
10		演習	アニメーションが実践できる	各自授業内容を復習
11		演習	アニメーションが実践できる	各自授業内容を復習
12		演習	インプロが実践できる	各自授業内容を復習
13		試験	振付けられた振りとインプロが実践できる	各自授業内容を復習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			授業外でもセッションを行ったり、とにかく実践すること。	
【使用教科書・教材・参考書】				

東京ダンス・俳優&舞台芸術専門学校

科目名	POP(2)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	西野恭平
		授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)		
学科・コース	メディア & テクノロジー科(昼間部二)						
教員の略歴	* 実務経験(Dance & Vocal):WDC東北予選POP SIDE 優勝、アメリカNYC「BATTLE 101」BEST 8、その他、優勝8回、準優勝5回の経歴有り 2018年9月 1st ALBUM CD「MUSEUM」リリース(iTunes Store・R&B/ソウル トップアルバム・日本・6位) 2019年 ヴォーカルグループ「イエローソーダ」として東京、名古屋、京都、群馬の4都市ツアー開催 2021年6月 2ndアルバム「Inside」リリース(iTunes Store・R&B/ソウル トップアルバム・日本 1位) 2021年10月 「Lovely Place」リリース(iTunes Store・R&B/ソウル トップアルバム・日本2位) 2022年8月 NY Apollo Theater Amateur Night 出演 (2018年4月～NSM,DA,TSM渋谷にてVocal&Dance講師を行なっている。)						
授業の学習 内容	ダンサーにとって必要な身体作り、street dance 特にPOPPIN DANCEに必要なメソッドの習得、またソロアブローチ方やインプロテクニクを学ぶ						
到達目標	Poppinはstreet danceだけではなくjazzやコンテンポラリーにも多く取り入れられているので幅の広いダンステクニクを習得する						
評価方法と基準	実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	ヒットが実践できる	各自授業内容を復習
2		演習	ダイムストップが実践できる	各自授業内容を復習
3		演習	ハンドウェーブが実践できる	各自授業内容を復習
4		演習	ボディウェーブが実践できる	各自授業内容を復習
5		演習	キングコブラが実践できる	各自授業内容を復習
6		演習	ティッキングが実践できる	各自授業内容を復習
7		演習	フローティングが実践できる	各自授業内容を復習
8		演習	ブガルーリズムが実践できる	各自授業内容を復習
9		演習	ブガルーステップが実践できる	各自授業内容を復習
10		演習	アニメーションが実践できる	各自授業内容を復習
11		演習	アニメーションが実践できる	各自授業内容を復習
12		演習	インプロが実践できる	各自授業内容を復習
13		試験	振付けられた振りとインプロが実践できる	各自授業内容を復習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			授業外でもセッションを行ったり、とにかく実践すること。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	HOUSE1	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	YANMA
学科・コース	メディア＆テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)		
教員の略歴	HOUSEジャンルを中心に活動し、「Rave2001」準優勝、「Fun Toma2」Fun Toma賞受賞、HOUSE 2on2 BATTLE優勝、WDC2013関東大会準優勝。現在では講師としても活躍。						
授業の学習 内容	HOUSEの基礎を正しく理解し、HIP HOPなどにも共通するリズムやアームス、ボディコントロールなどを使いこなせるようにする						
到達目標	・HOUSEのベーシックな動き(体の止め方)を習得すること ・HOUSE特有のスピード感、タメ、止めを体現すること						
評価方法と基準	実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	HOUSE基礎①(ベーシックムーブ)	各自授業内容を復習
2		講義・演習	HOUSE基礎②(ベーシックムーブ応用)	各自授業内容を復習
3		講義・演習	リズム&アイソレーション	各自授業内容を復習
4		講義・演習	リズム&ベーシックムーブ	各自授業内容を復習
5		講義・演習	コンビネーション	各自授業内容を復習
6		講義・演習	”遊び”を混ぜる	各自授業内容を復習
7		講義・演習	フロアを混ぜる	各自授業内容を復習
8		講義・演習	アクロバットを混ぜる	各自授業内容を復習
9		講義・演習	ここまでのまとめ	各自授業内容を復習
10		講義・演習	試験の課題を提示	各自授業内容を復習
11		講義・演習	試験に向けての指導	各自授業内容を復習
12		講義・演習	プレ試験	各自授業内容を復習
13		講義・演習	試験	各自授業内容を復習
14		講義・演習	イベント実践を通してダンスを学ぶ	レポートの提出
15		講義・演習	イベント実践を通してダンスを学ぶ	レポートの提出
準備学習 時間外学習			YoutubeなどでHOUSEを観る。知る。触れる。	
【使用教科書・教材・参考書】				

東京ダンス・俳優＆舞台芸術専門学校

科目名	HOUSE1	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	YANMA
学科・コース	メディア＆テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)		
教員の略歴	HOUSEジャンルを中心に活動し、「Rave2001」準優勝、「Fun Toma2」Fun Toma賞受賞、HOUSE 2on2 BATTLE優勝、WDC2013関東大会準優勝。現在では講師としても活躍。						
授業の学習 内容	HOUSEの基礎を正しく理解し、HIP HOPなどにも共通するリズムやアームス、ボディコントロールなどを使いこなせるようにする						
到達目標	・HOUSEのベーシックな動き(体の止め方)を習得すること ・HOUSE特有のスピード感、タメ、止めを体現すること						
評価方法と基準	実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	HOUSE基礎①(ベーシックムーブ)	各自授業内容を復習
2		講義・演習	HOUSE基礎②(ベーシックムーブ応用)	各自授業内容を復習
3		講義・演習	リズム＆アイソレーション	各自授業内容を復習
4		講義・演習	リズム＆ベーシックムーブ	各自授業内容を復習
5		講義・演習	コンビネーション	各自授業内容を復習
6		講義・演習	”遊び”を混ぜる	各自授業内容を復習
7		講義・演習	フロアを混ぜる	各自授業内容を復習
8		講義・演習	アクロバットを混ぜる	各自授業内容を復習
9		講義・演習	ここまでのまとめ	各自授業内容を復習
10		講義・演習	試験の課題を提示	各自授業内容を復習
11		講義・演習	試験に向けての指導	各自授業内容を復習
12		講義・演習	ブレ試験	各自授業内容を復習
13		講義・演習	試験	各自授業内容を復習
14		講義・演習	イベント実践を通してダンスを学ぶ	レポートの提出
15		講義・演習	イベント実践を通してダンスを学ぶ	レポートの提出
準備学習 時間外学習			YoutubeなどでHOUSEを観る。知る。触れる。	
【使用教科書・教材・参考書】				

東京ダンス・俳優＆舞台芸術専門学校

科目名	シアターJAZZ A(1)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	浅越 葉菜
学科・専攻	メディア & テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	幼少よりクラシックバレエを学び、ジャズダンス、コンテンポラリーダンスなど様々なジャンルのダンスを習得。海外にダンス留学の経験も持つ。また大手テーマパークダンサーとして、数々のパレードやショーにも出演。劇団四季でも数々の舞台で活躍。						
授業の学習 内容	エクササイズ、クロスフロアを丁寧にやってしっかり体をつくり、基礎力を身につける。 コンビネーションではパフォーマンスする意識を高め、表現の幅を広げる。						
到達目標	強くしなやかな体づくり、基礎力・テクニックのスキルアップ、幅広い表現力を身につける						
評価方法と基準	実技テスト、平常点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	基礎的な要素のスキルアップ	エクササイズ等の復習
2		講義・演習	連続したテクニックを習得する	前回の注意点、振りの復習
3		講義・演習	テクニック強化、振りの中で活かす	前回の注意点、振りの復習
4		講義・演習	柔軟性、筋力、しなやかな体の使い方	前回の注意点、振りの復習
5		講義・演習	体幹、軸の重要性、ラインを意識した動き	前回の注意点、振りの復習
6		講義・演習	体全体を使ったダイナミックな動き	前回の注意点、振りの復習
7		講義・演習	繊細な表現、なめらかな動き	前回の注意点、振りの復習
8		講義・演習	リズム、流れ、緩急のある動き	前回の注意点、振りの復習
9		講義・演習	ロングコンビネーションでの表現①	前回の注意点、振りの復習
10		講義・演習	②空気感、音を感じて表現する	前回の注意点、振りの復習
11		講義・演習	③表情、+αの表現	前回の注意点、振りの復習
12		講義・演習	テスト(コンビネーション)	前回の注意点、振りの復習
13		講義・演習	総まとめ、新たな課題に取り組む	テストでの注意点、課題の復習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			欠席した授業回は、振りを聞くなどしてできるだけ覚えてくる	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	シアターJAZZ A(2)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	浅越 葉菜
学科・専攻	メディア & テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	幼少よりクラシックバレエを学び、ジャズダンス、コンテンポラリーダンスなど様々なジャンルのダンスを習得。海外にダンス留学の経験も持つ。また大手テーマパークダンサーとして、数々のパレードやショーにも出演。劇団四季でも数々の舞台で活躍。						
授業の学習 内容	エクササイズ、クロスフロアを丁寧にやってしっかり体をつくり、基礎力を身につける。 コンビネーションではパフォーマンスする意識を高め、表現の幅を広げる。						
到達目標	強くしなやかな体づくり、基礎力・テクニックのスキルアップ、幅広い表現力を身につける						
評価方法と基準	実技テスト、平常点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	基礎的な要素のスキルアップ	エクササイズ等の復習
2		講義・演習	連続したテクニックを習得する	前回の注意点、振りの復習
3		講義・演習	テクニック強化、振りの中で活かす	前回の注意点、振りの復習
4		講義・演習	柔軟性、筋力、しなやかな体の使い方	前回の注意点、振りの復習
5		講義・演習	体幹、軸の重要性、ラインを意識した動き	前回の注意点、振りの復習
6		講義・演習	体全体を使ったダイナミックな動き	前回の注意点、振りの復習
7		講義・演習	繊細な表現、なめらかな動き	前回の注意点、振りの復習
8		講義・演習	リズム、流れ、緩急のある動き	前回の注意点、振りの復習
9		講義・演習	ロングコンビネーションでの表現①	前回の注意点、振りの復習
10		講義・演習	②空気感、音を感じて表現する	前回の注意点、振りの復習
11		講義・演習	③表情、+αの表現	前回の注意点、振りの復習
12		講義・演習	テスト(コンビネーション)	前回の注意点、振りの復習
13		講義・演習	総まとめ、新たな課題に取り組む	テストでの注意点、課題の復習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			欠席した授業回は、振りを聞くなどしてできるだけ覚えてくる	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	シアターJAZZ B(1)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	浅越 葉菜
学科・専攻	メディア & テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	幼少よりクラシックバレエを学び、ジャズダンス、コンテンポラリーダンスなど様々なジャンルのダンスを習得。海外にダンス留学の経験も持つ。また大手テーマパークダンサーとして、数々のパレードやショーにも出演。劇団四季でも数々の舞台で活躍。						
授業の学習 内容	エクササイズ、クロスフロアを丁寧にやってしっかり体をつくり、基礎力を身につける。 コンビネーションではパフォーマンスする意識を高め、表現の幅を広げる。						
到達目標	強くしなやかな体づくり、基礎力・テクニックのスキルアップ、幅広い表現力を身につける						
評価方法と基準	実技テスト、平常点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	基礎的な要素のスキルアップ	エクササイズ等の復習
2		講義・演習	連続したテクニックを習得する	前回の注意点、振りの復習
3		講義・演習	テクニック強化、振りの中で活かす	前回の注意点、振りの復習
4		講義・演習	柔軟性、筋力、しなやかな体の使い方	前回の注意点、振りの復習
5		講義・演習	体幹、軸の重要性、ラインを意識した動き	前回の注意点、振りの復習
6		講義・演習	体全体を使ったダイナミックな動き	前回の注意点、振りの復習
7		講義・演習	繊細な表現、なめらかな動き	前回の注意点、振りの復習
8		講義・演習	リズム、流れ、緩急のある動き	前回の注意点、振りの復習
9		講義・演習	ロングコンビネーションでの表現①	前回の注意点、振りの復習
10		講義・演習	②空気感、音を感じて表現する	前回の注意点、振りの復習
11		講義・演習	③表情、+αの表現	前回の注意点、振りの復習
12		講義・演習	テスト(コンビネーション)	前回の注意点、振りの復習
13		講義・演習	総まとめ、新たな課題に取り組む	テストでの注意点、課題の復習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			欠席した授業回は、振りを聞くなどしてできるだけ覚えてくる	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	シアターJAZZ B(2)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	浅越 葉菜
学科・専攻	メディア & テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	幼少よりクラシックバレエを学び、ジャズダンス、コンテンポラリーダンスなど様々なジャンルのダンスを習得。海外にダンス留学の経験も持つ。また大手テーマパークダンサーとして、数々のパレードやショーにも出演。劇団四季でも数々の舞台で活躍。						
授業の学習 内容	エクササイズ、クロスフロアを丁寧にやってしっかり体をつくり、基礎力を身につける。 コンビネーションではパフォーマンスする意識を高め、表現の幅を広げる。						
到達目標	強くしなやかな体づくり、基礎力・テクニックのスキルアップ、幅広い表現力を身につける						
評価方法と基準	実技テスト、平常点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	基礎的な要素のスキルアップ	エクササイズ等の復習
2		講義・演習	連続したテクニックを習得する	前回の注意点、振りの復習
3		講義・演習	テクニック強化、振りの中で活かす	前回の注意点、振りの復習
4		講義・演習	柔軟性、筋力、しなやかな体の使い方	前回の注意点、振りの復習
5		講義・演習	体幹、軸の重要性、ラインを意識した動き	前回の注意点、振りの復習
6		講義・演習	体全体を使ったダイナミックな動き	前回の注意点、振りの復習
7		講義・演習	繊細な表現、なめらかな動き	前回の注意点、振りの復習
8		講義・演習	リズム、流れ、緩急のある動き	前回の注意点、振りの復習
9		講義・演習	ロングコンビネーションでの表現①	前回の注意点、振りの復習
10		講義・演習	②空気感、音を感じて表現する	前回の注意点、振りの復習
11		講義・演習	③表情、+αの表現	前回の注意点、振りの復習
12		講義・演習	テスト(コンビネーション)	前回の注意点、振りの復習
13		講義・演習	総まとめ、新たな課題に取り組む	テストでの注意点、課題の復習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			欠席した授業回は、振りを聞くなどしてできるだけ覚えてくる	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	ミュージカル唱法(1)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	荒井 香織
学科・専攻	メディア & テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	桐朋学園芸術短期大学 卒業 劇団四季 8年在籍						
授業の学習 内容	ミュージカルにおける歌唱方法、発声方法の学習。 有名ミュージカルより抜粋した課題を通しての実践練習。						
到達目標	1年生においては基礎を築くことを基盤に置き、基本的な発声、科少量、演技力、ダンス力を身につけることを目標とする。						
評価方法と基準	授業へ取り組み姿勢、出席率、試験についての結果を総合的に判断。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	呼吸法、母音について説明	授業の復習を行うこと
2		講義	課題① 説明	授業の復習を行うこと
3		演習	課題① 実習	授業の復習を行うこと
4		演習	課題① 実習	授業の復習を行うこと
5		演習	課題① 実習	授業の復習を行うこと
6		講義	課題② 説明	授業の復習を行うこと
7		演習	課題② 実習	授業の復習を行うこと
8		演習	課題② 実習	授業の復習を行うこと
9		演習	課題② 実習	授業の復習を行うこと
10		演習	試験対策	授業の復習を行うこと
11		演習	試験対策	授業の復習を行うこと
12		演習	試験においてみえた課題を演習	授業の復習を行うこと
13		演習	課題③ 実習	授業の復習を行うこと
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
ミュージカル 『コーラスライン』 『WICKED』				

東京ダンス・俳優＆舞台芸術専門学校

科目名	ミュージカル唱法(2)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	荒井 香織
学科・専攻	メディア & テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	桐朋学園芸術短期大学 卒業 劇団四季 8年在籍						
授業の学習 内容	ミュージカルにおける歌唱方法、発声方法の学習。 有名ミュージカルより抜粋した課題を通しての実践練習。						
到達目標	1年生においては基礎を築くことを基盤に置き、基本的な発声、科少量、演技力、ダンス力を身につけることを目標とする。						
評価方法と基準	授業へ取り組む姿勢、出席率、試験においての結果を総合的に判断。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	呼吸法、母音について説明	授業の復習を行うこと
2		講義	課題① 説明	授業の復習を行うこと
3		演習	課題① 実習	授業の復習を行うこと
4		演習	課題① 実習	授業の復習を行うこと
5		演習	課題① 実習	授業の復習を行うこと
6		講義	課題② 説明	授業の復習を行うこと
7		演習	課題② 実習	授業の復習を行うこと
8		演習	課題② 実習	授業の復習を行うこと
9		演習	課題② 実習	授業の復習を行うこと
10		演習	試験対策	授業の復習を行うこと
11		演習	試験対策	授業の復習を行うこと
12		演習	試験においてみえた課題を演習	授業の復習を行うこと
13		演習	課題③ 実習	授業の復習を行うこと
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
ミュージカル 『コーラスライン』『WICKED』				

東京ダンス・俳優＆舞台芸術専門学校

科目名	アクティング基礎(1)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	大谷章文
		授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)		
学科・コース	メディア&テクノロジー科(昼間部二)						
教員の略歴	俳優・演技学校アクターズクリニックにて、演技講師 24年						
授業の学習 内容	自身の感性を扱う「俳優」という職業を、実際に行われているトレーニングを通して追体験することで、自己評価の再確認と、コミュニケーション能力を磨く。本授業はワークショップ形式で、随時自らが体験していく。						
到達目標	演技をする上で必要なコミュニケーションをとり、他者の中で、(自分よりも優先して)相手や環境を感じることができるようになる想像力を使い、指定された状況・設定の中で自分として存在することができるようになる。						
評価方法と基準	実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	自己紹介ゲーム、あなたわたしゲーム(説明及び体験)、ポーズ回しゲーム(説明及び体験)、名前呼びゲーム(説明及び体験)、名前鬼ゲーム(説明及び体験)	演技をする上で必要となる能力、技術についてゲームを通して確認する。他者の中で、恥ずかしがらずに存在することができる。
2		講義・演習	あなたわたしゲーム(実践及び応用)、ポーズ回しゲーム(実践)、リズムしりとりゲーム(説明及び体験)、リズム連想ゲーム(説明及び体験)、名前鬼ゲーム(実践)	演技をする上で必要となる能力、技術についてゲームを通して確認する。他者の中で、恥ずかしがらずに存在することができる。
3		講義・演習	あなたわたしゲーム(実践及び応用)、リズムしりとり、リズム連想ゲーム(実践)、ひとりにならないでゲーム(説明及び体験)、職業当てゲーム(説明及び体験)	演技をする上で必要となる能力、技術についてゲームを通して確認する。他者の中で、恥ずかしがらずに声を出したり相手の目を見ることができる。
4		講義・演習	あなたわたしゲーム(実践及び応用)、リズムしりとり、リズム連想ゲーム(実践及び応用)、ひとりにならないでゲーム(実践)、職業当てゲーム(実践)	演技をする上で必要となる能力、技術についてゲームを通して確認する。他者の中で、恥ずかしがらずに声を出したり相手の目を見ることができる。
5		講義・演習	あなたわたしゲーム(実践及び応用)、リズムしりとり、リズム連想ゲーム(実践及び応用)、イエスアンドゲーム(説明及び体験)、そうしようゲーム(説明及び体験)、セリフを使ったキャッチボール(説明及び体験)	演技をする上で必要となる能力、技術についてゲームを通して確認する。他者の中で、円滑にコミュニケーションがとれる(恥ずかしがらずに声を出したり笑顔になることができる)
6		講義・演習	あなたわたしゲーム(実践及び応用)、リズムしりとり、リズム連想ゲーム(実践及び応用)、イエスアンドゲーム(説明及び体験)、そうしようゲーム(説明及び体験)、セリフを使ったキャッチボール(説明及び体験)、あなたわたしゲーム(実践及び応用)、リズムしりとり、リズム連想ゲーム(実践及び応用)、そうしようゲーム(実践及び応用)、なにやってるのゲーム(説明及び体験)、セリフを使ったキャッチボール(実践)	演技をする上で必要となる能力、技術についてゲームを通して確認する。他者の中で、円滑にコミュニケーションがとれる(恥ずかしがらずに声を出したり笑顔になることができる)。
7		講義・演習	あなたわたしゲーム(実践及び応用)、かゆいところ当て(説明及び体験) なにやってるのゲーム(実践及び応用)、五感を呼び覚ますエクササイズ(説明及び体験)	演技をする上で必要となる能力、技術についてゲームを通して確認する。五感を使って、(自分よりも優先して)環境や他者を感じることができる。
8		講義・演習	あなたわたしゲーム(実践及び応用)、して欲しいこと当てゲーム(説明と体験) 五感を呼び覚ますエクササイズ(実践及び応用)	演技をする上で必要となる能力、技術についてゲームを通して確認する。五感を使って、(自分よりも優先して)環境や他者を感じることができる。
9		講義・演習	あなたわたしゲーム(実践及び応用)、ミラーエクササイズ(説明と体験) 五感を呼び覚ますエクササイズ(実践及び応用)	演技をする上で必要となる能力、技術についてゲームを通して確認する。五感を使って、(自分よりも優先して)環境や他者を感じることができる。
10		講義・演習	あなたわたしゲーム(実践及び応用)、レベテション(説明及び体験) セリフのないシーン1(説明及び実践／皆の前で一人一人実施)	演技をする上で必要となる能力、技術についてゲームを通して確認する。他者の中で、緊張せずに、一人で、存在することができる。
11		講義・演習	あなたわたしゲーム(実践及び応用)、レベテション(実践) セリフのないシーン2(説明及び実践／皆の前で一人一人実施)	演技をする上で必要となる能力、技術についてゲームを通して確認する。他者の中で、緊張せずに、一人で、存在することができる。
12		講義・演習	あなたわたしゲーム(実践及び応用)、レベテション(実践) セリフのないシーン2(説明及び実践／皆の前で一人一人実施)	演技をする上で必要となる能力、技術についてゲームを通して確認する。他者の中で、(自分よりも優先して)相手や環境を感じることができる。
13		講義・演習	あなたわたしゲーム(実践及び応用)、レベテション(実践) ショートシーン2(説明及び実践／皆の前でペアごとに実施)	演技をする上で必要となる能力、技術についてゲームを通して確認する。他者の中で、(自分よりも優先して)相手や環境を感じることができる。
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			都度講義内容の振り返り・次回講義に向けての課題を指示する	
【使用教科書・教材・参考書】				
配布されたテキスト、筆記用具、動きやすい服装で参加				

科目名	アクティング基礎(2)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	大谷章文
学科・コース	メディア &テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)		
教員の略歴	俳優・演技学校アクターズクリニックにて、演技講師 24年						
授業の学習 内容	自身の感性を扱う「俳優」という職業を、実際に行われているトレーニングを通して追体験することで、自己評価の再確認と、コミュニケーション能力を磨く。本授業はワークショップ形式で、随時自らが体験していく。						
到達目標	演技をする上で必要コミュニケーションをとり、他者の中で、(自分よりも優先して)相手や環境を感じることができるようになる。 想像力を使い、指定された状況・設定の中で自分として存在することができるようになる。						
評価方法と基準	実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	センスワーク、オブジェクトワーク、ファーストインプレッション	前期の復習 環境を五感で感じることができる。
2		講義・演習	センスワーク、インディペンデントアクティビティ、レベテション	自意識を排除してパートナーを感じることができる。
3		講義・演習	ブライヴェートモーメント	喜怒哀楽といった感情を自分として体験することができる。
4		講義・演習	インプロ(なにやってるのゲーム)、ショートシーン(説明及び実践／皆の前でペアごとに実施)	演技を実践するにあたり、常に「目的」と「アクション」を設定することができる。台本の読み込み
5		講義・演習	インプロ(なにやってるのゲーム)、ショートシーン(説明及び実践／皆の前でペアごとに実施)	演技を実践するにあたり、常に「目的」と「アクション」を設定することができる。台本の読み込み
6		講義・演習	インプロ(なにやってるのゲーム)、ショートシーン(説明及び実践／皆の前でペアごとに実施)	演技を実践するにあたり、常に「目的」と「アクション」を設定することができる。台本の読み込み・練習
7		講義・演習	ショートシーン(説明及び実践／皆の前でペアごとに実施)	先入観にとらわれずに自分らしくショートシーンをこなすことができる。台本の読み込み・練習
8		講義・演習	ショートシーン(説明及び実践／皆の前でペアごとに実施)	先入観にとらわれずに自分らしくショートシーンをこなすことができる。
9		講義・演習	ショートシーン(説明及び実践／皆の前でペアごとに実施)	先入観にとらわれずに自分らしくショートシーンをこなすことができる。 感情を思い起こして、リアルな表現を行えるようになる。
10		講義・演習	ショートシーン(説明及び実践／皆の前でグループごとに実施)	先入観にとらわれずに自分らしくショートシーンをこなすことができる。 感情を思い起こして、リアルな表現を行えるようになる。
11		講義・演習	ショートシーン(説明及び実践／皆の前でグループごとに実施)	自分らしくショートシーンをこなし、リアルな演技を行えるようになる。 相手とのコミュニケーションをとり、嘘のないシーンづくりを目指す。
12		講義・演習	ショートシーン(説明及び実践／皆の前でグループごとに実施)	自分らしくショートシーンをこなし、リアルな演技を行えるようになる。 相手とのコミュニケーションをとり、嘘のないシーンづくりを目指す。 2年生への課題を出すことができる。
13		講義・演習	海外実学研修を通じ、海外の演技法と日本の演技法を比較検討する。ワークの実践	
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			都度講義内容の振り返り・次回講義に向けての課題を指示する	
【使用教科書・教材・参考書】				
配布されたテキスト、筆記用具、動きやすい服装で参加				

東京ダンス・俳優&舞台芸術専門学校

科目名	映像アクティング(1)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	真田幹也
学科・専攻	メディア＆テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	役者活動暦26年 監督暦22年 DA講師暦10年						
授業の学習 内容	①既存のシナリオ・脚本を配布。本読み形式で内容を理解後、カメラの前で実際に演じてみる。毎回、自分の演じたビデオを見ながら問題点、反省点を共に考え演技に対する理解を深めていく②個人やチームに分かれて動画を撮影。撮影後、全体で試写をしながら、作品作りに対しての興味を深めていく						
到達目標	①カメラの前で演技をする事に慣れ、意識的に自ら動ける様になる/演技は楽しいと思えるようになる②カメラの特性を習得し、自ら動画(自己PR、MV、ショートムービー)の基礎を作れる様になる/作品作りは楽しいと思えるようになる						
評価方法と基準	受講態度(発表、課題への取り組み方)65% 技術修得能力35%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	カメラ前の芝居に慣れる④	配布課題の理解を深める
2		講義・演習	カメラ前の芝居に慣れる④リハーサル	配布課題の理解を深める
3		講義・演習	カメラ前の芝居に慣れる④リハーサル	配布課題の理解を深める
4		講義・演習	カメラ前の芝居に慣れる④撮影	撮影で感じたことを意識→修正口
5		講義・演習	ショートムービーを作る	撮影のイメージを構築する
6		講義・演習	ショートムービーを作る	撮影のイメージを構築する
7		講義・演習	ショートムービーを作る	撮影のイメージを構築する
8		講義・演習	ショートムービーを作る	撮影のイメージを精査する
9		講義・演習	ショートムービーを作る	撮影のイメージを精査する
10		講義・演習	ショートムービーを作る・撮影	各自スマホorカメラで撮影
11		講義・演習	ショートムービーを作る・撮影	各自スマホorカメラで撮影・編集
12		講義・演習	ショートムービーを作る・撮影	撮影で感じたことを意識→修正口
13		講義・演習	前期を振り返って	次年度への準備
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			前回までの内容を復習、次の内容に備える・たくさんの映画やドラマを観てみる	
【使用教科書・教材・参考書】				

東京ダンス・俳優&舞台芸術専門学校

科目名	映像アクティング(2)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	真田幹也
		授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
学科・専攻	メディア &テクノロジー科(昼間部二)						
教員の略歴	役者活動暦26年 監督暦22年 DA講師暦10年						
授業の学習 内容	①既存のシナリオ・脚本を配布。本読み形式で内容を理解後、カメラの前で実際に演じてみる。毎回、自分の演じたビデオを見ながら問題点、反省点を共に考え演技に対する理解を深めていく②個人やチームに分かれて動画を撮影。撮影後、全体で試写をしながら、作品作りに対しての興味を深めていく						
到達目標	①カメラの前で演技をする事に慣れ、意識的に自ら動ける様になる/演技は楽しいと思えるようになる②カメラの特性を習得し、自ら動画(自己PR、MV、ショートムービー)の基礎を作れる様になる/作品作りは楽しいと思えるようになる						
評価方法と基準	受講態度(発表、課題への取り組み方)65% 技術修得能力35%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	カメラ前の芝居に慣れる④	配布課題の理解を深める
2		講義・演習	カメラ前の芝居に慣れる④リハーサル	配布課題の理解を深める
3		講義・演習	カメラ前の芝居に慣れる④リハーサル	配布課題の理解を深める
4		講義・演習	カメラ前の芝居に慣れる④撮影	撮影で感じたことを意識→修正口
5		講義・演習	ショートムービーを作る	撮影のイメージを構築する
6		講義・演習	ショートムービーを作る	撮影のイメージを構築する
7		講義・演習	ショートムービーを作る	撮影のイメージを構築する
8		講義・演習	ショートムービーを作る	撮影のイメージを精査する
9		講義・演習	ショートムービーを作る	撮影のイメージを精査する
10		講義・演習	ショートムービーを作る・撮影	各自スマホorカメラで撮影
11		講義・演習	ショートムービーを作る・撮影	各自スマホorカメラで撮影・編集
12		講義・演習	ショートムービーを作る・撮影	撮影で感じたことを意識→修正口
13		講義・演習	前期を振り返って	次年度への準備
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			前回までの内容を復習、次の内容に備える・たくさんの映画やドラマを観てみる	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	JAZZA(3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	久次亜希子
学科・専攻	メディア&テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	バレエを5歳から、ジャズダンスを16歳から始める。高校を卒業後、国内にいながら数々のアメリカ人講師のクラスを受け続け、1995年渡米。LAでも様々なクラスを受け、経験と知識を増やす。帰国後は作品作りと並行して関東だけにとどまらず、関西の専門学校などでもダンサーの育成に努める。						
授業の学習 内容	バレエの基礎とジャズの基礎を体に叩き込むことで、2つの違いと共通点を理解し、踊りやすい体を作っていきそれらを生かして踊れるようになる。						
到達目標	基礎が生み出す自由をたくさん見つけていく						
評価方法と基準	出席率 40% 実技テスト60%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	ウォームアップの確認①	
2		講義・演習	振りをまずは正確ではなくても覚えることができる	
3		講義・演習	ウォームアップの確認②	
4		講義・演習	足の甲をしっかり使えるようになる	
5		講義・演習	足を緩めずにルルベバランスができる	
6		講義・演習	正確な足のポジションにいける	
7		講義・演習	片足のバランスが安定する	
8		講義・演習	ゆっくりな体重移動を行える	
9		講義・演習	素早く体重移動ができる	
10		講義・演習	足の裏を使い始める	
11		講義・演習	足音せず踊ることができる	
12		講義・演習	テスト	
13		講義・演習	1人で踊ることができる	
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			色々なジャンルのエンターテイメントの研究	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	JAZZA(4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	久次亜希子
学科・専攻	メディア&テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	バレエを5歳から、ジャズダンスを16歳から始める。高校を卒業後、国内にしながら数々のアメリカ人講師のクラスを受け続け、1995年渡米。LAでも様々なクラスを受け、経験と知識を増やす。帰国後は作品作りと並行して関東だけにとどまらず、関西の専門学校などでもダンサーの育成に努める。						
授業の学習 内容	ダンサーを職業とする為に必要な、技術・心構え・コミュニケーション力を授業内容全般を通して学んでいく。身体を鍛え抜く事で精神力も鍛え、社会人として必要なマナーも学んで行く。業界で必要とされる人材の研究。						
到達目標	自身の個性を、自身のダンススキルで表現出来るようになる。将来の目標としている分野に進んで行けるよう、自身で考え行動して行ける人物になる。協調性を磨き良好なチームワークを体現する。						
評価方法と基準	定期テスト70%・出席率30%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		実習	JAZZ基礎・筋トレ・ターン&ジャンプ・コレオ	授業の内容を復習しておくこと
2		実習	JAZZ基礎・筋トレ・ターン&ジャンプ・コレオ	授業の内容を復習しておくこと
3		実習	JAZZ基礎・筋トレ・ターン&ジャンプ・コレオ	授業の内容を復習しておくこと
4		実習	JAZZ基礎・筋トレ・ターン&ジャンプ・コレオ	授業の内容を復習しておくこと
5		実習	JAZZ基礎・筋トレ・ターン&ジャンプ・コレオ	授業の内容を復習しておくこと
6		実習	JAZZ基礎・筋トレ・ターン&ジャンプ・コレオ	授業の内容を復習しておくこと
7		実習	JAZZ基礎・筋トレ・ターン&ジャンプ・コレオ	授業の内容を復習しておくこと
8		実習	JAZZ基礎・筋トレ・ターン&ジャンプ・コレオ	授業の内容を復習しておくこと
9		実習	JAZZ基礎・筋トレ・ターン&ジャンプ・コレオ	授業の内容を復習しておくこと
10		実習	JAZZ基礎・筋トレ・ターン&ジャンプ・コレオ	授業の内容を復習しておくこと
11		実習	JAZZ基礎・筋トレ・ターン&ジャンプ・コレオ	授業の内容を復習しておくこと
12		実習	定期テスト	授業の内容を復習しておくこと
13		実習	後期まとめ	授業の内容を復習しておくこと
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			色々なジャンルのエンターテイメントの研究	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	JAZZ B(3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	松村武司
学科・専攻	メディア &テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	「地球ゴージャス」ミュージカル出演・「木村カエラ」バックダンサー・「サカナクション」ダンサー						
授業の学習 内容	ダンサーを職業とする為に必要な、技術・心構え・コミュニケーション力を授業内容全般を通して学んでいく。 身体を鍛え抜く事で精神力も鍛え、社会人として必要なマナーも学んで行く。業界で必要とされる人材の研究。						
到達目標	自身の個性を、自身のダンススキルで表現出来るようになる。将来の目標としている分野に進んで行けるよう、自身で考え行動して行ける人物になる。協調性を磨き良好なチームワークを体現する。						
評価方法と基準	定期テスト70％・出席率30％						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		実習	JAZZ基礎・筋トレ・ターン&ジャンプ・コレオ	ストレッチ、振付練習、スタイルの研究
2		実習	JAZZ基礎・筋トレ・ターン&ジャンプ・コレオ	ストレッチ、振付練習、スタイルの研究
3		実習	JAZZ基礎・筋トレ・ターン&ジャンプ・コレオ	ストレッチ、振付練習、スタイルの研究
4		実習	JAZZ基礎・筋トレ・ターン&ジャンプ・コレオ	ストレッチ、振付練習、スタイルの研究
5		実習	JAZZ基礎・筋トレ・ターン&ジャンプ・コレオ	ストレッチ、振付練習、スタイルの研究
6		実習	JAZZ基礎・筋トレ・ターン&ジャンプ・コレオ	ストレッチ、振付練習、スタイルの研究
7		実習	JAZZ基礎・筋トレ・ターン&ジャンプ・コレオ	ストレッチ、振付練習、スタイルの研究
8		実習	JAZZ基礎・筋トレ・ターン&ジャンプ・コレオ	ストレッチ、振付練習、スタイルの研究
9		実習	JAZZ基礎・筋トレ・ターン&ジャンプ・コレオ	ストレッチ、振付練習、スタイルの研究
10		実習	JAZZ基礎・筋トレ・ターン&ジャンプ・コレオ	ストレッチ、振付練習、スタイルの研究
11		実習	JAZZ基礎・筋トレ・ターン&ジャンプ・コレオ	ストレッチ、振付練習、スタイルの研究
12		実習	定期テスト	自身の踊りの研究
13		実習	前期まとめ	後期に向けての目標を立てる
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			色々なジャンルのエンターテインメントの研究	
【使用教科書・教材・参考書】				

東京ダンス・俳優&舞台芸術専門学校

科目名	JAZZ B(4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	松村武司
学科・専攻	メディア&テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	「地球ゴージャス」ミュージカル出演・「木村カエラ」バックダンサー・「サカナクション」ダンサー						
授業の学習 内容	ダンサーを職業とする為に必要な、技術・心構え・コミュニケーション力を授業内容全般を通して学んでいく。 身体を鍛え抜く事で精神力も鍛え、社会人として必要なマナーも学んで行く。業界で必要とされる人材の研究。						
到達目標	自身の個性を、自身のダンススキルで表現出来るようになる。将来の目標としている分野に進んで行けるよう、自身で考え行動して行ける人物になる。協調性を磨き良好なチームワークを体現する。						
評価方法と基準	定期テスト70%・出席率30%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		実習	JAZZ基礎・筋トレ・ターン&ジャンプ・コレオ	ストレッチ、振付練習、スタイルの研究
2		実習	JAZZ基礎・筋トレ・ターン&ジャンプ・コレオ	ストレッチ、振付練習、スタイルの研究
3		実習	JAZZ基礎・筋トレ・ターン&ジャンプ・コレオ	ストレッチ、振付練習、スタイルの研究
4		実習	JAZZ基礎・筋トレ・ターン&ジャンプ・コレオ	ストレッチ、振付練習、スタイルの研究
5		実習	JAZZ基礎・筋トレ・ターン&ジャンプ・コレオ	ストレッチ、振付練習、スタイルの研究
6		実習	JAZZ基礎・筋トレ・ターン&ジャンプ・コレオ	ストレッチ、振付練習、スタイルの研究
7		実習	JAZZ基礎・筋トレ・ターン&ジャンプ・コレオ	ストレッチ、振付練習、スタイルの研究
8		実習	JAZZ基礎・筋トレ・ターン&ジャンプ・コレオ	ストレッチ、振付練習、スタイルの研究
9		実習	JAZZ基礎・筋トレ・ターン&ジャンプ・コレオ	ストレッチ、振付練習、スタイルの研究
10		実習	JAZZ基礎・筋トレ・ターン&ジャンプ・コレオ	ストレッチ、振付練習、スタイルの研究
11		実習	JAZZ基礎・筋トレ・ターン&ジャンプ・コレオ	ストレッチ、振付練習、スタイルの研究
12		実習	定期テスト	自身の踊りの研究
13		実習	後期まとめ	次年度に向けての目標を立てる
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			色々なジャンルのエンターテインメントの研究	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	JAZZ C(3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	井上守
学科・コース	メディア＆テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)		
教員の略歴	JAZZダンス歴 17年・12年・18年・9年・26年						
授業の 学習内容	・ジャズダンス基礎の確認、徹底 ・ダンスを通して表現の実践						
到達目標	①正しい姿勢を理解し、実践できる。 ②基礎の大切さを理解している。 ③振りを覚え、曲の意味に沿って表現しながら踊ることが出来る。						
評価方法と 基準	実技テストによる採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	ウォームアップの説明、ビルコット・コンビネーション	各自授業内容を復習
2		講義・演習	ウォームアップの解説 ①姿勢・コンビネーション	各自授業内容を復習
3		講義・演習	ウォームアップの解説 ②パラレルの重要性・コンビネーション	各自授業内容を復習
4		講義・演習	ウォームアップの解説 ③ルルベ・コンビネーション	各自授業内容を復習
5		講義・演習	ブリエの説明、実践	各自授業内容を復習
6		講義・演習	タンデュ・デガジェの説明	各自授業内容を復習
7		講義・演習	体重移動 タンデュータンデュ	各自授業内容を復習
8		講義・演習	片足になる パッセ	各自授業内容を復習
9		講義・演習	体重移動 タンデューパッセ	各自授業内容を復習
10		講義・演習	ロンデジャンプ	各自授業内容を復習
11		講義・演習	ロンデジャンプーピケ	各自授業内容を復習
12		講義・演習	ビルエットダブルを安定させる	各自授業内容を復習
13		講義・演習	テスト	各自授業内容を復習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			授業外でもセッションを行ったり、とにかく実践すること。	
【使用教科書・教材・参考書】				

東京ダンス・俳優&舞台芸術専門学校

科目名	JAZZ C(4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	井上守
学科・コース	メディア＆テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)		
教員の略歴	JAZZダンス歴 17年・12年・18年・9年・26年						
授業の 学習内容	・ジャズダンス基礎の確認、徹底 ・ダンスを通して表現の実践						
到達目標	①正しい姿勢を理解し、実践できる。 ②基礎の大切さを理解している。 ③振りを覚え、曲の意味に沿って表現しながら踊ることが出来る。						
評価方法と 基準	実技テストによる採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	ウォームアップの説明、ビルコット・コンビネーション	各自授業内容を復習
2		講義・演習	ウォームアップの解説 ①姿勢・コンビネーション	各自授業内容を復習
3		講義・演習	ウォームアップの解説 ②パラルルの重要性・コンビネーション	各自授業内容を復習
4		講義・演習	ウォームアップの解説 ③ルルベ・コンビネーション	各自授業内容を復習
5		講義・演習	ブリエの説明、実践	各自授業内容を復習
6		講義・演習	タンデュ・デガジェの説明	各自授業内容を復習
7		講義・演習	体重移動 タンデュ→タンデュ	各自授業内容を復習
8		講義・演習	片足になる パッセ	各自授業内容を復習
9		講義・演習	体重移動 タンデュ→パッセ	各自授業内容を復習
10		講義・演習	ロンデジャンプ	各自授業内容を復習
11		講義・演習	ロンデジャンプ→ピケ	各自授業内容を復習
12		講義・演習	ビルエットダブルを安定させる	各自授業内容を復習
13		講義・演習	テスト	各自授業内容を復習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			授業外でもセッションを行ったり、とにかく実践すること。	
【使用教科書・教材・参考書】				

東京ダンス・俳優&舞台芸術専門学校

科目名	バレエA(3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	浅越葉菜
学科・専攻	メディア & テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	クラシックバレエ、コンテンポラリーダンス、ジャズダンスを学ぶ。関東大手テーマパーク、劇団四季等様々な舞台で活躍。現在は舞台に出演するかたわら、バレエ、ジャズ等の指導者、振付師として様々なイベントで作品を発表している。						
授業の学習 内容	①最大限に身体を使い、身体表現を行う為にバレエを学ぶ。 ②他のダンスにも繋がる身体を作る。 ③自分の身体を知り、自分との向き合い方を学んでほしい。 ④ストレッチ、バーレッスン、センターレッスンを通して、身体作り、精神の向上、テクニックの向上を目指す。						
到達目標	自分に向き合い、身体の気付きを持つ。 他ジャンルに繋がるバレエを身につける。						
評価方法と基準	出席率:60% テスト:40%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	他ジャンルに繋がるバレエとは。	前期の目標設定、基礎の見直し
2		講義・演習	自分の骨格を知り、正しい立ち方、姿勢を見直す。	自分の体型、骨格を知り、長所短所を知る
3		講義・演習	バーレッスンを通して身体のラインを生む	自分に合ったストレッチ、トレーニングを知り、習慣的に実践する
4		講義・演習	床との関係、足裏、骨盤の確認	丹田、体幹トレーニング強化
5		講義・演習	上体との運動、音楽性の向上	様々なジャンルの音楽を聴く
6		講義・演習	テクニック強化(重心、体重移動)	パの確認、復習、練習
7		講義・演習	テクニック強化(ピルエット、ターン)	パの確認、復習、練習
8		講義・演習	テクニック強化(ジャンプ、ワルツ強化)	音楽の使い方の研究
9		講義・演習	音楽を身体で表現する	身体のライン、魅せ方の研究
10		講義・演習	前期まとめ(身体の変化への気付き)	客観的に自分を見つめる
11		講義・演習	前期まとめ2(身体のラインの見直し)	出来ること、出来ないことを明確にする
12		講義・演習	前期まとめ3(音楽性の向上、テクニック強化)口	自分に合ったストレッチ、トレーニングの見直し
13		講義・演習	後期に向けての課題(テクニック応用)	前期の復習、後期への目標設定
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			授業前後のストレッチと筋力トレーニング。授業内容や授業中に気付いたことをノート等へ書き残す事。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	バレエA(4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	浅越葉菜
学科・専攻	メディア＆テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	クラシックバレエ、コンテンポラリーダンス、ジャズダンスを学ぶ。関東大手テーマパーク、劇団四季等様々な舞台で活躍。現在は舞台に出演するかたわら、バレエ、ジャズ等の指導者、振付師として様々なイベントで作品を発表している。						
授業の学習 内容	①最大限に身体を使い、身体表現を行う為にバレエを学ぶ。 ②他のダンスにも繋がる身体を作る。 ③自分の身体を知り、自分との向き合い方を学んでほしい。 ④ストレッチ、バーレッスン、センターレッスンを通して、身体作り、精神の向上、テクニックの向上を目指す。						
到達目標	自分に向き合い、身体の気付きを持つ。 他ジャンルに繋がるバレエを身につける。						
評価方法と基準	出席率:60% テスト:40%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	前期の復習、姿勢立ち方の見直し	各自後期の目標設定
2		講義・演習	基礎の見直し、反復練習	自分に合ったストレッチ、トレーニングを習慣的に実践する
3		講義・演習	基礎の見直し、反復練習2	背骨、体幹を感じるトレーニング
4		講義・演習	テクニック強化(ターン、ジャンプ)	足裏、床を感じるトレーニング
5		講義・演習	身体のライン作り(上体、アームス)	上体の可動域の拡大、ストレッチの強化
6		講義・演習	身体のライン作り(足さばき、上体との連動)	強くしなやかな身体作り
7		講義・演習	音楽を表現する身体作り	様々なジャンルの音楽を聴く
8		講義・演習	音楽を表現する身体作り2	身体表現とは何か、自分なりに考える
9		講義・演習	センターレッスン応用(テクニック強化)	出来ること出来ないことを明確にする
10		講義・演習	センターレッスン応用2(テクニック強化)	長所短所を客観的に捉える
11		講義・演習	後期まとめ 1	バレエ用語の復習、確認
12		講義・演習	後期まとめ 2	バレエ用語の復習、確認
13		講義・演習	一年間のまとめ(基礎から応用まで)	一年間の成果、反省をし、今後の目標を設定する
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			授業前後のストレッチと筋力トレーニング。授業内容や授業中に気付いたことをノート等へ書き残しておく。	
【使用教科書・教材・参考書】				
レオタード、バレエシューズ				

科目名	バレエB(3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	下島功佐
学科・専攻	メディア＆テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	ロシアワガノワバレエアカデミー留学卒業、元谷桃子バレエ団ソリスト						
授業の学習 内容	① バレエは、ダンス全般及び演技に共通して通用する部分が非常に多いので、将来、ダンス関係及び舞台関係への就職を少しでも考えているならば必須です。 ② ダンス全般の授業と関係します。しなやかで強い筋肉、軸のぶれない体幹、美しい身体のライン、音の聞き方感じ方、以上の体得という位置付けです。 ③ バレエは専門的且つ基礎的で地味な練習が多いが毎時間繰り返す事で精神力も鍛え、自分の身体、自分の可能性としっかりと向き合い、卒業後の進路の可能性を広げていってほしい。 ①～③をふまえて 柔軟性を高めるためのストレッチ、体幹強化とバレエの基礎知識習得の為のバーレッスン、バレエのステップへの理解を深める為、ジャンプ、回転も多用したセンターレッスン(バーレッスン、センターレッスン、共に音楽に合わせて行う)						
到達目標	当たり前ではあるが、休まず毎時間出席する事が第1目標。最終的にはバレエのポジション、ステップコンビネーションの説明の理解が出来、尚且つ実践できるようになる。						
評価方法と基準	定期テストの点数と普段の授業への取り組み方を総合的に評価						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・発表	腹筋、背筋、腰斜間の筋力強化の為のトレーニング バーレッスン、手のポジション(アンバー、アンナヴァン、アン オー マラセグン)足のポジション(1～6番)の説明を重点的に	知っているストレッチをしておく。
2		講義・発表	プリエ:身体をまっすぐにたてる意識を持つ事を重点的に。	1で学んだストレッチ、筋力トレーニング。手のポジション、足のポ ジションの復習。
3		講義・発表	タンジュとジュテ:自分の前横後ろへ身体がぶれずに真っ直ぐに 足を出せる事を重点的に。	2で学んだストレッチ、筋力トレーニング。プリエの復習。
4		講義・発表	タンジュとジュテ:足の指、ドゥミをきちんと使えるように意識する ことを重点的に。	3で学んだストレッチ、筋力トレーニング。タンジュ、ジュテの復 習。
5		講義・発表	ロンデジャンプ:前横後ろのタンジュを連続して繋げて動かし事 を覚える、動かしときに身体、腰がブレない事を意識して。パッ セの説明	4で学んだストレッチ、筋力トレーニング。タンジュ、ジュテの復 習。
6		講義・発表	フォンデュ:片足のプリエ、及びクベの形を理解、習得	5で学んだストレッチ、筋力トレーニング。ロンデジャンプ、パッセ の復習。
7		講義・発表	フラッペ:体幹がブレずに音、リズムに合わせてはつきりと素早く 足を動かせる。	6で学んだストレッチ、筋力トレーニング。フォンデュ、クベの復習
8		講義・発表	アダジオとグランバットマン:タンジュを通して足を高く上げ、キ ープ出来るように。素早く高く上げられるように。	7で学んだストレッチ、筋力トレーニング。フラッペの復習。
9		講義・発表	アダジオとグランバットマン:デベロッパの習得。	8で学んだストレッチ、筋力トレーニング。アダジオ、グランバット マンの復習。
10		講義・発表	ルルベの確認。	9で学んだストレッチ、筋力トレーニング。デベロッパの復習。
11		講義・発表	スシュとエシャッペの説明。	10で学んだストレッチ、筋力トレーニング。ルルベの復習。
12		講義・発表	シャンジュマンの説明。	11で学んだストレッチ、筋力トレーニング。スシュとエシャッペの 復習。
13		試験	12までのバーレッスン及びセンターレッスンの内容に対する理解 力の確認。	12で学んだストレッチ、筋力トレーニング。シャンジュマンの復 習。
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	バレエB(4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	下島功佐
学科・専攻	メディア＆テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	ロシアワガノワバレエアカデミー留学卒業、元谷桃子バレエ団ソリスト						
授業の学習 内容	① バレエは、ダンス全般及び演技に共通して通用する部分が非常に多いので、将来、ダンス関係及び舞台関係への就職を少しでも考えているならば必須です。 ② ダンス全般の授業と関係します。しなやかで強い筋肉、軸のぶれない体幹、美しい身体のライン、音の聞き方感じ方、以上の体得という位置付けです。 ③ バレエは専門的且つ基礎的で地味な練習が多いが毎時間繰り返す事で精神力も鍛え、自分の身体、自分の可能性としっかりと向き合い、卒業後の進路の可能性を広げていってほしい。 ①～③をふまえて柔軟性を高めるためのストレッチ、体幹強化とバレエの基礎知識習得の為のバーレッスン、バレエのステップへの理解を深める為、ジャンプ、回転も多用したセンターレッスン(バーレッスン、センターレッスン、共に音楽に合わせて行う)						
到達目標	当たり前ではあるが、休まず毎時間出席する事が第1目標。最終的にはバレエのポジション、ステップコンビネーションの説明の理解が出来、尚且つ実践できるようになる。						
評価方法と基準	定期テストの点数と普段の授業への取り組み方を総合的に評価						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・発表	センターレッスンでの角度、身体の向きの説明、エファセ、クロワゼ、エカルテ等。	前期に学んだストレッチ、筋力トレーニング。
2		講義・発表	バーを使わずに体幹を保ってタンジュ、グランバットマンと片足でバッセのバランス。	1で学んだストレッチ、筋力トレーニング。センターレッスンでの身体の向き、角度の復習。
3		講義・発表	回転をする時の首から上、顔の使い方、アンデダンとアンデオールのビルエットの説明と実践。	2で学んだストレッチ、筋力トレーニング。センターでのタンジュ、グランバットマン、バッセのやり方の復習。
4		講義・発表	バーを使わずにアダジオ、デベロッパの実践。	3で学んだストレッチ、筋力トレーニング。ビルエットのアンデオールとアンデダンの違いの復習。
5		講義・発表	センターでのスシュとエジャツベ、スモールジャンプ(ジャンプジャンプやスーブルソーなど)前後左右に動かないその場でやるもの、の説明と実践	4で学んだストレッチ、筋力トレーニング。センターレッスンでのアダジオの復習。
6		講義・発表	グリッサードとアッサンブレの説明と実践。	5で学んだストレッチ、筋力トレーニング。スシュ、エジャツベとスモールジャンプの復習。
7		講義・発表	5.6.7の内容を応用したコンビネーション	6で学んだストレッチ、筋力トレーニング。グリッサードとアッサンブレの復習。
8		講義・発表	大きなジャンプ、グランワルツ、基本的なコンビネーションで。	7で学んだストレッチ、筋力トレーニング。アレグロジャンプの復習。
9		講義・発表	グランワルツを少し複雑なコンビネーションで。	8で学んだストレッチ、筋力トレーニング。グランワルツの復習。
10		講義・発表	シェネ、ピケアンデダン等、早い回転の連続技の説明と実践。	9で学んだストレッチ、筋力トレーニング。グランワルツの復習。
11		講義・発表	シェネとピケアンデダンのコンビネーション。	10で学んだストレッチ、筋力トレーニング。シェネとピケアンデダンの復習。
12		講義・発表	ジャンプとターンのコンビネーション。	11で学んだストレッチ、筋力トレーニング。連続回転コンビネーションの復習。
13		試験	後期12までのバーレッスン及びセンターレッスンの内容に対する理解力の確認	12で学んだストレッチ、筋力トレーニング。今までに習ったコンビネーションや回転技が出来るか試してみる
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	バレエA(5)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	秋山 かおる
学科・専攻	メディア＆テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	日本バレエ協会会員 プログレッシブバレエテクニック認定講師						
授業の学習 内容	◎クラシックバレエの基礎を学ぶ事を通し、ダンサーとしての筋力、姿勢、柔軟性、音楽性を養う ◎バレエのクラスレッスンの特性として「右からやった事は左から、前からやった事は後ろからも同じ動きを必ず繰り返す」 内容となっており、レッスンを重ねる事で「自分の身体・筋肉を自由にコントロールして踊る」ことを身に着ける ◎JAZZやコンテンポラリーなど、他ジャンルのダンス振付の際にも「バレエ用語＝動きの名称」が使われる事も多い為、レッスンを通して用語も学ぶ ◎具体的なレッスン内容は バーレッスン(約50分)＋センターブラクティス(約40分) ※ストレッチは慣れるまでは授業時間内で実施→ストレッチの種類ややり方を理解できたら授業前に自分でストレッチをし、バーレッスンから授業開始となります						
到達目標	①バーレッスン(プリエからグランバットマンまで)は前期に学んだ基礎を元に応用的なバにも挑戦する ②センターブラクティスについては前期に学んだ基礎を活かし、グランワルツまで幅広く踊れるようになる ③自分自身の骨格・筋肉の質や左右差を理解し「ケガをしないダンサー」の身体づくりの為のレッスンが出来るようになる						
評価方法と基準	実技試験60%(実技) 出席率40% ※技術の向上だけでなく、毎回の授業に臨む姿勢も含めて評価します。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	ストレッチの仕方、ポジションとバーレッスン	ストレッチとポジションの復習
2		演習	バーレッスン(ターンアウトの必要性を学ぶ)	ストレッチ+大腿骨の動かし方を研究
3		演習	バー+センターのアダージオとタンジュ	ストレッチ+左右の軸足の感覚を研究
4		演習	前回の内容にピルエットの基礎を追加	ストレッチ+ルルベの復習
5		演習	前回の内容にスモールジャンプを追加	ストレッチ+アームス(腕)の使い方を研究
6		演習	前回の内容にピケターンを追加	ストレッチ+ターンにおける首のつけ方を復習
7		演習	前回の内容にアレグロを追加	〃
8		演習	バー+センターは前回の内容に応用を加える	ストレッチ+顔のつけ方(方向)の復習
9		演習	バー+センターは前回の内容に応用を加える	ストレッチ+自分の弱点は何かを考え復習
10		演習	バー+センターは前回の内容に応用を加える	〃
11		演習	バーレッスン+試験課題としてのセンター	ストレッチ+試験課題の復習
12		演習	バーレッスン+試験課題としてのセンター	〃
13		演習	バーレッスン+ 実技試験	ストレッチ+前期で覚えた用語を確認・復習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			スタジオに入ったら授業が始まる前に自分たちでバーを設置し、各自でストレッチを始めること	
【使用教科書・教材・参考書】				
レッスン時の服装・髪型については教務の先生より詳しい指示がありますので、それに従って下さい				

科目名	バレエA(6)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	秋山 かおる
学科・専攻	メディア & テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	日本バレエ協会会員 プログレッシブバレエテクニック認定講師						
授業の学習 内容	◎クラシックバレエの基礎を学ぶ事を通し、ダンサーとしての筋力、姿勢、柔軟性、音楽性を養う ◎バレエのクラスレッスンの特性として「右からやった事は左から、前からやった事は後ろからも同じ動きを必ず繰り返す」 内容となっており、レッスンを重ねる事で「自分の身体・筋肉を自由にコントロールして踊る」ことを身に着ける ◎他ジャンルのダンス振付の際にも「バレエ用語＝動きの名称」が使われる事も多い為、レッスンを通して用語も学ぶ ◎具体的なレッスン内容は バーレッスン(約50分)＋センタープラクティス(約40分) ※前期より、音楽の使い方やステップの幅に応用性をもたせてゆく						
到達目標	①バーレッスン(プリエからグランバットマンまで)は前期に学んだ基礎を元に応用的なバにも挑戦する ②センタープラクティスについては前期に学んだ基礎を活かし、グランワルツまで幅広く踊れるようになる ③自分自身の骨格・筋肉の質や左右差を理解し「ケガをしないダンサー」の身体づくりの為のレッスンが出来るようになる						
評価方法と基準	実技試験60%(実技) 出席率40% ※技術の向上だけでなく、毎回の授業に臨む姿勢も含めて評価します。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	前期の内容＋グランワルツについて	ストレッチ＋ステップの復習
2		演習	前回の内容＋グランワルツ(ダイナミックに)	ストレッチ＋ステップの復習
3		演習	バー＋センター(ターンに重点)	ストレッチ＋軸足ルルベの復習
4		演習	バー＋センター(アダージオに重点)	ストレッチ＋プロムナードの仕組みを復習
5		演習	バー＋センター(アレグロに重点)	ストレッチ＋アームス(腕)の使い方を研究
6		演習	バー＋センター(ジャンプに重点)	ストレッチ＋アントルラセの仕組みを復習
7		演習	バー＋センター(ジャンプに重点)	〃
8		演習	バー＋センターは今までの内容に応用を加える	ストレッチ＋顔のつけ方(方向)の復習
9		演習	バー＋センターは今までの内容に応用を加える	ストレッチ＋アームス(腕)の復習
10		演習	バーレッスン＋試験課題としてのセンター	ストレッチ＋試験課題の復習(表現の研究)
11		演習	バーレッスン＋試験課題としてのセンター	ストレッチ＋試験課題の復習(音楽性を踏まえ)
12		演習	バーレッスン＋ 実技試験	ストレッチ＋自分の弱点は何かを考えての復習
13		演習	バーレッスン＋センター	一年間のまとめとしてのクラスレッスン
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			スタジオに入ったら授業が始まる前に自分たちでバーを設置し、各自でストレッチを始めること	
【使用教科書・教材・参考書】				
レッスン時の服装・髪型については教務の先生より詳しい指示がありますので、それに従って下さい				

科目名	HIPHOP A(4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	相沢圭祐
学科・コース	メディア＆テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)		
教員の略歴	ダンサー・講師						
授業の学習 内容	基礎となる身体の使い方や体力作りとステップ、表現トレーニング						
到達目標	自分の体の使い方を知り、タメや表現力を身に着ける						
評価方法と基準	実技テストによる採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	基礎トレーニング・リズム・振付	復習
2		講義・演習	基礎トレーニング・リズム・振付	復習
3		講義・演習	基礎トレーニング・リズム・振付	復習
4		講義・演習	基礎トレーニング・リズム・振付	復習
5		講義・演習	基礎トレーニング・リズム・振付	復習
6		講義・演習	基礎トレーニング・リズム応用・振付	復習
7		講義・演習	基礎トレーニング・リズム応用・振付	復習
8		講義・演習	基礎トレーニング・リズム応用・振付	復習
9		講義・演習	基礎トレーニング・リズム応用・振付	復習
10		講義・演習	基礎・ステップ・振付	復習
11		講義・演習	基礎・ステップ・振付	復習
12		講義・演習	基礎・ステップ・振付	復習
13		講義・演習	基礎・ステップ・振付	復習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	HIPHOP A(4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	相沢圭祐
学科・コース	メディア＆テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)		
教員の略歴	ダンサー・講師						
授業の学習 内容	基礎となる身体の使い方や体力作りとステップ、表現トレーニング						
到達目標	自分の体の使い方を知り、タメや表現力を身に着ける						
評価方法と基準	実技テストによる採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	基礎トレーニング・リズム・振付	復習
2		講義・演習	基礎トレーニング・リズム・振付	復習
3		講義・演習	基礎トレーニング・リズム・振付	復習
4		講義・演習	基礎トレーニング・リズム・振付	復習
5		講義・演習	基礎トレーニング・リズム・振付	復習
6		講義・演習	基礎トレーニング・リズム応用・振付	復習
7		講義・演習	基礎トレーニング・リズム応用・振付	復習
8		講義・演習	基礎トレーニング・リズム応用・振付	復習
9		講義・演習	基礎トレーニング・リズム応用・振付	復習
10		講義・演習	基礎・ステップ・振付	復習
11		講義・演習	基礎・ステップ・振付	復習
12		講義・演習	基礎・ステップ・振付	復習
13		講義・演習	基礎・ステップ・振付	復習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	HIP HOP B(3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	YU JURRY
学科・専攻	メディア＆テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	ダンサーや振付でLIVE等に参加(BTS、MIYAVI、KESHA、w-indsなど)						
授業の学習 内容	①基礎的なダンスを深めると共に魅せることを意識する ②ダンスに関しては全般 ③一線で活躍できるアーティスト ④単純な振り落としの授業ではなく、体の使い方なども含めた内容						
到達目標	ダンスの技術的向上、その習慣化						
評価方法と基準	実技テストによる採点と授業の出席率による平常点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	業界の仕事をすると言うこと。授業を受けるうえで的心構えと毎回行うストレッチ等説明	授業内容を自主練習
2		講義・演習	振付	授業内容を自主練習
3		講義・演習	振付の踊り込み	授業内容を自主練習
4		講義・演習	振付②	授業内容を自主練習
5		講義・演習	振付②踊り込みと考察	授業内容を自主練習
6		講義・演習	振付③	授業内容を自主練習
7		講義・演習	振付③踊り込みと考察	授業内容を自主練習
8		講義・演習	振付④	授業内容を自主練習
9		講義・演習	振付④踊り込みと考察	授業内容を自主練習
10		講義・演習	振付⑤	授業内容を自主練習
11		講義・演習	振付⑤踊り込みと考察	授業内容を自主練習
12		講義・演習	テスト振付	授業内容を自主練習
13		講義・演習	テスト	授業内容を自主練習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	HIP HOP B(4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	YU JURRY
		授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
学科・専攻	メディア & テクノロジー科(昼間部二)						
教員の略歴	ダンサーや振付でLIVE等に参加(BTS、MIYAVI、KESHA、w-inds.など)						
授業の学習 内容	①基礎的なダンスを深めると共に魅せることを意識する ②ダンスに関しては全般 ③一線で活躍できるアーティスト ④単純な振り落としの授業ではなく、体の使い方なども含めた内容						
到達目標	ダンスの技術的向上、その習慣化						
評価方法と基準	実技テストによる採点と授業の出席率による平常点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	ダンスの見直し	授業内容を自主練習
2		講義・演習	振付⑥	授業内容を自主練習
3		講義・演習	振付⑥踊り込みと考察	授業内容を自主練習
4		講義・演習	振付⑦	授業内容を自主練習
5		講義・演習	振付⑦踊り込みと考察	授業内容を自主練習
6		講義・演習	振付⑧	授業内容を自主練習
7		講義・演習	振付⑧踊り込みと考察	授業内容を自主練習
8		講義・演習	振付⑨	授業内容を自主練習
9		講義・演習	振付⑨踊り込みと考察	授業内容を自主練習
10		講義・演習	振付⑩	授業内容を自主練習
11		講義・演習	振付⑩踊り込みと考察	授業内容を自主練習
12		講義・演習	テスト振付	授業内容を自主練習
13		講義・演習	テスト	授業内容を自主練習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	HIPHOP C(3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	岩崎浩太郎
学科・専攻	メディア＆テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	講師歴16年、バックダンサー、振付、ミュージカル、メディア出演など						
授業の学習 内容	体の使い方を知る。またそのための体作り。基礎的な動きをしっかりと音に合わせてレッスン。いろいろな曲でいろいろな踊りにトライ。自分を客観的にま見て自分研究。						
到達目標	リズムに慣れる(音楽を聴く事に慣れる)。体全体を1つに繋げる。音楽にしっかり合った踊りが出来るようにする。踊り(体の使い方)のレパートリーを増やす。自分を知る。仕事の出来る＆仕事を与えたいと思われる人間になる。						
評価方法と基準	出席率60%、授業や課題の取り組み方30%、テスト10%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義、演習	自己紹介、レベルチェック	
2		演習	アイソレーション、リズムのとり方を覚える	
3		演習	リズム&ボディコントロール、振り	
4		演習	リズム&ボディコントロール、振り	
5		演習	リズム&ボディコントロール、振り	
6		演習	リズム&ボディコントロール、振り	
7		演習	リズム&ボディコントロール、振り	
8		演習	リズム&ボディコントロール、振り	
9		演習	リズム&ボディコントロール、振り	
10		演習	リズム&ボディコントロール、振り	
11		演習	リズム&ボディコントロール、振り	
12		試験	学んだ事の確認、客観的に自分を知る	
13		演習	リズム確認&応用、振り	
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	HIPHOP C(4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	岩崎浩太郎
学科・専攻	メディア＆テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	講師歴16年、バックダンサー、振付、ミュージカル、メディア出演など						
授業の学習 内容	体の使い方を知る。またそのための体作り。基礎的な動きをしっかりと音に合わせてレッスン。いろいろな曲でいろいろな踊りにトライ。自分を客観的にま見て自分研究。						
到達目標	リズムに慣れる(音楽を聴く事に慣れる)。体全体を1つに繋げる。音楽にしっかり合った踊りが出来るようにする。踊り(体の使い方)のレパートリーを増やす。自分を知る。仕事の出来る＆仕事を与えたいと思われる人間になる。						
評価方法と基準	出席率60%、授業や課題の取り組み方30%、テスト10%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	リズム&ボディコントロール、振り	
2		演習	リズム&ボディコントロール、振り	
3		演習	リズム&ボディコントロール、振り	
4		演習	リズム&ボディコントロール、振り	
5		演習	リズム&ボディコントロール、振り	
6		演習	リズム&ボディコントロール、振り	
7		演習	リズム&ボディコントロール、振り	
8		演習	リズム&ボディコントロール、振り	
9		演習	リズム&ボディコントロール、振り	
10		演習	リズム&ボディコントロール、振り	
11		演習	リズム&ボディコントロール、振り	
12		試験	学んだ事の確認、客観的に自分を知る	
13		演習	リズム確認&応用、振り	
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	FREE STYLE A(3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	田中英輔
		授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
学科・専攻	メディア&テクノロジー科(昼間部二)						
教員の略歴	アクション・スタントマンを経てテーマパークダンサー・アーティストのサポートダンサーなど						
授業の学習 内容	基本のリズム取りを45分間行い、その日のメインのステップを1～3つ程レクチャー。						
到達目標	音楽に乗れる身体、緩急やシルエットまで意識できるダンサーになる。						
評価方法と基準	授業態度、出席率、を元に実施試験でのダンス						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・発表	UPのリズム STEP3種 振付け	各自授業内容を復習
2		講義・発表	UPのリズム STEP3種 振付け	各自授業内容を復習
3		講義・発表	DOWNのリズム STEP3種 振付け	各自授業内容を復習
4		講義・発表	DOWNのリズム STEP3種 振付け	各自授業内容を復習
5		講義・発表	FRONTのリズム STEP3種 振付け	各自授業内容を復習
6		講義・発表	FRONTのリズム STEP3種 振付け	各自授業内容を復習
7		講義・発表	BACKのリズム STEP3種 振付け	各自授業内容を復習
8		講義・発表	BACKのリズム STEP3種 振付け	各自授業内容を復習
9		講義・発表	ALL MIX 長めの振付け＋＠	各自授業内容を復習
10		講義・発表	ALL MIX 長めの振付け＋＠	各自授業内容を復習
11		講義・発表	ALL MIX 長めの振付け＋＠	各自授業内容を復習
12		講義・発表	8×2FREE DANCE 振り＋フォーメーション	各自授業内容を復習
13		講義・発表	総まとめ	各自授業内容を復習
14		講義・発表	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			習ったSTEPを反復練習	
【使用教科書・教材・参考書】				

東京ダンス・俳優＆舞台芸術専門学校

科目名	FREE STYLE A(4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	田中英輔
		授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
学科・専攻	メディア&テクノロジー科(昼間部二)						
教員の略歴	アクション・スタントマンを経てテーマパークダンサー・アーティストのサポートダンサーなど						
授業の学習 内容	基本のリズム取りを45分間行い、その日のメインのステップを1～3つ程レクチャー。						
到達目標	音楽に乗れる身体、緩急やシルエットまで意識できるダンサーになる。						
評価方法と基準	授業態度、出席率、を元に実施試験でのダンス						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・発表	UPのリズム STEP3種 振付け	各自授業内容を復習
2		講義・発表	UPのリズム STEP3種 振付け	各自授業内容を復習
3		講義・発表	DOWNのリズム STEP3種 振付け	各自授業内容を復習
4		講義・発表	DOWNのリズム STEP3種 振付け	各自授業内容を復習
5		講義・発表	FRONTのリズム STEP3種 振付け	各自授業内容を復習
6		講義・発表	FRONTのリズム STEP3種 振付け	各自授業内容を復習
7		講義・発表	BACKのリズム STEP3種 振付け	各自授業内容を復習
8		講義・発表	BACKのリズム STEP3種 振付け	各自授業内容を復習
9		講義・発表	ALL MIX 長めの振付け＋＠	各自授業内容を復習
10		講義・発表	ALL MIX 長めの振付け＋＠	各自授業内容を復習
11		講義・発表	ALL MIX 長めの振付け＋＠	各自授業内容を復習
12		講義・発表	8×2FREE DANCE 振り＋フォーメーション	各自授業内容を復習
13		講義・発表	総まとめ	各自授業内容を復習
14		講義・発表	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			習ったSTEPを反復練習	
【使用教科書・教材・参考書】				

東京ダンス・俳優＆舞台芸術専門学校

科目名	Free Style B(3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	IORI SOMA
		授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2単位)		
学科・コース	メディア &テクノロジー科(昼間部二)						
教員の略歴	アメリカ・ロサンゼルスでダンサーとして活動、日本ではWS、MV等出演						
授業の学習 内容	①日本にいても海外のスタイルを学べるため ②他のダンスにも応用できる技術を身に付ける ③世界でも活躍できるダンサー ④ストレッチ、アイソレーション、振り付けを通し、身体作りスキルの向上						
到達目標	基礎を学び、個々のダンススタイルを確立する						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	身体作り	筋力トレーニング
2		講義・演習	ストレッチ	自分の体の特徴を知る
3		講義・演習	アイソレーション	アイソレーションの復習
4		講義・演習	ストレッチ、アイソレーションの応用	応用の復習
5		講義・演習	コンビネーション	コンビネーション復習
6		講義・演習	カウントの取り方	授業内容の復習
7		講義・演習	音の取り方、感じ方	曲を聞いて音とカウントを意識する
8		講義・演習	身体の使い方	アイソレーションを意識する
9		講義・演習	音を取り入れた身体の使い方	音によって異なる身体の使い方を知る
10		講義・演習	重心、シルエットの運び方	自分の体と向き合い自分の癖を考える
11		講義・演習	振り付けと音の結びつき	洋楽の音・歌詞の意味を考える
12		講義・演習	力の強弱と振り付けの緩急	自分の個性に合わせた魅せ方を知る
13		講義・演習	テスト	これまでの授業の復習・今後の課題を見据える
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習		筋肉トレーニングを基礎とした授業内容の反復練習。また授業で扱った楽曲が洋楽である場合、英語の意味を自分で調べ日頃からの英語学習を心得る。		
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Free Style B(4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	IORI SOMA
		授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2単位)		
学科・コース	メディア &テクノロジー科(昼間部二)						
教員の略歴	アメリカ・ロサンゼルスでダンサーとして活動、日本ではWS、MV等出演						
授業の学習 内容	①日本にいても海外のスタイルを学べるため ②他のダンスにも応用できる技術を身に付ける ③世界でも活躍できるダンサー ④ストレッチ、アイソレーション、振り付けを通し、身体作りスキルの向上						
到達目標	基礎を学び、個々のダンススタイルを確立する						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	身体作り	筋力トレーニング
2		講義・演習	ストレッチ	自分の体の特徴を知る
3		講義・演習	アイソレーション	アイソレーションの復習
4		講義・演習	ストレッチ、アイソレーションの応用	応用の復習
5		講義・演習	コンビネーション	コンビネーション復習
6		講義・演習	カウントの取り方	授業内容の復習
7		講義・演習	音の取り方、感じ方	曲を聞いて音とカウントを意識する
8		講義・演習	身体の使い方	アイソレーションを意識する
9		講義・演習	音を取り入れた身体の使い方	音によって異なる身体の使い方を知る
10		講義・演習	重心、シルエットの運び方	自分の体と向き合い自分の癖を考える
11		講義・演習	振り付けと音の結びつき	洋楽の音・歌詞の意味を考える
12		講義・演習	力の強弱と振り付けの緩急	自分の個性に合わせた魅せ方を知る
13		講義・演習	テスト	これまでの授業の復習・今後の課題を見据える
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習		筋肉トレーニングを基盤とした授業内容の反復練習。また授業で扱った楽曲が洋楽である場合、英語の意味を自分で調べ日頃からの英語学習を心得る。		
【使用教科書・教材・参考書】				

東京ダンス・俳優&舞台芸術専門学校

科目名	FREESTYLE4 C(3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	松村武司
		授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30		
学科・専攻	メディア＆テクノロジー科(昼間部二)						
教員の略歴	「地球ゴージャス」ミュージカル出演・「木村カエラ」バックダンサー・「サカナクション」ダンサー						
授業の学習 内容	ダンサーを職業とする為に必要な、技術・心構え・コミュニケーション力を授業内容全般を通して学んでいく。 身体を鍛え抜く事で精神力も鍛え、社会人として必要なマナーも学んで行く。業界で必要とされる人材の研究。						
到達目標	自身の個性を、自身のダンススキルで表現出来るようになる。将来の目標としている分野に進んで行けるよう、自身で考え行動して行ける人物になる。協調性を磨き良好なチームワークを体現する。						
評価方法と基準	定期テスト70％・出席率30％						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		実習	DANCE基礎・筋トレ・技練・コレオ	ストレッチ、振付練習、スタイルの研究
2		実習	DANCE基礎・筋トレ・技練・コレオ	ストレッチ、振付練習、スタイルの研究
3		実習	DANCE基礎・筋トレ・技練・コレオ	ストレッチ、振付練習、スタイルの研究
4		実習	DANCE基礎・筋トレ・技練・コレオ	ストレッチ、振付練習、スタイルの研究
5		実習	DANCE基礎・筋トレ・技練・コレオ	ストレッチ、振付練習、スタイルの研究
6		実習	DANCE基礎・筋トレ・技練・コレオ	ストレッチ、振付練習、スタイルの研究
7		実習	DANCE基礎・筋トレ・技練・コレオ	ストレッチ、振付練習、スタイルの研究
8		実習	DANCE基礎・筋トレ・技練・コレオ	ストレッチ、振付練習、スタイルの研究
9		実習	DANCE基礎・筋トレ・技練・コレオ	ストレッチ、振付練習、スタイルの研究
10		実習	DANCE基礎・筋トレ・技練・コレオ	ストレッチ、振付練習、スタイルの研究
11		実習	DANCE基礎・筋トレ・技練・コレオ	ストレッチ、振付練習、スタイルの研究
12		実習	定期テスト	自身の踊りの研究
13		実習	前期まとめ	後期に向けての目標を立てる
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			色々なジャンルのエンターテインメントの研究	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	FREESTYLE4 C(4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	松村武司
		授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30		
学科・専攻	メディア＆テクノロジー科(昼間部二)						
教員の略歴	「地球ゴージャス」ミュージカル出演・「木村カエラ」バックダンサー・「サカナクション」ダンサー						
授業の学習 内容	ダンサーを職業とする為に必要な、技術・心構え・コミュニケーション力を授業内容全般を通して学んでいく。 身体を鍛え抜く事で精神力も鍛え、社会人として必要なマナーも学んで行く。業界で必要とされる人材の研究。						
到達目標	自身の個性を、自身のダンススキルで表現出来るようになる。将来の目標としている分野に進んで行けるよう、自身で考え行動して行ける人物になる。協調性を磨き良好なチームワークを体現する。						
評価方法と基準	定期テスト70％・出席率30％						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		実習	DANCE基礎・筋トレ・技練・コレオ	ストレッチ、振付練習、スタイルの研究
2		実習	DANCE基礎・筋トレ・技練・コレオ	ストレッチ、振付練習、スタイルの研究
3		実習	DANCE基礎・筋トレ・技練・コレオ	ストレッチ、振付練習、スタイルの研究
4		実習	DANCE基礎・筋トレ・技練・コレオ	ストレッチ、振付練習、スタイルの研究
5		実習	DANCE基礎・筋トレ・技練・コレオ	ストレッチ、振付練習、スタイルの研究
6		実習	DANCE基礎・筋トレ・技練・コレオ	ストレッチ、振付練習、スタイルの研究
7		実習	DANCE基礎・筋トレ・技練・コレオ	ストレッチ、振付練習、スタイルの研究
8		実習	DANCE基礎・筋トレ・技練・コレオ	ストレッチ、振付練習、スタイルの研究
9		実習	DANCE基礎・筋トレ・技練・コレオ	ストレッチ、振付練習、スタイルの研究
10		実習	DANCE基礎・筋トレ・技練・コレオ	ストレッチ、振付練習、スタイルの研究
11		実習	DANCE基礎・筋トレ・技練・コレオ	ストレッチ、振付練習、スタイルの研究
12		実習	定期テスト	自身の踊りの研究
13		実習	後期まとめ	次年度に向けての目標を立てる
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			色々なジャンルのエンターテインメントの研究	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	FREESTYLE D(3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	岩崎浩太郎
		授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
学科・専攻	メディア&テクノロジー科(昼間部二)						
教員の略歴	講師歴16年、バックダンサー、振付、ミュージカル、メディア出演など						
授業の学習 内容	体の使い方を知る。またそのための体作り。基礎的な動きをしっかりと音に合わせてレッスン。メンズの筋力を活かした動きや技のレッスン。いろいろな曲でいろいろな踊りにトライ。自分を客観的にま見て自分研究。						
到達目標	リズムに慣れる(音楽を聴く事に慣れる)。体全体を1つに繋げる。音楽にしっかりと合った、尚且つ様になった踊りが出来るようにする。踊り(体の使い方)のレパートリーを増やす。メンズの筋力を活かした踊りや技を習得する。自分を知る。技術だけではなく社会人として良いダンサーになる。						
評価方法と基準	出席率60%、授業や課題の取り組み方30%、テスト10%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義、演習	自己紹介、レベルチェック	
2		演習	アイソレーション、リズムのとり方を覚える	
3		演習	リズム&ボディコントロール、振り	
4		演習	リズム&ボディコントロール、振り	
5		演習	リズム&ボディコントロール、振り	
6		演習	リズム&ボディコントロール、振り	
7		演習	リズム&ボディコントロール、振り	
8		演習	リズム&ボディコントロール、振り	
9		演習	リズム&ボディコントロール、振り	
10		演習	リズム&ボディコントロール、振り	
11		演習	リズム&ボディコントロール、振り	
12		試験	学んだ事の確認、客観的に自分を知る	
13		演習	リズム確認&応用、振り	
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	FREESTYLE D(4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	岩崎浩太郎
		授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
学科・専攻	メディア&テクノロジー科(昼間部二)						
教員の略歴	講師歴16年、バックダンサー、振付、ミュージカル、メディア出演など						
授業の学習 内容	体の使い方を知る。またそのための体作り。基礎的な動きをしっかりと音に合わせてレッスン。メンズの筋力を活かした動きや技のレッスン。いろいろな曲でいろいろな踊りにトライ。自分を客観的にま見て自分研究。						
到達目標	リズムに慣れる(音楽を聴く事に慣れる)。体全体を1つに繋げる。音楽にしっかりと合った、尚且つ様になった踊りが出来るようにする。踊り(体の使い方)のレパートリーを増やす。メンズの筋力を活かした踊りや技を習得する。自分を知る。技術だけではなく社会人として良いダンサーになる。						
評価方法と基準	出席率60%、授業や課題の取り組み方30%、テスト10%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義、演習	リズム&ボディコントロール、振り	
2		演習	リズム&ボディコントロール、振り	
3		演習	リズム&ボディコントロール、振り	
4		演習	リズム&ボディコントロール、振り	
5		演習	リズム&ボディコントロール、振り	
6		演習	リズム&ボディコントロール、振り	
7		演習	リズム&ボディコントロール、振り	
8		演習	リズム&ボディコントロール、振り	
9		演習	リズム&ボディコントロール、振り	
10		演習	リズム&ボディコントロール、振り	
11		演習	リズム&ボディコントロール、振り	
12		試験	学んだ事の確認、客観的に自分を知る	
13		演習	リズム確認&応用、振り	
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	JAZZ FUNK(3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	IORI SOMA
学科・コース	メディア＆テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)		
教員の略歴	アメリカ・ロサンゼルスでダンサーとして活動、日本ではWS、MV等出演						
授業の学習 内容	ベーシックなJazzFunkダンスの内容。クラシックバレエやFunkの基礎も取り入れながら、JAZZFunkで主に使われる技を練習、習得。曲でのコンビネーションによるダンス実施。						
到達目標	正しいウォーミングアップ、ストレッチによる体作り。基本的な知識、オーディションなどにも対応できるようにスキルを身に付けていく。早くて正確な振り覚えができるようになる。曲に合わせた感情表現、踊りの魅せ方ができるようになる。						
評価方法と基準	実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	授業概要説明。ウォーミングアップ解説	次週に向けての自主練習。
2		講義・演習	筋トレ レベルアップ	前週の復習。次週に向けての自主練習。
3		講義・演習	ストレッチの強化	次週に向けての自主練習。
4		講義・演習	アイソレーションを中心に。	前週の復習。次週に向けての自主練習。
5		講義・演習	ウォーキング	前週の復習。次週に向けての自主練習。
6		講義・演習	フロアでセクシーに表現。	前週の復習。次週に向けての自主練習。
7		講義・演習	フォーメーションで踊る①	前週の復習。次週に向けての自主練習。
8		講義・演習	フォーメーションで踊る②	前週の復習。次週に向けての自主練習。
9		講義・演習	フリーでのダンス強化	前週の復習。次週に向けての自主練習。
10		講義・演習	セクシーな振り付けで踊る。	前週の復習。次週に向けての自主練習。
11		講義・演習	胸部と腰をしっかり使う。	前週の復習。次週に向けての自主練習。
12		講義・演習	魅せ方、表現の練習	前週の復習。次週に向けての自主練習。
13		講義・演習	テスト	復習
14		講義・演習	レポート提出	これまでの授業の復習
15		講義・演習	レポート提出	これまでの授業の復習
準備学習 時間外学習			個人での入念なストレッチ。授業内の不安点は個人で要復習、要練習。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	JAZZ FUNK(4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	IORI SOMA
学科・コース	メディア＆テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)		
教員の略歴	アメリカ・ロサンゼルスでダンサーとして活動、日本ではWS、MV等出演						
授業の学習 内容	ベーシックなJazzFunkダンスの内容。クラシックバレエやFunkの基礎も取り入れながら、JAZZFunkで主に使われる技を練習、習得。曲でのコンビネーションによるダンス実施。						
到達目標	正しいウォーミングアップ、ストレッチによる体作り。基本的な知識、オーディションなどにも対応できるようにスキルを身に付けていく。早くて正確な振り覚えができるようになる。曲に合わせた感情表現、踊りの魅せ方ができるようになる。						
評価方法と基準	実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	授業概要説明。ウォーミングアップ解説	次週に向けての自主練習。
2		講義・演習	筋トレ レベルアップ	前週の復習。次週に向けての自主練習。
3		講義・演習	ストレッチの強化	次週に向けての自主練習。
4		講義・演習	アイソレーションを中心に。	前週の復習。次週に向けての自主練習。
5		講義・演習	ウォーキング	前週の復習。次週に向けての自主練習。
6		講義・演習	フロアでセクシーに表現。	前週の復習。次週に向けての自主練習。
7		講義・演習	フォーメーションで踊る①	前週の復習。次週に向けての自主練習。
8		講義・演習	フォーメーションで踊る②	前週の復習。次週に向けての自主練習。
9		講義・演習	フリーでのダンス強化	前週の復習。次週に向けての自主練習。
10		講義・演習	セクシーな振り付けで踊る。	前週の復習。次週に向けての自主練習。
11		講義・演習	胸部と腰をしっかり使う。	前週の復習。次週に向けての自主練習。
12		講義・演習	魅せ方、表現の練習	前週の復習。次週に向けての自主練習。
13		講義・演習	テスト	復習
14		講義・演習	レポート提出	これまでの授業の復習
15		講義・演習	レポート提出	これまでの授業の復習
準備学習 時間外学習			個人での入念なストレッチ。授業内の不安点は個人で要復習、要練習。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	JAZZ HIPHOP(4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	崎野光児
学科・専攻	メディア & テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	7歳からダンスを始め、現在ではバックダンサーやインストラクターとして活躍。						
授業の学習 内容	JAZZとHIPHOPの要素を融合させたJAZZ HIPHOPスタイルの身体操作・リズム・表現力の基礎を学ぶ。ダンスに必要な柔軟性・体幹・グルーヴ感も養う。						
到達目標	JAZZのボディライン、HIPHOPのリズム感を理解し表現できる アイソレーション、ターン、リズムステップなどの基本技術を得得する 音楽と調和した振付を踊ることができる 自分の身体を自在に使える基礎体力・柔軟性を得る						
評価方法と基準	授業態度 50% 試験 50%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	四トレッチ・柔軟性向上	
2		講義・演習	アイソレーション①(首・肩・胸)	前回の復習
3		講義・演習	ベーシックステップ①(リズムどり)	前回の復習
4		講義・演習	JAZZベーシック①(ターン・ライン)	前回の復習
5		講義・演習	コンビネーション①(短めの振付)	前回の復習
6		講義・演習	アイソレーション②(腰・足)	前回の復習
7		講義・演習	ベーシックステップ②(歩き・ノリ)	前回の復習
8		講義・演習	ジャズキック／ターン応用	前回の復習
9		講義・演習	コンビネーション②(4×8ルーティン)	前回の復習
10		講義・演習	アームスの使い方・空間表現 音楽の取り方とリズム表現	前回の復習
11		講義・演習	コンビネーション③(新スタイル導入)口	前回の復習
12		講義・演習	個別チェック・修正指導口	前回の復習
13		講義・演習	まとめ・成果確認	前回の復習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	JAZZ HIPHOP(4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	崎野光児
学科・専攻	メディア＆テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	7歳からダンスを始め、現在ではバックダンサーやインストラクターとして活躍。						
授業の学習 内容	より個性ある踊り方・音の捉え方・パフォーマンス力を強化し、JAZZ HIPHOPの振付に自信を持って取り組める表現者を目指す。						
到達目標	複雑な振付を正確に覚え、リズム・グルーブに乗って踊れる 自分なりの表現・魅せ方を構築できる 表現に合わせて重心・空間の使い方を変えられる 曲の構成を理解し、自分で構成分析できるようになる						
評価方法と基準	授業態度 50％ 試験 50％						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	前期の復習・応用課題の共有	
2		講義・演習	音ハメとリリカルムーブ①	前回の復習
3		講義・演習	コンビネーション④(複雑な構成)	前回の復習
4		講義・演習	感情表現トレーニング①	前回の復習
5		講義・演習	ステージング(向き・配置)	前回の復習
6		講義・演習	コンビネーション⑤(ジャンル融合)	前回の復習
7		講義・演習	リリカルムーブ②(歌詞との共鳴)	前回の復習
8		講義・演習	ソロムーブ演習①	前回の復習
9		講義・演習	ダイナミクスと間(緩急の演出)	前回の復習
10		講義・演習	コンビネーション⑥(構成本重視)	前回の復習
11		講義・演習	ソロムーブ演習②(即興要素)	前回の復習
12		講義・演習	グループ振付構成	前回の復習
13		講義・演習	総合まとめと動画撮影	前回の復習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	POP(3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	KYO-HEY
学科・専攻	メディア&テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	実務経験(Dance & Vocal) : WDC東北予選POP SIDE 優勝、アメリカNYC「BATTLE 101」 BEST 8、その他、優勝8回、□準優勝5回の経歴有り(2018 年9月 1st ALBUM CD「MUSEUM」リリース(iTunes Store・R&B/ソウル トップアルバム・日本・6位)2019 年ヴォーカルグループ「イエローソーダ」として東京、名古屋、京都、群馬の4都市ツアー開催□2021年6月 2ndアルバム□「Inside」リリース(iTunes Store・R&B/ソウル トップアルバム□□日本1位)2021 年10月 「Lovely Place」リリース(iTunes Store・R&B/ソウル トップアルバム・□□日本2位) □2022 年8月 NY Apollo Theater Amateur Night 出演 (2018 年4月～NSM,DA,TSM渋谷にてVocal&Dance講師を行なっている。)						
授業の学習 内容	①ダンサーとして必要な実戦に活かせるスキルを習得する。②ダンスの中でもストリートダンスの科目に関係し、昨今の海外アーティストMVやコレオグラフに必要なスキルを身につける。③POPPINというジャンルを通して体の使い方や仕組みを学んで欲しい。④各部位のHITの打ち分けから、グルーブ、スタイル、音の捉え方等を、基礎練やコレオグラフを通して向上させる。						
到達目標	ダンススキル強化を目的とする。 ソロで即興のムーブを行う事や、チームでのルーティンが作れるようになる。						
評価方法と基準	・課題成果「出席・授業態度」:40%・実技試験:60%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	POPのアイソレーションが出来る	次の講義までに復習を要する
2		演習	HITが打てるようになる(リスト、上腕三頭筋)	次の講義までに復習を要する
3		演習	フリーズノ、フリーズウォークが出来るようになる	次の講義までに復習を要する
4		演習	HITが打てるようになる(足)、体重移動意識	次の講義までに復習を要する
5		演習	ウォークアウトが出来るようになる	次の講義までに復習を要する
6		演習	HITが打てるようになる(首、ストマック)	次の講義までに復習を要する
7		演習	Boogalooを通じて引っ張り合いを習得する	次の講義までに復習を要する
8		演習	OLD MAN初級が出来るようになる	次の講義までに復習を要する
9		演習	OLD MAN中級が出来るようになる	次の講義までに復習を要する
10		演習	WAVE初級(左右腕)が出来るようになる	次の講義までに復習を要する
11		演習	サックウォークが出来るようになる	次の講義までに復習を要する
12		演習	試験	
13		演習	試験総括(改善点を知る)	
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			授業内容を復習し、次の授業へ臨むこと。	
【使用教科書・教材・参考書】				
iPad、スニーカー				

科目名	POP(4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	KYO-HEY
学科・専攻	メディア&テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	実務経験(Dance & Vocal) : WDC東北予選POP SIDE 優勝、アメリカNYC「BATTLE 101」 BEST 8、その他、優勝8回、□準優勝5回の経歴有り(2018 年9月 1st ALBUM CD「MUSEUM」リリース(iTunes Store・R&B/ソウル トップアルバム・日本・6位)2019 年ヴォーカルグループ「イエローソーダ」として東京、名古屋、京都、群馬の4都市ツアー開催□2021年6月 2ndアルバム「Inside」リリース(iTunes Store・R&B/ソウル トップアルバム□日本 1位)2021 年10月 「Lovely Place」リリース(iTunes Store・R&B/ソウル トップアルバム・□日本2位) □2022 年8月 NY Apollo Theater Amateur Night 出演(2018 年4月～NSM,DA,TSM渋谷にてVocal&Dance講師を行なっている。)						
授業の学習 内容	①ダンサーとして必要な実戦に活かせるスキルを習得する。②ダンスの中でもストリートダンスの科目に関係し、昨今の海外アーティストMVやコレオグラフに必要なスキルを身につける。③POPPINというジャンルを通して体の使い方や仕組みを学んで欲しい。④各部位のHITの打ち分けから、グルーヴ、スタイル、音の捉え方等を、基礎練やコレオグラフを通して向上させる。						
到達目標	ダンススキル強化を目的とする。 ソロで即興のムーブを行う事や、チームでのルーティンが作れるようになる。						
評価方法と基準	・課題成果「出席・授業態度」:40%・実技試験:60%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	HITが打てるようになる(胸)	次の講義までに復習を要する
2		演習	HITが打てるようになる(広背筋)	次の講義までに復習を要する
3		演習	Boogを通じて、即興でムーブ出来る	次の講義までに復習を要する
4		演習	WAVE中級(左右腕、Body)が出来るようになる	次の講義までに復習を要する
5		演習	POPを打つことが出来る、Rollをつなげることが出来る	次の講義までに復習を要する
6		演習	トイマンができるようになる	次の講義までに復習を要する
7		演習	STOP、ダイムSTOPを習得する	次の講義までに復習を要する
8		演習	Air Pose、スローモーションを習得する	次の講義までに復習を要する
9		演習	フレックスが出来る様になる	次の講義までに復習を要する
10		演習	タットが出来るようになる	次の講義までに復習を要する
11		演習	コブラ初級が出来るようになる	次の講義までに復習を要する
12		演習	試験	
13		演習	試験総括(改善点を知る)	
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			授業内容を復習し、次の授業へ臨むこと。	
【使用教科書・教材・参考書】				
iPad、スニーカー				

科目名	LOCK(3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	田中英輔
学科・専攻	メディア＆テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	アクション・スタントマンを経てテーマパークダンサー・アーティストのサポートダンサーなど						
授業の学習 内容	LOCKダンスの基礎ステップやリズム感、アイソレーションの技術を習得し、踊るための身体の使い方と音楽の乗り方を理解する。						
到達目標	LOCKダンスの基礎ステップ(Lock、Point、Wrist Rollなど)が正確にできる リズムキープとグルーヴを体感しながら踊れる 自分の身体をアイソレートし、動きにアクセントをつけられる 初級レベルの振付を音楽に合わせて踊れる						
評価方法と基準	平常点 50% 試験 50%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	オリエンテーション／LOCKとは	復習をしておくこと
2		講義・演習	リズムトレーニング①(ステップ踏み)	復習をしておくこと
3		講義・演習	アイソレーション①(首・肩・胸)	復習をしておくこと
4		講義・演習	Lock動作①(Lock基本フォーム)	復習をしておくこと
5		講義・演習	ステップ①	復習をしておくこと
6		講義・演習	ステップ②	復習をしておくこと
7		講義・演習	アイソレーション②(腰・足)	復習をしておくこと
8		講義・演習	グルーヴの理解(リズムトレーニング②)	復習をしておくこと
9		講義・演習	振付①(4×8基礎ルーティン)	復習をしておくこと
10		講義・演習	リズム応用／音どり	復習をしておくこと
11		講義・演習	振付②(8×8の構成)	復習をしておくこと
12		講義・演習	個別チェック・強化	復習をしておくこと
13		講義・演習	まとめと動画撮影	復習をしておくこと
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	LOCK(4)	必修 選択		年次	2	担当教員	田中英輔
学科・専攻	メディア＆テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態		総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	アクション・スタントマンを経てテーマパークダンサー・アーティストのサポートダンサーなど						
授業の学習 内容	LOCKダンスにおける応用ステップやコンビネーション、ソウル感・表現力を磨き、個人としての表現力・スキルの幅を広げる。						
到達目標	応用ステップを組み合わせた中級レベルの振付を踊れる 音楽の変化に応じたリズムやアクセントを自在に出せる ソロやフリースタイルに挑戦できる自信をつける ダンサーとしての「魅せる表現力」を意識できる						
評価方法と基準	平常点 50% 試験 50%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	前期の復習・応用への準備	復習をしておくこと
2		講義・演習	ステップ①	復習をしておくこと
3		講義・演習	ステップ②	復習をしておくこと
4		講義・演習	リズムチェンジ(速い／遅い)	復習をしておくこと
5		講義・演習	コンビネーション①(4×8)	復習をしておくこと
6		講義・演習	フットワーク強化	復習をしておくこと
7		講義・演習	振付	復習をしておくこと
8		講義・演習	ソウル感とグルーヴを深める	復習をしておくこと
9		講義・演習	音の取り方と遊び方	復習をしておくこと
10		講義・演習	振付④	復習をしておくこと
11		講義・演習	個別パフォーマンスチェック	復習をしておくこと
12		講義・演習	フリースタイル＋ルーティン構成練習	復習をしておくこと
13		講義・演習	総仕上げと発表形式の練習	復習をしておくこと
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	映像制作(3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	HYUUGA
学科・専攻	メディア&テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	映像制作歴6年。MVを中心に、アーティストの世界観を映像で表現することを得意とし、これまでに多数の作品を手がける。 ダンサーやパフォーマーとのコラボレーションにも積極的に取り組んでいる。 本授業では、ダンサーの表現の幅を広げるための映像演出・表現について実践的に指導する。						
授業の学習 内容	①ダンサーとしてのセルフプロデュースの幅を広げる ②映像を通して「自分を表現する」ということへの別角度からのアプローチを学ぶ ③一定水準の映像を作れることになることで生徒が持つクリエイティブの地力を底上げをする 映像を制作する上でのグループワークを学び、周りの人の協力を経て映像を作ることを学ぶ 映像制作においてのおおまかな全体流れを理解し、チームを能動的に動かしていく力を身につける						
到達目標	・グループワークの大切さ、仲間と一緒に制作することの重要性を学ぶ ・映像を作る編集技術を学びながら自主制作作品を1本以上仕上げる						
評価方法と基準	授業態度(出席率も含む)50% 筆記試験50%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	授業説明、映像を作るための全体の流れを知る_1	全体の流れを復習
2		講義・演習	映像を作るための全体の流れを知る_2	全体の流れを復習
3		講義・演習	チーム分け、プレスト_1	チーム内でのトークルーム等のコミュニケーション作成
4		講義・演習	プレスト_2、作品概要の決定	
5		講義・演習	企画書の作り方とデザイン、企画書作成	企画書のブラッシュアップ
6		講義・演習	企画書提出、日程調整、ロードマップ作成	ロードマップの見直し
7		講義・演習	香盤表の作り方、香盤表作成	香盤表の見直し
8		講義・演習	カメラの基礎知識(BMPCC4K・ iPhone)	カメラの基礎知識復習
9		講義・演習	撮影_1	
10		講義・演習	撮影_2(予備日)、編集	
11		講義・演習	編集	残作業
12		講義・演習	編集	残作業
13		講義・演習	最終調整、作品提出	
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			宿題等は基本作らず空き時間での復習をし、自主的に覚えるように努力すること口	
【使用教科書・教材・参考書】				
PC、Adobe Premiere Pro				

科目名	映像制作(4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	HYUUGA
学科・専攻	メディア&テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	映像制作歴6年。MVを中心に、アーティストの世界観を映像で表現することを得意とし、これまでに多数の作品を手がける。 ダンサーやパフォーマーとのコラボレーションにも積極的に取り組んでいる。 本授業では、ダンサーの表現の幅を広げるための映像演出・表現について実践的に指導する。						
授業の学習 内容	①ダンサーとしてのセルフプロデュースの幅を広げる ②映像を通して「自分を表現する」ということへの別角度からのアプローチを学ぶ ③一定水準の映像を作れることになることで生徒が持つクリエイティブの地力を底上げをする 個人ワークを主体として自分の作りたいものをより深く探求・実現していく Adobe After Effectsにも軽く触れ、ダイナミックリンクで可能性の幅を広げていく						
到達目標	・1人での映像制作を通して、セルフプロデュース力をつける ・自身のクリエイティブの向上と共に自主制作作品を1本以上仕上げる						
評価方法と基準	授業態度(出席率も含む)50% 筆記試験50%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	授業説明、インプット_1	作りたい作品の文章化
2		講義・演習	インプット_2、プレスト_1	作りたい作品の明確化
3		講義・演習	プレスト_2、企画書作成	企画書のブラッシュアップ
4		講義・演習	企画書提出、ロードマップ作成	ロードマップのブラッシュアップ
5		講義・演習	日程調整、人員調達・配置	協力してくれる人たちへの連絡
6		講義・演習	撮影準備	必要な物の買い出しや準備
7		講義・演習	撮影_1	データ移動
8		講義・演習	撮影_2(予備日)、編集	データ移動
9		講義・演習	編集	編集残作業
10		講義・演習	編集	編集残作業
11		講義・演習	編集	編集残作業
12		講義・演習	最終調整	編集残作業
13		講義・演習	作品提出、総評	
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			宿題等は基本作らず空き時間での復習をし、自主的に覚えるように努力すること	
【使用教科書・教材・参考書】				
PC、Adobe Premiere Pro、Adobe After Effect				

東京ダンス・俳優＆舞台芸術専門学校

科目名	コンテンポラリー(3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	能美健志
学科・専攻	メディア&テクノロジー科(屋間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	コンテンポラリーダンス教師・振付家・ダンサー						
授業の学習 内容	①正しい身体のアライメント、思考の使い方の向上。②理にかなっている動き(骨と筋肉の正しい連動)の習得。③論理的な考え方のもと、身体を動かす事でテーマパーク、ジャズダンス等に応用可能な身体を目指す。更にコンテンポラリーダンスの動きの質を高め、アカデミックでダイナミックな動き学ぶ。④振付構成法の講義を行う。						
到達目標	踊りがスムーズに動ける様になり、尚且つダイナミズムなダンスを目指し、論理的な思考を身につける事で動きの応用ができる事を習得する。振付構成法の講義を受講する事で論理的に振付を考え、他のダンスの振付にも対応できる様になる。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点。または、平常点にて採点。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	①成長する為の心構え、身体の骨とインナーマッスルの確認と応用。	1年次のレッスン内容の確認。
2		講義・演習	②腹筋群、内転筋群、つま先、MP関節等の理解。コンビネーションの理解。	①の授業復習(確認、理解)ストレッチする。
3		講義・演習	③フロアー・センターエクササイズのレベルアップと新ステップの理解。	②の授業復習(確認、理解)ストレッチする。
4		講義・演習	④新ステップとコンビネーションの反復。 ②～③の反復。	③の授業復習(確認、理解)ストレッチする。
5		講義・演習	⑤新ステップとコンビネーションの反復。 ②～④の反復。	④の授業復習(確認、理解)ストレッチする。
6		講義・演習	⑥新ステップとコンビネーションの反復。 ②～⑤の反復。	⑤の授業復習(確認、理解)ストレッチする。
7		講義・演習	⑦新ステップの反復。新コンビネーションの応用。②～⑥の反復。	⑥の授業復習(確認、理解)ストレッチする。
8		講義・演習	⑧新ステップの反復。新コンビネーションの応用①。②～⑦の反復。	⑦の授業復習(確認、理解)ストレッチする。
9		講義・演習	⑨新ステップの反復。新コンビネーションの応用②。②～⑧の反復。	⑧の授業復習(確認、理解)ストレッチする。
10		講義・演習	⑩新ステップの反復。新コンビネーションの応用③。②～⑨の反復。	⑨の授業復習(確認、理解)ストレッチする。
11		講義・演習	振付構成法の講義(構成法の基本①時間軸変化とスペースの意味)	筆記用具持参。復習、理解。
12		講義・演習	振付構成法の講義(構成法の基本②動画から構成を読み取り)	筆記用具持参。復習、理解。
13		講義・演習	実技試験	試験結果の反省と今後の対策。
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			授業内容を理解力、確認して自身のスキルアップを計画的に考えて復習。ストレッチ等反復をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				
レッスン着は身体ラインがハッキリ見える物。裸足or靴下。				

科目名	コンテンポラリー(4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	能美健志
学科・専攻	メディア&テクノロジー科(屋間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	コンテンポラリーダンス教師・振付家・ダンサー						
授業の学習 内容	①正しい身体のアライメント、思考の使い方の向上。②理にかなっている動き(骨と筋肉の正しい連動)の習得。③論理的な考えのもと、身体を動かす事でテーマパーク、ジャズダンス等に応用可能な身体を目指す。更にコンテンポラリーダンスの動きの質を高め、アカデミックでダイナミックな動き学ぶ。④メンタル講義を行う。						
到達目標	踊りがスムーズに動ける様になり、尚且つダイナミズムなダンスを目指し、論理的な思考を身につける事で動きの応用ができる事を習得する。メンタル講義を行う事でモチベーションの向上、精神面の安定を図る。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点。または、平常点にて採点。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	前期のレッスンの内容確認(各骨と筋肉部位、エクササイズ等)	前期レッスン内容の確認と反省。
2		講義・演習	①エクササイズのレベルアップの習得。新タステップ・コンビネーションの理解。	エクササイズ等の理解。ストレッチする。
3		講義・演習	②新タステップ・コンビネーションの理解。 ①の反復。	①の授業復習(確認、理解)ストレッチする。
4		講義・演習	③新タステップ・コンビネーションの反復。 ①～②の反復。	②の授業復習(確認、理解)ストレッチする。
5		講義・演習	④新タステップ・コンビネーションの反復。 ①～③の反復。	③の授業復習(確認、理解)ストレッチする。
6		講義・演習	⑤新タステップ・コンビネーションの反復。 ①～④の反復。	④の授業復習(確認、理解)ストレッチする。
7		講義・演習	⑥新タステップ・コンビネーションの応用。 ①～⑤の反復。	⑤の授業復習(確認、理解)ストレッチする。
8		講義・演習	⑦新タステップ・コンビネーションの応用。 ジャンプコンビ①～⑥の反復。	⑥の授業復習(確認、理解)ストレッチする。
9		講義・演習	⑧新タステップ・コンビネーションの応用。 ジャンプコンビ①～⑦の反復。	⑦の授業復習(確認、理解)ストレッチする。
10		講義・演習	⑨新タステップ・コンビネーションの応用。 ジャンプコンビ①～⑧の反復。	⑧の授業復習(確認、理解)ストレッチする。
11		講義・演習	実技試験	試験結果の反省と今後の対策。
12		講義・演習	メンタル講義(過去、現在、未来の考え方。今に生きる本当の意味)	筆記用具持参。復習、理解。
13		講義・演習	メンタル講義(人間関係の考え方。成長の本当の意味)	筆記用具持参。復習、理解。
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			授業内容を理解力、確認して自身のスキルアップを計画的に考えて復習。ストレッチ等反復をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				
レッスン着は身体ラインが見える物。裸足or靴下。				

科目名	テーマパークA(3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	南山光徳
学科・コース	メディア & テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)		
教員の略歴	幼稚園教員2級、テーマパークダンサー・ダンス講師						
授業の学習内容	テーマパークのパフォーマーに必要な基礎力、テクニックを身につけ、オーディション合格を目指す						
到達目標	(1)オーディション合格のために必要不可欠なテクニックを習得する。 (2)表情、見せ方など自らの表現が出来るようになる。						
評価方法と基準	実技テストによる採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	自己紹介でのアピール方法	自分の目標を確認する
2		講義・演習	ストレッチの仕方、筋肉のトレーニング方法	ストレッチ・筋トレ
3		講義・演習	基本のテクニック(ターンの方法1)	ストレッチ・筋トレ・今日の復習
4		講義・演習	基本のテクニック(ターンの方法2)	ストレッチ・筋トレ・今日の復習
5		講義・演習	基本のテクニック(シェネ・ピケターン1)	ストレッチ・筋トレ・今日の復習
6		講義・演習	基本のテクニック(シェネ・ピケターン2)	ストレッチ・筋トレ・今日の復習
7		講義・演習	基本のテクニック(ロンデジャンプ)	ストレッチ・筋トレ・ターンの練習・今日の復習
8		講義・演習	基本のテクニック(アチチュードターン)	ストレッチ・筋トレ・ターンの練習・今日の復習
9		講義・演習	基本のテクニック(パットマン)	ストレッチ・筋トレ・基本テクニック復習
10		講義・演習	習得したテクニックをクロスフロアで行う	ストレッチ・筋トレ・基本テクニック復習
11		講義・演習	8×2程度のコンビネーション	ストレッチ・筋トレ・基本テクニック復習
12		講義・演習	8×2程度のコンビネーション	内容は授業内で発表
13		講義・演習	8×4程度のコンビネーション	ストレッチ・筋トレ・基本テクニック復習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	テーマパークA(4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	南山光徳
学科・コース	メディア & テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)		
教員の略歴	幼稚園教員2級、テーマパークダンサー・ダンス講師						
授業の学習内容	テーマパークのパフォーマーに必要な基礎力、テクニックを身につけ、オーディション合格を目指す						
到達目標	(1)オーディション合格のために必要不可欠なテクニックを習得する。 (2)表情、見せ方など自らの表現が出来るようになる。						
評価方法と基準	実技テストによる採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	ターン3(ベアテ)の方法	ストレッチ・筋トレ・今日の復習
2		講義・演習	8×8のコンビネーションを覚える。①	ストレッチ・筋トレ・基本テクニック復習
3		講義・演習	前週のコンビネーションを踊る。②	ストレッチ・筋トレ・基本テクニック復習
4		講義・演習	表情など自己表現しながら踊る。③	ストレッチ・筋トレ・基本テクニック復習
5		講義・演習	8×8のコンビネーションを覚える。①	ストレッチ・筋トレ・基本テクニック復習
6		講義・演習	表情など自己表現しながら踊る。②	ストレッチ・筋トレ・基本テクニック復習
7		講義・演習	3人ほどの小グループに分けて踊る。③	ストレッチ・筋トレ・基本テクニック復習
8		講義・演習	8×8のコンビネーションを覚える。①	ストレッチ・筋トレ・基本テクニック復習
9		講義・演習	間違えずに自分の踊りにして踊る。②	ストレッチ・筋トレ・基本テクニック復習
10		講義・演習	3人ほどの小グループで自己アピールしながら踊る。③	ストレッチ・筋トレ・基本テクニック復習
11		講義・演習	8×8のコンビネーションを覚える。①	ストレッチ・筋トレ・基本テクニック復習
12		講義・演習	8×8のコンビネーションを覚える。②	ストレッチ・筋トレ・基本テクニック復習
13		講義・演習	試験(ビルエット・パットマン・コンビネーション)	試験での反省を踏まえて目標を確認する。
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

東京ダンス・俳優＆舞台芸術専門学校

科目名	テーマパーク B(3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	藤田沙知
学科・専攻	メディア & テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	小学2年生からクラシックバレエを始め、尚美ミュージックカレッジ専門学校ミュージカル学科にてジャズダンス、モダン、シアターダンスなどを学ぶ。卒業後、サンリオピューロランドにて5年間ダンサー・MCとして活動し、現在はミュージカル、ショーなどの舞台に出演している。パレトン®ソールシンセシスインストラクター資格所有。						
授業の学習 内容	基礎力をあげて自分の個性を生かした魅せ方で表現できるようになることを目指します。テーマパークのオーディションを受けるに当たって、第一印象で基礎が出来ていること、対応力があるかどうかことが重要となってきます。ダンスの基礎固め・身体作り、MC力を付けるための発声・実践、そして自己アピール力を強化するレッスンを行っていきます。						
到達目標	①安定感のあるダンスを目指し、必要な筋力をつける ②観客へ届く発声を身につける ③自分の個性を見つける ④個性をアピール出来る魅せ方を見つける ⑤様々な場面に对应出来る力を身につける□						
評価方法と基準	1)学習意欲50% 2)定期テストによる上達度50%〔達成の目安〕レッスンに意志を持って参加すること。貪欲に技術力・表現力の向上を目指し、確実な基礎力を持った上で大勢の人がいる中でも自分の個性をアピール出来るようになること。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	大きな動きに負けない体幹作り	基礎トレーニング法を学び反復練習
2		講義・演習	自分に合った発声を見つける	発声練習、ペア学習
3		講義・演習	MC台詞をよむ	台本を実際に読み込む
4		講義・演習	アームスの強化	基礎トレーニング
5		講義・演習	手先・足先・膝の強化	基礎トレーニング
6		講義・演習	新しい振付を覚える	ポイントを抑えて振付をすばやく覚える
7		講義・演習	曲中でのMC台詞の練習	決められた尺でセリフを話す練習
8		講義・演習	MCからダンスへつなげる	ダンスへ繋がるMC表現を学ぶ
9		講義・演習	ステップの流れを大切に踊る	スムーズな体重移動、ブリエを意識する
10		講義・演習	回転の強化①	ピルエットの練習
11		講義・演習	回転の強化②	ビケターン、シェネの練習
12		講義・演習	ダンスとMCパフォーマンスを作る	振付、MCセリフを覚える
13		講義・演習	ダンスとMCパフォーマンス発表	パフォーマンスとして完成させる
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	テーマパーク B(4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	藤田沙知
学科・専攻	メディア & テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	小学2年生からクラシックバレエを始め、尚美ミュージックカレッジ専門学校ミュージカル学科にてジャズダンス、モダン、シアターダンスなどを学ぶ。卒業後、サンリオピューロランドにて5年間ダンサー・MCとして活動し、現在はミュージカル、ショーなどの舞台に出演している。パレトン®ソールシンセシスインストラクター資格所有。						
授業の学習 内容	基礎力をあげて自分の個性を生かした魅せ方で表現できるようになることを目指します。テーマパークのオーディションを受けるに当たって、第一印象で基礎が出来ていること、対応力が有るかどうかが重要となってきます。ダンスの基礎固め・身体作り、MC力を付けるための発声・実践、そして自己アピール力を強化するレッスンを行っていきます。						
到達目標	①安定感のあるダンスを目指し、必要な筋力をつける ②観客へ届く発声を身につける ③自分の個性を見つける ④個性をアピール出来る魅せ方を見つける ⑤様々な場面に対応出来る力を身につける□						
評価方法と基準	1)学習意欲50% 2)定期テストによる上達度50%〔達成の目安〕レッスンに意志を持って参加すること。貪欲に技術力・表現力の向上を目指し、確実な基礎力を持った上で大勢の人がいる中でも自分の個性をアピール出来るようになること。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	大きな動きに負けない体幹作り	基礎トレーニング法を学び反復練習
2		講義・演習	自分に合った発声を見つける	発声練習、ペア学習
3		講義・演習	MC台詞をよむ	台本を実際に読み込む
4		講義・演習	アームスの強化	基礎トレーニング
5		講義・演習	手先・足先・膝の強化	基礎トレーニング
6		講義・演習	新しい振付を覚える	ポイントを抑えて振付をすばやく覚える
7		講義・演習	曲中でのMC台詞の練習	決められた尺でセリフを話す練習
8		講義・演習	MCからダンスへつなげる	ダンスへ繋がるMC表現を学ぶ
9		講義・演習	ステップの流れを大切に踊る	スムーズな体重移動、プリエを意識する
10		講義・演習	回転の強化①	ビルエットの練習
11		講義・演習	回転の強化②	ビケターン、シェネの練習
12		講義・演習	ダンスとMCパフォーマンスを作る	振付、MCセリフを覚える
13		講義・演習	ダンスとMCパフォーマンス発表	パフォーマンスとして完成させる
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	テーマパークC(3)	必修 選択	年次	2	担当教員	柳原華奈
学科・専攻	メディア&テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	東京ディズニーリゾート・サンリオピューロランド					
授業の学習 内容	オーディションに向けて、ダンスの技術・表現を質良く高めるテーマ。 パークダンサーに求められる立居振舞を磨き、求められる人材に近づけるよう学ぶ。					
到達目標	指摘された動きをすぐに改善出来る技術力をつける。自分の目標を自分でたてられるよう視野を広く持つ。					
評価方法と基準	平常点(出席率・授業態度)…50% テスト成績…50%					

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	振付①	
2		講義・演習	振付①	前回の復習
3		講義・演習	振付①	前回の復習
4		講義・演習	振付②	前回の復習
5		講義・演習	振付②	前回の復習
6		講義・演習	振付②	前回の復習
7		講義・演習	振付③	前回の復習
8		講義・演習	振付③	前回の復習
9		講義・演習	振付③	前回の復習
10		講義・演習	振付④	前回の復習
11		講義・演習	テスト振り	前回の復習
12		講義・演習	テスト振り	前回の復習
13		講義・演習	テスト	
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	テーマパークC(4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	柳原華奈
学科・専攻	メディア&テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	東京ディズニーリゾート・サンリオピューロランド						
授業の学習 内容	オーディションに向けて、ダンスの技術・表現を質良く高めるテーマ。 パークダンサーに求められる立居振舞を磨き、求められる人材に近づけるよう学ぶ。						
到達目標	指摘された動きをすぐに改善出来る技術力をつける。自分の目標を自分でたてられるよう視野を広く持つ。						
評価方法と基準	平常点(出席率・授業態度)…50% テスト成績…50%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	振付①	
2		講義・演習	振付①	前回の復習
3		講義・演習	振付①	前回の復習
4		講義・演習	振付②	前回の復習
5		講義・演習	振付②	前回の復習
6		講義・演習	振付②	前回の復習
7		講義・演習	振付③	前回の復習
8		講義・演習	振付③	前回の復習
9		講義・演習	振付③	前回の復習
10		講義・演習	振付④	前回の復習
11		講義・演習	テスト振り	前回の復習
12		講義・演習	テスト振り	前回の復習
13		講義・演習	テスト	
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	テーマパークA(3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	南山光徳
学科・コース	メディア & テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)		
教員の略歴	幼稚園教員2級、テーマパークダンサー・ダンス講師						
授業の学習内容	テーマパークのパフォーマーに必要な基礎力、テクニックを身につけ、オーディション合格を目指す						
到達目標	(1)オーディション合格のために必要不可欠なテクニックを習得する。 (2)表情、見せ方など自らの表現が出来るようになる。						
評価方法と基準	実技テストによる採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	自己紹介でのアピール方法	自分の目標を確認する
2		講義・演習	ストレッチの仕方、筋肉のトレーニング方法	ストレッチ・筋トレ
3		講義・演習	基本のテクニック(ターンの方法1)	ストレッチ・筋トレ・今日の復習
4		講義・演習	基本のテクニック(ターンの方法2)	ストレッチ・筋トレ・今日の復習
5		講義・演習	基本のテクニック(シェネ・ピケターン1)	ストレッチ・筋トレ・今日の復習
6		講義・演習	基本のテクニック(シェネ・ピケターン2)	ストレッチ・筋トレ・今日の復習
7		講義・演習	基本のテクニック(ロンデジャンプ)	ストレッチ・筋トレ・ターンの練習・今日の復習
8		講義・演習	基本のテクニック(アチチュードターン)	ストレッチ・筋トレ・ターンの練習・今日の復習
9		講義・演習	基本のテクニック(バットマン)	ストレッチ・筋トレ・基本テクニック復習
10		講義・演習	習得したテクニックをクロスフロアで行う	ストレッチ・筋トレ・基本テクニック復習
11		講義・演習	8×2程度のコンビネーション	ストレッチ・筋トレ・基本テクニック復習
12		講義・演習	8×2程度のコンビネーション	内容は授業内で発表
13		講義・演習	8×4程度のコンビネーション	ストレッチ・筋トレ・基本テクニック復習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	テーマパークA(3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	南山光徳
		授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)		
学科・コース	メディア & テクノロジー科(昼間部二)						
教員の略歴	幼稚園教員2級、テーマパークダンサー・ダンス講師						
授業の学習内容	テーマパークのパフォーマーに必要な基礎力、テクニックを身につけ、オーディション合格を目指す						
到達目標	(1)オーディション合格のために必要不可欠なテクニックを習得する。 (2)表情、見せ方など自らの表現が出来るようになる。						
評価方法と基準	実技テストによる採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	自己紹介でのアピール方法	自分の目標を確認する
2		講義・演習	ストレッチの仕方、筋肉のトレーニング方法	ストレッチ・筋トレ
3		講義・演習	基本のテクニック(ターンの方法1)	ストレッチ・筋トレ・今日の復習
4		講義・演習	基本のテクニック(ターンの方法2)	ストレッチ・筋トレ・今日の復習
5		講義・演習	基本のテクニック(シェネ・ピケターン1)	ストレッチ・筋トレ・今日の復習
6		講義・演習	基本のテクニック(シェネ・ピケターン2)	ストレッチ・筋トレ・今日の復習
7		講義・演習	基本のテクニック(ロンデジャンプ)	ストレッチ・筋トレ・ターンの練習・今日の復習
8		講義・演習	基本のテクニック(アチチュードターン)	ストレッチ・筋トレ・ターンの練習・今日の復習
9		講義・演習	基本のテクニック(バットマン)	ストレッチ・筋トレ・基本テクニック復習
10		講義・演習	習得したテクニックをクロスフロアで行う	ストレッチ・筋トレ・基本テクニック復習
11		講義・演習	8×2程度のコンビネーション	ストレッチ・筋トレ・基本テクニック復習
12		講義・演習	8×2程度のコンビネーション	内容は授業内で発表
13		講義・演習	8×4程度のコンビネーション	ストレッチ・筋トレ・基本テクニック復習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	ヴォイストレーニング A(3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	細井康行
		授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2単位)		
学科・コース	メディア&テクノロジー科(昼間部二)						
教員の略歴	東京音楽大学研究科オペラコース卒 滋慶学園勤務19年 ヴォイストレーナー歴31年						
授業の学習 内容	1.歌う為に必要不可欠な身体の仕組みと呼吸を学ぶ為 2.ダンスと歌唱は身体表現が密接に関係しており双方にメリットがある 3.この授業を通して歌っておどってもブレない疲れにくい身体と呼吸を作り上げて行って欲しい 4.オリジナルの基本姿勢と呼吸法と発声法を細かく1人1人のコンディションに合わせて展開して行く 5.オーディションやステージ上でも揺るがないメンタルを構築する						
到達目標	1.オリジナルの体幹理論により姿勢、呼吸、発声法を矯正し、よりクオリティの高いパフォーマンスが可能となる 2.Dance&singに必要な呼吸法と発声法を学ぶ事により更にハイスベックな歌唱力が手に入れる事ができる 3.最終的にDance&singでブレない発声法とつかれない身体とキレのあるDanceパフォーマンスが可能になる 4.メンタルを鍛える事によりブレないパフォーマンスが期待できる 5.学生それぞれに適したマイキングを学び、よりクオリティの高い歌唱へと導く 6.Dance&Singでしか習得できないパフォーマンスの精度を上げる						
評価方法と基準	1.授業の出席率と日々の授業態度 50% 2.歌唱&パフォーマンステスト30% 3.礼儀 * 機材セッティング等の協力体制20%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	ヴォイストレーニング及びオリジナル体幹理論による呼吸法・姿勢	講師サイドでオリジナル教材準備、配布
2		講義・演習	現時点での音域チェック及び曲選定	音域チェックシート及び音源準備
3		講義・演習	歌唱に寄る個人の声のチェック	コメントシート準備
4		講義・演習	前週の歌唱を細かく矯正	コメントシート記入
5		講義・演習	マイキング(Dance無し)	iPad撮影
6		講義・演習	マイキング(Danceあり)	iPad撮影
7		講義・演習	ダンスをしながらマイキング矯正	コメントシート記入&iPad撮影
8		講義・演習	ダンスをしながらマイキング矯正	コメントシート記入&iPad撮影
9		講義・演習	表情筋と歌唱を繋げる	ミラーチェック
10		講義・演習	表情筋と歌唱とダンスの融合	ミラーチェック及びipad撮影
11		講義・演習	テスト前の呼吸法と体幹理論と発声のチェック	ミラーチェック及びipad撮影
12		講義・演習	前期中間Dance&Singテスト	コメントシート記入&iPad撮影
13		講義・演習	前期中間Dance&Singテスト	コメントシート記入&iPad撮影
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			歌唱する曲の音源と手書きの歌詞カード及び音源準備	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	ヴォイストレーニング A(4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	細井康行
学科・コース	メディア & テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2単位)		
教員の略歴	東京音楽大学研究科オペラコース卒 滋慶学園勤務19年 ヴォイストレーナー歴31年						
授業の学習 内容	1.歌う為に必要不可欠な身体の仕組みと呼吸を学ぶ為 2.ダンスと歌唱は身体表現が密接に関係しており双方にメリットがある 3.この授業を通して歌っておどってもブレない疲れにくい身体と呼吸を作り上げて行って欲しい 4.オリジナルの基本姿勢と呼吸法と発声法を細かく1人1人のコンディションに合わせて展開して行く 5.オーディションやステージ上でも揺るがないメンタルを構築する						
到達目標	1.オリジナルの体幹理論により姿勢、呼吸、発声法を矯正し、よりクオリティの高いパフォーマンスが可能となる 2.Dance&singに必要な呼吸法と発声法を学ぶ事により更にハイスベックな歌唱力が手に入れる事ができる 3.最終的にDance&singでブレない発声法とつかれない身体とキレのあるDanceパフォーマンスが可能になる 4.メンタルを鍛える事によりブレないパフォーマンスが期待できる 5.学生それぞれに適したマイキングを学び、よりクオリティの高い歌唱へと導く 6.Dance&Singでしか習得できないパフォーマンスの精度を上げる						
評価方法と基準	1.授業の出席率と日々の授業態度 50% 2.歌唱&パフォーマンステスト30% 3.礼儀 * 機材セッティング等の協力体制20%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	ヴォイストレーニング及びオリジナル体幹理論による呼吸法・姿勢	講師サイドでオリジナル教材準備、配布
2		講義・演習	現時点での音域チェック及び曲選定	音域チェックシート及び音源準備
3		講義・演習	歌唱に寄る個人の声のチェック	コメントシート準備
4		講義・演習	前週の歌唱を細かく矯正	コメントシート記入
5		講義・演習	マイキング(Dance無し)	iPad撮影
6		講義・演習	マイキング(Danceあり)	iPad撮影
7		講義・演習	ダンスをしながらマイキング矯正	コメントシート記入&iPad撮影
8		講義・演習	ダンスをしながらマイキング矯正	コメントシート記入&iPad撮影
9		講義・演習	表情筋と歌唱を繋げる	ミラーチェック
10		講義・演習	表情筋と歌唱とダンスの融合	ミラーチェック及びipad撮影
11		講義・演習	テスト前の呼吸法と体幹理論と発声のチェック	ミラーチェック及びipad撮影
12		講義・演習	前期中間Dance&Singテスト	コメントシート記入&iPad撮影
13		講義・演習	前期中間Dance&Singテスト	コメントシート記入&iPad撮影
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			歌唱する曲の音源と手書きの歌詞カード及び音源準備	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	ヴォイストレーニングB(3)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	KYO-HEY
		授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
学科・専攻	メディア & テクノロジー科(昼間部二)						
教員の略歴	*実務経験(Dance & Vocal) : WDC東北予選POP SIDE 優勝、アメリカNYC「BATTLE 101」 BEST 8、その他、優勝8回、 準優勝5回の経歴有り 2018年9月 1st ALBUM CD「MUSEUM」リリース(iTunes Store・R&B/ソウル トップアルバム・日本・6位) 2019年 ヴォーカルグループ「イエローソーダ」として東京、名古屋、京都、群馬の4都市ツアー開催 2021年6月 2ndアルバム「Inside」リリース(iTunes Store・R&B/ソウル トップアルバム・日本1位) 2021年10月 「Lovely Place」リリース(iTunes Store・R&B/ソウル トップアルバム・日本2位) 2022年8月 NY Apollo Theater Amateur Night 出演 (2018年4月～NSM,DA,TSM渋谷にて Vocal&Dance講師を行なっている。)						
授業の学習 内容	①ヴォーカリストとして必要な実戦に活かせる知識を習得する。 ②自らスキル向上、調整を行えるようにアーティストマインドも含め習得する。						
到達目標	ステージパフォーマンス強化を目的とする。 ダンスにヴォーカルを融合させた場合のステージングスキル、 ヴォーカルスキル、ダンススキル、セルフプロデュース力を向上させる。						
評価方法と基準	・課題成果「出席・授業態度」:40%・実技試験:60%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	個人目標設定を行う	
2		演習	横隔膜を意識した腹式呼吸が出来るようになる	次の講義までに復習を要する
3		演習	ボディマップを正確に理解する	次の講義までに復習を要する
4		演習	筋感覚を意識することで包括的認識力を知る	次の講義までに復習を要する
5		演習	歌唱時の正しい口の形を知る	次の講義までに復習を要する
6		演習	正しい口の形を意識した歌唱が出来る	次の講義までに復習を要する
7		演習	共鳴(頭部)について理解する	次の講義までに復習を要する
8		演習	歌唱前のストレッチから正しい体の使い方のアプローチ	次の講義までに復習を要する
9		演習	AO関節のバランスを取れるようになる(首の無駄な緊張)	次の講義までに復習を要する
10		演習	腰椎と胸郭のバランス、股関節のバランスを理解する	次の講義までに復習を要する
11		演習	ブレスとリズムの関係性を知る	次の講義までに復習を要する
12		演習	試験	
13		演習	試験総括(改善点を知る)	
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			・パフォーマンスをする楽曲は歌詞を暗記して来ること ・歌詞をノートに書いて持って来ること	
【使用教科書・教材・参考書】				
iPad(カラオケ音源)、マイク、キーボード				

科目名	ヴォイストレーニングB(4)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	KYO-HEY
学科・専攻	メディア&テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	＊実務経験(Dance & Vocal) : WDC東北予選POP SIDE 優勝、アメリカNYC「BATTLE 101」 BEST 8、その他、優勝8回、 準優勝5回の経歴有り 2018年9月 1st ALBUM CD「MUSEUM」リリース(iTunes Store・R&B/ソウル トップアルバム・日本・6位) 2019年 ヴォーカルグループ「イエローソーダ」として東京、名古屋、京都、群馬の4都市ツアー開催 2021年6月 2ndアルバム「Inside」リリース(iTunes Store・R&B/ソウル トップアルバム)日本 1位 2021年10月 「Lovely Place」リリース(iTunes Store・R&B/ソウル トップアルバム)日本2位) 2022年8月 NY Apollo Theater Amateur Night 出演 (2018年4月～NSM,DA,TSM渋谷にて Vocal&Dance講師を行なっている。)						
授業の学習 内容	①ヴォーカリストとして必要な実戦に活かせる知識を習得する。 ②自らスキル向上、調整を行えるようにアーティストマインドも含め習得する。						
到達目標	ステージパフォーマンス強化を目的とする。 ダンスにヴォーカルを融合させた場合のステージングスキル、 ヴォーカルスキル、ダンススキル、セルフプロデュース力を向上させる。						
評価方法と基準	・課題成果「出席・授業態度」:40%・実技試験:60%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	共鳴の仕組み、効果を知る	次の講義までに復習を要する
2		演習	鼻腔共鳴が出来るようになる	次の講義までに復習を要する
3		演習	頭部共鳴(ヘッドボイス)が出来るようになる	次の講義までに復習を要する
4		演習	母音歌唱を通してメロディのコード感を理解する	次の講義までに復習を要する
5		演習	膝関節と足関節のバランスと体重が伝わる道筋を理解する	次の講義までに復習を要する
6		演習	腕構造を理解しプレスを改善することで豊かな表現力を得る	次の講義までに復習を要する
7		演習	胸部共鳴が出来るようになる	次の講義までに復習を要する
8		演習	ビブラートの仕組み、練習法を知る	次の講義までに復習を要する
9		演習	ビブラートが出来るようになる	次の講義までに復習を要する
10		演習	リズムを意識したビブラートを出来るようになる	次の講義までに復習を要する
11		演習	フェイクの仕組み、練習法を知る	次の講義までに復習を要する
12		演習	試験	
13		演習	試験総括(改善点を知る)	
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			・パフォーマンスをする楽曲は歌詞を暗記して来ること ・歌詞をノートに書いて持って来ること	
【使用教科書・教材・参考書】				
iPad(カラオケ音源)、マイク、キーボード				

科目名	ヴォイストレーニングC(3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	鮎川麻弥
学科・専攻	メディア＆テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	1984年にアニメ『重戦機エルガイム』主題歌でデビュー以降、『機動戦士Zガンダム』など多数のアニメ主題歌やCMソングを手がけ、20枚以上のアルバムをリリース。透明感と温かみのある声質で200本以上のCMソングを歌唱し、国内外のアニソン公演にも積極的に参加。2019年にはデビュー35周年記念アルバムとツアーを実施し、ガンダムソングの実力派ディーヴァとしても注目を集める。現在はアーティスト活動と並行し、洗足学園音楽大学などでボーカル講師を務める。						
授業の学習 内容	「体感・腹筋・姿勢・呼吸法・発声・滑舌」などの基礎レッスン。課題曲の歌唱及びレクチャー。アーティストとして、またはキャラを作りながらの「発声・音程・リズム・表現・歌唱テクニック」など、あらゆる角度から指導する。個々の理想を大切にしながら、目標に則した歌唱レッスンを行う。						
到達目標	ボーカルの大切な基礎を反復練習することにより「歌う声」とは何か？を理解できるようになる。 「歌える声と体」及び「声優アーティストとしてのメンタル」を持てるようになる。 「趣味としての歌」から「仕事としての歌」へシフトできるようになる。						
評価方法と基準	平常点(出席率・授業態度) 50% 歌唱テスト 50%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	ガイダンス、課題曲ディスカッション、ボイトレ基礎	決まった課題曲の歌詞の準備 歌唱ができるように練習
2		演習	ボイトレ基礎～課題曲、歌唱レッスン 短所長所を見極めながら歌唱指導	もらったアドバイスの対しての練習
3		演習	ボイトレ基礎～課題曲、歌唱レッスン 短所長所を見極めながら歌唱指導	もらったアドバイスの対しての練習
4		演習	ボイトレ基礎～課題曲、歌唱レッスン 短所長所を見極めながら歌唱指導	もらったアドバイスの対しての練習
5		演習	ボイトレ基礎～課題曲、歌唱レッスン 短所長所を見極めながら歌唱指導	もらったアドバイスの対しての練習
6		演習	ボイトレ基礎～課題曲、歌唱レッスン 個性を伸ばし、表現力を中心とした歌唱指導	もらったアドバイスの対しての練習
7		演習	ボイトレ基礎～課題曲、歌唱レッスン 個性を伸ばし、表現力を中心とした歌唱指導	もらったアドバイスの対しての練習
8		演習	ボイトレ基礎～課題曲、歌唱レッスン 個性を伸ばし、表現力を中心とした歌唱指導	もらったアドバイスの対しての練習 表現をすることを考える
9		演習	ボイトレ基礎～課題曲、歌唱レッスン 音程・リズム・表現・ステージングを総合的に習熟度をチェックしながら完成を目指す	もらったアドバイスの対しての練習 表現をすることを考える
10		演習	ボイトレ基礎～課題曲、歌唱レッスン 音程・リズム・表現・ステージングを総合的に習熟度をチェックしながら完成を目指す	もらったアドバイスの対しての練習 表現をすることを考える
11		演習	ボイトレ基礎～課題曲、歌唱レッスン 音程・リズム・表現・ステージングを総合的に習熟度をチェックしながら完成を目指す	もらったアドバイスの対しての練習 表現をすることを考える
12		演習	ボイトレ基礎～課題曲、歌唱レッスン 音程・リズム・表現・ステージングを総合的に習熟度をチェックしながら完成を目指す	もらったアドバイスの対しての練習 表現をすることを考える
13		演習	歌唱テスト 発声・音程・リズム・表現	後期に向けた、歌唱への課題を見つける
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
課題曲は最初の授業でディスカッション選曲。次週その曲の歌詞を各自2部プリントアウトして持参。服装は稽古着。持ち物は筆記用具と飲み物。				

東京ダンス・俳優&舞台芸術専門学校

科目名	ヴォイストレーニングC(3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	鮎川麻弥
		授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
学科・専攻	メディア＆テクノロジー科(昼間部二)						
教員の略歴	1984年にアニメ『重戦機エルガイム』主題歌でデビュー以降、『機動戦士Zガンダム』など多数のアニメ主題歌やCMソングを手がけ、20枚以上のアルバムをリリース。透明感と温かみのある声質で200本以上のCMソングを歌唱し、国内外のアニソン公演にも積極的に参加。2019年にはデビュー35周年記念アルバムとツアーを実施し、ガンダムソングの実力派ディーヴァとしても注目を集める。現在はアーティスト活動と並行し、洗足学園音楽大学などでボーカル講師を務める。						
授業の学習 内容	「体感・腹筋・姿勢・呼吸法・発声・滑舌」などの基礎レッスン。課題曲の歌唱及びレクチャー。アーティストとして、またはキャラを作りながらの「発声・音程・リズム・表現・歌唱テクニック」など、あらゆる角度から指導する。個々の理想を大切にしながら、目標に則した歌唱レッスンを行う。						
到達目標	ボーカルの大切な基礎を反復練習することにより「歌う声」とは何か？を理解できるようになる。 「歌える声と体」及び「声優アーティストとしてのメンタル」を持てるようになる。 「趣味としての歌」から「仕事としての歌」へシフトできるようになる。						
評価方法と基準	平常点(出席率・授業態度) 50% 歌唱テスト 50%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	ガイダンス、課題曲ディスカッション、ボイトレ基礎	決まった課題曲の歌詞の準備 歌唱ができるように練習
2		演習	ボイトレ基礎～課題曲、歌唱レッスン 短所長所を見極めながら歌唱指導	もらったアドバイスの対しての練習
3		演習	ボイトレ基礎～課題曲、歌唱レッスン 短所長所を見極めながら歌唱指導	もらったアドバイスの対しての練習
4		演習	ボイトレ基礎～課題曲、歌唱レッスン 短所長所を見極めながら歌唱指導	もらったアドバイスの対しての練習
5		演習	ボイトレ基礎～課題曲、歌唱レッスン 短所長所を見極めながら歌唱指導	もらったアドバイスの対しての練習
6		演習	ボイトレ基礎～課題曲、歌唱レッスン 個性を伸ばし、表現力を中心とした歌唱指導	もらったアドバイスの対しての練習
7		演習	ボイトレ基礎～課題曲、歌唱レッスン 個性を伸ばし、表現力を中心とした歌唱指導	もらったアドバイスの対しての練習
8		演習	ボイトレ基礎～課題曲、歌唱レッスン 個性を伸ばし、表現力を中心とした歌唱指導	もらったアドバイスの対しての練習 表現をすることを考える
9		演習	ボイトレ基礎～課題曲、歌唱レッスン 音程・リズム・表現・ステージングを総合的に習熟度をチェックしながら完成を目指す	もらったアドバイスの対しての練習 表現をすることを考える
10		演習	ボイトレ基礎～課題曲、歌唱レッスン 音程・リズム・表現・ステージングを総合的に習熟度をチェックしながら完成を目指す	もらったアドバイスの対しての練習 表現をすることを考える
11		演習	ボイトレ基礎～課題曲、歌唱レッスン 音程・リズム・表現・ステージングを総合的に習熟度をチェックしながら完成を目指す	もらったアドバイスの対しての練習 表現をすることを考える
12		演習	ボイトレ基礎～課題曲、歌唱レッスン 音程・リズム・表現・ステージングを総合的に習熟度をチェックしながら完成を目指す	もらったアドバイスの対しての練習 表現をすることを考える
13		演習	歌唱テスト 発声・音程・リズム・表現	後期に向けた、歌唱への課題を見つける
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
課題曲は最初の授業でディスカッション選曲。次週その曲の歌詞を各自2部プリントアウトして持参。服装は稽古着。持ち物は筆記用具と飲み物。				

東京ダンス・俳優・舞台芸術専門学校

科目名	ヴォイストレーニングD(3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	塚脇千賀子
学科・専攻	メディア＆テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	ミュージカル『コンチェルト』『ねこはる』『ロイヤルホストクラブ』に出演。都内各所でライブなどを行うなど精力的に活動し、現在、大手テーマパークでシンガーとして活躍をしている。						
授業の学習 内容	本授業では、発声・呼吸・共鳴・滑舌といったヴォーカルの基礎技術から、実践的なステージ対応、表現力の向上までを総合的に学びます。 ミュージカルやライブ、テーマパークなど、舞台上で求められる「伝える力」「聴かせる技術」を身につけることを目的とし、個々の声の可能性を最大限に引き出します。						
到達目標	本授業を通して、学生は以下の能力を身につけることを目標とします。 発声の基礎力の習得 ・腹式呼吸、共鳴、支えなど、発声の基本技術を理解し、安定した声で歌唱・発話ができるようになる。 明瞭で通る声の習得 ・滑舌や表情筋のトレーニングを通じて、明瞭でよく通る発声ができるようになる。 表現力の向上 ・声に感情を乗せる技術を学び、歌詞や台詞の意味を理解した上で、伝える力を高める。						
評価方法と基準	平常点(出席率・授業態度) 50% テスト 50%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	オリエンテーション・声の仕組み	
2		講義・演習	呼吸トレーニング基礎	前回の復習をしておくこと
3		講義・演習	発声の基礎①:響きを探る	前回の復習をしておくこと
4		講義・演習	発声の基礎②:明瞭な発音と滑舌	前回の復習をしておくこと
5		講義・演習	音域・支えのトレーニング	前回の復習をしておくこと
6		講義・演習	表現力①:感情を声に乗せる	前回の復習をしておくこと
7		講義・演習	表現力②:短い台詞や歌詞を使って感情表現	前回の復習をしておくこと
8		講義・演習	実践①:課題曲の歌唱と解釈	前回の復習をしておくこと
9		講義・演習	実践②:パフォーマンス要素を加える	前回の復習をしておくこと
10		講義・演習	アンサンブル・ハーモニー練習	前回の復習をしておくこと
11		講義・演習	マイクワークとステージ対応	前回の復習をしておくこと
12		講義・演習	発表リハーサル・個別アドバイス	前回の復習をしておくこと
13		講義・演習	最終発表・講評	
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	ヴォイストレーニングD(3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	塚脇千賀子
学科・専攻	メディア & テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	ミュージカル『コンチェルト』『ねこはしる』『ロイヤルホストクラブ』に出演。都内各所でライブなどを行うなど精力的に活動し、現在、大手テーマパークでシンガーとして活躍をしている。						
授業の学習 内容	本授業では、発声・呼吸・共鳴・滑舌といったヴォーカルの基礎技術から、実践的なステージ対応、表現力の向上までを総合的に学びます。 ミュージカルやライブ、テーマパークなど、舞台上で求められる「伝える力」「聴かせる技術」を身につけることを目的とし、個々の声の可能性を最大限に引き出します。						
到達目標	本授業を通して、学生は以下の能力を身につけることを目標とします。 発声の基礎力の習得 ・腹式呼吸、共鳴、支えなど、発声の基本技術を理解し、安定した声で歌唱・発話ができるようになる。 明瞭で通る声の習得 ・滑舌や表情筋のトレーニングを通じて、明瞭でよく通る発声ができるようになる。 表現力の向上 ・声に感情を乗せる技術を学び、歌詞や台詞の意味を理解した上で、伝える力を高める。						
評価方法と基準	平常点(出席率・授業態度) 50% テスト 50%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	オリエンテーション・声の仕組み	
2		講義・演習	呼吸トレーニング基礎	前回の復習をしておくこと
3		講義・演習	発声の基礎①:響きを探る	前回の復習をしておくこと
4		講義・演習	発声の基礎②:明瞭な発音と滑舌	前回の復習をしておくこと
5		講義・演習	音域・支えのトレーニング	前回の復習をしておくこと
6		講義・演習	表現力①:感情を声に乗せる	前回の復習をしておくこと
7		講義・演習	表現力②:短い台詞や歌詞を使って感情表現	前回の復習をしておくこと
8		講義・演習	実践①:課題曲の歌唱と解釈	前回の復習をしておくこと
9		講義・演習	実践②:パフォーマンス要素を加える	前回の復習をしておくこと
10		講義・演習	アンサンブル・ハーモニー練習	前回の復習をしておくこと
11		講義・演習	マイクワークとステージ対応	前回の復習をしておくこと
12		講義・演習	発表リハーサル・個別アドバイス	前回の復習をしておくこと
13		講義・演習	最終発表・講評	
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Heels(3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	関根アヤノ
学科・専攻	メディア & テクノロジー科(屋間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	振付師/演出家 LiSA 専属振付師2014～ プレイヤー/ 安室奈美恵、木村拓哉、SMAP、ケツメイシ、JUJUなどその他etc、、						
授業の学習 内容	■ 三大ダンス教育目標 (1) 基礎ダンス力の向上 (2) 自分の魅せ方 & 表現方法についての自身研究 (3) 現場対応能力 & コミュニケーション能力の向上						
到達目標	・去年との自分と比較してどのくらい変化があったのか実感できたか ・普段の授業でもしっかりとした受け答え、コミュニケーションを取れるようになる。(現場に生かす) ・現場では女子振りやJAZZはマストになるので唯一無二の存在感やオーラ、魅せ方を取得						
評価方法と基準	・定期テスト60% ・出席数20% ・授業に向き合う姿勢 20%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義、演習	基礎トレーニング / 振付指導	まずは各々身体能力チェック
2		講義、演習	体幹トレーニング / 振付指導	自身の体の弱い部分を体幹で補う
3		講義、演習	自身の可動範囲チェック/ 振付指導	現時点で自分に何が足りないのか？自分自身のキャパシティを認識する
4		講義、演習	振付けメイン	振付及復練習(最近観ていて多いのが、1人で練習&確認する事が苦手な子を見かけるので、練習の仕方&集中力の維持な仕方を学ぶ)
5		講義、演習	少人数に分けて踊る	・ (1) 1人でも負けないメンタルを鍛える
6		講義、演習	魅せ方研究 / 振付指導	ゆっくりと時間を掛けて向き合う
7		講義、演習	細かく時間を掛けて振付指導(魅せ方メイン)	反復練習 &とにかく自分の一番良い表現方法を探す
8		講義、演習	振付の中にFreestyleも入れて課題を提示	対応能力向上の為
9		講義、演習	少人数に分けて踊る(出来る子はソロ)	(2) 撮影も兼ね、時間を掛けた結果自分がどこまで出来たのか試す
10		講義、演習	対応能力を鍛えるため、振り渡しを長く早く入れる	脳内トレーニング
11		講義、演習	更に脳内容量を増やす為に、2週目も振付けを沢山渡す	現場対応能力を向上させる為のトレーニング
12		講義、演習	長い楽曲＋構成を各自付けていくトレーニング	構成能力&コミュニケーション能力向上。 人に与えられたモノをこなすのではなく自分たちで生み出す能力を鍛える
13		講義、演習	少人数に分けて踊る(出来る子はソロ0)	(3) 対応能力向上の為に、長く&早く入れられた振付けをどこまでついてこれるのか試す
14		講義、演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義、演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Heels(3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	関根アヤノ
学科・専攻	メディア＆テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	振付師/演出家 LiSA 専属振付師2014～ プレイヤー/ 安室奈美恵、木村拓哉、SMAP、ケツメイシ、JUJUなどその他etc...						
授業の学習 内容	■ 三大ダンス教育目標 (1) 基礎ダンス力の向上 (2) 自分の魅せ方＆表現方法についての自身研究 (3) 現場対応能力＆コミュニケーション能力の向上						
到達目標	・去年との自分と比較してどのくらい変化があったのか実感できたか ・普段の授業でもしっかりとした受け答え、コミュニケーションを取れるようになる。(現場に生かす) ・現場では女子振りやJAZZはマストになるので唯一無二の存在感やオーラ、魅せ方を取得						
評価方法と基準	・定期テスト60%・出席数20%・授業に向き合う姿勢 20%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義、演習	基礎トレーニング / 振付指導	まずは各々身体能力チェック
2		講義、演習	体幹トレーニング / 振付指導	自身の体の弱い部分を体幹で補う
3		講義、演習	自身の可動範囲チェック/ 振付指導	現時点で自分に何が足りないのか？自分自身のキャパシティを認識する
4		講義、演習	振付けメイン	振付反復練習(最近観ていて多いのが、1人で練習&確認する事が苦手な子を見かけるので、練習の仕方&集中力の維持な仕方を学ぶ)
5		講義、演習	少人数に分けて踊る	・ (1) 1人でも負けないメンタルを鍛える
6		講義、演習	魅せ方研究 / 振付指導	ゆっくりと時間を掛けて向き合う
7		講義、演習	細かく時間を掛けて振付指導(魅せ方メイン)	反復練習 &とにかく自分の一番良い表現方法を探す
8		講義、演習	振付の中にFreestyleも入れて課題を提示	対応能力向上の為
9		講義、演習	少人数に分けて踊る(出来る子はソロ)	(2) 撮影も兼ね、時間を掛けた結果自分がどこまで出来たのか試す
10		講義、演習	対応能力を鍛えるため、振り渡しを長く早く入れる	脳内トレーニング
11		講義、演習	更に脳内容量を増やす為に、2週目も振付けを沢山渡す	現場対応能力を向上させる為のトレーニング
12		講義、演習	長い楽曲＋構成を各自付けていくトレーニング	構成能力&コミュニケーション能力向上。 人に与えられたモノをこなすのではなく自分たちで生み出す能力を鍛える
13		講義、演習	少人数に分けて踊る(出来る子はソロ0)	(3) 対応能力向上の為に、長く&早く入れられた振付けをどこまでついでこれるのか試す
14		講義、演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義、演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	K-POP (3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	ジョン
学科・専攻	メディア＆テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	ダンスインストラクター2019年～現在まで。						
授業の学習 内容	K-POPダンスにおけるリズム感・基礎テクニック・グルーヴの習得を目指す。 また、実際の振付を通して個人の表現力と模倣力を養い、後期の応用発展に備える。						
到達目標	K-POPに特有のリズムと身体の使い方を理解し、再現できる グルーヴ・角度・テンポ・アクセント等の基礎テクニックを習得する 実際の振付をカバーしながら、表現を「真似る力」を高める 振付習得のスピードと正確性を向上させる						
評価方法と基準	平常点(授業態度・出席率) 50% テスト成績 50%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	K-POPの特徴分析	
2		講義・演習	リズムトレーニング(8ビート／16ビート)	前回の復習
3		講義・演習	フットワーク基礎とステップ練習	前回の復習
4		講義・演習	振付カバー①	前回の復習
5		講義・演習	振付カバー②	前回の復習
6		講義・演習	振付カバー③	前回の復習
7		講義・演習	フォーメーショントレーニング(2人～3人)	前回の復習
8		講義・演習	振付カバー④	前回の復習
9		講義・演習	振付カバー⑤	前回の復習
10		講義・演習	腕と上半身の流れを使う振付	前回の復習
11		講義・演習	ミニグループでの振付共有	前回の復習
12		講義・演習	カバーダンス練習①(構成練習あり)	前回の復習
13		講義・演習	カバーダンス練習②(前半のおさらい)	前回の復習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	K-POP (4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	ジョン
学科・専攻	メディア & テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	ダンスインストラクター2019年～現在まで。						
授業の学習 内容	前期で培った基礎力をもとに、より高難度の振付・表現力・グループパフォーマンス力を発展させる。自分らしさの探求や魅せ方にも重点を置く。						
到達目標	高速／複雑な振付の習得・再現力を高める 表情・視線・身体表現のバリエーションを増やす グループでのフォーメーションとシンクロ力を高める 「魅せる」ことを意識したパフォーマンス力を身につける						
評価方法と基準	平常点(授業態度・出席率) 50% テスト成績 50%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	前期の振り返り／応用課題の確認	
2		講義・演習	表現トレーニング(目線・感情)	前回の復習
3		講義・演習	フォーメーション応用(3～5人編成)	前回の復習
4		講義・演習	振付導入①(テンポの速い楽曲)	前回の復習
5		講義・演習	個別フィードバック①(フォーム確認)	前回の復習
6		講義・演習	グループ練習①:ユニゾン精度アップ	前回の復習
7		講義・演習	振付導入②(セクシー／ガールクラッシュ)	前回の復習
8		講義・演習	グループ振付挑戦(自主創作課題)	前回の復習
9		講義・演習	カメラ意識トレーニング	前回の復習
10		講義・演習	振付導入③(力強いパフォーマンス系)	前回の復習
11		講義・演習	グループ練習②:ディティール修正	前回の復習
12		講義・演習	個別フィードバック②(表現・視線)	前回の復習
13		講義・演習	パフォーマンス練習(映像撮影想定)	前回の復習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	タップダンス	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	今安琴奈
		授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
学科・コース	メディア & テクノロジー科(昼間部二)						
教員の略歴	2歳から子役として活動をはじめ、4歳からタップダンス、10歳でアイリッシュダンスと出逢う。16歳から本格的にタップダンサーとして活動をはじめミュージカルやショー・イベントなどでも起用される。日本で数少ないアイリッシュダンサーでもある。13歳からタップダンス講師としても活動し、振り付け・演出なども行う。						
授業の学習 内容	・エンターテイナーとして、自己表現の一つの武器となるタップダンスを基礎から学ぶ ・体の軸を感じながら体全体の使い方を学ぶ ・タップ史に残る巨匠が生み出したステップやルーティンを学ぶ						
到達目標	・リズム感を養うことができる ・未経験者でもタップダンスを踊り魅せられるようになる ・「特技はタップダンスです」と言えるようになる						
評価方法と基準	実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	タップシューズの構造を知り、音の違いを体感する(タップスの説明・トゥ・ヒールなど)	タップダンスをどう活かしたいか目標を決める
2		演習	体重のかけ方でステップの名前が違うことを学ぶ(タッチ・ステップ・ボールドロップなど)	脚、足首のストレッチ
3		演習	基本ステップを組み合わせる (ボールドロップ・スタンプ・スカフ・クランクなど)	授業で学んだことを復習
4		演習	基本ステップを音楽に合わせて踊る	授業で学んだことを復習
5		演習	基本ステップを組み合わせる (ブラッシュ・スラム・ディグ・ブラッシュバックなど)	授業で学んだことを復習
6		演習	基本ステップを組み合わせ2音のステップを学ぶ	授業で学んだことを復習
7		演習	これまでに習得したことを組み合わせ 音楽に合わせて踊る	授業で学んだことを復習 タップダンスの映画や作品を見る
8		演習	これまでに習得したことを組み合わせ 音楽に合わせて踊る	授業で学んだことを復習 タップダンスの映画や作品を見る
9		演習	リズムの違いを知り実践 (4ビート・8ビート・16ビート・3連符など)	色々なジャンルの音楽を聴く
10		演習	音楽のジャンルを聞き分け、踊り分ける	色々なジャンルの音楽を聴く
11		演習	様々なステップを組み合わせ 音楽に合わせて踊る	授業で学んだことを復習
12		試験・演習	様々なステップを組み合わせ 音楽に合わせて踊る(実技テスト)	授業で学んだことを復習
13		演習	これまでに習得したこと全体のフィードバックと 後期の目標設定	新たな目標設定をする
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			苦手なステップを自習・復習するのではなく”できるステップ”を復習する	
【使用教科書・教材・参考書】				
タップシューズ(はじめはダンスシューズ可)・動きやすい服装・フェイスタオル				

科目名	タップダンス	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	今安琴奈
		授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
学科・コース	メディア＆テクノロジー科(昼間部二)						
教員の略歴	2歳から子役として活動をはじめ、4歳からタップダンス、10歳でアイリッシュダンスと出逢う。16歳から本格的にタップダンサーとして活動をはじめミュージカルやショー・イベントなどでも起用される。日本で数少ないアイリッシュダンサーでもある。13歳からタップダンス講師としても活動し、振り付け・演出なども行う。						
授業の学習 内容	・エンターテイナーとして、自己表現の一つの武器となるタップダンスを基礎から学ぶ ・体の軸を感じながら体全体の使い方を学ぶ ・タップ史に残る巨匠が生み出したステップやルーティンを学ぶ						
到達目標	・リズムの感覚を養うことができる ・世界共通のルーティンを踊れるようになる ・現場で起用されるレベルになる ・「特技はタップダンスです」と言えるようになる						
評価方法と基準	実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	前期の復習・基本ステップの確認	前期の復習
2		演習	基本のステップ (シャッフル・スカッフル・ストンプフル)	授業で学んだことを復習
3		演習	基本のステップを音楽に合わせる (シャッフル・スカッフル・ストンプフル)	授業で学んだことを復習
4		演習	基本のステップ・技を取り入れる (技・音数を増やす)	タップ動画を見る(指定なし)
5		演習	基本のステップ・移動しながらのステップ (ターン・スライドなど)	タップ動画を見る(指定なし)
6		演習	基本のステップ・移動しながらのステップ (ターン・スライドなど)	授業で学んだことを復習
7		演習	世界共通のルーティン (1つ目・2つ目のステップ)	授業で学んだことを復習
8		演習	世界共通のルーティン (3つ目・4つ目のステップ)	授業で学んだことを復習
9		演習	ルーティン・音楽に合わせて表現	タップ映画や作品を見る
10		演習	足だけでなく体全体で踊り魅せるタップダンスにする	タップ映画や作品を見る
11		演習	足だけでなく体全体で踊り魅せるタップダンスにする	ダンスが取り入れられている 作品を見る(映画)
12		試験・演習	ルーティン・音楽に合わせて表現 実技テスト	ダンスが取り入れられている 作品を見る(映画)
13		演習	1年間のフィードバック 今後の目標設定と実践方法を伝える	今後タップダンスをどう活かしたいか 目標設定をする
14		講義、演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			タップダンスが取り入れられている映画作品以外に様々なジャンルのダンス作品をたくさん見る	
【使用教科書・教材・参考書】				
タップシューズ・動きやすい服装・フェイスタオル・参考資料(映画作品)は授業の進行状況を見てお伝えします				

東京ダンス・俳優＆舞台芸術専門学校

科目名	HOUSE(3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	YANMA
		授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)		
学科・コース	メディア & テクノロジー科(昼間部二)						
教員の略歴	HOUSEジャンルを中心に活動し、「Rave2001」準優勝、「Fun Toma2」Fun Toma賞受賞、HOUSE 2on2 BATTLE優勝、WDC2013関東大会準優勝。現在では講師としても活躍。						
授業の学習 内容	HOUSEの基礎を正しく理解し、HIP HOPなどにも共通するリズムやアームス、ボディコントロールなどを使いこなせるようにする						
到達目標	・HOUSEのベーシックな動き(体の止め方)を習得すること ・HOUSE特有のスピード感、タメ、止めを体現すること						
評価方法と基準	実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	HOUSE基礎①(ベーシックムーブ)	各自授業内容を復習
2		講義・演習	HOUSE基礎②(ベーシックムーブ応用)	各自授業内容を復習
3		講義・演習	リズム & アイソレーション	各自授業内容を復習
4		講義・演習	リズム & ベーシックムーブ	各自授業内容を復習
5		講義・演習	コンビネーション	各自授業内容を復習
6		講義・演習	”遊び”を混ぜる	各自授業内容を復習
7		講義・演習	フロアを混ぜる	各自授業内容を復習
8		講義・演習	アクロバットを混ぜる	各自授業内容を復習
9		講義・演習	ここまでのまとめ	各自授業内容を復習
10		講義・演習	試験の課題を提示	各自授業内容を復習
11		講義・演習	試験に向けての指導	各自授業内容を復習
12		講義・演習	プレ試験	各自授業内容を復習
13		講義・演習	試験	各自授業内容を復習
14		講義・演習	イベント実践を通してダンスを学ぶ	レポートの提出
15		講義・演習	イベント実践を通してダンスを学ぶ	レポートの提出
準備学習 時間外学習			YoutubeなどでHOUSEを観る。知る。触れる。	
【使用教科書・教材・参考書】				

東京ダンス・俳優＆舞台芸術専門学校

科目名	HOUSE(4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	YANMA
学科・コース	メディア & テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)		
教員の略歴	HOUSEジャンルを中心に活動し、「Rave2001」準優勝、「Fun Toma2」Fun Toma賞受賞、HOUSE 2on2 BATTLE優勝、WDC2013関東大会準優勝。現在では講師としても活躍。						
授業の学習 内容	HOUSEの基礎を使い、個性的に踊りこなせるように指導をする						
到達目標	・振付は勿論、フリーでもHOUSEを踊れるようにすること ・様々な曲調に対応したHOUSEができるようになること						
評価方法と基準	実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	HOUSE基礎の復習	各自授業内容を復習
2		講義・演習	HOUSE応用(ステップの変化)	各自授業内容を復習
3		講義・演習	HOUSE応用(リズムの変化)	各自授業内容を復習
4		講義・演習	フリーで踊ろう	各自授業内容を復習
5		講義・演習	ゲーム形式で踊ろう	各自授業内容を復習
6		講義・演習	オリジナルムーブを作ろう	各自授業内容を復習
7		講義・演習	ここまでのまとめ	各自授業内容を復習
8		講義・演習	HOUSE基礎～応用	各自授業内容を復習
9		講義・演習	模擬バトル	各自授業内容を復習
10		講義・演習	試験の課題を提示	各自授業内容を復習
11		講義・演習	試験に向けての指導	各自授業内容を復習
12		講義・演習	プレ試験	各自授業内容を復習
13		講義・演習	試験	各自授業内容を復習
14		講義・演習	イベント実践を通してダンスを学ぶ	レポートの提出
15		講義・演習	イベント実践を通してダンスを学ぶ	レポートの提出
準備学習 時間外学習			授業外でもセッションを行ったり、とにかく実践すること。	
【使用教科書・教材・参考書】				

東京ダンス・俳優＆舞台芸術専門学校

科目名	BREAKIN(3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	岩崎浩太郎
学科・コース	メディア＆テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)		
教員の略歴	バックダンサー、振付、舞台、イベント出演など、DA TOKYO&TSMその他講師…約15年						
授業の学習 内容	ブレイクダンサーにとって必要な身体作り、フロアムーブを中心に、フットワーク、フリーズ、ムーブメントの知識を取り入れ次実践。 必要なメソッドの習得、またソロアプローチ方やインプロテクニクを学ぶ						
到達目標	ブレイクダンスはstreet danceだけではなく身体作り・筋肉トレーニングが取り入れられているので幅の広いダンステクニクを習得する						
評価方法と基準	実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	ブレイクダンスに必要なストレッチ法の習得	各自授業内容を復習
2		講義・演習	基本的なステップムーブの応用・実践	各自授業内容を復習
3		講義・演習	チェアー・スピンの応用・実践	各自授業内容を復習
4		講義・演習	トップロックまでの振付をスムーズに行う	各自授業内容を復習
5		講義・演習	フットワーク・6ステップの実践	各自授業内容を復習
6		講義・演習	バックスピンの実践	各自授業内容を復習
7		講義・演習	これまでの流れを取り入れた振付・実践	各自授業内容を復習
8		講義・演習	フリーズの種類を応用・実践	各自授業内容を復習
9		講義・演習	チェアー・エアチェアー・マックス・ジョーダン(片手フリーズ系)	各自授業内容を復習
10		講義・演習	倒立・ラビット・片手ラビット(ステップピン) の実践	各自授業内容を復習
11		講義・演習	マカコ・バク転の実践	各自授業内容を復習
12		講義・演習	これまでの流れを取り入れた振付・実践	各自授業内容を復習
13		講義・演習	振付けられた振りとインプロが実践できる	各自授業内容を復習
14		講義・演習	イベント実践を通してダンスを学ぶ	レポートの提出
15		講義・演習	イベント実践を通してダンスを学ぶ	レポートの提出
準備学習 時間外学習			授業外でもセッションを行ったり、とにかく実践すること。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	BREAKIN(4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	岩崎浩太郎
学科・コース	メディア＆テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)		
教員の略歴	バックダンサー、振付、舞台、イベント出演など、DA TOKYO&TSMその他講師…約15年						
授業の学習 内容	ブレイクダンサーにとって必要な身体作り、フロアムーブを中心に、フットワーク、フリーズ、ムーブメントの知識を取り入れ次実践。 必要なメソッドの習得、またソロアプローチ方やインプロテクニクを学ぶ						
到達目標	ブレイクダンスはstreet danceだけではなく身体作り・筋肉トレーニングが取り入れられているので幅の広いダンステクニクを習得する						
評価方法と基準	実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	ブレイクダンスに必要なストレッチ法の習得	各自授業内容を復習
2		講義・演習	基本的なステップムーブの応用・実践	各自授業内容を復習
3		講義・演習	チェアー・スピンの応用・実践	各自授業内容を復習
4		講義・演習	トップロックまでの振付をスムーズに行う	各自授業内容を復習
5		講義・演習	フットワーク・6ステップの実践	各自授業内容を復習
6		講義・演習	バックスピンの実践	各自授業内容を復習
7		講義・演習	これまでの流れを取り入れた振付・実践	各自授業内容を復習
8		講義・演習	フリーズの種類を応用・実践	各自授業内容を復習
9		講義・演習	チェアー・エアチェアー・マックス・ジョーダン(片手フリーズ系)	各自授業内容を復習
10		講義・演習	倒立・ラビット・片手ラビット(ステッピン) の実践	各自授業内容を復習
11		講義・演習	マカコ・バク転の実践	各自授業内容を復習
12		講義・演習	これまでの流れを取り入れた振付・実践	各自授業内容を復習
13		講義・演習	振付けられた振りとインプロが実践できる	各自授業内容を復習
14		講義・演習	イベント実践を通してダンスを学ぶ	レポートの提出
15		講義・演習	イベント実践を通してダンスを学ぶ	レポートの提出
準備学習 時間外学習			授業外でもセッションを行ったり、とにかく実践すること。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	アクロバット(3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	田中英輔
		授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
学科・専攻	メディア & テクノロジー科(昼間部二)						
教員の略歴	スタントマン、テーマパークダンサーを経てさまざまなアーティストのツアーダンサーやレッスンをしている。						
授業の学習 内容	自重トレーニングし、フィジカルを高め、ステージや様々な場面で使える技を習得する。						
到達目標	各々目標とする技を120%出来るようになる。						
評価方法と基準	授業外学習30% 実技テスト20% 授業態度40% 出席率10%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		実習	自重トレーニング 跳ね起き	
2		実習	自重トレーニング 跳ね起き	
3		実習	自重トレーニング 側転	
4		実習	自重トレーニング 側転	
5		実習	自重トレーニング ハンドスプリング	
6		実習	自重トレーニング ハンドスプリング	
7		実習	自重トレーニング ハンドスプリング	
8		実習	自重トレーニング チートエアリアル	
9		実習	自重トレーニング チートエアリアル	
10		実習	自重トレーニング バック転	
11		実習	自重トレーニング バック転	
12		実習	自重トレーニング バック転	
13		実習	自重トレーニング バック転	
14		実習	各々 やりたい技の完成度を上げる	
15		実習	各々 やりたい技の完成度を上げる	
準備学習 時間外学習			可能であれば 設備が整っている施設などに行き練習	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	アクロバット	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	田中英輔
学科・専攻	メディア＆テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	スタントマン、テーマパークダンサーを経てさまざまなアーティストのツアーダンサーやレッスンをしている。						
授業の学習 内容	自重トレーニングし、フィジカルを高め、ステージや様々な場面で使える技を習得する。						
到達目標	各々目標とする技を120%出来るようになる。						
評価方法と基準	授業外学習30% 実技テスト20% 授業態度40% 出席率10%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		実習	自重トレーニング 跳ね起き	
2		実習	自重トレーニング 跳ね起き	
3		実習	自重トレーニング 側転	
4		実習	自重トレーニング 側転	
5		実習	自重トレーニング ハンドスプリング	
6		実習	自重トレーニング ハンドスプリング	
7		実習	自重トレーニング ハンドスプリング	
8		実習	自重トレーニング チートエアリアル	
9		実習	自重トレーニング チートエアリアル	
10		実習	自重トレーニング バック転	
11		実習	自重トレーニング バック転	
12		実習	自重トレーニング バック転	
13		実習	自重トレーニング バック転	
14		実習	各々 やりたい技の完成度を上げる	
15		実習	各々 やりたい技の完成度を上げる	
準備学習 時間外学習			可能であれば 設備が整っている施設などに行き練習	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	テーマパークアクティング(3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	鹿島 良太
学科・専攻	メディア & テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	大手テーマパークやメディアなどで20年に渡りMC・アクターで活躍						
授業の学習 内容	本授業では、テーマパークにおける演技者としての表現力・即興力・キャラクター維持力を育成する。ゲスト対応に特化したリアルタイムの演技や、キャラクター設定に基づく一貫性のある表現、状況変化への柔軟な対応を中心に、身体・声・リアクションを通して「生きた演技」を習得する。 舞台・映像とは異なる、接客性＋演技性＋即興性が求められるテーマパーク独自のアクティングを深く体験する。						
到達目標	テーマパークアクターに求められる役割とスキルを理解する 一貫性あるキャラクターを構築・維持できるようになる 声・身体・表情を使ったリアルな感情表現ができる 状況に応じて即興的に演技を展開できるようになる 観客との非劇場的距離感(近さ・多方向性)に対応した表現ができる						
評価方法と基準	平常点(出席・授業態度) 50% テスト成績 50%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	オリエンテーション／テーマパークアクティングとは	
2		演習	キャラクター演技の基礎①:設定と身体の使い方	前回の復習
3		演習	キャラクター演技の基礎②:声・口調・テンション	前回の復習
4		演習	表情・目線・笑顔のコントロール	前回の復習
5		演習	感情の切り替えとリアクション練習	前回の復習
6		演習	即興演技①:シチュエーション対応	前回の復習
7		演習	即興演技②:予測不能な質問・反応に対応	前回の復習
8		演習	年齢別・属性別ゲスト対応練習	前回の復習
9		演習	キャラクター維持カトレーニング	前回の復習
10		演習	ストーリーを伝える演技	前回の復習
11		演習	ペア演技:関係性を感じさせる演技	前回の復習
12		演習	集団内での空気づくりと調和演技	前回の復習
13		演習	総合演技トレーニング	前回の復習
14		講義、演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	テーマパークアクティング(4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	鹿島 良太
学科・専攻	メディア & テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	大手テーマパークやメディアなどで20年に渡りMC・アクターで活躍						
授業の学習 内容	本授業では、テーマパークアクターとしての演技力を一段階高め、キャラクターの「継続力」「関係性の構築」「複数人物との共存」に重点を置く。観客との即興的やりとり、ストーリー性を伴うインタラクティブな演技、状況ごとのキャラ応答を繰り返し訓練し、実戦に近い対応力を育成する。 また、セリフや筋書きがない中で「意味を生む」「空気を支配する」演技感覚も磨く。						
到達目標	キャラクターの演技を中～長時間持続させる技術を習得する 状況に応じた即興的ストーリー展開力を獲得する 相手役・ゲストとの関係性の変化を演技に反映できるようになる 空間把握力・距離感の演技的コントロールを体得する 台本に頼らずテーマ性ある短編シーンを構成・演技できる						
評価方法と基準	平常点(出席・授業態度) 50% テスト成績 50%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	オリエンテーション／応用で磨く力とは	
2		演習	キャラクター持続演技①:時間経過の中で演技続ける	前回の復習
3		演習	キャラクター持続演技②:感情・状況の変化に対応	前回の復習
4		演習	即興対応トレーニング①:ゲストが起点の展開	前回の復習
5		演習	即興対応トレーニング②:他キャラとの掛け合い即興	前回の復習
6		演習	ストーリーメイキング演技①:物語の起承転結をつくる	前回の復習
7		演習	ストーリーメイキング演技②:3人以上での展開	前回の復習
8		演習	キャラクター×空間演技:設定を生かした演技構築	前回の復習
9		演習	状況演技①:トラブル・ハプニング時の対応力	前回の復習
10		演習	状況演技②:時間制限／切り上げ演技の工夫	前回の復習
11		演習	アンサンブル演技①:無言・無台詞での集団演技	前回の復習
12		演習	アンサンブル演技②:テーマ別・短編演技構成	前回の復習
13		演習	総まとめ:自由演技・個別フィードバック	前回の復習
14		講義、演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	アフレコワークショップ(3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	世田杏恵 中山知佳 引田有美
		授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 (4)		
学科・コース	メディア & テクノロジー科(昼間部二)						
教員の略歴							
授業の学習 内容	アニメーションやゲーム、声優のマイク前でのアフレコ演習を行い、マイク前での演技や環境、マイクワークを体感する。 毎回異なる台本、アニメーションを使用し、実際にアフレコ演習を行う。 声優として必要な、収録現場での立ち振る舞いや好感度について学ぶ。						
到達目標	声優としての表現の探求、マイク前での発声を学ぶことができる。 そのためのトレーニングの指示。 自分が持っている声の性質、心の性質について発見し、自己研鑽ができるようになる。						
評価方法と基準	実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	授業の進め方、説明。オーディション 自分についてどれだけ理解し、表現できるか	台本を自分で取得すること 事前準備(作品調査・役作り・台本チェック)
2		講義・演習	オーディション作品のアフレコ演習 自己評価と他己評価について	台本を自分で取得すること 事前準備(作品調査・役作り・台本チェック)
3		講義・演習	アフレコ演習1 セリフ、マイクワークを理解し、台本を読解する	台本を自分で取得すること 事前準備(作品調査・役作り・台本チェック)
4		講義・演習	アフレコ演習2 スタジオマナー・演出に対しての態度など、基本的なマナーについて	台本を自分で取得すること 事前準備(作品調査・役作り・台本チェック)
5		講義・演習	アフレコ演習3 演出に対しての瞬発力を養う	台本を自分で取得すること 事前準備(作品調査・役作り・台本チェック)
6		講義・演習	アフレコ演習4 演出を理解して、瞬発力とともに対応する力を養う	台本を自分で取得すること 事前準備(作品調査・役作り・台本チェック)
7		講義・演習	アフレコ演習5 大人数でのアフレコ演習	台本を自分で取得すること 事前準備(作品調査・役作り・台本チェック)
8		講義・演習	アフレコ演習6 音響監督と声優	台本を自分で取得すること 事前準備(作品調査・役作り・台本チェック)
9		講義・演習	アフレコ演習7 演じ分けとマイクワーク	台本を自分で取得すること 事前準備(作品調査・役作り・台本チェック)
10		講義・演習	アフレコ演習8 台本を深く読み込む マイクワークを身につける	台本を自分で取得すること 事前準備(作品調査・役作り・台本チェック)
11		講義・演習	アフレコ演習9 実践を通じてマイク前での表現技法を覚える	台本を自分で取得すること 事前準備(作品調査・役作り・台本チェック)
12		講義・演習	アフレコ演習10 実践を通じてマイク前での表現技法を覚える	台本を自分で取得すること 事前準備(作品調査・役作り・台本チェック)
13		講義・演習	アフレコ演習11、振り返り、総括 ディレクションに対しての瞬発力を試す	台本を自分で取得すること 事前準備(作品調査・役作り・台本チェック)
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			プロ同様のスケジュールリング(1週間～2日)で原稿配布・キャストイングを発表。プロの現場と思って、各自予習と準備をすること	
【使用教科書・教材・参考書】				
配布台本を各自用意(キャストイング発表と共に、教務室へ自主的に取りに行く)				

東京ダンス・俳優＆舞台芸術専門学校

科目名	アフレコワークショップ(4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	世田杏恵 中山知佳 引田有美
		授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 (4)		
学科・コース	メディア & テクノロジー科(昼間部二)						
教員の略歴							
授業の学習 内容	アニメーションやゲーム、声優のマイク前でのアフレコ演習を行い、マイク前での演技や環境、マイクワークを体感する。 毎回異なる台本、アニメーションを使用し、実際にアフレコ演習を行う。 声優として必要な、収録現場での立ち振る舞いや好感度について学ぶ。						
到達目標	声優としての表現の探求、マイク前での発声を学ぶことができる。 そのためのトレーニングの指示。 自分が持っている声の性質、心の性質について発見し、自己研鑽ができるようになる。						
評価方法と基準	実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	アフレコ演習1 自分についてどれだけ理解し、表現できるか	台本を自分で取得すること 事前準備(作品調査・役作り・台本チェック)
2		講義・演習	アフレコ演習2 アフレコ関係者への立ち振る舞い(好感度について)	台本を自分で取得すること 事前準備(作品調査・役作り・台本チェック)
3		講義・演習	アフレコ演習3 自己評価と他己評価について	台本を自分で取得すること 事前準備(作品調査・役作り・台本チェック)
4		講義・演習	アフレコ演習4 演出に対しての瞬発力と応用力	台本を自分で取得すること 事前準備(作品調査・役作り・台本チェック)
5		講義・演習	アフレコ演習5 自分が「演じられるキャラクター」と「演じたいキャラクター」の違い	台本を自分で取得すること 事前準備(作品調査・役作り・台本チェック)
6		講義・演習	アフレコ演習6 「演じられるキャラクター」を極める	台本を自分で取得すること 事前準備(作品調査・役作り・台本チェック)
7		講義・演習	アフレコ演習7 感情解放とマイクワーク	台本を自分で取得すること 事前準備(作品調査・役作り・台本チェック)
8		講義・演習	アフレコ演習8 音響監督と声優 共演者とのコミュニケーション	台本を自分で取得すること 事前準備(作品調査・役作り・台本チェック)
9		講義・演習	アフレコ演習9 作品について調べ上げ、セリフ一つ一つにこだわる	台本を自分で取得すること 事前準備(作品調査・役作り・台本チェック)
10		講義・演習	アフレコ演習10 視聴者を意識する	台本を自分で取得すること 事前準備(作品調査・役作り・台本チェック)
11		講義・演習	アフレコ演習11 間について考える	台本を自分で取得すること 事前準備(作品調査・役作り・台本チェック)
12		講義・演習	アフレコ演習12 間について考える	内容は授業内で発表
13		講義・演習	課外授業	内容は授業内で発表
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			プロ同様のスケジュールリング(1週間～2日)で原稿配布・キャストイングを発表。プロの現場と思って、各自予習と準備をすること	
【使用教科書・教材・参考書】				
配布台本を各自用意(キャストイング発表と共に、教務室へ自主的に取りに行く)				

東京ダンス・俳優＆舞台芸術専門学校

科目名	声優技術(3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	井上 悟
学科・専攻	メディア & テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	声優、俳優、ナレーター。株式会社アーツビジョン所属。						
授業の学習 内容	アフレコ基礎を通して見えてきたのは、学生が他の授業で学んだ内容を、声の表現に活かきれていない面だった。本授業、特に前期では、そのバイパスをより確かなものとする為、学生一人一人の個性を活かせるオーディオドラマ台本などを用いて、音声表現の基礎に、さらなる磨きを掛けつつ、実戦としてのアフレコ実習に於いて、より豊かに、細やかに感情を表現できる演技力の獲得を目指す。						
到達目標	①「音声によるドラマ表現力の強化」を、到達目標の代表として掲げる。そこへ至るまでの各段階として、②力強さとポジティブさを必要とするドラマを通して、テンポと活き活きとした表現力を掴む③より深い読解力と描写力を必要とするドラマを通して、細やかでダイナミックな表現力を掴む④以上を踏まえた上での展開として、アフレコ基礎よりも難易度の高い素材を用いて、より深く広範な読解力と、豊かな感情表現力を身に付ける。⑤ここまで学んだ内容を、他のアクター系授業にも反映できるよう、多角的な視点で振り返ることのできる、客観性を獲得する。						
評価方法と基準	各段階に定めた目標に対し、どの程度具体的にアプローチできるようになるかを評価基準とするが、結果だけではなく、その過程をより重視する。学生一人一人が、本授業の意図について自発的に考え、求められる表現と向き合い、目標を達成すべく具体的な行動を取ろうとするか否かを、標準的な目安としたい。評価方法は、定期テスト60%・出席（及び学習の過程）40%とする。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	授業の目的・計画を理解し課題を発見できる。	録音台本を繰り返しリハーサル。
2		講義・演習	台本の内容をきちんと成立させられる。	次回録音に向けて授業を参考にリハーサル。
3		講義・演習	マイク前でも自由にのびのびと表現できる。	次回台本にしっかりと目を通しておく。
4		講義・演習	課題を知覚し、言語化。次の表現に活かせる。	課題を意識したリハーサルに取り組む。
5		講義・演習	本が求める内容に意図的にアプローチできる。	次回録音に向けて授業を参考にリハーサル。
6		講義・演習	限られた時間内に細やかな積み重ねができる。	授業を参考に自身の表現を振り返る。
7		講義・演習	課題を知覚し、言語化。次の表現に活かせる。	次回台本にしっかりと目を通しておく。
8		講義・演習	ここまでの内容を意識してアフレコに臨める。	発見した内容をしっかりと確認、反復しておく。
9		講義・演習	課題を知覚し、言語化。次の表現に活かせる。	発見した内容をしっかりと確認、反復しておく。
10		講義・演習	作品をより深く読解し、音声表現できる。	授業を参考に自身の表現を振り返る。
11		講義・演習	作品をより深く読解し、音声表現できる。	授業を参考に自身の表現を振り返る。
12		講義・演習	課題を知覚し、言語化。次の表現に活かせる。	ここまでの授業内容を総合的に復習しておく。
13		講義・演習	前12回を振り返り、次の表現を模索できる。	前期を整理し、課題や疑問点を再確認する。
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	声優技術(4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	井上 悟
学科・専攻	メディア＆テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	声優、俳優、ナレーター。株式会社アーツビジョン所属。						
授業の学習 内容	前期13回で学んだ内容をしっかりと定着させ、実戦力の獲得に繋げるべく、授業を展開する。主に「アフレコ・アテレコ実習」が内容の核となるが、「実践」と「座学」の意義をより高めるべく、出番に於ける学生一人あたりの持ち時間を増やす構成とする。学生には、本授業を通して、他のアクター系の授業や、実際の現場でも活かせる幅広い視野と表現力を、身に付けてもらいたい。						
到達目標	①「音声によるドラマ表現力の強化」という通年の目標を達成するため、前期で学んだ内容を、より細やかに、ダイナミックに、アフレコ・アテレコに反映させられる表現力を身に付ける。その各段階として、②パワーとポジティブさを求められる素材を用いて、マイク前・画面前でも、作品に対して感情を解放させられる力を養う。③キャラクターとシーンに対する、より繊細で深い読解力を必要とする素材を用いて、豊かな感情表現力を養う。④ここまでの過程を踏まえて、現時点での表現力では、難易度の高い作品に取り組み、演技の「幅」とは何かについてより多角的な視点で考え、次のステップへ繋がるきっかけを掴む。						
評価方法と基準	各段階に定めた目標に対し、どの程度具体的にアプローチできるようになるかを評価基準とするが、結果だけではなく、その過程をより重視する。学生一人一人が、本授業の意図について自発的に考え、求められる表現と向き合い、目標を達成すべく具体的な行動を取ろうとするか否かを、標準的な目安としたい。評価方法は、定期テスト60％・出席（及び学習の過程）40％とする。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	授業の計画、目的を理解し、課題と向き合える。	次週録音に向けて次回台本をしっかりと読んでおく。
2		講義・演習	マイク前でちゃんとエネルギーを使って表現できる。①	アドバイスを基に、自身の表現と発見を振り返る。①
3		講義・演習	マイク前でしっかりエネルギーを使って表現できる。②	アドバイスを基に、自身の表現と発見を振り返る②
4		講義・演習	目標と到達点との差を言語化して次に活かせる。①	今後の授業との向き合い方を再確認する。
5		講義・演習	次回台本の目的を理解し、読解・表現できる。	次週録音に向けて次回台本をしっかりと読んでおく。
6		講義・演習	技術的側面と豊かな感情表現を両立させられる。①	課題の振り返りと、次回を意識したりリハーサル。①
7		講義・演習	技術的側面と豊かな感情表現を両立させられる。②	課題の振り返りと、次回を意識したりリハーサル。②
8		講義・演習	目標と到達点との差を言語化して次に活かせる。②	総括的な視点で授業を振り返り次回台本の読解。
9		講義・演習	本年度で最も難易度の高い作品と積極的に向き合える。	次週録音に向けて次回台本をしっかりと読んでおく。
10		講義・演習	音声表現の「幅」について考え、表現できる。①	4月からの学びと、現在の到達地点を振り返る。①
11		講義・演習	音声表現の「幅」について考え、表現できる。②	4月からの学びと、現在の到達地点を振り返る。②
12		講義・演習	総仕上げの視点で自身の表現を知覚できる。	他の授業とのパイパスを意識した視点で反復。
13		講義・演習	一人一人が次の目標を意識した視点を獲得する。	次の段階に向けた取り組みを継続する。
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	ナレーション(3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	長谷川歩
学科・専攻	メディア & テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	子役・俳優・劇団主催・ナレーター 大沢事務所所属						
授業の学習 内容	声優のキャリアの幅でアニメーションだけでなく、ラジオCM、TVCM、ニュース番組、バラエティ番組、ドキュメント番組など多岐にわたって活躍の場があるのがナレーションです。収録、ヒアリング、ディスカッションを繰り返すレッスンをし、卒業後はシームレスに活躍できるように目指します。						
到達目標	ナレーションにおける演技の基礎、概念、やりがいを理解できるようになる。						
評価方法と基準	通常授業で取り組んでいる個人個人の課題で加点しつつ、期末にテストを実施						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	自己紹介、ナレーションのレクチャー 原稿探しのポイントなど、ナレーションの世界に触れることができる	
2		講義・演習	ナレーション実技① 音読とレクチャーで ナレーションの基礎を理解することができる	
3		講義・演習	ナレーション実技② 音読とレクチャーで ナレーションの基礎を理解することができる	
4		講義・演習	ナレーション実技③ 音読とレクチャーで ナレーションの基礎を理解することができる	
5		講義・演習	ナレーション実技④ 音読とレクチャーで ナレーションの基礎を理解することができる	
6		講義・演習	ナレーション基礎⑤ 音読とレクチャーで ナレーションの基礎を理解することができる	
7		講義・演習	ナレーションの理解と適正① 自身で選んだ原稿を 読むことで理解と適正を深めることができる	
8		講義・演習	ナレーションの理解と適正② 自身で選んだ原稿を 読むことで理解と適正を深めることができる	
9		講義・演習	ナレーションの理解と適正③ 自身で選んだ原稿を 読むことで理解と適正を深めることができる	
10		講義・演習	ナレーションの理解と適正④ 自身で選んだ原稿を 読むことで理解と適正を深めることができる	
11		講義・演習	ナレーションの理解と適正⑤ 自身で選んだ原稿を 読むことで理解と適正を深めることができる	
12		講義・演習	ナレーションの理解と適正⑥ 自身で選んだ原稿を 読むことで理解と適正を深めることができる	
13		講義・演習	期末テスト 録音して聴いてみる～前期まとめ	
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			ラジオCM、映画の予告、ドキュメント番などを検索して視聴しておいてください。	
【使用教科書・教材・参考書】				

東京ダンス・俳優＆舞台芸術専門学校

科目名	ナレーション(4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	長谷川歩
学科・専攻	メディア & テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	子役・俳優・劇団主催・ナレーター 大沢事務所所属						
授業の学習 内容	声優のナレーション収録を中心にゲーム収録なども課題とする。収録、ヒアリング、ディスカッションを繰り返すレッスンをし、卒業後はシームレスに活躍できるよう目指します。						
到達目標	ナレーションにおける演技の基礎、概念、やりがいを理解できるようになる。						
評価方法と基準	通常授業で取り組んでいる個人個人の課題で加点しつつ、期末にテストを実施						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	ラジオCMの世界をレクチャー・実践 ラジオCMの世界に触れることができる	準備・ラジオCMの資料音源を鑑賞／課題・学んだこと、できるようになった、発見したことを記入
2		講義・演習	ラジオCMの実技① ラジオCMでの実技、 役割を知ることができる	準備・ラジオCM原稿の練習／課題・学んだこと、できるようになった、発見したことを記入
3		講義・演習	ラジオCMの実技② ラジオCMでの実技、 役割を知ることができる	準備・ラジオCM原稿の練習／課題・学んだこと、できるようになった、発見したことを記入
4		講義・演習	ラジオCMの実技③ ラジオCMでの実技、 役割を知ることができる	準備・ラジオCM原稿の練習／課題・前期の授業を通して学んだことをまとめて記入
5		講義・演習	ラジオCMの実技④ ラジオCMでの実技、 役割を知ることができる	準備・ラジオCM原稿の練習／課題・学んだこと、できるようになった、発見したことを記入
6		講義・演習	ラジオCMの実技⑤ ラジオCMでの実技、 役割を知ることができる	準備・ラジオCM原稿の練習／課題・学んだこと、できるようになった、発見したことを記入
7		講義・演習	映画予告／ドキュメント／ニュース 実習①	準備・教材原稿を練習／課題・学んだこと、できるようになった、発見したことを記入
8		講義・演習	映画予告／ドキュメント／ニュース 実習②	準備・教材原稿を練習／課題・学んだこと、できるようになった、発見したことを記入
9		講義・演習	映画予告／ドキュメント／ニュース 実習③	準備・教材原稿を練習／課題・学んだこと、できるようになった、発見したことを記入
10		講義・演習	映画予告／ドキュメント／ニュース 実習④	準備・教材原稿を練習／課題・学んだこと、できるようになった、発見したことを記入
11		講義・演習	映画予告／ドキュメント／ニュース 実習⑤	準備・教材原稿を練習／課題・学んだこと、できるようになった、発見したことを記入
12		講義・演習	映画予告／ドキュメント／ニュース 実習⑥	準備・教材原稿を練習／課題・学んだこと、できるようになった、発見したことを記入
13		講義・演習	期末テスト 録音して聴いてみる～後期まとめ	準備・教材原稿を練習／課題・学んだこと、できるようになった、発見したことを記入
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			ラジオCM、映画の予告、ドキュメント番などを検索して視聴しておいてください。	
【使用教科書・教材・参考書】				

東京ダンス・俳優&舞台芸術専門学校

科目名	演劇ワークショップ(3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	三浦佑介
学科・コース	メディア & テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 (4)		
教員の略歴	2002年より俳優・演出家として活動。蜷川幸雄氏に師事。演出作はストリートプレイ、翻訳劇、イベント、コンサートなど多数。						
授業の学習 内容	講師は「ファシリテーター」的立場で、評価より創造の促進を重視 台本を使わず、自己発信型・参加型の授業を展開 発表は行わず、「体験→言語化→共有→再体験」のプロセスを重視 将来的な現場での即応力・創作現場での柔軟性を身につける内容						
到達目標	即興力・創造力・状況適応力を高める 自己の演技を客観的に見つめ、言語化できる 他者との関係性を即興で構築し、協働的に演技を発展させられる テキストに縛られない表現の自由を体感する プロ現場に近い柔軟さ・判断力・対応力を獲得する						
評価方法と基準	出席率(100%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	「反応する力」導入	
2		講義・演習	状況即興①:空間と身体で状況を作る	
3		講義・演習	状況即興②:会話のないシーン	
4		講義・演習	状況即興③:感情の流れと変化	
5		講義・演習	関係性を演じる①:関係性のレベル変化	
6		講義・演習	関係性を演じる②:即興から短い場面を創作	
7		講義・演習	状況と目的の複雑性	
8		講義・演習	グループ創作①:テーマ提示→即興	
9		講義・演習	グループ創作②:構成と演出を考える	
10		講義・演習	自己の演技の分析①(動画・録画使用)	
11		講義・演習	自己の演技の分析②:他者との比較・議論	
12		講義・演習	自由課題ワーク:興味ある形で創作即興	
13		講義・演習	まとめと今後への応用	
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	演劇ワークショップ(4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	三浦佑介
学科・コース	メディア & テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 (4)		
教員の略歴	2002年より俳優・演出家として活動。蜷川幸雄氏に師事。演出作はストリートプレイ、翻訳劇、イベント、コンサートなど多数。						
授業の学習 内容	発表形式の作品化は行わず、プロセスの深まりと創作体験の共有を重視します 「言葉にならないものを言葉にする」力と、「かたちにならないものを構成する」感性の育成が中心 「表現者＝創造者」としての意識変化が期待されます						
到達目標	演技だけでなく演出視点・構成力・空間意識を統合した創作ができる 他者のアイデアを受け入れながらグループで創作的合意形成ができる テーマ・世界観をもとに短い演劇的構成を創造できる 自分の表現を言語化・客観視し、他者に共有できる 創作プロセスを重視し、失敗・試行錯誤から学ぶ力を育てる						
評価方法と基準	出席率(100%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	創作における「責任」	
2		講義・演習	創作即興①:テーマに基づく身体・対話の探索	
3		講義・演習	創作即興②:時間・空間を扱う	
4		講義・演習	創作即興③:言葉と沈黙の設計	
5		講義・演習	グループ決定と企画立案①	
6		講義・演習	グループ創作①:試作と素材生成	
7		講義・演習	グループ創作②:構成の検討・抜き出し	
8		講義・演習	創作中間共有:他グループに途中経過を見せる	
9		講義・演習	グループ創作③:修正・整理	
10		講義・演習	グループ創作④:全体の動き・空間設計	
11		講義・演習	創作ワーク:他グループの演出をしてみる	
12		講義・演習	最終調整と通し稽古(通し見せ)	
13		講義・演習	総まとめ:創作を通して得たもの	
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	シアターJAZZ(3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	浅越葉菜
学科・専攻	メディア & テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	テーマパークダンサー、舞台・TV・海外公演等ダンサー出演						
授業の学習 内容	エクササイズ、クロスフロアを丁寧にやってしっかり体をつくり、基礎力を身につける。 コンビネーションではパフォーマンスする意識を高め、表現の幅を広げる。						
到達目標	強くしなやかな体づくり、基礎力・テクニックのスキルアップ、幅広い表現力を身につける						
評価方法と基準	実技テスト、平常点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	基礎的な要素のスキルアップ	エクササイズ等の復習
2		講義・演習	連続したテクニックを習得する	前回の注意点、振りの復習
3		講義・演習	テクニック強化、振りの中で活かす	前回の注意点、振りの復習
4		講義・演習	柔軟性、筋力、しなやかな体の使い方	前回の注意点、振りの復習
5		講義・演習	体幹、軸の重要性、ラインを意識した動き	前回の注意点、振りの復習
6		講義・演習	体全体を使ったダイナミックな動き	前回の注意点、振りの復習
7		講義・演習	繊細な表現、なめらかな動き	前回の注意点、振りの復習
8		講義・演習	リズム、流れ、緩急のある動き	前回の注意点、振りの復習
9		講義・演習	ロングコンビネーションでの表現①	前回の注意点、振りの復習
10		講義・演習	②空気感、音を感じて表現する	前回の注意点、振りの復習
11		講義・演習	③表情、+αの表現	前回の注意点、振りの復習
12		講義・演習	テスト(コンビネーション)	前回の注意点、振りの復習
13		講義・演習	総まとめ、新たな課題に取り組む	テストでの注意点、課題の復習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			欠席した授業回は、振りを聞くなどしてできるだけ覚えてくる	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	シアターJAZZ(4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	浅越葉菜
学科・専攻	メディア＆テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	テーマパークダンサー、舞台・TV・海外公演等ダンサー出演						
授業の学習 内容	エクササイズ、クロスフロアを丁寧にやってしっかり体をつくり、基礎力を身につける。 コンビネーションではパフォーマンスする意識を高め、表現の幅を広げる。						
到達目標	強くしなやかな体づくり、基礎力・テクニックのスキルアップ、幅広い表現力を身につける						
評価方法と基準	実技テスト、平常点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	基礎的な要素のスキルアップ	エクササイズ等の復習
2		講義・演習	連続したテクニックを習得する	前回の注意点、振りの復習
3		講義・演習	テクニック強化、振りの中で活かす	前回の注意点、振りの復習
4		講義・演習	柔軟性、筋力、しなやかな体の使い方	前回の注意点、振りの復習
5		講義・演習	体幹、軸の重要性、ラインを意識した動き	前回の注意点、振りの復習
6		講義・演習	体全体を使ったダイナミックな動き	前回の注意点、振りの復習
7		講義・演習	繊細な表現、なめらかな動き	前回の注意点、振りの復習
8		講義・演習	リズム、流れ、緩急のある動き	前回の注意点、振りの復習
9		講義・演習	ロングコンビネーションでの表現①	前回の注意点、振りの復習
10		講義・演習	②空気感、音を感じて表現する	前回の注意点、振りの復習
11		講義・演習	③表情、+αの表現	前回の注意点、振りの復習
12		講義・演習	テスト(コンビネーション)	前回の注意点、振りの復習
13		講義・演習	総まとめ、新たな課題に取り組む	テストでの注意点、課題の復習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			欠席した授業回は、振りを聞くなどしてできるだけ覚えてくる	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	映像アクティング(3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	真田幹也
学科・専攻	メディア＆テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	役者活動暦26年 監督暦22年 DA講師暦10年						
授業の学習 内容	①既存のシナリオ・脚本を配布。本読み形式で内容を理解後、カメラの前で実際に演じてみる。毎回、自分の演じたビデオを見ながら問題点、反省点を共に考え演技に対する理解を深めていく②個人やチームに分かれて動画を撮影。撮影後、全体で試写をしながら、作品作りに対しての興味を深めていく						
到達目標	(前期)カメラの前で演技をする事に慣れ、意識的に自ら動ける様になる/演技は楽しいと思えるようになる(後期)カメラの特性を習得し、自ら動画(ショートムービー)の基礎を作れる様になる/作品作りは楽しいと思えるようになる						
評価方法と基準	受講態度(発表、課題への取り組み方)60% 技術修得能力40%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	カメラ前で2人で芝居ができる①	配布課題の理解を深める
2		講義・演習	カメラ前で2人で芝居ができる②	配布課題の理解を深める
3		講義・演習	カメラ前で2人で芝居ができる③撮影	撮影で感じたことを修正→意識
4		講義・演習	カメラ前でみんなで芝居ができる①	配布課題の理解を深める
5		講義・演習	カメラ前でみんなで芝居ができる②	配布課題の理解を深める
6		講義・演習	カメラ前でみんなで芝居ができる③撮影	撮影で感じたことを修正→意識
7		講義・演習	カメラ前で1人で芝居ができる①	配布課題の理解を深める
8		講義・演習	カメラ前で1人で芝居ができる②	配布課題の理解を深める
9		講義・演習	カメラ前で1人で芝居ができる③撮影	撮影で感じたことを修正→意識
10		講義・演習	カメラ前で2人で意識的に芝居ができる①	配布課題の理解を深める
11		講義・演習	カメラ前で2人で意識的に芝居ができる②	配布課題の理解を深める
12		講義・演習	カメラ前で2人で意識的に芝居ができる③	配布課題の理解を深める
13		講義・演習	カメラ前で2人で意識的に芝居ができる④撮影	撮影で感じたことを修正→意識
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			前回までの内容を復習、次の内容に備える・たくさんの映画やドラマを観てみる	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	映像アクティング(4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	真田幹也
学科・専攻	メディア＆テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	役者活動暦26年 監督暦22年 DA講師暦10年						
授業の学習 内容	①既存のシナリオ・脚本を配布。本読み形式で内容を理解後、カメラの前で実際に演じてみる。毎回、自分の演じたビデオを見ながら問題点、反省点を共に考え演技に対する理解を深めていく②個人やチームに分かれて動画を撮影。撮影後、全体で試写をしながら、作品作りに対しての興味を深めていく						
到達目標	(前期)カメラの前で演技をする事に慣れ、意識的に自ら動ける様になる/演技は楽しいと思えるようになる(後期)カメラの特性を習得し、自ら動画(ショートムービー)の基礎を作れる様になる/作品作りは楽しいと思えるようになる						
評価方法と基準	受講態度(発表、課題への取り組み方)60% 技術修得能力40%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	ショートムービー作成①オリエンテーション	自分が何を表現したいか考える
2		講義	ショートムービー作成②脚本作り	脚本のイメージを構築する
3		講義と演習	ショートムービー作成③脚本作り	脚本のイメージを構築する
4		講義と演習	ショートムービー作成④リハーサル	撮影のイメージを構築する
5		講義と演習	ショートムービー作成⑤リハーサル	撮影のイメージを構築する
6		講義と演習	ショートムービー作成⑥カット割を考える	撮影のイメージを精査する
7		講義と演習	ショートムービー作成⑦撮影準備	撮影のイメージを精査する
8		講義と演習	ショートムービー作成⑧撮影	各自スマホorカメラで撮影
9		講義と演習	ショートムービー作成⑨撮影	各自スマホorカメラで撮影
10		講義と演習	ショートムービー作成⑩編集	各自タブレットorPCで編集
11		講義と演習	ショートムービー作成⑪編集	各自タブレットorPCで編集
12		講義と演習	ショートムービー作成⑫試写	撮影で感じたことを修正→意識
13		講義	まとめ	経験をこの先に活かす方法を考える
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			前回までの内容を復習、次の内容に備える・たくさんの映画やドラマを観てみる	
【使用教科書・教材・参考書】				

東京ダンス・俳優＆舞台芸術専門学校

科目名	ステージアクション(3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	堀田勝
学科・コース	メディア＆テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)		
教員の略歴	株式会社スーパーエキセントリックシアター所属。ミュージカル「刀剣乱舞」ほか、舞台を中心に活躍。						
授業の学習 内容	立ちっぱなし、座りっぱなしで演技は出来ません。転んだり、倒れたり、突き飛ばされたりといった動きを怪我無く何度も繰り返し演じなければならないことは数多くあります。マットを使って転がり方から身の守り方である受け身の取り方を身に付けます。						
到達目標	倒れる、倒す演技を安全かつ臨場感を失うこと無く演じることが出来る様になる。						
評価方法と基準	実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	注意事項説明、自己紹介(将来のイメージづくり)、アクションとは…、	柔軟、筋トレ
2		講義・演習	マット運動(前転)	前週の復習、柔軟、筋トレ
3		講義・演習	マット運動(右起き上がり)	前週の復習、柔軟、筋トレ
4		講義・演習	マット運動(左起き上がり)	前週の復習、柔軟、筋トレ
5		講義・演習	マット運動(右受け身)、投げ飛ばし	前週の復習、柔軟、筋トレ
6		講義・演習	マット運動(左受け身)、投げ飛ばし	前週の復習、柔軟、筋トレ
7		講義・演習	マット運動(横転)、投げ飛ばし	前週の復習、柔軟、筋トレ
8		講義・演習	マット運動(後転)	前週の復習、柔軟、筋トレ
9		講義・演習	マット運動(アクション用後転)、突き飛ばし	前週の復習、柔軟、筋トレ
10		講義・演習	受け身、起き上がり、横転の組み合わせ	前週の復習、柔軟、筋トレ
11		講義・演習	その場に崩れ落ちる、倒れる	前週の復習、柔軟、筋トレ
12		講義・演習	課外授業	内容は授業内で発表
13		講義・演習	取っ組み合い、揉み合いを演じてみよう	前週の復習、柔軟、筋トレ
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			興味のある声優のボイスサンプルを各事務所ホームページから試聴し、研鑽する	
【使用教科書・教材・参考書】				
授業で配ったプリント類、筆記用具、録音機器				

科目名	ステージアクション(4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	堀田勝
学科・コース	メディア＆テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)		
教員の略歴	株式会社スーパーエキセントリックシアター所属。ミュージカル「刀剣乱舞」ほか、舞台を中心に活躍。						
授業の学習 内容	日本の芸能界において「アクション」とは殴る、蹴る、極める、投げる、切る、撃つ等の暴力の表現を差します。前期を更に前半、後半に分けて前半は素手による殴り方、殴られ方、後半は時代劇で使う大刀の扱い方を木刀や竹光を使って学びます。						
到達目標	殴る、殴られるを痛みの表現として、剣は刃物として安全かつ臨場感を失うことなく演じる事が出来るようになる。						
評価方法と基準	実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	拳の作り方、構え、空手の正拳突き	イメージトレーニング、筋トレ
2		講義・演習	アクション式殴り(顔、腹)、フック(顔、腹)	前週の復習、イメージトレーニング、筋トレ
3		講義・演習	リアクション(顔)	前週の復習、イメージトレーニング、筋トレ
4		講義・演習	リアクション(腹)	前週の復習、イメージトレーニング、筋トレ
5		講義・演習	空手の防御(上段受け、外受け、内受け)	前週の復習、イメージトレーニング、筋トレ
6		講義・演習	攻撃のかかし方(さばき、ダッキング)	前週の復習、イメージトレーニング、筋トレ
7		講義・演習	帯の結び方、刀の仕組み、抜刀、血振り、納刀	イメージトレーニング、筋トレ
8		講義・演習	素振り1(面、左右面、袈裟斬り)	前週の復習、イメージトレーニング、筋トレ
9		講義・演習	素振り2(抜き胴、突き、真っ向)	前週の復習、イメージトレーニング、筋トレ
10		講義・演習	打ち込み(空打ち～振り返りまで)	前週の復習、イメージトレーニング、筋トレ
11		講義・演習	打ち込み～剣を払われる	前週の復習、イメージトレーニング、筋トレ
12		講義・演習	剣を捌く、払う	前週の復習、イメージトレーニング、筋トレ
13		講義・演習	斬られたリアクションと戦ってみよう	前週の復習、イメージトレーニング、筋トレ
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			興味のある声優のボイスサンプルを各事務所ホームページから試聴し、研鑽する	
【使用教科書・教材・参考書】				
授業で配ったプリント類、筆記用具、録音機器				

科目名	日本舞踊(3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	今安琴奈
学科・コース	メディア＆テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)			
教員の略歴	2歳から子役として活動をはじめ、小学5年生から振付師として、中学1年生からは演出家として数多くの舞台制作にも携わる。幼少期より和装モデルとしても活動し、浴衣・着物・振袖の着付けを自身で行う。 俳優としては時代劇にも数多く出演し、「現場で必要とされる和装の知識・着物の所作」講師としても稼働している。						
授業の学習 内容	・日本の民族衣装である浴衣・着物の着付けを学ぶ ・着物の基礎知識を学ぶ ・現場で必要とされる和装の知識/所作を学ぶ						
到達目標	・日本の民族衣装である浴衣・着物を自身で着られるようになる/人に着せられるようになる ・部分名称を理解し、訪問着/小紋/振袖などの違いを知り、たたみ方などの基礎力を身につける ・現場で最低限必要とされる所作や着物の扱い方を身につける						
評価方法と基準	実技テストによる採点(自分で着る/人に着せる)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	浴衣を着るにあたり、必要なアイテムと役割を知る たたみ方を知る	必要最低限の小物の名前を調べる
2		演習	浴衣を着る/帯:貝の口 所作:立ち方歩き方	帯の結び方に興味を持つ
3		演習	浴衣を着る/帯:文庫結 所作:階段の上り下り 車の乗車方法	貝の口に慣れる
4		演習	着物を着るにあたり、必要なアイテムと役割を知る	代表的な11種類えお調べておく
5		演習	着物を着る/帯:貝の口 所作:着崩れの直し方	貝の口に慣れる
6		演習	着物を着る/帯:文庫結 知識:現場で必要なアイテム	文庫むすびを練習する
7		演習	着物を着る/帯:角出し 知識:履き物の種類	履き物の種類を調べる
8		演習	着物を着る/帯:名古屋帯 一重太鼓 着物でのポーズ ング	ポーズングを考える/着物が綺麗に見える角度
9		演習	着物を着る・人に着付ける 帯:名古屋帯 一重太鼓	程よく締め付ける力加減を身につける
10		演習	着物を着る/帯:袋帯 二重太鼓	帯の柄を調べる
11		演習	着物を着る・人に着付ける 帯:袋帯 二重太鼓	着崩れないように着る
12		試験・演習	着物を着る・人に着付ける 帯:自由	授業で学んだことを復習
13		演習	フィードバック 知識の確認	新たな目標設定をする
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
半襦袢・裾よけorステコ(リラコ可)・腰紐(4本)・足袋・浴衣(あれば)・帯(あれば)着付け小物セットがあれば持参ください				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	日本舞踊(4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	五條翠蝶
学科・コース	メディア＆テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)		
教員の略歴	久世光彦氏・木村光一氏・佐藤信氏演出作品等、数々の舞台やミュージカルに出演。 女優業は福沢亜希子の名で活動。現在は都内芸能養成所・高校等でダンスインストラクターも務める。						
授業の学習 内容	日本舞踊を通じて、伝統芸能、和服の所作を学ぶ。 役の年齢によっての着付け、所作の違いを学ぶ。 小曲「白扇」の振りを勉強し、日本舞踊の基本動作を学ぶ。						
到達目標	浴衣の着付け、古典舞踊、新舞踊を知ることで自身の知識として扱えるようになる。 和服でのスチール撮影、時代劇で生かせる所作を学び、自身のスキルとして扱えるようになる。 男女問わず、男踊り・女踊りを経験することにより、男らしい・女らしい所作を身につけられるようになる。						
評価方法と基準	実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	「江戸まつり」1 前半部分振り入れ	浴衣をスピーディーに着れるようになる 振りの練習
2		講義・演習	「江戸まつり」2 後半部分振り入れ	浴衣をスピーディーに着れるようになる 振りの練習
3		講義・演習	「江戸まつり」3 全体を通して細かな確認	振りの練習
4		講義・演習	「江戸まつり」4 粋に踊る	振りの練習
5		講義・演習	「江戸まつり」5 間を感じて表現する	振りの練習
6		講義・演習	「江戸まつり」テスト	動画をみて、自身の踊りを振り返る
7		講義・演習	新舞踊「ソーラン鷗」1 女踊りの所作・振り入れ	振りを練習してくる
8		講義・演習	新舞踊「ソーラン鷗」2 表現を感じながら踊る	振りを練習してくる
9		講義・演習	新舞踊「ソーラン鷗」テスト	動画をみて、自身の踊りを振り返る
10		講義・演習	創作舞踊1 現代曲と日本舞踊	振りの練習
11		講義・演習	創作舞踊2 基本を重視した自分らしい表現について	振りの練習
12		講義・演習	創作舞踊3 1年を通して踊った作品を披露する〃〇	
13		講義・演習	課外授業	内容は授業内で発表
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			自主練を行い、踊りを研鑽すること 日本舞踊などの日本の伝統芸能に触れていくこと	
【使用教科書・教材・参考書】				
浴衣・帯・足袋・扇子				

科目名	アクティング(3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	三浦佑介
		授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 (4)		
学科・コース	メディア & テクノロジー科(昼間部二)						
教員の略歴	2002年より俳優・演出家として活動。蜷川幸雄氏に師事。演出作はストレートプレイ、翻訳劇、イベント、コンサートなど多数。						
授業の学習 内容	俳優として、自分の課題を見つけ、さらにそれに則したものを提案し、形にすることを学ぶ。「複数の人間で創る」演劇を通して、俳優の仕事をしていくために必要な動きを実践する。年間を通じ、成果物を最低2つと定め、それを創り上げることで、自主的な動きを身につける。						
到達目標	表現者として自分の課題を見つけ、解決に向かって提案することができる俳優になることを目標とし、揺れ続ける芸能界へ漕ぎ出しても、自分で発見・研鑽をし続け、多くの関係者の中で動ける表現者になることを目指す。受動的ではなく能動的な俳優を目指すことができるようになる。						
評価方法と基準	実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	残り1年間のをどう有意義に過ごしていくか考え、「目標を決定」すること、今の自分への課題を見つける	自身の課題を基に、クラスと発表するための課題を探す
2		講義・演習	課題を提案しあい、クラスで発表する内容を決める	決まった課題台本を作成、または用意する
3		講義・演習	発表のための稽古① 台本読み・台本への向き合い方を学ぶ	課題台本の読み込み、セリフを覚える
4		講義・演習	発表のための稽古② 立ち稽古・ダメ出しの捉え方を学ぶ	課題台本の読み込み、セリフを覚える
5		講義・演習	発表のための稽古③ 立ち稽古・他のキャストとのコミュニケーションを学ぶ	課題台本の読み込み、セリフを覚える 衣裳や小道具等の準備を実施する
6		講義・演習	発表のための稽古④ 通し稽古・全体を通じての作品の捉え方を学ぶ	課題台本の読み込み、ミザンスを覚える 衣裳や小道具等の準備を実施する
7		講義・演習	発表のための稽古⑤ 通し稽古からのフィードバックを分析し演習	課題台本の読み込み、ミザンスを覚える 衣裳や小道具等の準備を実施する
8		講義・演習	発表のための稽古⑥ フィードバックから得たものを元に研鑽稽古	課題台本の読み込み、ミザンスを覚える 衣裳や小道具等の準備を実施する
9		講義・演習	発表のための稽古⑦ ここまで出てきた問題点のクリアの仕方を考える	課題台本の読み込み、ミザンスを覚える 衣裳や小道具等の準備を実施する
10		講義・演習	発表のための稽古⑧ お客様に見せることを意識した作りを行う	課題台本の読み込み、ミザンスを覚える 衣裳や小道具等の準備を実施する
11		講義・演習	発表のための稽古⑨ 最後の詰め稽古・自身の課題の解消のためのアクション	課題台本の読み込み、ミザンスを覚える 衣裳や小道具等の準備を実施する
12		講義・演習	発表のための稽古⑩ 最後の詰め稽古・自身の課題の解消のためのアクション	内容は授業内で発表
13		講義・演習	発表を通してのフィードバック 自身の目標に対しての達成度を考える	後期に向けた題材探し
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
自分たちで決定した台本を持参すること、適時衣裳と小道具の用意				

東京ダンス・俳優・舞台芸術専門学校

科目名	アクティング(4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	三浦佑介
		授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 (4)		
学科・コース	メディア&テクノロジー科(昼間部二)						
教員の略歴	2002年より俳優・演出家として活動。蜷川幸雄氏に師事。演出作はストレートプレイ、翻訳劇、イベント、コンサートなど多数。						
授業の学習 内容	俳優として、自分の課題を見つけ、さらにそれに則したものを提案し、形にすることを学ぶ。「複数の人間で創る」演劇を通して、俳優の仕事をしていくために必要な動きを実践する。年間を通じ、成果物を最低2つと定め、それを創り上げることで、自主的な動きを身につける。						
到達目標	表現者として自分の課題を見つけ、解決に向かって提案することができる俳優になることを目標とし、揺れ続ける芸能界へ漕ぎ出しても、自分で発見・研鑽を続け、多くの関係者の中で動ける表現者になることを目指す。受動的ではなく能動的な俳優を目指すことができるようになる。						
評価方法と基準	実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	卒業後、社会人として芸能界に足を踏み入れた後をイメージし、現在の自分から自分の課題を見つける	自身の課題を基に、クラスと発表するための課題を探す
2		講義・演習	課題を提案しあい、クラスで発表する内容を決める	決まった課題台本を作成、または用意する
3		講義・演習	発表のための稽古① 台本読み・台本への向き合い方を学ぶ	課題台本の読み込み、セリフを覚える
4		講義・演習	発表のための稽古② 立ち稽古・ダメ出しの捉え方を学ぶ	課題台本の読み込み、セリフを覚える
5		講義・演習	発表のための稽古③ 立ち稽古・他のキャストとのコミュニケーションを学ぶ	課題台本の読み込み、セリフを覚える 衣裳や小道具等の準備を実施する
6		講義・演習	発表のための稽古④ 通し稽古・全体を通じての作品の捉え方を学ぶ	課題台本の読み込み、ミザンスを覚える 衣裳や小道具等の準備を実施する
7		講義・演習	発表のための稽古⑤ 通し稽古からのフィードバックを分析し演習	課題台本の読み込み、ミザンスを覚える 衣裳や小道具等の準備を実施する
8		講義・演習	発表のための稽古⑥ フィードバックから得たものを元に研鑽稽古	課題台本の読み込み、ミザンスを覚える 衣裳や小道具等の準備を実施する
9		講義・演習	発表のための稽古⑦ ここまで出てきた問題点のクリアの仕方を考える	課題台本の読み込み、ミザンスを覚える 衣裳や小道具等の準備を実施する
10		講義・演習	発表のための稽古⑧ お客様に見せることを意識した作りを行う	課題台本の読み込み、ミザンスを覚える 衣裳や小道具等の準備を実施する
11		講義・演習	発表のための稽古⑨ 現在の問題点の洗い出し(俳優として、大人として)	課題台本の読み込み、ミザンスを覚える 衣裳や小道具等の準備を実施する
12		講義・演習	発表のための稽古⑨ 現在の問題点の洗い出し(俳優として、大人として)	課題台本の読み込み、ミザンスを覚える 衣裳や小道具等の準備を実施する
13		講義・演習	発表のための稽古⑩ 最後の詰め稽古・自身の課題の解消のためのアクション	課題台本の読み込み、ミザンスを覚える 衣裳や小道具等の準備を実施する
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
自分たちで決定した台本を持参すること、適時衣裳と小道具の用意				

東京ダンス・俳優&舞台芸術専門学校

科目名	ミュージカル唱法(3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	荒井 香織
学科・専攻	メディア & テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	桐朋学園芸術短期大学 卒業 劇団四季 8年在籍						
授業の学習 内容	ミュージカルにおける歌唱方法、発声方法の学習。 有名ミュージカルより抜粋した課題を通しての実践練習。						
到達目標	1年生においては基礎を築くことを基盤に置き、基本的な発声、科少量、演技力、ダンス力を身につけることを目標とする。						
評価方法と基準	授業へ取り組む姿勢、出席率、試験においての結果を総合的に判断。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	呼吸法、母音について説明	授業の復習を行うこと
2		講義	課題① 説明	授業の復習を行うこと
3		演習	課題① 実習	授業の復習を行うこと
4		演習	課題① 実習	授業の復習を行うこと
5		演習	課題① 実習	授業の復習を行うこと
6		講義	課題② 説明	授業の復習を行うこと
7		演習	課題② 実習	授業の復習を行うこと
8		演習	課題② 実習	授業の復習を行うこと
9		演習	課題② 実習	授業の復習を行うこと
10		演習	試験対策	授業の復習を行うこと
11		演習	試験対策	授業の復習を行うこと
12		演習	試験においてみえた課題を演習	授業の復習を行うこと
13		演習	課題③ 実習	授業の復習を行うこと
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
ミュージカル 『コーラスライン』 『WICKED』				

東京ダンス・俳優&舞台芸術専門学校

科目名	ミュージカル唱法(4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	荒井 香織
学科・専攻	メディア & テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	桐朋学園芸術短期大学 卒業 劇団四季 8年在籍						
授業の学習 内容	ミュージカルにおける歌唱方法、発声方法の学習。 有名ミュージカルより抜粋した課題を通しての実践練習。						
到達目標	1年生においては基礎を築くことを基盤に置き、基本的な発声、科少量、演技力、ダンス力を身につけることを目標とする。						
評価方法と基準	授業へ取り組む姿勢、出席率、試験においての結果を総合的に判断。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	呼吸法、母音について説明	授業の復習を行うこと
2		講義	課題① 説明	授業の復習を行うこと
3		演習	課題① 実習	授業の復習を行うこと
4		演習	課題① 実習	授業の復習を行うこと
5		演習	課題① 実習	授業の復習を行うこと
6		講義	課題② 説明	授業の復習を行うこと
7		演習	課題② 実習	授業の復習を行うこと
8		演習	課題② 実習	授業の復習を行うこと
9		演習	課題② 実習	授業の復習を行うこと
10		演習	試験対策	授業の復習を行うこと
11		演習	試験対策	授業の復習を行うこと
12		演習	試験においてみえた課題を演習	授業の復習を行うこと
13		演習	課題③ 実習	授業の復習を行うこと
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
ミュージカル 『コーラスライン』 『WICKED』				

東京ダンス・俳優&舞台芸術専門学校

科目名	殺陣(3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	服部整治
学科・専攻	メディア & テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	下北沢ルナティック演劇祭2015優勝。同演劇祭最優秀演出賞受賞 第34回下北沢演劇祭出展作品制作						
授業の学習 内容	舞台、映像問わず、刀を使用した殺陣は「英語」の様な位置づけだと考えております。出来なくても役者の現場はあります。ですが刀殺陣が出来れば挑戦できる現場の間口が広がります。素手のアクションの授業と同じ位置づけであり、日本語の台詞が言えます。そこに英語でも中国語でも台詞が言えますとなれば、より多くのチャンスに巡り合える事でしょう。現場及びオーディションで、「はい、殺陣です。動いて！」と言われた時に対応できる表現者になれるよう実践に役立つ内容で進行していきます。						
到達目標	つけられた振りを素早く実践できる表現者になろう。						
評価方法と基準	定期実技テストにより評価させていただきます。(テスト30% 出席率70%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	基本動作「十手」の攻め・受け習得	貝の口結びの習得
2		演習	基本動作「十手」の攻め・受け習得	
3		演習	3対3の集団殺陣振りつけ	
4		演習	3対3の集団殺陣振りつけ	
5		演習	3対3の集団殺陣振りつけ	
6		演習	3対3の集団殺陣振りつけ	
7		演習	斬られるリアクション学習	
8		演習	斬られるリアクション学習	
9		演習	斬られるリアクション学習	
10		演習	斬られるリアクション学習	
11		演習	テスト対策	
12		演習	テスト	
13		演習	調整課題	
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	殺陣(4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	服部整治
学科・専攻	メディア＆テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	下北沢ルナティック演劇祭2015優勝。同演劇祭最優秀演出賞受賞 第34回下北沢演劇祭出展作品制作						
授業の学習 内容	舞台、映像問わず、刀を使用した殺陣は「英語」の様な位置づけだと考えております。出来なくても役者の現場はあります。ですが刀殺陣が出来れば挑戦できる現場の間口が広がります。素手のアクションの授業と同じ位置づけであり、日本語の台詞が言えます。そこに英語でも中国語でも台詞が言えますとなれば、より多くのチャンスに巡り合える事でしょう。現場及びオーディションで、「はい、殺陣です。動いて！」と言われた時に対応できる表現者になれるよう実践に役立つ内容で進行していきます。						
到達目標	付けられた手を直ぐに実践し、そこに緩急まで付けられる表現者になろう！						
評価方法と基準	定期実技テストにより評価させていただきます。(テスト30% 出席率70%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	技の正確さ、振りの仕上げチェック	貝ノ口結びの習得
2		演習	技の正確さ、振りの仕上げチェック	
3		演習	技の正確さ、振りの仕上げチェック	
4		演習	技の正確さ、振りの仕上げチェック	
5		演習	台本のワンシーンを殺陣を入れて再現	
6		演習	台本のワンシーンを殺陣を入れて再現	
7		演習	台本のワンシーンを殺陣を入れて再現	
8		演習	台本のワンシーンを殺陣を入れて再現	
9		演習	台本のワンシーンを殺陣を入れて再現	
10		演習	台本のワンシーンを殺陣を入れて再現	
11		演習	台本のワンシーンを殺陣を入れて再現	
12		演習	テスト	
13		演習	総まとめ	
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	劇場技術A(3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	左右田
		授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
学科・専攻	メディア&テクノロジー科(昼間部二)						
教員の略歴	音響業界歴41年 音響講師歴21年 有限会社バンデロー代表取締役						
授業の学習 内容	将来、自主公演や劇団等の音響係になった際、より効果的に音を扱えるようになる為の基礎講座。音響機器を使用し、自分たちでオペレーションをやる。演劇における音響の基本を学び、演出効果としての音の活用方法を学ぶ。						
到達目標	音響の基本的な仕組みを理解する。音楽再生ソフトの基礎的な使い方を理解する。						
評価方法と基準	■評価方法 出席率50% 期末テスト50% ■評価基準 授業への取り組む姿勢。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	演習にて使用する機材の取り扱い方法	
2		講義・演習	PAミキサーの使い方・演習	
3		講義・演習	CDデッキの使い方・演習	
4		講義・演習	朗読劇を通して学習したスキルの実践	
5		講義・演習	音楽再生ソフトの基礎-1A/朗読劇を通して学習したスキルの実践	
6		講義・演習	音楽再生ソフトの基礎-1B/朗読劇を通して学習したスキルの実践	
7		講義・演習	音楽再生ソフトの基礎-2A/朗読劇を通して学習したスキルの実践	
8		講義・演習	音楽再生ソフトの基礎-2B/朗読劇を通して学習したスキルの実践	
9		講義・演習	音楽再生ソフトの基礎-3A/朗読劇を通して学習したスキルの実践	
10		講義・演習	音楽再生ソフトの基礎-3B/朗読劇を通して学習したスキルの実践	
11		講義・演習	IEMの体験-1	
12		講義・演習	IEMの体験-2	
13		講義・演習	期末試験	
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

東京ダンス・俳優&舞台芸術専門学校

科目名	劇場技術A(4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	左右田
		授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
学科・専攻	メディア&テクノロジー科(昼間部二)						
教員の略歴	音響業界歴41年 音響講師歴21年 有限会社バンデロー代表取締役						
授業の学習 内容	将来、自主公演や劇団等の音響係になった際、より効果的に音を扱えるようになる為の基礎講座。音響機器を使用し、自分たちでオペレーションをやってみる。演劇における音響の基本を学び、演出効果としての音の活用方法を学ぶ。						
到達目標	音響の基本的な仕組みを理解する。音楽再生ソフトの基礎的な使い方を理解する。						
評価方法と基準	■評価方法 出席率50% 期末テスト50% ■評価基準 授業への取り組む姿勢。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	演習にて使用する機材の取り扱い方法	
2		講義・演習	PAミキサーの使い方・演習	
3		講義・演習	CDデッキの使い方・演習	
4		講義・演習	朗読劇を通して学習したスキルの実践	
5		講義・演習	音楽再生ソフトの基礎-1A/朗読劇を通して学習したスキルの実践	
6		講義・演習	音楽再生ソフトの基礎-1B/朗読劇を通して学習したスキルの実践	
7		講義・演習	音楽再生ソフトの基礎-2A/朗読劇を通して学習したスキルの実践	
8		講義・演習	音楽再生ソフトの基礎-2B/朗読劇を通して学習したスキルの実践	
9		講義・演習	音楽再生ソフトの基礎-3A/朗読劇を通して学習したスキルの実践	
10		講義・演習	音楽再生ソフトの基礎-3B/朗読劇を通して学習したスキルの実践	
11		講義・演習	IEMの体験-1	
12		講義・演習	IEMの体験-2	
13		講義・演習	期末試験	
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

東京ダンス・俳優&舞台芸術専門学校

科目名	劇場技術B(3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	左右田
		授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
学科・専攻	メディア&テクノロジー科(昼間部二)						
教員の略歴	音響業界歴41年 音響講師歴21年 有限会社バンデロー代表取締役						
授業の学習 内容	将来、自主公演や劇団等の音響係になった際、より効果的に音を扱えるようになる為の基礎講座。音響機器を使用し、自分たちでオペレーションをやる。演劇における音響の基本を学び、演出効果としての音の活用方法を学ぶ。						
到達目標	音響の基本的な仕組みを理解する。音楽再生ソフトの基礎的な使い方を理解する。						
評価方法と基準	■評価方法 出席率50% 期末テスト50% ■評価基準 授業への取り組み姿勢。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	演習にて使用する機材の取り扱い方法	
2		講義・演習	PAミキサーの使い方・演習	
3		講義・演習	CDデッキの使い方・演習	
4		講義・演習	朗読劇を通して学習したスキルの実践	
5		講義・演習	音楽再生ソフトの基礎-1A/朗読劇を通して学習したスキルの実践	
6		講義・演習	音楽再生ソフトの基礎-1B/朗読劇を通して学習したスキルの実践	
7		講義・演習	音楽再生ソフトの基礎-2A/朗読劇を通して学習したスキルの実践	
8		講義・演習	音楽再生ソフトの基礎-2B/朗読劇を通して学習したスキルの実践	
9		講義・演習	音楽再生ソフトの基礎-3A/朗読劇を通して学習したスキルの実践	
10		講義・演習	音楽再生ソフトの基礎-3B/朗読劇を通して学習したスキルの実践	
11		講義・演習	IEMの体験-1	
12		講義・演習	IEMの体験-2	
13		講義・演習	期末試験	
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

東京ダンス・俳優&舞台芸術専門学校

科目名	劇場技術B(4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	左右田
学科・専攻	メディア & テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	音響業界歴41年 音響講師歴21年 有限会社パンデロー代表取締役						
授業の学習 内容	将来、自主公演や劇団等の音響係になった際、より効果的に音を扱えるようになる為の基礎講座。音響機器を使用し、自分たちでオペレーションをやってみる。演劇における音響の基本を学び、演出効果としての音の活用方法を学ぶ。						
到達目標	音響の基本的な仕組みを理解する。音楽再生ソフトの基礎的な使い方を理解する。						
評価方法と基準	■評価方法 出席率50% 期末テスト50% ■評価基準 授業への取り組む姿勢。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	演習にて使用する機材の取り扱い方法	
2		講義・演習	PAミキサーの使い方・演習	
3		講義・演習	CDデッキの使い方・演習	
4		講義・演習	朗読劇を通して学習したスキルの実践	
5		講義・演習	音楽再生ソフトの基礎-1A/朗読劇を通して学習したスキルの実践	
6		講義・演習	音楽再生ソフトの基礎-1B/朗読劇を通して学習したスキルの実践	
7		講義・演習	音楽再生ソフトの基礎-2A/朗読劇を通して学習したスキルの実践	
8		講義・演習	音楽再生ソフトの基礎-2B/朗読劇を通して学習したスキルの実践	
9		講義・演習	音楽再生ソフトの基礎-3A/朗読劇を通して学習したスキルの実践	
10		講義・演習	音楽再生ソフトの基礎-3B/朗読劇を通して学習したスキルの実践	
11		講義・演習	IEMの体験-1	
12		講義・演習	IEMの体験-2	
13		講義・演習	期末試験	
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

東京ダンス・俳優＆舞台芸術専門学校

科目名	映画監督(3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	乙木勇人
学科・専攻	メディア＆テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	俳優として活動する他、監督としても自身でプロデュースを手がけるなどマルチに活動する。監督作品である映画「神と恩送り、」では東京、千葉、名古屋、京都、神戸で上映され第2回スポットライト映画祭では観客賞を受賞した。						
授業の学習 内容	現代のエンターテインメントの世界でたたかうために、0～1を生む力をつける。 映像・映画・俳優 科目との関係、 0～1を生む力がエンターテインメントの世界ではとても求められるから。						
到達目標	自分たちで考えて、0から映画を製作する。 (脚本、監督、編集、出演、映画祭エントリーまで)						
評価方法と基準	出席率(100%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	短編映画の作り方＆目標設定	なし
2		演習	アイデア出し、役割決め	なし
3		演習	ログライン制作	なし
4		演習	脚本会議	なし
5		演習	ロケハン、キャスティング	なし
6		演習	小道具と衣装決め、制作	なし
7		演習	脚本会議、芝居稽古	なし
8		演習	脚本会議、芝居稽古	なし
9		演習	本編撮影	なし
10		演習	本編撮影	なし
11		演習	作品編集	なし
12		演習	作品編集	なし
13		演習	作品鑑賞・前期まとめ	なし
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	映画監督(4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	乙木勇人
	学科・専攻	メディア＆テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)		
教員の略歴	俳優として活動する他、監督としても自身でプロデュースを手がけるなどマルチに活動する。監督作品である映画「神と恩送り、」では東京、千葉、名古屋、京都、神戸で上映され第2回スポットライト映画祭では観客賞を受賞した。						
授業の学習 内容	現代のエンターテインメントの世界でたたかうために、0～1を生む力をつける。 映像・映画・俳優 科目との関係、 0～1を生む力がエンターテインメントの世界ではとても求められるから。						
到達目標	自分たちで考えて、0から映画を製作する。 (脚本、監督、編集、出演、映画祭エントリーまで)						
評価方法と基準	出席率(100%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	短編映画の作り方＆目標設定	なし
2		演習	アイデア出し、役割決め	なし
3		演習	ログライン制作	なし
4		演習	脚本会議	なし
5		演習	ロケハン、キャスティング	なし
6		演習	小道具と衣装決め、制作	なし
7		演習	脚本会議、芝居稽古	なし
8		演習	脚本会議、芝居稽古	なし
9		演習	本編撮影	なし
10		演習	本編撮影	なし
11		演習	作品編集	なし
12		演習	作品編集	なし
13		演習	作品鑑賞・後期まとめ	なし
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	JAZZA(5)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	久次亜希子
		授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
学科・専攻	メディア &テクノロジー科(昼間部二)						
教員の略歴	バレエを5歳から、ジャズダンスを16歳から始める。高校を卒業後、国内にしながら数々のアメリカ人講師のクラスを受け続け、1995年渡米。LAでも様々なクラスを受け、経験と知識を増やす。帰国後は作品作りと並行して関東だけにとどまらず、関西の専門学校などでもダンサーの育成に努める。						
授業の学習 内容	バレエの基礎とジャズの基礎を体に叩き込むことで、2つの違いと共通点を理解し、踊りやすい体を作っていくそれらを生かして踊れるようになる。						
到達目標	基礎が生み出す自由をたくさん見つけていく						
評価方法と基準	出席率 40% 実技テスト60%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	ウォームアップの確認①	
2		講義・演習	振りをまずは正確ではなくても覚えることができる	
3		講義・演習	ウォームアップの確認②	
4		講義・演習	足の甲をしっかりと使えるようになる	
5		講義・演習	足を緩めずにルルベバランスができる	
6		講義・演習	正確な足のポジションにいける	
7		講義・演習	片足のバランスが安定する	
8		講義・演習	ゆっくりな体重移動を行える	
9		講義・演習	素早く体重移動ができる	
10		講義・演習	足の裏を使い始める	
11		講義・演習	足音せず踊ることができる	
12		講義・演習	テスト	
13		講義・演習	1人で踊ることができる	
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			色々なジャンルのエンターテインメントの研究	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	JAZZA(6)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	久次亜希子
学科・専攻	メディア&テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	バレエを5歳から、ジャズダンスを16歳から始める。高校を卒業後、国内にいながら数々のアメリカ人講師のクラスを受け続け、1995年渡米。LAでも様々なクラスを受け、経験と知識を増やす。帰国後は作品作りと並行して関東だけにとどまらず、関西の専門学校などでもダンサーの育成に努める。						
授業の学習 内容	ダンサーを職業とする為に必要な、技術・心構え・コミュニケーション力を授業内容全般を通して学んでいく。身体を鍛え抜く事で精神力も鍛え、社会人として必要なマナーも学んで行く。業界で必要とされる人材の研究。						
到達目標	自身の個性を、自身のダンススキルで表現出来るようになる。将来の目標としている分野に進んで行けるよう、自身で考え行動して行ける人物になる。協調性を磨き良好なチームワークを体現する。						
評価方法と基準	定期テスト70%・出席率30%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		実習	JAZZ基礎・筋トレ・ターン&ジャンプ・コレオ	授業の内容を復習しておくこと
2		実習	JAZZ基礎・筋トレ・ターン&ジャンプ・コレオ	授業の内容を復習しておくこと
3		実習	JAZZ基礎・筋トレ・ターン&ジャンプ・コレオ	授業の内容を復習しておくこと
4		実習	JAZZ基礎・筋トレ・ターン&ジャンプ・コレオ	授業の内容を復習しておくこと
5		実習	JAZZ基礎・筋トレ・ターン&ジャンプ・コレオ	授業の内容を復習しておくこと
6		実習	JAZZ基礎・筋トレ・ターン&ジャンプ・コレオ	授業の内容を復習しておくこと
7		実習	JAZZ基礎・筋トレ・ターン&ジャンプ・コレオ	授業の内容を復習しておくこと
8		実習	JAZZ基礎・筋トレ・ターン&ジャンプ・コレオ	授業の内容を復習しておくこと
9		実習	JAZZ基礎・筋トレ・ターン&ジャンプ・コレオ	授業の内容を復習しておくこと
10		実習	JAZZ基礎・筋トレ・ターン&ジャンプ・コレオ	授業の内容を復習しておくこと
11		実習	JAZZ基礎・筋トレ・ターン&ジャンプ・コレオ	授業の内容を復習しておくこと
12		実習	定期テスト	授業の内容を復習しておくこと
13		実習	後期まとめ	授業の内容を復習しておくこと
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			色々なジャンルのエンターテイメントの研究	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	JAZZB(5)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	久次亜希子		
		授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位				
学科・専攻	メディア＆テクノロジー科(昼間部二)								
教員の略歴	バレエを5歳から、ジャズダンスを16歳から始める。高校を卒業後、国内にしながら数々のアメリカ人講師のクラスを受け続け、1995年渡米。LAでも様々なクラスを受け、経験と知識を増やす。帰国後は作品作りと並行して関東だけにとどまらず、関西の専門学校などでもダンサーの育成に努める。								
授業の学習 内容	無駄のない体重移動ができ、クオリティの高いダンスを踊ることができる								
到達目標	ダンスの美しさの意味を理解し、実行できる								
評価方法と基準	出席率40% 実技テスト60%								

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	アームスの起動を理解している	授業の内容を復習しておくこと
2		講義・演習	正しいポジションに足が出せる	授業の内容を復習しておくこと
3		講義・演習	プリエを生かして踊ることができる	授業の内容を復習しておくこと
4		講義・演習	踊りの最中にぶれることなく止まることができる	授業の内容を復習しておくこと
5		講義・演習	スムーズにテクニクを入れることができる	授業の内容を復習しておくこと
6		講義・演習	足音をさせずに着地ができる	授業の内容を復習しておくこと
7		講義・演習	無理な力なく回ることができる	授業の内容を復習しておくこと
8		講義・演習	振りを鏡無しで踊ることができる	授業の内容を復習しておくこと
9		講義・演習	振りをシンメトリーで踊ることができる	授業の内容を復習しておくこと
10		講義・演習	曲のテンポが変わっても対処できる	授業の内容を復習しておくこと
11		講義・演習	人に振りを教えることができる	授業の内容を復習しておくこと
12		講義・演習	テスト	授業の内容を復習しておくこと
13		講義・演習	はじめての振りでも自分なりの表現ができる	授業の内容を復習しておくこと
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			色々なジャンルのエンターテイメントの研究	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	JAZZB(6)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	松村武司
学科・専攻	メディア&テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	「地球ゴージャス」ミュージカル出演・「木村カエラ」バックダンサー・「サカナクション」ダンサー						
授業の学習 内容	ダンサーを職業とする為に必要な、技術・心構え・コミュニケーション力を授業内容全般を通して学んでいく。 身体を鍛え抜く事で精神力も鍛え、社会人として必要なマナーも学んで行く。業界で必要とされる人材の研究。						
到達目標	自身の個性を、自身のダンススキルで表現出来るようになる。将来の目標としている分野に進んで行けるよう、自身で考え行動して行ける人物になる。協調性を磨き良好なチームワークを体現する。						
評価方法と基準	定期テスト70%・出席率30%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		実習	JAZZ基礎・筋トレ・ターン&ジャンプ・コレオ	ストレッチ、振付練習、スタイルの研究
2		実習	JAZZ基礎・筋トレ・ターン&ジャンプ・コレオ	ストレッチ、振付練習、スタイルの研究
3		実習	JAZZ基礎・筋トレ・ターン&ジャンプ・コレオ	ストレッチ、振付練習、スタイルの研究
4		実習	JAZZ基礎・筋トレ・ターン&ジャンプ・コレオ	ストレッチ、振付練習、スタイルの研究
5		実習	JAZZ基礎・筋トレ・ターン&ジャンプ・コレオ	ストレッチ、振付練習、スタイルの研究
6		実習	JAZZ基礎・筋トレ・ターン&ジャンプ・コレオ	ストレッチ、振付練習、スタイルの研究
7		実習	JAZZ基礎・筋トレ・ターン&ジャンプ・コレオ	ストレッチ、振付練習、スタイルの研究
8		実習	JAZZ基礎・筋トレ・ターン&ジャンプ・コレオ	ストレッチ、振付練習、スタイルの研究
9		実習	JAZZ基礎・筋トレ・ターン&ジャンプ・コレオ	ストレッチ、振付練習、スタイルの研究
10		実習	JAZZ基礎・筋トレ・ターン&ジャンプ・コレオ	ストレッチ、振付練習、スタイルの研究
11		実習	JAZZ基礎・筋トレ・ターン&ジャンプ・コレオ	ストレッチ、振付練習、スタイルの研究
12		実習	定期テスト	自身の踊りの研究
13		実習	後期まとめ	次年度に向けての目標を立てる
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			色々なジャンルのエンターテインメントの研究	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	バレエA(5)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	秋山かおる
学科・専攻	メディア & テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	日本バレエ協会会員 プログレッシブバレエテクニック認定講師						
授業の学習 内容	◎クラシックバレエの基礎を学ぶ事を通し、ダンサーとしての筋力、姿勢、柔軟性、音楽性を養う ◎バレエのクラスレッスンの特性として「右からやった事は左から、前からやった事は後ろからも同じ動きを必ず繰り返す 内容となっており、レッスンを重ねる事で「自分の身体・筋肉を自由にコントロールして踊る」ことを身に着ける ◎JAZZやコンテンポラリーなど、他ジャンルのダンス振付の際にも「バレエ用語＝動きの名称」が使われる事も多い為、レッス ンを通して用語も学ぶ ◎具体的なレッスン内容は パーレッスン(約50分)＋センタープラクティス(約40分) ※ストレッチは慣れるまでは授業時間内で実施→ストレッチの種類ややり方を理解できたら授業前に自分でストレッチをし、パー レッスンから授業開始となります						
到達目標	①パーレッスン(プリエからグランバットマンまで)は前期に学んだ基礎を元に応用的なバにも挑戦する ②センタープラクティスについては前期に学んだ基礎を活かし、グランワルツまで幅広く踊れるようになる ③自分自身の骨格・筋肉の質や左右差を理解し「ケガをしないダンサー」の身体づくりの為のレッスンが出来るようになる						
評価方法と基準	実技試験60%(実技) 出席率40% ※技術の向上だけでなく、毎回の授業に臨む姿勢も含めて評価します。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	ストレッチの仕方、ポジションとパーレッスン	ストレッチとポジションの復習
2		演習	パーレッスン(ターンアウトの必要性を学ぶ)	ストレッチ+大腿骨の動かし方を研究
3		演習	バー+センターのアダージオとタンジュ	ストレッチ+左右の軸足の感覚を研究
4		演習	前回の内容にピルエットの基礎を追加	ストレッチ+ルルベの復習
5		演習	前回の内容にスモールジャンプを追加	ストレッチ+アームス(腕)の使い方を研究
6		演習	前回の内容にピケターンを追加	ストレッチ+ターンにおける首のつけ方を復習
7		演習	前回の内容にアレグロを追加	〃
8		演習	バー+センターは前回の内容に応用を加える	ストレッチ+顔のつけ方(方向)の復習
9		演習	バー+センターは前回の内容に応用を加える	ストレッチ+自分の弱点は何かを考え復習
10		演習	バー+センターは前回の内容に応用を加える	〃
11		演習	パーレッスン+試験課題としてのセンター	ストレッチ+試験課題の復習
12		演習	パーレッスン+試験課題としてのセンター	〃
13		演習	パーレッスン+ 実技試験	ストレッチ+前期で覚えた用語を確認・復習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			スタジオに入ったら授業が始まる前に自分たちでバーを設置し、各自でストレッチを始めること	
【使用教科書・教材・参考書】				
レッスン時の服装・髪型については教務の先生より詳しい指示がありますので、それに従って下さい				

科目名	バレエA(6)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	秋山かおる
学科・専攻	メディア＆テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	日本バレエ協会会員 プログレッシブバレエテクニック認定講師						
授業の学習 内容	◎クラシックバレエの基礎を学ぶ事を通し、ダンサーとしての筋力、姿勢、柔軟性、音楽性を養う ◎バレエのクラスレッスンの特性として「右からやった事は左から、前からやった事は後ろからも同じ動きを必ず繰り返す内容となっており、レッスンを重ねる事で「自分の身体・筋肉を自由にコントロールして踊る」ことを身に着ける ◎他ジャンルのダンス振付の際にも「バレエ用語＝動きの名称」が使われる事も多い為、レッスンを通して用語も学ぶ ◎具体的なレッスン内容は パーレッスン(約50分)＋センタープラクティス(約40分) ※前期より、音楽の使い方やステップの幅に応用性をもたせてゆく						
到達目標	①パーレッスン(プリエからグランバットマンまで)は前期に学んだ基礎を元に応用的なバにも挑戦する ②センタープラクティスについては前期に学んだ基礎を活かし、グランワルツまで幅広く踊れるようになる ③自分自身の骨格・筋肉の質や左右差を理解し「ケガをしないダンサー」の身体づくりの為のレッスンが出来るようになる						
評価方法及び基準	実技試験60%(実技) 出席率40% ※技術の向上だけでなく、毎回の授業に臨む姿勢も含めて評価します。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	前期の内容＋グランワルツについて	ストレッチ＋ステップの復習
2		演習	前回の内容＋グランワルツ(ダイナミックに)	ストレッチ＋ステップの復習
3		演習	パー＋センター(ターンに重点)	ストレッチ＋軸足ルルベの復習
4		演習	パー＋センター(アダージオに重点)	ストレッチ＋プロムナードの仕組みを復習
5		演習	パー＋センター(アレグロに重点)	ストレッチ＋アームス(腕)の使い方を研究
6		演習	パー＋センター(ジャンプに重点)	ストレッチ＋アントルラセの仕組みを復習
7		演習	パー＋センター(ジャンプに重点)	〃
8		演習	パー＋センターは今までの内容に応用を加える	ストレッチ＋顔のつけ方(方向)の復習
9		演習	パー＋センターは今までの内容に応用を加える	ストレッチ＋アームス(腕)の復習
10		演習	パーレッスン＋試験課題としてのセンター	ストレッチ＋試験課題の復習(表現の研究)
11		演習	パーレッスン＋試験課題としてのセンター	ストレッチ＋試験課題の復習(音楽性を踏まえ)
12		演習	パーレッスン＋ 実技試験	ストレッチ＋自分の弱点は何かを考えての復習
13		演習	パーレッスン＋センター	一年間のまとめとしてのクラスレッスン
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			スタジオに入ったら授業が始まる前に自分たちでバーを設置し、各自でストレッチを始めること	
【使用教科書・教材・参考書】				
レッスン時の服装・髪型については教務の先生より詳しい指示がありますので、それに従って下さい				

科目名	バレエA(5)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	浅越葉菜		
		授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位				
学科・専攻	メディア＆テクノロジー科(昼間部二)								
教員の略歴	クラシックバレエ、コンテンポラリーダンス、ジャズダンスを学ぶ。関東大手テーマパーク、劇団四季等様々な舞台で活躍。現在は舞台に出演するかたわら、バレエ、ジャズ等の指導者、振付師として様々なイベントで作品を発表している。								
授業の学習 内容	①最大限に身体を使い、身体表現を行う為にバレエを学ぶ。 ②他のダンスにも繋がる身体を作る。 ③自分の身体を知り、自分との向き合い方を学んでほしい。 ④ストレッチ、バーレッスン、センターレッスンを通して、身体作り、精神の向上、テクニックの向上を目指す。								
到達目標	自分に向き合い、身体の気付きを持つ。 他ジャンルに繋がるバレエを身につける。								
評価方法と基準	出席率:60% テスト:40%								

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	他ジャンルに繋がるバレエとは。	前期の目標設定、基礎の見直し
2		講義・演習	自分の骨格を知り、正しい立ち方、姿勢を見直す。	自分の体型、骨格を知り、長所短所を知る
3		講義・演習	バーレッスンを通して身体のラインを生む	自分に合ったストレッチ、トレーニングを知り、習慣的に実践する
4		講義・演習	床との関係、足裏、骨盤の確認	丹田、体幹トレーニング強化
5		講義・演習	上体との運動、音楽性の向上	様々なジャンルの音楽を聴く
6		講義・演習	テクニック強化(重心、体重移動)	パの確認、復習、練習
7		講義・演習	テクニック強化(ビルエット、ターン)	パの確認、復習、練習
8		講義・演習	テクニック強化(ジャンプ、ワルツ強化)	音楽の使い方の研究
9		講義・演習	音楽を身体で表現する	身体のライン、魅せ方の研究
10		講義・演習	前期まとめ(身体の変化への気付き)	客観的に自分を見つめる
11		講義・演習	前期まとめ2(身体のラインの見直し)	出来ること、出来ないことを明確にする
12		講義・演習	前期まとめ3(音楽性の向上、テクニック強化)口	自分に合ったストレッチ、トレーニングの見直し
13		講義・演習	後期に向けての課題(テクニック応用)	前期の復習、後期への目標設定
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			授業前後のストレッチと筋力トレーニング。授業内容や授業中に気付いたことをノート等へ書き残す事。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	バレエA(6)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	浅越葉菜
学科・専攻	メディア＆テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	クラシックバレエ、コンテンポラリーダンス、ジャズダンスを学ぶ。関東大手テーマパーク、劇団四季等様々な舞台で活躍。現在は舞台に出演するかたわら、バレエ、ジャズ等の指導者、振付師として様々なイベントで作品を発表している。						
授業の学習 内容	①最大限に身体を使い、身体表現を行う為にバレエを学ぶ。 ②他のダンスにも繋がる身体を作る。 ③自分の身体を知り、自分との向き合い方を学んでほしい。 ④ストレッチ、バーレッスン、センターレッスンを通して、身体作り、精神の向上、テクニックの向上を目指す。						
到達目標	自分に向き合い、身体の気付きを持つ。 他ジャンルに繋がるバレエを身につける。						
評価方法と基準	出席率:60% テスト:40%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	前期の復習、姿勢立ち方の見直し	各自後期の目標設定
2		講義・演習	基礎の見直し、反復練習	自分に合ったストレッチ、トレーニングを習慣的に実践する
3		講義・演習	基礎の見直し、反復練習2	背骨、体幹を感じるトレーニング
4		講義・演習	テクニック強化(ターン、ジャンプ)	足裏、床を感じるトレーニング
5		講義・演習	身体のライン作り(上体、アームス)	上体の可動域の拡大、ストレッチの強化
6		講義・演習	身体のライン作り(足さばき、上体との連動)	強くしなやかな身体作り
7		講義・演習	音楽を表現する身体作り	様々なジャンルの音楽を聴く
8		講義・演習	音楽を表現する身体作り2	身体表現とは何か、自分なりに考える
9		講義・演習	センターレッスン応用(テクニック強化)	出来ること出来ないことを明確にする
10		講義・演習	センターレッスン応用2(テクニック強化)	長所短所を客観的に捉える
11		講義・演習	後期まとめ 1	バレエ用語の復習、確認
12		講義・演習	後期まとめ 2	バレエ用語の復習、確認
13		講義・演習	一年間のまとめ(基礎から応用まで)	一年間の成果、反省をし、今後の目標を設定する
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			授業前後のストレッチと筋力トレーニング。授業内容や授業中に気付いたことをノート等へ書き残しておく。	
【使用教科書・教材・参考書】				
レオタード、バレエシューズ				

科目名	バレエB(5)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	下島功佐
学科・専攻	メディア＆テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	ロシアワガノフバレエアカデミー留学卒業、元谷桃子バレエ団ソリスト						
授業の学習 内容	① バレエは、ダンス全般及び演技に共通して通用する部分が非常に多いので、将来、ダンス関係及び舞台関係への就職を少しでも考えているならば必須です。 ② ダンス全般の授業と関係します。しなやかで強い筋肉、軸のぶれない体幹、美しい身体のライン、音の聞き方感じ方、以上の体得という位置付けです。 ③ バレエは専門的且つ基礎的で地味な練習が多いが毎時間繰り返す事で精神力も鍛え、自分の身体、自分の可能性としっかりと向き合い、卒業後の進路の可能性を広げていってほしい。 ①～③をふまえて 柔軟性を高めるためのストレッチ、体幹強化とバレエの基礎知識習得の為のバーレッスン、バレエのステップへの理解を深める為、ジャンプ、回転も多用したセンターレッスン(バーレッスン、センターレッスン、共に音楽に合わせて行う)						
到達目標	当たり前ではあるが、休まず毎時間出席する事が第1目標。最終的にはバレエのポジション、ステップコンビネーションの説明の理解が出来、尚且つ実践できるようになる。						
評価方法と基準	定期テストの点数と普段の授業への取り組み方を総合的に評価						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・発表	腹筋、背筋、腹斜間の筋力強化の為のトレーニング バーレッスン、手のポジション(アンバー、アンナヴァン、 アンオー、アラセゴン)足のポジション(1～6番)の説明を 重点的に	知っているストレッチをやっておく。
2		講義・発表	プリエ:身体をまっすぐにたてる意識を持つ事を重点的 に。	1で学んだストレッチ、筋力トレーニング。 手のポジション、足のポジションの復習。
3		講義・発表	タンジュとジュテ:自分の前横後ろへ身体がぶれずに真っ 直ぐに足を出せる事を重点的に。	2で学んだストレッチ、筋力トレーニング。プリエの復習。
4		講義・発表	タンジュとジュテ:足の指、ドゥミをきちんと使えるように意 識することを重点的に。	3で学んだストレッチ、筋力トレーニング。 タンジュ、ジュテの復習。
5		講義・発表	ロンデジャンプ:前横後ろのタンジュを連続して繋げて 動かす事を覚える、動かすときに身体、腰がブレない事 を意識して。パッセの説明。	4で学んだストレッチ、筋力トレーニング。 タンジュ、ジュテの復習。
6		講義・発表	フォンデュ:片足のプリエ、及びクベの形を理解、習得	5で学んだストレッチ、筋力トレーニング。 ロンデジャンプ、パッセの復習。
7		講義・発表	フラッペ:体幹がブレずに音、リズムに合わせてはつきりと 素早く足を動かせる。	6で学んだストレッチ、筋力トレーニング。 フォンデュ、クベの復習
8		講義・発表	アダジオとグランバットマン:タンジュを通して足を高く上 げ、キープ出来るように。素早く高く上げられるように。	7で学んだストレッチ、筋力トレーニング。 フラッペの復習。
9		講義・発表	アダジオとグランバットマン:デベロップの習得。	8で学んだストレッチ、筋力トレーニング。 アダジオ、グランバットマンの復習。
10		講義・発表	ルルベの確認。	9で学んだストレッチ、筋力トレーニング。 デベロップの復習。
11		講義・発表	スシュとエシャッペの説明。	10で学んだストレッチ、筋力トレーニング。 ルルベの復習。
12		講義・発表	シャンジュマンの説明。	11で学んだストレッチ、筋力トレーニング。 スシュとエシャッペの復習。
13		試験	12までのバーレッスン及びセンターレッスンの内容に対 する理解力の確認。	12で学んだストレッチ、筋力トレーニング。 シャンジュマンの復習。
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	バレエB(6)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	下島功佐
学科・専攻	メディア＆テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	ロシアワガノワバレエアカデミー留学卒業、元谷桃子バレエ団ソリスト						
授業の学習 内容	① バレエは、ダンス全般及び演技に共通して通用する部分が非常に多いので、将来、ダンス関係及び舞台関係への就職を少しでも考えているならば必須です。 ② ダンス全般の授業と関係します。しなやかで強い筋肉、軸のぶれない体幹、美しい身体のライン、音の聞き方感じ方、以上の体得という位置付けです。 ③ バレエは専門的且つ基礎的で地味な練習が多いが毎時間繰り返す事で精神力も鍛え、自分の身体、自分の可能性としっかりと向き合い、卒業後の進路の可能性を広げていってほしい。 ①～③をふまえて 柔軟性を高めるためのストレッチ、体幹強化とバレエの基礎知識習得の為のバーレッスン、バレエのステップへの理解を深める為、ジャンプ、回転も多用したセンターレッスン(バーレッスン、センターレッスン、共に音楽に合わせて行う)						
到達目標	当たり前ではあるが、休まず毎時間出席する事が第1目標。最終的にはバレエのポジション、ステップコンビネーションの説明の理解が出来、尚且つ実践できるようになる。						
評価方法と基準	定期テストの点数と普段の授業への取り組み方を総合的に評価						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)	
1		講義・発表	センターレッスンでの角度、身体の向きの説明、エファセ、クロワゼ、エカルテ等。	前期に学んだストレッチ、筋力トレーニング。	
2		講義・発表	バーを使わずに体幹を保ってタンジュ、グランバットマンと片足でパッセのバランス。	1で学んだストレッチ、筋力トレーニング。センターレッスンでの身体の向き、角度の復習。	
3		講義・発表	回転をする時の首から上、顔の使い方、アンデダンとアンデオールのビルエットの説明と実践。	2で学んだストレッチ、筋力トレーニング。センターでのタンジュ、グランバットマン、パッセのやり方の復習。	
4		講義・発表	バーを使わずにアダジオ、デベロップの実践。	3で学んだストレッチ、筋力トレーニング。ビルエットのアンデオールとアンデダンの違いの復習。	
5		講義・発表	センターでのスシュとエシヤツペ、スモールジャンプ(ジャンジュマンやスーブルソーなど)前後左右に動かないその場でやるもの、の説明と実践。	4で学んだストレッチ、筋力トレーニング。センターレッスンでのアダジオの復習。	
6		講義・発表	グリッサードとアッサンブレの説明と実践。	5で学んだストレッチ、筋力トレーニング。スシュ、エシヤツペとスモールジャンプの復習。	
7		講義・発表	5.6.7の内容を応用したコンビネーション	6で学んだストレッチ、筋力トレーニング。グリッサードとアッサンブレの復習。	
8		講義・発表	大きなジャンプ、グランワルツ、基本的なコンビネーションで。	7で学んだストレッチ、筋力トレーニング。アレグロジャンプの復習。	
9		講義・発表	グランワルツを少し複雑なコンビネーションで。	8で学んだストレッチ、筋力トレーニング。グランワルツの復習。	
10		講義・発表	シェネ、ピケアンデダン等、早い回転の連続技の説明と実践。	9で学んだストレッチ、筋力トレーニング。グランワルツの復習。	
11		講義・発表	シェネとピケアンデダンのコンビネーション。	10で学んだストレッチ、筋力トレーニング。シェネとピケアンデダンの復習。	
12		講義・発表	ジャンプとターンのコンビネーション。	11で学んだストレッチ、筋力トレーニング。連続回転コンビネーションの復習。	
13		試験	後期12までのバーレッスン及びセンターレッスンの内容に対する理解力の確認	12で学んだストレッチ、筋力トレーニング。今までに習ったコンビネーションや回転技が出来るか試してみる	
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出	
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出	
準備学習 時間外学習					
【使用教科書・教材・参考書】					

科目名	コンテンポラリー(5)	必修 選択	選択必修	年次	3	担当教員	能美 健志
		授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
学科・専攻	メディア & テクノロジー科(昼間部二)						
教員の略歴	コンテンポラリーダンス教師・振付家・ダンサー						
授業の学習 内容	①正しい身体のアライメント、思考の使い方の向上。②理に適った動き(骨・関節と筋肉の正しい連動)の習得。③基礎の論理的思考と応用のもと、身体を動かす事でテーマパーク、ジャズダンス等に応用可能な身体を目指す。④コンテンポラリーダンスの動きの質を高め、アカデミックでダイナミックな動きを習得する。更に振付構成法の講義を行う。						
到達目標	上半身の関節隙間の開放を学ぶ事で、スムーズに上体を動かせる様になる。下半身の正しい使い方、歩幅を広く使える様になる事でダイナミックなダンスを習得できる。また、論理的思考を身につけていく事で、動きの応用を目指す。振付構成法の講義を受講すると振付を論理的に考えるようになり、他のダンス振付に対応力が身に付く。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点。または、平常点にて採点。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義:演習	①成長する為の心構え、身体の骨とインナーマッスルの確	1年次の内容確認またはシラバス等を見て準備する。
2		講義:演習	②腹筋群、内転筋群、つま先、MP関節等の理解。コンビネ	前回授業復習(確認、理解)・ストレッチ等
3		講義:演習	③フローア・センターエクササイズのレベルアップと新ステップの	前回授業復習(確認、理解)・ストレッチ等
4		講義:演習	④新ステップとコンビネーションの反復(②～③反復)	前回授業復習(確認、理解)・ストレッチ等
5		講義:演習	⑤新ステップとコンビネーションの反復(②～④反復)	前回授業復習(確認、理解)・ストレッチ等
6		講義:演習	⑥新ステップとコンビネーションの反復(②～⑤反復)	前回授業復習(確認、理解)・ストレッチ等
7		講義:演習	⑦新ステップの反復と新コンビネーションの応用(②～⑥反復)	前回授業復習(確認、理解)・ストレッチ等
8		講義:演習	⑧新ステップの反復と新コンビネーションの応用①(②～⑦反復)	前回授業復習(確認、理解)・ストレッチ等
9		講義:演習	⑨新ステップの反復と新コンビネーションの応用②(②～⑧反復)	前回授業復習(確認、理解)・ストレッチ等
10		講義:演習	⑩新ステップの反復と新コンビネーションの応用③(②～⑨反復)	前回授業復習(確認、理解)・ストレッチ等
11		講義:演習	振付構成法の講義(構成法の基本①時間軸変化とスペースの意味)	筆記用具持参。復習と理解。
12		講義:演習	振付構成法の講義(構成法の基本②動画からの構成読み取り)	筆記用具持参。復習と理解。
13		講義:演習	実技試験	試験結果の反省と今後の対策。
14		講義:演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義:演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			授業内容への理解と復習の継続で、自身のスキルアップ計画的に考える。ストレッチ等の反復。	
【使用教科書・教材・参考書】				
ドレスコードは体ラインがハッキリ見える物。裸足or靴下。				

東京ダンス・俳優&舞台芸術専門学校

科目名	コンテンポラリー(6)	必修 選択	選択必修	年次	3	担当教員	能美 健志
学科・専攻	メディア & テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	コンテンポラリーダンス教師・振付家・ダンサー						
授業の学習 内容	①正しい身体のアライメント、思考の使い方の向上。②理に適った動き(骨・関節と筋肉の正しい連動)の習得。③基礎の論理的思考と応用のもと、身体を動かす事でテーマパーク、ジャズダンス等に応用可能な身体を目指す。④コンテンポラリーダンスの動きの質を高め、アカデミックでダイナミックな動きを習得する。更に振付構成法の講義を行う。						
到達目標	上半身の関節隙間の開放を学ぶ事で、スムーズに上体を動かせる様になる。下半身の正しい使い方、歩幅を広く使える様になる事でダイナミックなダンスを習得できる。また、論理的思考を身につけていく事で、動きの応用を目指す。振付構成法の講義を受講すると振付を論理的に考えるようになり、他のダンス振付に対応力が身に付く。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点。または、平常点にて採点。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義:演習	①成長する 為の心構え、 身体 の骨と インナーマッスルの確	1年次の内容確認またはシラバス等を見て準備する。
2		講義:演習	②腹筋群、内転筋群、つま先、MP関節等の理解。コンビネ	前回授業復習(確認、理解)・ストレッチ等
3		講義:演習	③フロアー・センターエクササイズのレベルアップと新ステップの	前回授業復習(確認、理解)・ストレッチ等
4		講義:演習	④新ステップとコンビネーションの反復(②～③反復)	前回授業復習(確認、理解)・ストレッチ等
5		講義:演習	⑤新ステップとコンビネーションの反復(②～④反復)	前回授業復習(確認、理解)・ストレッチ等
6		講義:演習	⑥新ステップとコンビネーションの反復(②～⑤反復)	前回授業復習(確認、理解)・ストレッチ等
7		講義:演習	⑦新ステップの反復と新コンビネーションの応用(②～⑥反復)	前回授業復習(確認、理解)・ストレッチ等
8		講義:演習	⑧新ステップの反復と新コンビネーションの応用①(②～⑦反復)	前回授業復習(確認、理解)・ストレッチ等
9		講義:演習	⑨新ステップの反復と新コンビネーションの応用②(②～⑧反復)	前回授業復習(確認、理解)・ストレッチ等
10		講義:演習	⑩新ステップの反復と新コンビネーションの応用③(②～⑨反復)	前回授業復習(確認、理解)・ストレッチ等
11		講義:演習	振付構成法の講義(構成法の基本①時間軸変化とスペースの意味)	筆記用具持参。復習と理解。
12		講義:演習	振付構成法の講義(構成法の基本②動画からの構成読み取り)	筆記用具持参。復習と理解。
13		講義:演習	実技試験	試験結果の反省と今後の対策。
14		講義:演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義:演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			授業内容への理解と復習の継続で、自身のスキルアップ計画的に考える。ストレッチ等の反復。	
【使用教科書・教材・参考書】				
ドレスコードは体ラインがハッキリ見える物。裸足or靴下。				

科目名	HIPHOP A(5)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	相沢圭祐
学科・コース	メディア＆テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)		
教員の略歴	ダンサー・講師						
授業の学習 内容	基礎となる身体の使い方や体力作りとステップ、表現トレーニング						
到達目標	自分の体の使い方を知り、タメや表現力を身に着ける						
評価方法と基準	実技テストによる採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	基礎トレーニング・リズム・振付	復習
2		講義・演習	基礎トレーニング・リズム・振付	復習
3		講義・演習	基礎トレーニング・リズム・振付	復習
4		講義・演習	基礎トレーニング・リズム・振付	復習
5		講義・演習	基礎トレーニング・リズム・振付	復習
6		講義・演習	基礎トレーニング・リズム応用・振付	復習
7		講義・演習	基礎トレーニング・リズム応用・振付	復習
8		講義・演習	基礎トレーニング・リズム応用・振付	復習
9		講義・演習	基礎トレーニング・リズム応用・振付	復習
10		講義・演習	基礎・ステップ・振付	復習
11		講義・演習	基礎・ステップ・振付	復習
12		講義・演習	基礎・ステップ・振付	復習
13		講義・演習	基礎・ステップ・振付	復習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	HIPHOP A(6)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	相沢圭祐
学科・コース	メディア＆テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)		
教員の略歴	ダンサー・講師						
授業の学習 内容	基礎となる身体の使い方や体力作りとステップ、表現トレーニング						
到達目標	自分の体の使い方を知り、タメや表現力を身に着ける						
評価方法と基準	実技テストによる採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	基礎トレーニング・リズム・振付	復習
2		講義・演習	基礎トレーニング・リズム・振付	復習
3		講義・演習	基礎トレーニング・リズム・振付	復習
4		講義・演習	基礎トレーニング・リズム・振付	復習
5		講義・演習	基礎トレーニング・リズム・振付	復習
6		講義・演習	基礎トレーニング・リズム応用・振付	復習
7		講義・演習	基礎トレーニング・リズム応用・振付	復習
8		講義・演習	基礎トレーニング・リズム応用・振付	復習
9		講義・演習	基礎トレーニング・リズム応用・振付	復習
10		講義・演習	基礎・ステップ・振付	復習
11		講義・演習	基礎・ステップ・振付	復習
12		講義・演習	基礎・ステップ・振付	復習
13		講義・演習	基礎・ステップ・振付	復習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	HIPHOP B(5)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	相沢圭祐
学科・コース	メディア＆テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)		
教員の略歴	ダンサー・講師						
授業の学習 内容	基礎となる身体の使い方や体力作りとステップ、表現トレーニング						
到達目標	自分の体の使い方を知り、タメや表現力を身に着ける						
評価方法と基準	実技テストによる採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	基礎トレーニング・リズム・振付	復習
2		講義・演習	基礎トレーニング・リズム・振付	復習
3		講義・演習	基礎トレーニング・リズム・振付	復習
4		講義・演習	基礎トレーニング・リズム・振付	復習
5		講義・演習	基礎トレーニング・リズム・振付	復習
6		講義・演習	基礎トレーニング・リズム応用・振付	復習
7		講義・演習	基礎トレーニング・リズム応用・振付	復習
8		講義・演習	基礎トレーニング・リズム応用・振付	復習
9		講義・演習	基礎トレーニング・リズム応用・振付	復習
10		講義・演習	基礎・ステップ・振付	復習
11		講義・演習	基礎・ステップ・振付	復習
12		講義・演習	基礎・ステップ・振付	復習
13		講義・演習	基礎・ステップ・振付	復習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	HIPHOP B(6)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	相沢圭祐
学科・コース	メディア＆テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)		
教員の略歴	ダンサー・講師						
授業の学習 内容	基礎となる身体の使い方や体力作りとステップ、表現トレーニング						
到達目標	自分の体の使い方を知り、タメや表現力を身に着ける						
評価方法と基準	実技テストによる採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	基礎トレーニング・リズム・振付	復習
2		講義・演習	基礎トレーニング・リズム・振付	復習
3		講義・演習	基礎トレーニング・リズム・振付	復習
4		講義・演習	基礎トレーニング・リズム・振付	復習
5		講義・演習	基礎トレーニング・リズム・振付	復習
6		講義・演習	基礎トレーニング・リズム応用・振付	復習
7		講義・演習	基礎トレーニング・リズム応用・振付	復習
8		講義・演習	基礎トレーニング・リズム応用・振付	復習
9		講義・演習	基礎トレーニング・リズム応用・振付	復習
10		講義・演習	基礎・ステップ・振付	復習
11		講義・演習	基礎・ステップ・振付	復習
12		講義・演習	基礎・ステップ・振付	復習
13		講義・演習	基礎・ステップ・振付	復習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	FREE STYLE A(5)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	田中英輔
学科・専攻	メディア&テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	アクション・スタントマンを経てテーマパークダンサー・アーティストのサポートダンサーなど						
授業の学習 内容	基本のリズム取りを45分間行い、その日のメインのステップを1～3つ程レクチャー。						
到達目標	音楽に乗れる身体、緩急やシルエットまで意識できるダンサーになる。						
評価方法と基準	授業態度、出席率、を元に実施試験でのダンス						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・発表	UPのリズム STEP3種 振付け	各自授業内容を復習
2		講義・発表	UPのリズム STEP3種 振付け	各自授業内容を復習
3		講義・発表	DOWNのリズム STEP3種 振付け	各自授業内容を復習
4		講義・発表	DOWNのリズム STEP3種 振付け	各自授業内容を復習
5		講義・発表	FRONTのリズム STEP3種 振付け	各自授業内容を復習
6		講義・発表	FRONTのリズム STEP3種 振付け	各自授業内容を復習
7		講義・発表	BACKのリズム STEP3種 振付け	各自授業内容を復習
8		講義・発表	BACKのリズム STEP3種 振付け	各自授業内容を復習
9		講義・発表	ALL MIX 長めの振付け＋@	各自授業内容を復習
10		講義・発表	ALL MIX 長めの振付け＋@	各自授業内容を復習
11		講義・発表	ALL MIX 長めの振付け＋@	各自授業内容を復習
12		講義・発表	8×2FREE DANCE 振り＋フォーメーション	各自授業内容を復習
13		講義・発表	総まとめ	各自授業内容を復習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			習ったSTEPを反復練習	
【使用教科書・教材・参考書】				

東京ダンス・俳優＆舞台芸術専門学校

科目名	FREE STYLE A(6)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	田中英輔
学科・専攻	メディア＆テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	アクション・スタントマンを経てテーマパークダンサー・アーティストのサポートダンサーなど						
授業の学習 内容	基本のリズム取りを45分間行い、その日のメインのステップを1～3つ程レクチャー。						
到達目標	音楽に乗れる身体、緩急やシルエットまで意識できるダンサーになる。						
評価方法と基準	授業態度、出席率、を元に実施試験でのダンス						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・発表	UPのリズム STEP3種 振付け	各自授業内容を復習
2		講義・発表	UPのリズム STEP3種 振付け	各自授業内容を復習
3		講義・発表	DOWNのリズム STEP3種 振付け	各自授業内容を復習
4		講義・発表	DOWNのリズム STEP3種 振付け	各自授業内容を復習
5		講義・発表	FRONTのリズム STEP3種 振付け	各自授業内容を復習
6		講義・発表	FRONTのリズム STEP3種 振付け	各自授業内容を復習
7		講義・発表	BACKのリズム STEP3種 振付け	各自授業内容を復習
8		講義・発表	BACKのリズム STEP3種 振付け	各自授業内容を復習
9		講義・発表	ALL MIX 長めの振付け＋@	各自授業内容を復習
10		講義・発表	ALL MIX 長めの振付け＋@	各自授業内容を復習
11		講義・発表	ALL MIX 長めの振付け＋@	各自授業内容を復習
12		講義・発表	8×2FREE DANCE 振り＋フォーメーション	各自授業内容を復習
13		講義・発表	総まとめ	各自授業内容を復習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			習ったSTEPを反復練習	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Free Style B(5)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	IORI SOMA
		授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2単位)		
学科・コース	メディア＆テクノロジー科(昼間部二)						
教員の略歴	アメリカ・ロサンゼルスでダンサーとして活動、日本ではWS、MV等出演						
授業の学習 内容	①日本にいても海外のスタイルを学べるため ②他のダンスにも応用できる技術を身に付ける ③世界でも活躍できるダンサー ④ストレッチ、アイソレーション、振り付けを通し、身体作りスキルの向上						
到達目標	基礎を学び、個々のダンススタイルを確立する						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	身体作り	筋力トレーニング
2		講義・演習	ストレッチ	自分の体の特徴を知る
3		講義・演習	アイソレーション	アイソレーションの復習
4		講義・演習	ストレッチ、アイソレーションの応用	応用の復習
5		講義・演習	コンビネーション	コンビネーション復習
6		講義・演習	カウントの取り方	授業内容の復習
7		講義・演習	音の取り方、感じ方	曲を聞いて音とカウントを意識する
8		講義・演習	身体の使い方	アイソレーションを意識する
9		講義・演習	音を取り入れた身体の使い方	音によって異なる身体の使い方を知る
10		講義・演習	重心、シルエットの運び方	自分の体と向き合い自分の癖を考える
11		講義・演習	振り付けと音の結びつき	洋楽の音・歌詞の意味を考える
12		講義・演習	力の強弱と振り付けの緩急	自分の個性に合わせた魅せ方を知る
13		講義・演習	テスト	これまでの授業の復習・今後の課題を見据える
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習		筋肉トレーニングを基盤とした授業内容の反復練習。また授業で扱った楽曲が洋楽である場合、英語の意味を自分で調べ日頃からの英語学習を心得る。		
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Free Style B(6)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	IORI SOMA
学科・コース	メディア &テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2単位)		
教員の略歴	アメリカ・ロサンゼルスでダンサーとして活動、日本ではWS、MV等出演						
授業の学習 内容	①日本にいても海外のスタイルを学べるため ②他のダンスにも応用できる技術を身に付ける ③世界でも活躍できるダンサー ④ストレッチ、アイソレーション、振り付けを通じ、身体作りスキルの向上						
到達目標	基礎を学び、個々のダンススタイルを確立する						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	身体作り	筋力トレーニング
2		講義・演習	ストレッチ	自分の体の特徴を知る
3		講義・演習	アイソレーション	アイソレーションの復習
4		講義・演習	ストレッチ、アイソレーションの応用	応用の復習
5		講義・演習	コンビネーション	コンビネーション復習
6		講義・演習	カウントの取り方	授業内容の復習
7		講義・演習	音の取り方、感じ方	曲を聞いて音とカウントを意識する
8		講義・演習	身体の使い方	アイソレーションを意識する
9		講義・演習	音を取り入れた身体の使い方	音によって異なる身体の使い方を知る
10		講義・演習	重心、シルエットの運び方	自分の体と向き合い自分の癖を考える
11		講義・演習	振り付けと音の結びつき	洋楽の音・歌詞の意味を考える
12		講義・演習	力の強弱と振り付けの緩急	自分の個性に合わせた魅せ方を知る
13		講義・演習	テスト	これまでの授業の復習・今後の課題を見据える
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			筋肉トレーニングを基礎とした授業内容の反復練習。また授業で扱った楽曲が洋楽である場合、英語の意味を自分で調べ日頃からの英語学習を心得る。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	インストラクター(5)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	目井 嵩浩
		授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
学科・専攻	メディア&テクノロジー科(昼間部二)						
教員の略歴							
授業の学習 内容	「興味を引きつけるダンスレッスンのノウハウ」と「ダンサーに最低限必要とされるモラルやマナー」について。どういったレッスンの進め方が、年齢別・経験別などにちゃんと伝えられるか、ポイントを分かりやすくレクチャー。感覚的ではなく、あくまでも理論的に「言葉」や「指導動作」について学んでいきます。						
到達目標	社会人として、ダンサーのプロとして、ダンスインストラクターとして、卒業後にすぐに活かせる「指導力」「知識」「振る舞い方」「提案力&創造力」を身に付けます。多方面の企業様やお客様に対する挨拶・礼儀、連絡、業務上必要とする請求書等の書類のやり取りも習得していきます。いかに多くの「人」を引きつけておけるかがダンサーの存在価値として重要ととらえて、自分のダンススタイルを「魅力的に正しく伝えていく方法」を習得していただきます。						
評価方法と基準	出席率。他、期末実技テストの評点より。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	1)ダンスに携わる職業とは何か。 2)プロフェッショナルとは何か。	
2		講義・演習	4)レッスン数が多く、集客の出来るインストラクターとは何か。 5)身の周りに溢れているメディアや書籍・研修から学ぶ情報収集について。 6)幼児、児童、青年期、中年期、高齢者、障害者などに対する指導における気をつけるべき点。	
3		講義・演習	7)インストラクション実技__ストレッチ 導入編 8)C-Downや指導技術UPの練習方法について。その重要性について。	
4		講義・演習	9)インストラクション実技__ストレッチ 基本編 ①	
5		講義・演習	10)インストラクション実技__ストレッチ 基本編 ②年齢別、レベル別	
6		講義・演習	11)インストラクション実技__リズム取り 基本ステップ 導入編	
7		講義・演習	12)インストラクション実技__リズム取り 基本ステップ 発展編 ①	
8		講義・演習	13)インストラクション実技__リズム取り 基本ステップ 発展編 ②年齢別レベル別	
9		講義・演習	14)インストラクション実技__リズム取り アイソレーション 基本編	
10		講義・演習	期末実技テスト	
11		講義・演習	15)インストラクション実技__リズム取り アイソレーション 応用編①	
12		講義・演習	16)インストラクション実技__リズム取り アイソレーション 応用編②	
13		講義・演習	17)個人事業主としてダンサー活動に必要な知識とモラルについて	
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	インストラクター(6)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	目井 嵩浩
		授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
学科・専攻	メディア&テクノロジー科(昼間部二)						
教員の略歴							
授業の学習 内容	「興味を引きつけるダンスレッスンのノウハウ」と「ダンサーに最低限必要とされるモラルやマナー」について。 どういったレッスンの進め方が、年齢別・経験別などにちゃんと伝えられるか、ポイントを分かりやすくレクチャー。 感覚的ではなく、あくまでも理論的に「言葉」や「指導動作」について学んでいきます。						
到達目標	社会人として、ダンサーのプロとして、ダンスインストラクターとして、 卒業後にすぐに活かせる「指導力」「知識」「振る舞い方」「提案力&創造力」を身に付けます。 多方面の企業様やお客様に対する挨拶・礼儀、連絡、業務上必要とする請求書等の書類のやり取りも習得していきます。 いかに多くの「人」を引きつけておけるかがダンサーの存在価値として重要ととらえて、自分のダンススタイルを「魅力的に正しく伝 えていく方法」を習得していきます。						
評価方法と基準	出席率。他、期末実技テストの評点より。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	1)ダンスに携わる職業とは何か。 2)プロフェッショナルとは何か。	
2		講義・演習	4)レッスン数が多く、集客の出来るインストラクターとは何か。 5)身の周りに溢れているメディアや書籍・研修から学ぶ情報収集について。 6)幼児、児童、青年期、中年期、高齢者、障害者などに対する指導における気をつけるべき点。	
3		講義・演習	7)インストラクション実技__ストレッチ 導入編 8)C-Downや指導技術UPの練習方法について。その重要性について。	
4		講義・演習	9)インストラクション実技__ストレッチ 基本編 ①	
5		講義・演習	10)インストラクション実技__ストレッチ 基本編 ②年齢別、レベル別	
6		講義・演習	11)インストラクション実技__リズム取り 基本ステップ 導入編	
7		講義・演習	12)インストラクション実技__リズム取り 基本ステップ 発展編 ①	
8		講義・演習	13)インストラクション実技__リズム取り 基本ステップ 発展編 ②年齢別レベル別	
9		講義・演習	14)インストラクション実技__リズム取り アイソレーション 基本編	
10		講義・演習	期末実技テスト	
11		講義・演習	15)インストラクション実技__リズム取り アイソレーション 応用編①	
12		講義・演習	16)インストラクション実技__リズム取り アイソレーション 応用編②	
13		講義・演習	17)個人事業主としてダンサー活動に必要な知識とモラルについて	
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	アクロバット(5)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	田中英輔
		授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
学科・専攻	メディア & テクノロジー科(昼間部二)						
教員の略歴	スタントマンを経て大手テーマパークダンサーの後さまざまなアーティストのサポートダンサーを務める						
授業の学習 内容	ストレッチ→必要な筋力トレーニング(倒立・ブリッジなど)→マットで基礎から(前転・後転など)→各自挑戦したい技の練習						
到達目標	それぞれ習得したい技をマスターする ステージで使えるよう120%の完成度をを目指す						
評価方法と基準	・出席率10% 授業態度30% 実技60%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	ストレッチ→必要な筋力トレーニング→マットで基礎から ネックスプリング	動画を撮り自分の動きを確認
2		演習	ストレッチ→必要な筋力トレーニング→マットで基礎から ネックスプリング	動画を撮り自分の動きを確認
3		演習	ストレッチ→必要な筋力トレーニング→マットで基礎から ハンドブリング	動画を撮り自分の動きを確認
4		演習	ストレッチ→必要な筋力トレーニング→マットで基礎から ハンドブリング	動画を撮り自分の動きを確認
5		演習	ストレッチ→必要な筋力トレーニング→マットで基礎から 側転	動画を撮り自分の動きを確認
6		演習	ストレッチ→必要な筋力トレーニング→マットで基礎から 側転	動画を撮り自分の動きを確認
7		演習	ストレッチ→必要な筋力トレーニング→マットで基礎から チートエアリアル	動画を撮り自分の動きを確認
8		演習	ストレッチ→必要な筋力トレーニング→マットで基礎から チートエアリアル	動画を撮り自分の動きを確認
9		演習	ストレッチ→必要な筋力トレーニング→マットで基礎から バック転	動画を撮り自分の動きを確認
10		演習	ストレッチ→必要な筋力トレーニング→マットで基礎から バック転	動画を撮り自分の動きを確認
11		演習	ハndsプリング・チートエアリアル・バック転	動画を撮り自分の動きを確認
12		演習	ハndsプリング・チートエアリアル・バック転	動画を撮り自分の動きを確認
13		演習	各自マスターしたい技を特訓	動画を撮り自分の動きを確認
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	アクロバット(6)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	田中英輔
学科・専攻	メディア & テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	スタントマンを経て大手テーマパークダンサーの後ささまざまなアーティストのサポートダンサーを務める						
授業の学習 内容	ストレッチ→必要な筋力トレーニング(倒立・ブリッジなど)→マットで基礎から(前転・後転など)→各自挑戦したい技の練習						
到達目標	それぞれ習得したい技をマスターする ステージで使えるよう120%の完成度を目指す						
評価方法と基準	・出席率10% 授業態度30% 実技60%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	ストレッチ→必要な筋力トレーニング→マットで基礎から ネックスプリング	動画を撮り自分の動きを確認
2		演習	ストレッチ→必要な筋力トレーニング→マットで基礎から ネックスプリング	動画を撮り自分の動きを確認
3		演習	ストレッチ→必要な筋力トレーニング→マットで基礎から ハンドプリング	動画を撮り自分の動きを確認
4		演習	ストレッチ→必要な筋力トレーニング→マットで基礎から ハンドプリング	動画を撮り自分の動きを確認
5		演習	ストレッチ→必要な筋力トレーニング→マットで基礎から 側転	動画を撮り自分の動きを確認
6		演習	ストレッチ→必要な筋力トレーニング→マットで基礎から 側転	動画を撮り自分の動きを確認
7		演習	ストレッチ→必要な筋力トレーニング→マットで基礎から チートエアリアル	動画を撮り自分の動きを確認
8		演習	ストレッチ→必要な筋力トレーニング→マットで基礎から チートエアリアル	動画を撮り自分の動きを確認
9		演習	ストレッチ→必要な筋力トレーニング→マットで基礎から バック転	動画を撮り自分の動きを確認
10		演習	ストレッチ→必要な筋力トレーニング→マットで基礎から バック転	動画を撮り自分の動きを確認
11		演習	ハndsプリング・チートエアリアル・バック転	動画を撮り自分の動きを確認
12		演習	ハndsプリング・チートエアリアル・バック転	動画を撮り自分の動きを確認
13		演習	各自マスターしたい技を特訓	動画を撮り自分の動きを確認
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	テーマパークアクティング(5)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	鹿島 良太
学科・専攻	メディア & テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	大手テーマパークやメディアなどで20年に渡りMC・アクターで活躍						
授業の学習 内容	本授業では、テーマパークにおける演技者としての表現力・即興力・キャラクター維持力を育成する。ゲスト対応に特化したリアルタイムの演技や、キャラクター設定に基づく一貫性のある表現、状況変化への柔軟な対応を中心に、身体・声・リアクションを通して「生きた演技」を習得する。 舞台・映像とは異なる、接客性＋演技性＋即興性が求められるテーマパーク独自のアクティングを深く体験する。						
到達目標	テーマパークアクターに求められる役割とスキルを理解する 一貫性あるキャラクターを構築・維持できるようになる 声・身体・表情を使ったリアルな感情表現ができる 状況に応じて即興的に演技を展開できるようになる 観客との非劇場的距離感(近さ・多方向性)に対応した表現ができる						
評価方法と基準	平常点(出席・授業態度) 50% テスト成績 50%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	オリエンテーション／テーマパークアクティングとは	
2		演習	キャラクター演技の基礎①: 設定と身体の使い方	前回の復習
3		演習	キャラクター演技の基礎②: 声・口調・テンション	前回の復習
4		演習	表情・目線・笑顔のコントロール	前回の復習
5		演習	感情の切り替えとリアクション練習	前回の復習
6		演習	即興演技①: シチュエーション対応	前回の復習
7		演習	即興演技②: 予測不能な質問・反応に対応	前回の復習
8		演習	年齢別・属性別ゲスト対応練習	前回の復習
9		演習	キャラクター維持カトレーニング	前回の復習
10		演習	ストーリーを伝える演技	前回の復習
11		演習	ペア演技: 関係性を感じさせる演技	前回の復習
12		演習	集団内での空気づくりと調和演技	前回の復習
13		演習	総合演技トレーニング	前回の復習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	テーマパークアクティング(6)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	鹿島 良太
学科・専攻	メディア & テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	大手テーマパークやメディアなどで20年に渡りMC・アクターで活躍						
授業の学習 内容	本授業では、テーマパークアクターとしての演技力を一段階高め、キャラクターの「継続力」「関係性の構築」「複数人物との共存」に重点を置く。観客との即興的やりとり、ストーリー性を伴うインタラクティブな演技、状況ごとのキャラ応答を繰り返し訓練し、実戦に近い対応力を育成する。 また、セリフや筋書きがない中で「意味を生む」「空気を支配する」演技感覚も磨く。						
到達目標	キャラクターの演技を中～長時間持続させる技術を習得する 状況に応じた即興的ストーリー展開力を獲得する 相手役・ゲストとの関係性の変化を演技に反映できるようになる 空間把握力・距離感の演技的コントロールを体得する 台本に頼らずテーマ性ある短編シーンを構成・演技できる						
評価方法と基準	平常点(出席・授業態度) 50% テスト成績 50%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	オリエンテーション／応用で磨く力とは	
2		演習	キャラクター持続演技①:時間経過の中で演じ続ける	前回の復習
3		演習	キャラクター持続演技②:感情・状況の変化に対応	前回の復習
4		演習	即興対応トレーニング①:ゲストが起点の展開	前回の復習
5		演習	即興対応トレーニング②:他キャラとの掛け合い即興	前回の復習
6		演習	ストーリーメイキング演技①:物語の起承転結をつくる	前回の復習
7		演習	ストーリーメイキング演技②:3人以上での展開	前回の復習
8		演習	キャラクター×空間演技:設定を生かした演技構築	前回の復習
9		演習	状況演技①:トラブル・ハプニング時の対応力	前回の復習
10		演習	状況演技②:時間制限／切り上げ演技の工夫	前回の復習
11		演習	アンサンブル演技①:無言・無台詞での集団演技	前回の復習
12		演習	アンサンブル演技②:テーマ別・短編演技構成	前回の復習
13		演習	総まとめ:自由演技・個別フィードバック	前回の復習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	アフレコワークショップ(5)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	世田杏恵 中山知佳 引田有美
学科・コース	メディア＆テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 (4)		
教員の略歴							
授業の学習 内容	アニメーションやゲーム、声優のマイク前でのアテレコ演習を行い、マイク前での演技や環境、マイクワークを体感する。 毎回異なる台本、アニメーションを使用し、実際にアフレコ演習を行う。 声優として必要な、収録現場での立ち振る舞いや好感度について学ぶ。						
到達目標	声優としての表現の探求、マイク前での発声を学ぶことができる。 そのためのトレーニングの指示。 自分が持っている声の性質、心の性質について発見し、自己研鑽ができるようになる。						
評価方法と基準	実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	授業の進め方、説明。オーディション 自分についてどれだけ理解し、表現できるか	台本を自分で取得すること 事前準備(作品調査・役作り・台本チェック)
2		講義・演習	オーディション作品のアフレコ演習 自己評価と他己評価について	台本を自分で取得すること 事前準備(作品調査・役作り・台本チェック)
3		講義・演習	アフレコ演習1 セリフ、マイクワークを理解し、台本を読解する	台本を自分で取得すること 事前準備(作品調査・役作り・台本チェック)
4		講義・演習	アフレコ演習2 スタジオマナー・演出に対しての態度など、 基本的なマナーについて	台本を自分で取得すること 事前準備(作品調査・役作り・台本チェック)
5		講義・演習	アフレコ演習3 演出に対しての瞬発力を養う	台本を自分で取得すること 事前準備(作品調査・役作り・台本チェック)
6		講義・演習	アフレコ演習4 演出を理解して、瞬発力とともに対応する力を養う	台本を自分で取得すること 事前準備(作品調査・役作り・台本チェック)
7		講義・演習	アフレコ演習5 大人数でのアテレコ演習	台本を自分で取得すること 事前準備(作品調査・役作り・台本チェック)
8		講義・演習	アフレコ演習6 音響監督と声優	台本を自分で取得すること 事前準備(作品調査・役作り・台本チェック)
9		講義・演習	アフレコ演習7 演技分けとマイクワーク	台本を自分で取得すること 事前準備(作品調査・役作り・台本チェック)
10		講義・演習	アフレコ演習8 台本を深く読み込む マイクワークを身につける	台本を自分で取得すること 事前準備(作品調査・役作り・台本チェック)
11		講義・演習	アフレコ演習9 実践を通じてマイク前での表現技法を覚える	台本を自分で取得すること 事前準備(作品調査・役作り・台本チェック)
12		講義・演習	アフレコ演習10 実践を通じてマイク前での表現技法を覚える	台本を自分で取得すること 事前準備(作品調査・役作り・台本チェック)
13		講義・演習	アフレコ演習11、振り返り、総括 ディレクションに対しての瞬発力を試す	台本を自分で取得すること 事前準備(作品調査・役作り・台本チェック)
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			プロ同様のスケジュールリング(1週間～2日)で原稿配布・キャスト発表を公表。プロの現場と思って、各自予習と準備をすること	
【使用教科書・教材・参考書】				
配布台本を各自用意(キャスト発表と共に、教務室へ自主的に取りに行く)				

科目名	アフレコワークショップ(6)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	世田恵恵 中山知佳 引田有美
学科・コース	メディア&テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 (4)		
教員の略歴							
授業の学習 内容	アニメーションやゲーム、声優のマイク前でのアテレコ演習を行い、マイク前での演技や環境、マイクワークを体感する。 毎回異なる台本、アニメーションを使用し、実際にアフレコ演習を行う。 声優として必要な、収録現場での立ち振る舞いや好感度について学ぶ。						
到達目標	声優としての表現の探求、マイク前での発声を学ぶことができる。 そのためのトレーニングの指示。 自分が持っている声の性質、心の性質について発見し、自己研鑽ができるようになる。						
評価方法と基準	実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	授業の進め方、説明。オーディション 自分についてどれだけ理解し、表現できるか	台本を自分で取得すること 事前準備(作品調査・役作り・台本チェック)
2		講義・演習	オーディション作品のアフレコ演習 自己評価と他己評価について	台本を自分で取得すること 事前準備(作品調査・役作り・台本チェック)
3		講義・演習	アフレコ演習1 セリフ、マイクワークを理解し、台本を読解する	台本を自分で取得すること 事前準備(作品調査・役作り・台本チェック)
4		講義・演習	アフレコ演習2 スタジオマナー・演出に対しての態度など、 基本的なマナーについて	台本を自分で取得すること 事前準備(作品調査・役作り・台本チェック)
5		講義・演習	アフレコ演習3 演出に対しての瞬発力を養う	台本を自分で取得すること 事前準備(作品調査・役作り・台本チェック)
6		講義・演習	アフレコ演習4 演出を理解して、瞬発力とともに対応する力を養う	台本を自分で取得すること 事前準備(作品調査・役作り・台本チェック)
7		講義・演習	アフレコ演習5 大人数でのアテレコ演習	台本を自分で取得すること 事前準備(作品調査・役作り・台本チェック)
8		講義・演習	アフレコ演習6 音響監督と声優	台本を自分で取得すること 事前準備(作品調査・役作り・台本チェック)
9		講義・演習	アフレコ演習7 演技分けとマイクワーク	台本を自分で取得すること 事前準備(作品調査・役作り・台本チェック)
10		講義・演習	アフレコ演習8 台本を深く読み込む マイクワークを身につける	台本を自分で取得すること 事前準備(作品調査・役作り・台本チェック)
11		講義・演習	アフレコ演習9 実践を通じてマイク前での表現技法を覚える	台本を自分で取得すること 事前準備(作品調査・役作り・台本チェック)
12		講義・演習	アフレコ演習10 実践を通じてマイク前での表現技法を覚える	台本を自分で取得すること 事前準備(作品調査・役作り・台本チェック)
13		講義・演習	アフレコ演習11、振り返り、総括 ディレクションに対しての瞬発力を試す	台本を自分で取得すること 事前準備(作品調査・役作り・台本チェック)
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			プロ同様のスケジュールリング(1週間～2日)で原稿配布・キャスト発表を公表。プロの現場と思って、各自予習と準備をすること	
【使用教科書・教材・参考書】				
配布台本を各自用意(キャスト発表と共に、教務室へ自主的に取りに行く)				

科目名	演劇ワークショップ(5)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	三浦佑介
学科・コース	メディア&テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 (4)		
教員の略歴	2002年より俳優・演出家として活動。蜷川幸雄氏に師事。演出作はストレートプレイ、翻訳劇、イベント、コンサートなど多数。						
授業の学習 内容	講師は「ファシリテーター」的立場で、評価より創造の促進を重視 台本を使わず、自己発信型・参加型の授業を展開 発表は行わず、「体験→言語化→共有→再体験」のプロセスを重視 将来的な現場での即応力・創作現場での柔軟性を身につける内容						
到達目標	即興力・創造力・状況適応力を高める 自己の演技を客観的に見つめ、言語化できる 他者との関係性を即興で構築し、協働的に演技を発展させられる テキストに縛られない表現の自由を体感する プロ現場に近い柔軟さ・判断力・対応力を獲得する						
評価方法と基準	出席率(100%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	「反応する力」導入	
2		講義・演習	状況即興①:空間と身体で状況を作る	
3		講義・演習	状況即興②:会話のないシーン	
4		講義・演習	状況即興③:感情の流れと変化	
5		講義・演習	関係性を演じる①:関係性のレベル変化	
6		講義・演習	関係性を演じる②:即興から短い場面を創作	
7		講義・演習	状況と目的の複雑性	
8		講義・演習	グループ創作①:テーマ提示→即興	
9		講義・演習	グループ創作②:構成と演出を考える	
10		講義・演習	自己の演技の分析①(動画・録画使用)	
11		講義・演習	自己の演技の分析②:他者との比較・議論	
12		講義・演習	自由課題ワーク:興味ある形で創作即興	
13		講義・演習	まとめと今後への応用	
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	演劇ワークショップ(6)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	三浦佑介
学科・コース	メディア&テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 (4)		
教員の略歴	2002年より俳優・演出家として活動。蜷川幸雄氏に師事。演出作はストレートプレイ、翻訳劇、イベント、コンサートなど多数。						
授業の学習 内容	発表形式の作品化は行わず、プロセスの深まりと創作体験の共有を重視します 「言葉にならないものを言葉にする」力と、「かたちにならないものを構成する」感性の育成が中心 「表現者＝創造者」としての意識変化が期待されます						
到達目標	演技だけでなく演出視点・構成力・空間意識を統合した創作ができる 他者のアイデアを受け入れながらグループで創作的合意形成ができる テーマ・世界観をもとに短い演劇的構成を創造できる 自分の表現を言語化・客観視し、他者に共有できる 創作プロセスを重視し、失敗・試行錯誤から学ぶ力を育てる						
評価方法と基準	出席率(100%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	創作における「責任」	
2		講義・演習	創作即興①:テーマに基づく身体・対話の探索	
3		講義・演習	創作即興②:時間・空間を扱う	
4		講義・演習	創作即興③:言葉と沈黙の設計	
5		講義・演習	グループ決定と企画立案①	
6		講義・演習	グループ創作①:試作と素材生成	
7		講義・演習	グループ創作②:構成の検討・抜き出し	
8		講義・演習	創作中間共有:他グループに途中経過を見せる	
9		講義・演習	グループ創作③:修正・整理	
10		講義・演習	グループ創作④:全体の動き・空間設計	
11		講義・演習	創作ワーク:他グループの演出をしてみる	
12		講義・演習	最終調整と通し稽古(通し見せ)	
13		講義・演習	総まとめ:創作を通して得たもの	
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	アクティング(5)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	三浦佑介
		授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 (4)		
学科・コース	メディア&テクノロジー科(昼間部二)						
教員の略歴	2002年より俳優・演出家として活動。蜷川幸雄氏に師事。演出作はストレートプレイ、翻訳劇、イベント、コンサートなど多数。						
授業の学習 内容	俳優として、自分の課題を見つけ、さらにそれに則したものを提案し、形にすることを学ぶ。「複数の人間で創る」演劇を通して、俳優の仕事をしていくために必要な動きを実践する。年間を通じ、成果物を最低2つと定め、それを創り上げることで、自主的な動きを身につける。						
到達目標	表現者として自分の課題を見つけ、解決に向かって提案することができる俳優になることを目標とし、揺れ続ける芸能界へ漕ぎ出しても、自分で発見・研鑽を続け、多くの関係者の中で動ける表現者になることを目指す。受動的ではなく能動的な俳優を目指すことができるようになる。						
評価方法と基準	実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	残り1年間のをどう有意義に過ごしていくか考え、「目標を決定」すること、今の自分への課題を見つける	自身の課題を基に、クラスと発表するための課題を探す
2		講義・演習	課題を提案しあい、クラスで発表する内容を決める	決まった課題台本を作成、または用意する
3		講義・演習	発表のための稽古① 台本読み・台本への向き合い方を学ぶ	課題台本の読み込み、セリフを覚える
4		講義・演習	発表のための稽古② 立ち稽古・ダメ出しの捉え方を学ぶ	課題台本の読み込み、セリフを覚える
5		講義・演習	発表のための稽古③ 立ち稽古・他のキャストとのコミュニケーションを学ぶ	課題台本の読み込み、セリフを覚える 衣裳や小道具等の準備を実施する
6		講義・演習	発表のための稽古④ 通し稽古・全体を通じての作品の捉え方を学ぶ	課題台本の読み込み、ミザンスを覚える 衣裳や小道具等の準備を実施する
7		講義・演習	発表のための稽古⑤ 通し稽古からのフィードバックを分析し演習	課題台本の読み込み、ミザンスを覚える 衣裳や小道具等の準備を実施する
8		講義・演習	発表のための稽古⑥ フィードバックから得たものを元に研鑽稽古	課題台本の読み込み、ミザンスを覚える 衣裳や小道具等の準備を実施する
9		講義・演習	発表のための稽古⑦ ここまで出てきた問題点のクリアの仕方を考える	課題台本の読み込み、ミザンスを覚える 衣裳や小道具等の準備を実施する
10		講義・演習	発表のための稽古⑧ お客様に見せることを意識した作りを行う	課題台本の読み込み、ミザンスを覚える 衣裳や小道具等の準備を実施する
11		講義・演習	発表のための稽古⑨ 最後の詰め稽古・自身の課題の解消のためのアクション	課題台本の読み込み、ミザンスを覚える 衣裳や小道具等の準備を実施する
12		講義・演習	発表のための稽古⑩ 最後の詰め稽古・自身の課題の解消のためのアクション	内容は授業内で発表
13		講義・演習	発表を通してのフィードバック 自身の目標に対しての達成度を考える	後期に向けた題材探し
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
自分たちで決定した台本を持参すること、適時衣裳と小道具の用意				

東京ダンス・俳優&舞台芸術専門学校

科目名	アクティング(6)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	三浦佑介
		授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 (4)		
学科・コース	メディア & テクノロジー科(昼間部二)						
教員の略歴	2002年より俳優・演出家として活動。蜷川幸雄氏に師事。演出作はストレートプレイ、翻訳劇、イベント、コンサートなど多数。						
授業の学習 内容	俳優として、自分の課題を見つけ、さらにそれに則したものを提案し、形にすることを学ぶ。「複数の人間で創る」演劇を通して、俳優の仕事をしていくために必要な動きを実践する。年間を通じ、成果物を最低2つと定め、それを創り上げることで、自主的な動きを身につける。						
到達目標	表現者として自分の課題を見つけ、解決に向かって提案することができる俳優になることを目標とし、揺れ続ける芸能界へ漕ぎ出しても、自分で発見・研鑽をし続け、多くの関係者の中で動ける表現者になることを目指す。受動的ではなく能動的な俳優を目指すことができるようになる。						
評価方法と基準	実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	卒業後、社会人として芸能界に足を踏み入れた後をイメージし、現在の自分から自分の課題を見つける	自身の課題を基に、クラスと発表するための課題を探す
2		講義・演習	課題を提案しあい、クラスで発表する内容を決める	決まった課題台本を作成、または用意する
3		講義・演習	発表のための稽古① 台本読み・台本への向き合い方を学ぶ	課題台本の読み込み、セリフを覚える
4		講義・演習	発表のための稽古② 立ち稽古・ダメ出しの捉え方を学ぶ	課題台本の読み込み、セリフを覚える
5		講義・演習	発表のための稽古③ 立ち稽古・他のキャストとのコミュニケーションを学ぶ	課題台本の読み込み、セリフを覚える 衣裳や小道具等の準備を実施する
6		講義・演習	発表のための稽古④ 通し稽古・全体を通じての作品の捉え方を学ぶ	課題台本の読み込み、ミザンスを覚える 衣裳や小道具等の準備を実施する
7		講義・演習	発表のための稽古⑤ 通し稽古からのフィードバックを分析し演習	課題台本の読み込み、ミザンスを覚える 衣裳や小道具等の準備を実施する
8		講義・演習	発表のための稽古⑥ フィードバックから得たものを元に研鑽稽古	課題台本の読み込み、ミザンスを覚える 衣裳や小道具等の準備を実施する
9		講義・演習	発表のための稽古⑦ ここまで出てきた問題点のクリアの仕方を考える	課題台本の読み込み、ミザンスを覚える 衣裳や小道具等の準備を実施する
10		講義・演習	発表のための稽古⑧ お客様に見せることを意識した作りを行う	課題台本の読み込み、ミザンスを覚える 衣裳や小道具等の準備を実施する
11		講義・演習	発表のための稽古⑨ 現在の問題点の洗い出し(俳優として、大人として)	課題台本の読み込み、ミザンスを覚える 衣裳や小道具等の準備を実施する
12		講義・演習	発表のための稽古⑨ 現在の問題点の洗い出し(俳優として、大人として)	課題台本の読み込み、ミザンスを覚える 衣裳や小道具等の準備を実施する
13		講義・演習	発表のための稽古⑩ 最後の詰め稽古・自身の課題の解消のためのアクション	課題台本の読み込み、ミザンスを覚える 衣裳や小道具等の準備を実施する
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
自分たちで決定した台本を持参すること、適時衣裳と小道具の用意				

東京ダンス・俳優&舞台芸術専門学校

科目名	ステージアクション(5)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	堀田勝
学科・コース	メディア＆テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)		
教員の略歴	株式会社スーパーエキセントリックシアター所属。ミュージカル「刀剣乱舞」ほか、舞台を中心に活躍。						
授業の学習 内容	立ちっぱなし、座りっぱなしで演技は出来ません。転んだり、倒れたり、突き飛ばされたりといった動きを怪我無く何度も繰り返し演じなければならないことは数多くあります。マットを使って転がり方から身の守り方である受け身の取り方を身に付けます。						
到達目標	倒れる、倒す演技を安全かつ臨場感を失うことなく演じることが出来る様になる。						
評価方法と基準	実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	注意事項説明、自己紹介(将来のイメージづくり)、アクションとは…、	柔軟、筋トレ
2		講義・演習	マット運動(前転)	前週の復習、柔軟、筋トレ
3		講義・演習	マット運動(右起き上がり)	前週の復習、柔軟、筋トレ
4		講義・演習	マット運動(左起き上がり)	前週の復習、柔軟、筋トレ
5		講義・演習	マット運動(右受け身)、投げ飛ばし	前週の復習、柔軟、筋トレ
6		講義・演習	マット運動(左受け身)、投げ飛ばし	前週の復習、柔軟、筋トレ
7		講義・演習	マット運動(横転)、投げ飛ばし	前週の復習、柔軟、筋トレ
8		講義・演習	マット運動(後転)	前週の復習、柔軟、筋トレ
9		講義・演習	マット運動(アクション用後転)、突き飛ばし	前週の復習、柔軟、筋トレ
10		講義・演習	受け身、起き上がり、横転の組み合わせ	前週の復習、柔軟、筋トレ
11		講義・演習	その場に崩れ落ちる、倒れる	前週の復習、柔軟、筋トレ
12		講義・演習	課外授業	内容は授業内で発表
13		講義・演習	取っ組み合い、揉み合いを演じてみよう	前週の復習、柔軟、筋トレ
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			興味のある声優のボイスサンプルを各事務所ホームページから試聴し、研鑽する	
【使用教科書・教材・参考書】				
授業で配ったプリント類、筆記用具、録音機器				

科目名	ステージアクション(6)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	堀田勝
学科・コース	メディア＆テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2)		
教員の略歴	株式会社スーパーエキセントリックシアター所属。ミュージカル「刀剣乱舞」ほか、舞台を中心に活躍。						
授業の学習 内容	立ちっぱなし、座りっぱなしで演技は出来ません。転んだり、倒れたり、突き飛ばされたりといった動きを怪我無く何度も繰り返し演じなければならないことは数多くあります。マットを使って転がり方から身の守り方である受け身の取り方を身に付けます。						
到達目標	倒れる、倒す演技を安全かつ臨場感を失うことなく演じることが出来る様になる。						
評価方法と基準	実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	注意事項説明、自己紹介(将来のイメージづくり)、アクションとは…、	柔軟、筋トレ
2		講義・演習	マット運動(前転)	前週の復習、柔軟、筋トレ
3		講義・演習	マット運動(右起き上がり)	前週の復習、柔軟、筋トレ
4		講義・演習	マット運動(左起き上がり)	前週の復習、柔軟、筋トレ
5		講義・演習	マット運動(右受け身)、投げ飛ばし	前週の復習、柔軟、筋トレ
6		講義・演習	マット運動(左受け身)、投げ飛ばし	前週の復習、柔軟、筋トレ
7		講義・演習	マット運動(横転)、投げ飛ばし	前週の復習、柔軟、筋トレ
8		講義・演習	マット運動(後転)	前週の復習、柔軟、筋トレ
9		講義・演習	マット運動(アクション用後転)、突き飛ばし	前週の復習、柔軟、筋トレ
10		講義・演習	受け身、起き上がり、横転の組み合わせ	前週の復習、柔軟、筋トレ
11		講義・演習	その場に崩れ落ちる、倒れる	前週の復習、柔軟、筋トレ
12		講義・演習	課外授業	内容は授業内で発表
13		講義・演習	取っ組み合い、揉み合いを演じてみよう	前週の復習、柔軟、筋トレ
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			興味のある声優のボイスサンプルを各事務所ホームページから試聴し、研鑽する	
【使用教科書・教材・参考書】				
授業で配ったプリント類、筆記用具、録音機器				

科目名	劇場技術A(5)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	左右田
学科・専攻	メディア & テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	音響業界歴41年 音響講師歴21年 有限会社バンデロー代表取締役						
授業の学習 内容	将来、自主公演や劇団等の音響係になった際、より効果的に音を扱えるようになる為の基礎講座。音響機器を使用し、自分たちでオペレーションをやってみる。演劇における音響の基本を学び、演出効果としての音の活用方法を学ぶ。						
到達目標	音響の基本的な仕組みを理解する。音楽再生ソフトの基礎的な使い方を理解する。						
評価方法と基準	■評価方法 出席率50% 期末テスト50% ■評価基準 授業への取り組む姿勢。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	演習にて使用する機材の取り扱い方法	
2		講義と演習	PAミキサーの使い方・演習	
3		講義と演習	CDデッキの使い方・演習	
4		講義と演習	朗読劇を通して学習したスキルの実践	
5		講義と演習	音楽再生ソフトの基礎-1A/朗読劇を通して学習したスキルの実践	
6		講義と演習	音楽再生ソフトの基礎-1B/朗読劇を通して学習したスキルの実践	
7		講義と演習	音楽再生ソフトの基礎-2A/朗読劇を通して学習したスキルの実践	
8		講義と演習	音楽再生ソフトの基礎-2B/朗読劇を通して学習したスキルの実践	
9		講義と演習	音楽再生ソフトの基礎-3A/朗読劇を通して学習したスキルの実践	
10		講義と演習	音楽再生ソフトの基礎-3B/朗読劇を通して学習したスキルの実践	
11		講義と演習	IEMの体験-1	
12		講義と演習	IEMの体験-2	
13		講義と演習	期末試験	
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

東京ダンス・俳優＆舞台芸術専門学校

科目名	劇場技術A(6)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員
学科・専攻	メディア＆テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位	
教員の略歴	音響業界歴41年 音響講師歴21年 有限会社バンデーロ代表取締役					
授業の学習 内容	将来、自主公演や劇団等の音響係になった際、より効果的に音を扱えるようになる為の基礎講座。音響機器を使用し、自分たちでオペレーションをやってみる。演劇における音響の基本を学び、演出効果としての音の活用方法を学ぶ。					
到達目標	音響の基本的な仕組みを理解する。音楽再生ソフトの基礎的な使い方を理解する。					
評価方法と基準	■評価方法 出席率50% 期末テスト50% ■評価基準 授業への取り組む姿勢。					

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	演習にて使用する機材の取り扱い方法	
2		講義と演習	PAミキサーの使い方・演習	
3		講義と演習	CDデッキの使い方・演習	
4		講義と演習	朗読劇を通して学習したスキルの実践	
5		講義と演習	音楽再生ソフトの基礎-1A/朗読劇を通して学習したスキルの実践	
6		講義と演習	音楽再生ソフトの基礎-1B/朗読劇を通して学習したスキルの実践	
7		講義と演習	音楽再生ソフトの基礎-2A/朗読劇を通して学習したスキルの実践	
8		講義と演習	音楽再生ソフトの基礎-2B/朗読劇を通して学習したスキルの実践	
9		講義と演習	音楽再生ソフトの基礎-3A/朗読劇を通して学習したスキルの実践	
10		講義と演習	音楽再生ソフトの基礎-3B/朗読劇を通して学習したスキルの実践	
11		講義と演習	IEMの体験-1	
12		講義と演習	IEMの体験-2	
13		講義と演習	期末試験	
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

東京ダンス・俳優＆舞台芸術専門学校

科目名	劇場技術B(5)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員
		授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位	
学科・専攻	メディア＆テクノロジー科(昼間部二)					
教員の略歴	音響業界歴41年 音響講師歴21年 有限会社バンデーロ代表取締役					
授業の学習 内容	将来、自主公演や劇団等の音響係になった際、より効果的に音を扱えるようになる為の基礎講座。音響機器を使用し、自分たちでオペレーションをやってみる。演劇における音響の基本を学び、演出効果としての音の活用方法を学ぶ。					
到達目標	音響の基本的な仕組みを理解する。音楽再生ソフトの基礎的な使い方を理解する。					
評価方法と基準	■評価方法 出席率50% 期末テスト50% ■評価基準 授業への取り組み姿勢。					

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	演習にて使用する機材の取り扱い方法	
2		講義・演習	PAミキサーの使い方・演習	
3		講義・演習	CDデッキの使い方・演習	
4		講義・演習	朗読劇を通して学習したスキルの実践	
5		講義・演習	音楽再生ソフトの基礎-1A/朗読劇を通して学習したスキルの実践	
6		講義・演習	音楽再生ソフトの基礎-1B/朗読劇を通して学習したスキルの実践	
7		講義・演習	音楽再生ソフトの基礎-2A/朗読劇を通して学習したスキルの実践	
8		講義・演習	音楽再生ソフトの基礎-2B/朗読劇を通して学習したスキルの実践	
9		講義・演習	音楽再生ソフトの基礎-3A/朗読劇を通して学習したスキルの実践	
10		講義・演習	音楽再生ソフトの基礎-3B/朗読劇を通して学習したスキルの実践	
11		講義・演習	IEMの体験-1	
12		講義・演習	IEMの体験-2	
13		講義・演習	期末試験	
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

東京ダンス・俳優 & 舞台芸術専門学校

科目名	劇場技術B(6)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員
		授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位	
学科・専攻	メディア＆テクノロジー科(昼間部二)					
教員の略歴	音響業界歴41年 音響講師歴21年 有限会社バンデロー代表取締役					
授業の学習 内容	将来、自主公演や劇団等の音響係になった際、より効果的に音を扱えるようになる為の基礎講座。音響機器を使用し、自分たちでオペレーションをやる。演劇における音響の基本を学び、演出効果としての音の活用方法を学ぶ。					
到達目標	音響の基本的な仕組みを理解する。音楽再生ソフトの基礎的な使い方を理解する。					
評価方法と基準	■評価方法 出席率50% 期末テスト50% ■評価基準 授業への取り組む姿勢。					

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	演習にて使用する機材の取り扱い方法	
2		講義と演習	PAミキサーの使い方・演習	
3		講義と演習	CDデッキの使い方・演習	
4		講義と演習	朗読劇を通して学習したスキルの実践	
5		講義と演習	音楽再生ソフトの基礎-1A/朗読劇を通して学習したスキルの実践	
6		講義と演習	音楽再生ソフトの基礎-1B/朗読劇を通して学習したスキルの実践	
7		講義と演習	音楽再生ソフトの基礎-2A/朗読劇を通して学習したスキルの実践	
8		講義と演習	音楽再生ソフトの基礎-2B/朗読劇を通して学習したスキルの実践	
9		講義と演習	音楽再生ソフトの基礎-3A/朗読劇を通して学習したスキルの実践	
10		講義と演習	音楽再生ソフトの基礎-3B/朗読劇を通して学習したスキルの実践	
11		講義と演習	IEMの体験-1	
12		講義と演習	IEMの体験-2	
13		講義と演習	期末試験	
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

東京ダンス・俳優&舞台芸術専門学校

科目名	声優技術(5)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	井上悟
学科・専攻	メディア＆テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	声優、俳優、ナレーター。株式会社アーツビジョン所属。						
授業の学習 内容	アフレコ基礎を通して見えてきたのは、学生が他の授業で学んだ内容を、声の表現に活かしてきていない面だった。本授業、特に前期では、そのパイプスをより確かなものとする為、学生一人一人の個性を活かせるオーディオドラマ台本などを用いて、音声表現の基礎に、さらなる磨きを掛けつつ、実戦としてのアフレコ実習に於いて、より豊かに、細やかに感情を表現できる演技力の獲得を目指す。						
到達目標	①「音声によるドラマ表現力の強化」を、到達目標の代表として掲げる。そこへ至るまでの各段階として、②力強さとポジティブさを必要とするドラマを通して、テンポと活き活きとした表現力を掴む③より深い読解力と描写力を必要とするドラマを通して、細やかでダイナミックな表現力を掴む④以上を踏まえた上での展開として、アフレコ基礎よりも難易度の高い素材を用いて、より深く広範な読解力と、豊かな感情表現力を身に付ける。⑤ここまで学んだ内容を、他のアクター系授業にも反映できるよう、多角的な視点で振り返ることのできる、客観性を獲得する。						
評価方法と基準	各段階に定めた目標に対し、どの程度具体的にアプローチできるようになるかを評価基準とするが、結果だけではなく、その過程をより重視する。学生一人一人が、本授業の意図について自発的に考え、求められる表現と向き合い、目標を達成すべく具体的な行動を取ろうとするか否かを、標準的な目安としたい。評価方法は、定期テスト60％・出席（及び学習の過程）40％とする。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義と演習	授業の目的・計画を理解し課題を発見できる。	録音台本を繰り返しリハーサル。
2		演習	台本の内容をきちんと成立させられる。	次回録音に向けて授業を参考にリハーサル。
3		演習(録音)	マイク前でも自由にのびのびと表現できる。	次回台本にしっかりと目を通しておく。
4		試聴と演習	課題を知覚し、言語化。次の表現に活かせる。	課題を意識したりリハーサルに取り組む。
5		講義と演習	本が求める内容に意図的にアプローチできる。	次回録音に向けて授業を参考にリハーサル。
6		演習(録音)	限られた時間内に細やかな積み重ねができる。	授業を参考に自身の表現を振り返る。
7		試聴と演習	課題を知覚し、言語化。次の表現に活かせる。	次回台本にしっかりと目を通しておく。
8		演習(録音)	ここまでの内容を意識してアフレコに臨める。	発見した内容をしっかりと確認、反復しておく。
9		試聴と演習	課題を知覚し、言語化。次の表現に活かせる。	発見した内容をしっかりと確認、反復しておく。
10		演習(録音)	作品をより深く読解し、音声表現できる。	授業を参考に自身の表現を振り返る。
11		演習(録音)	作品をより深く読解し、音声表現できる。	授業を参考に自身の表現を振り返る。
12		試聴と演習	課題を知覚し、言語化。次の表現に活かせる。	ここまでの授業内容を総合的に復習しておく。
13		前期まとめ	前12回を振り返り、次の表現を模索できる。	前期を整理し、課題や疑問点を再確認する。
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	声優技術(6)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	井上悟
学科・専攻	メディア＆テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	声優、俳優、ナレーター。株式会社アーツビジョン所属。						
授業の学習 内容	アフレコ基礎を通して見えてきたのは、学生が他の授業で学んだ内容を、声の表現に活かしてない面だった。本授業、特に前期では、そのバイパスをより確かなものとする為、学生一人一人の個性を活かせるオーディオドラマ台本などを用いて、音声表現の基礎に、さらなる磨きを掛けつつ、実戦としてのアフレコ実習に於いて、より豊かに、細やかに感情を表現できる演技力の獲得を目指す。						
到達目標	①「音声によるドラマ表現力の強化」を、到達目標の代表として掲げる。そこへ至るまでの各段階として、②力強さとポジティブさを必要とするドラマを通して、テンポと生き活きた表現力を掴む③より深い読解力と描写力を必要とするドラマを通して、細やかでダイナミックな表現力を掴む④以上を踏まえた上での展開として、アフレコ基礎よりも難易度の高い素材を用いて、より深く広範な読解力と、豊かな感情表現力を身に付ける。⑤ここまで学んだ内容を、他のアクター系授業にも反映できるよう、多角的な視点で振り返ることのできる、客観性を獲得する。						
評価方法と基準	各段階に定めた目標に対し、どの程度具体的にアプローチできるようになるかを評価基準とするが、結果だけではなく、その過程をより重視する。学生一人一人が、本授業の意図について自発的に考え、求められる表現と向き合い、目標を達成すべく具体的な行動を取ろうとするか否かを、標準的な目安としたい。評価方法は、定期テスト60％・出席（及び学習の過程）40％とする。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義と演習	授業の目的・計画を理解し課題を発見できる。	録音台本を繰り返しリハーサル。
2		演習	台本の内容をきちんと成立させられる。	次回録音に向けて授業を参考にリハーサル。
3		演習(録音)	マイク前でも自由にのびのびと表現できる。	次回台本にしっかりと目を通しておく。
4		試聴と演習	課題を知覚し、言語化。次の表現に活かせる。	課題を意識したりリハーサルに取り組む。
5		講義と演習	本が求める内容に意図的にアプローチできる。	次回録音に向けて授業を参考にリハーサル。
6		演習(録音)	限られた時間内に細やかな積み重ねができる。	授業を参考に自身の表現を振り返る。
7		試聴と演習	課題を知覚し、言語化。次の表現に活かせる。	次回台本にしっかりと目を通しておく。
8		演習(録音)	ここまでの内容を意識してアフレコに臨める。	発見した内容をしっかりと確認、反復しておく。
9		試聴と演習	課題を知覚し、言語化。次の表現に活かせる。	発見した内容をしっかりと確認、反復しておく。
10		演習(録音)	作品をより深く読解し、音声表現できる。	授業を参考に自身の表現を振り返る。
11		演習(録音)	作品をより深く読解し、音声表現できる。	授業を参考に自身の表現を振り返る。
12		試聴と演習	課題を知覚し、言語化。次の表現に活かせる。	ここまでの授業内容を総合的に復習しておく。
13		前期まとめ	前12回を振り返り、次の表現を模索できる。	前期を整理し、課題や疑問点を再確認する。
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	殺陣(5)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	服部整治
学科・専攻	メディア & テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	下北沢ルナティック演劇祭2015優勝。同演劇祭最優秀演出賞受賞 第34回下北沢演劇祭出展作品制作						
授業の学習 内容	舞台、映像問わず、刀を使用した殺陣は「英語」の様な位置づけだと考えております。出来なくても役者の現場はあります。ですが刀殺陣が出来れば挑戦できる現場の間口が広がります。素手のアクションの授業と同じ位置づけであり、日本語の台詞が言えます。そこに英語でも中国語でも台詞が言えますとなれば、より多くのチャンスに巡り合える事でしょう。現場及びオーディションで、「はい、殺陣です。動いて！」と言われた時に対応できる表現者になれるよう実践に役立つ内容で進行していきます。						
到達目標	つけられた振りを素早く実践できる表現者になろう。						
評価方法と基準	定期実技テストにより評価させていただきます。(テスト30% 出席率70%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	基本動作「十手」の攻め・受け習得	貝の口結びの習得
2		演習	基本動作「十手」の攻め・受け習得	
3		演習	3対3の集団殺陣振りつけ	
4		演習	3対3の集団殺陣振りつけ	
5		演習	3対3の集団殺陣振りつけ	
6		演習	3対3の集団殺陣振りつけ	
7		演習	斬られるリアクション学習	
8		演習	斬られるリアクション学習	
9		演習	斬られるリアクション学習	
10		演習	斬られるリアクション学習	
11		演習	テスト対策	
12		演習	テスト	
13		演習	調整課題	
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	殺陣(6)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	服部整治
学科・専攻	メディア＆テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	下北沢ルナティック演劇祭2015優勝。同演劇祭最優秀演出賞受賞 第34回下北沢演劇祭出展作品制作						
授業の学習 内容	舞台、映像問わず、刀を使用した殺陣は「英語」の様な位置づけだと考えております。出来なくても役者の現場はあります。ですが刀殺陣が出来れば挑戦できる現場の間口が広がります。素手のアクションの授業と同じ位置づけであり、日本語の台詞が言えます。そこに英語でも中国語でも台詞が言えますとなれば、より多くのチャンスに巡り合える事でしょう。現場及びオーディションで、「はい、殺陣です。動いて！」と言われた時に対応できる表現者になれるよう実践に役立つ内容で進行していきます。						
到達目標	付けらた手を直ぐに実践し、そこに緩急まで付けられる表現者になろう！						
評価方法と基準	定期実技テストにより評価させていただきます。(テスト30% 出席率70%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	技の正確さ、振りの仕上げチェック	貝ノ口結びの習得
2		演習	技の正確さ、振りの仕上げチェック	
3		演習	技の正確さ、振りの仕上げチェック	
4		演習	技の正確さ、振りの仕上げチェック	
5		演習	台本のワンシーンを殺陣を入れて再現	
6		演習	台本のワンシーンを殺陣を入れて再現	
7		演習	台本のワンシーンを殺陣を入れて再現	
8		演習	台本のワンシーンを殺陣を入れて再現	
9		演習	台本のワンシーンを殺陣を入れて再現	
10		演習	台本のワンシーンを殺陣を入れて再現	
11		演習	台本のワンシーンを殺陣を入れて再現	
12		演習	テスト	
13		演習	総まとめ	
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	映画監督(5)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	乙木勇人
学科・専攻	メディア＆テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	俳優として活動する他、監督としても自身でプロデュースを手がけるなどマルチに活動する。監督作品である映画「神と恩送り、」では東京、千葉、名古屋、京都、神戸で上映され第2回スポットライト映画祭では観客賞を受賞した。						
授業の学習 内容	現代のエンターテインメントの世界でたたかうために、0～1を生む力をつける。 映像・映画・俳優 科目との関係、 0～1を生む力がエンターテインメントの世界ではとても求められるから。						
到達目標	自分たちで考えて、0から映画を製作する。 (脚本、監督、編集、出演、映画祭エントリーまで)						
評価方法と基準	出席率(100%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	短編映画の作り方＆目標設定	なし
2		演習	アイデア出し、役割決め	なし
3		演習	ログライン制作	なし
4		演習	脚本会議	なし
5		演習	ロケハン、キャスティング	なし
6		演習	小道具と衣装決め、制作	なし
7		演習	脚本会議、芝居稽古	なし
8		演習	脚本会議、芝居稽古	なし
9		演習	本編撮影	なし
10		演習	本編撮影	なし
11		演習	作品編集	なし
12		演習	作品編集	なし
13		演習	作品鑑賞	なし
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	映画監督(6)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	乙木勇人
	学科・専攻	メディア & テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)		
教員の略歴	俳優として活動する他、監督としても自身でプロデュースを手がけるなどマルチに活動する。監督作品である映画「神と恩送り、」では東京、千葉、名古屋、京都、神戸で上映され第2回スポットライト映画祭では観客賞を受賞した。						
授業の学習 内容	現代のエンターテインメントの世界でたたかうために、0～1を生む力をつける。 映像・映画・俳優 科目との関係、 0～1を生む力がエンターテインメントの世界ではとても求められるから。						
到達目標	自分たちで考えて、0から映画を製作する。 (脚本、監督、編集、出演、映画祭エントリーまで)						
評価方法と基準	出席率(100%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	短編映画の作り方＆目標設定	なし
2		演習	アイデア出し、役割決め	なし
3		演習	ログライン制作	なし
4		演習	脚本会議	なし
5		演習	ロケハン、キャスティング	なし
6		演習	小道具と衣装決め、制作	なし
7		演習	脚本会議、芝居稽古	なし
8		演習	脚本会議、芝居稽古	なし
9		演習	本編撮影	なし
10		演習	本編撮影	なし
11		演習	作品編集	なし
12		演習	作品編集	なし
13		演習	作品鑑賞	なし
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	ヴォイストレーニングA(5)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	KYO-HEY
学科・専攻	メディア&テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	*実務経験(Dance & Vocal) : WDC東北予選POP SIDE 優勝、アメリカNYC「BATTLE 101」 BEST 8、その他、優勝8回、準優勝5回の経歴有り 2018年9月 1st ALBUM CD「MUSEUM」リリース(iTunes Store・R&B/ソウル トップアルバム・日本・6位) 2019年 ヴォーカルグループ「イエローソーダ」として東京、名古屋、京都、群馬の4都市ツアー開催 2021年6月 2ndアルバム「Inside」リリース(iTunes Store・R&B/ソウル トップアルバム・日本 1位) 2021年10月 「Lovely Place」リリース(iTunes Store・R&B/ソウル トップアルバム・日本2位) 2022年8月 NY Apollo Theater Amateur Night 出演 (2018年4月～NSM,DA,TSM渋谷にてVocal&Dance講師を行なっている。)						
授業の学習 内容	①ヴォーカリストとして必要な実戦に活かせる知識を習得する。 ②自らスキル向上、調整を行えるようにアーティストマインドも含め習得する。						
到達目標	ステージパフォーマンス強化を目的とする。 ダンスにヴォーカルを融合させた場合のステージングスキル、 ヴォーカルスキル、ダンススキル、セルフプロデュース力を向上させる。						
評価方法と基準	・課題成果「出席・授業態度」:40% ・実技試験:60%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	個人目標設定を行う	
2		演習	横隔膜を意識した腹式呼吸が出来るようになる	次の講義までに復習を要する
3		演習	ボディマップを正確に理解する	次の講義までに復習を要する
4		演習	筋感覚を意識することで包括的認識力を知る	次の講義までに復習を要する
5		演習	歌唱時の正しい口の形を知る	次の講義までに復習を要する
6		演習	正しい口の形を意識した歌唱が出来る	次の講義までに復習を要する
7		演習	共鳴(頭部)について理解する	次の講義までに復習を要する
8		演習	歌唱前のストレッチから正しい体の使い方のアプローチ方法を知る。	次の講義までに復習を要する
9		演習	AO関節のバランスを取れるようになる(首の無駄な緊張をなくす)	次の講義までに復習を要する
10		演習	腰椎と胸郭のバランス、股関節のバランスを理解する	次の講義までに復習を要する
11		演習	ブレスとリズムの関係性を知る	次の講義までに復習を要する
12		演習	試験	
13		演習	試験総括(改善点を知る)	
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			・パフォーマンスをする楽曲は歌詞を暗記して来ること ・歌詞をノートに書いて持って来ること	
【使用教科書・教材・参考書】				
iPad(カラオケ音源)、マイク、キーボード				

東京ダンス・俳優・舞台芸術専門学校

科目名	ヴォイストレーニングA(6)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	KYO-HEY
学科・専攻	メディア&テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	*実務経験(Dance & Vocal) : WDC東北予選POP SIDE 優勝、アメリカNYC「BATTLE 101」 BEST 8、その他、優勝8回、準優勝5回の経歴有り 2018年9月 1st ALBUM CD「MUSEUM」リリース(iTunes Store・R&B/ソウル トップアルバム・日本・6位) 2019年 ヴォーカルグループ「イエローソーダ」として東京、名古屋、京都、群馬の4都市ツアー開催 2021年6月 2ndアルバム「Inside」リリース(iTunes Store・R&B/ソウル トップアルバム・日本・1位) 2021年10月 「Lovely Place」リリース(iTunes Store・R&B/ソウル トップアルバム・日本・2位) 2022年8月 NY Apollo Theater Amateur Night 出演 (2018年4月～NSM,DA,TSM渋谷にてVocal&Dance講師を行なっている。)						
授業の学習 内容	①ヴォーカリストとして必要な実戦に活かせる知識を習得する。 ②自らスキル向上、調整を行えるようにアーティストマインドも含め習得する。						
到達目標	ステージパフォーマンス強化を目的とする。 ダンスにヴォーカルを融合させた場合のステージングスキル、 ヴォーカルスキル、ダンススキル、セルフプロデュース力を向上させる。						
評価方法と基準	・課題成果「出席・授業態度」:40% ・実技試験:60%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	共鳴の仕組み、効果を知る	次の講義までに復習を要する
2		演習	鼻腔共鳴が出来るようになる	次の講義までに復習を要する
3		演習	頭部共鳴(ヘッドボイス)が出来るようになる	次の講義までに復習を要する
4		演習	母音歌唱を通してメロディのコード感を理解する	次の講義までに復習を要する
5		演習	膝関節と足関節のバランスと体重が伝わる道筋を理解する	次の講義までに復習を要する
6		演習	腕構造を理解しプレスを改善することで豊かな表現力を手に入れる	次の講義までに復習を要する
7		演習	胸部共鳴が出来るようになる	次の講義までに復習を要する
8		演習	ビブラートの仕組み、練習法を知る	次の講義までに復習を要する
9		演習	ビブラートが出来るようになる	次の講義までに復習を要する
10		演習	リズムを意識したビブラートを出来るようになる	次の講義までに復習を要する
11		演習	フェイクの仕組み、練習法を知る	次の講義までに復習を要する
12		演習	試験	
13		演習	試験総括(改善点を知る)	
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			・パフォーマンスをする楽曲は歌詞を暗記して来ること ・歌詞をノートに書いて持って来ること	
【使用教科書・教材・参考書】				
iPad(カラオケ音源)、マイク、キーボード				

科目名	ヴォイストレーニングB(5)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	細井康行
学科・専攻	メディア & テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	東京音楽大学研究科オペラコース修了／ヴォイストレーナー歴30年/慈慶学園勤続21年						
授業の学習 内容	1.歌う為に必要不可欠な身体の仕組みと呼吸を学ぶ為 2.ダンスと歌唱は身体表現が密接に関係しており双方にメリットがある 3.この授業を通して歌っておどってもブレない疲れにくい身体と呼吸を作り上げて行って欲しい 4.オリジナルの基本姿勢と呼吸法と発声法を細かく1人1人のコンディションに合わせて展開して行く 5.オーディションやステージ上でも揺るがないメンタルを構築する”口						
到達目標	1.オリジナルの体幹理論により姿勢、呼吸、発声法を矯正し、よりクオリティの高いパフォーマンスが可能となる 2.Dance&singに必要な呼吸法と発声法を学ぶ事により更にハイスベックな歌唱力が手に入れる事ができる 3.最終的にDance&singでブレない発声法とつかれない身体とキレのあるDanceパフォーマンスが可能になる 4.メンタルを鍛える事によりブレないパフォーマンスが期待できる						
評価方法と基準	1.授業の出席率と日々の授業態度 50% 2.歌唱&パフォーマンステスト30% 3.礼儀 * 機材セッティング等の協力体制20%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義：演習	オリジナル体幹理論による姿勢と発声	講師側で配布物準備
2		講義：演習	歌唱に寄る個人の声のチェック	コメントシート準備
3		講義：演習	前週の歌唱を細かく矯正	コメントシート記入
4		講義：演習	音域チェックと発声	音域チェックシート配布
5		講義：演習	マイキング	iPad撮影
6		講義：演習	マイキング	iPad撮影
7		講義：演習	ダンスをしながらマイキング矯正	コメントシート記入&iPad撮影
8		講義：演習	ダンスをしながらマイキング矯正	コメントシート記入&iPad撮影
9		講義：演習	ダンスに必要な呼吸法と体幹理論	コメントシート記入&iPad撮影
10		講義：演習	ダンスに必要な呼吸法と体幹理論	コメントシート記入&iPad撮影
11		講義：演習	テスト前の呼吸法と体幹理論と発声の チェック	コメントシート記入&iPad撮影
12		テスト	前期中間Dance&Singテスト	コメントシート記入&iPad撮影
13		テスト2	前期中間Dance&Singテスト	コメントシート記入&iPad撮影
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			歌唱する曲の音源と手書きの歌詞カード	
【使用教科書・教材・参考書】				
Visible body/ オリジナルトライ体幹理論／人体模型				

東京ダンス・俳優＆舞台芸術専門学校

科目名	ヴォイストレーニングB(6)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	細井康行
学科・専攻	メディア＆テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	東京音楽大学研究科オペラコース修了／ヴォイストレーナー歴30年/慈慶学園勤続21年						
授業の学習 内容	1.学園が掲げる実学教育をに基づき実際の現場でも実践されているトレーニングを学ぶ 2.前期に克服できなかったスキルを落とし込む 3.来るべきオーディションやステージに備えた歌唱法、パフォーマンスの磨き上げ 4.レパートリーの拡充						
到達目標	1.前期と同様体幹理論を使いつつ、より細かく実践に使えるスキルに仕上げる 2.歌う⇄踊るスキルアップに必要な呼吸法と歌唱法を極める 3.心・技・体を一致させるレッスンをひたすらやり続け、業界へ出て行く準備をする						
評価方法と基準	1.授業出席率50% 2.授業内は発表40% 3.機材準備等の協力体制、礼儀10%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	長期休暇後のスキルチェック	歌詞カードと音源準備
2		講義・演習	オーディション対策含めた歌唱法	歌詞カードと音源準備
3		講義・演習	オーディション対策含めた歌唱法2	歌詞カードと音源準備
4		講義・演習	Dance & Singのスキルアップ	iPad撮影
5		講義・演習	Dance & Singのスキルアップ2	iPad撮影
6		講義・演習	前週の復習と添削	iPad撮影
7		講義・演習	ユニット組んでDance & Singスキルアップ	音源準備&iPad撮影
8		講義・演習	ユニット組んでDance & Singスキルアップ2	音源準備&iPad撮影
9		講義・演習	実際に現場で使われた課題曲を使ったレッスン	音源準備&iPad撮影
10		講義・演習	実際に現場で使われた課題曲を使ったレッスン2	音源準備&iPad撮影
11		講義・演習	テスト曲選定	音源準備&iPad撮影
12		テスト1	パフォーマンス	音源準備&iPad撮影
13		テスト2	パフォーマンス2	音源準備&iPad撮影
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
現場で使用した音源、コード譜準備				

東京ダンス・俳優&舞台芸術専門学校

科目名	ヴォイストレーニングC(5)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	森本 繁来
学科・専攻	メディア & テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	メジャーアーティスト サマーソニックや東京ドームで歌う 誰もが知るプロに教えている						
授業の学習 内容	誰でも歌える歌かもしれませんが、 プロとして相手を魅了する、感動させる為のトレーニングをします。正確な高さ、必要な声量、適正な音色を作っていきます。基礎的なトレーニングを全員で行った後に、個々それぞれの歌声に対し研究、課題、トレーニング、改善をしていく。						
到達目標	自分自身のイメージ通り歌える表現力をつける。						
評価方法と基準	授業態度 取組姿勢						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	自分自身の課題を知る、基礎の大切さ	
2		講義・演習	腹式呼吸 深く強いブレスのトレーニング 歌唱	
3		講義・演習	低中高音域の響かせ方 伸びやかな発声 歌唱	
4		講義・演習	地声 歌声 共鳴とは！？	
5		講義・演習	音の3原則 pitch loud tonecolor	
6		講義・演習	フォール、ビブラートなどテクニック演習	
7		講義・演習	正しい リップロール ハミング 発声	
8		講義・演習	地声裏声 ファルセット ミックスボイス	
9		講義・演習	フォール、ビブラート などテクニック 演習	
10		講義・演習	高い声 ロングトーンの演習	
11		講義・演習	滑舌によるリズムトレーニング	
12		講義・演習	相手に伝える母音子音言葉の作り方	
13		講義・演習	自分自身の好きな歌を歌い課題がクリアできているか、更に表現をあげていくにはどうすれば良いか？	
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	ヴォイストレーニングC(6)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	森本 繁来
		授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
学科・専攻	メディア & テクノロジー科(昼間部二)						
教員の略歴	メジャーアーティスト サマーソニックや東京ドームで歌う 誰もが知るプロに教えている						
授業の学習 内容	誰でも歌える歌かもしれませんが、 プロとして相手を魅了する、感動させる為のトレーニングをします。正確な高さ、必要な声量、適正な音色を作っていきます。基礎的なトレーニングを全員で行った後に、個々それぞれの歌声に対し研究、課題、トレーニング、改善をしていく。						
到達目標	自分自身のイメージ通り歌える表現力をつける。						
評価方法と基準	授業態度 取組姿勢						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	自分自身の課題を知る、基礎の大切さ	
2		講義・演習	腹式呼吸 深く強いブレスのトレーニング 歌唱	
3		講義・演習	低中高音域の響かせ方 伸びやかな発声 歌唱	
4		講義・演習	地声 歌声 共鳴とは！？	
5		講義・演習	音の3原則 pitch loud tonecolor	
6		講義・演習	フォール、ビブラートなどテクニック演習	
7		講義・演習	正しい リップロール ハミング 発声	
8		講義・演習	地声裏声 ファルセット ミックスボイス	
9		講義・演習	フォール、ビブラート などテクニック 演習	
10		講義・演習	高い声 ロングトーンの演習	
11		講義・演習	滑舌によるリズムトレーニング	
12		講義・演習	相手に伝える母音子音言葉の作り方	
13		講義・演習	自分自身の好きな歌を歌い課題がクリアできているか、更に表現をあげていくにはどうすれば良いか？	
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	映像制作(5)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	HYUUGA
		授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
学科・専攻	メディア&テクノロジー科(昼間部二)						
教員の略歴							
授業の学習 内容	①ダンサーとしてのセルフプロデュースの幅を広げる ②映像を通して「自分を表現する」ということへの別角度からのアプローチを学ぶ ③一定水準の映像を作れることになることで生徒本来が持つクリエイティブの地力を底上げをする 個人ワークを主体として自分の作りたいものをより深く探求・実現していく CGの作成やAdobe After Effectsとのダイナミックリンクで可能性の幅を広げていく						
到達目標	自身のクリエイティブの向上と共に自主制作作品を1本以上仕上げる						
評価方法と基準	授業態度(出席率も含む)50% 作品評価50%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	授業説明、インプット_1	作りたい作品の文章化
2		講義・演習	インプット_2、プレスト_1	作りたい作品の明確化
3		講義・演習	プレスト_2、企画書作成	企画書のブラッシュアップ
4		講義・演習	企画書提出、ロードマップ作成	ロードマップのブラッシュアップ
5		講義・演習	日程調整、人員調達・配置	協力してくれる人たちへの連絡
6		講義・演習	撮影準備	必要な物の買い出しや準備
7		講義・演習	撮影_1	データ移動
8		講義・演習	撮影_2(予備日)、編集	データ移動
9		講義・演習	編集	編集残作業
10		講義・演習	編集	編集残作業
11		講義・演習	編集	編集残作業
12		講義・演習	最終調整	編集残作業
13		講義・演習	作品提出、総評	
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			宿題等は基本作らず空き時間での復習をし、自主的に覚えるように努力すること	
【使用教科書・教材・参考書】				
PC、Adobe Premiere Pro				

科目名	映像制作(6)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	HYUUGA
		授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
学科・専攻	メディア & テクノロジー科(昼間部二)						
教員の略歴							
授業の学習 内容	①ダンサーとしてのセルフプロデュースの幅を広げる ②映像を通して「自分を表現する」ということへの別角度からのアプローチを学ぶ ③一定水準の映像を作れることになることで生徒本来が持つクリエイティブの地力を底上げをする 個人ワークを主体として自分の作りたいものをより深く探求・実現していく CGの作成やAdobe After Effectとのダイナミックリンクで可能性の幅を広げていく						
到達目標	自身のクリエイティブの向上と共に自主制作作品を1本以上仕上げる						
評価方法と基準	授業態度(出席率も含む)50% 作品評価50%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	授業説明、インプット_1	作りたい作品の文章化
2		講義・演習	インプット_2、プレスト_1	作りたい作品の明確化
3		講義・演習	プレスト_2、企画書作成	企画書のブラッシュアップ
4		講義・演習	企画書提出、ロードマップ作成	ロードマップのブラッシュアップ
5		講義・演習	日程調整、人員調達・配置	協力してくれる人たちへの連絡
6		講義・演習	撮影準備	必要な物の買い出しや準備
7		講義・演習	撮影_1	データ移動
8		講義・演習	撮影_2(予備日)、編集	データ移動
9		講義・演習	編集	編集残作業
10		講義・演習	編集	編集残作業
11		講義・演習	編集	編集残作業
12		講義・演習	最終調整	編集残作業
13		講義・演習	作品提出、総評	
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			宿題等は基本作らず空き時間での復習をし、自主的に覚えるように努力すること	
【使用教科書・教材・参考書】				
PC、Adobe Premiere Pro				

科目名	劇場技術A(5)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	左右田			
		授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位					
学科・専攻	メディア & テクノロジー科(昼間部二)									
教員の略歴	音響業界歴41年 音響講師歴21年 有限会社バンデロー代表取締役									
授業の学習 内容	将来、自主公演や劇団等の音響係になった際、より効果的に音を扱えるようになる為の基礎講座。音響機器を使用し、自分たちでオペレーションをやってみる。演劇における音響の基本を学び、演出効果としての音の活用方法を学ぶ。									
到達目標	音響の基本的な仕組みを理解する。音楽再生ソフトの基礎的な使い方を理解する。									
評価方法と基準	■評価方法 出席率50% 期末テスト50% ■評価基準 授業への取り組む姿勢。									

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	演習にて使用する機材の取り扱い方法	
2		講義と演習	PAミキサーの使い方・演習	
3		講義と演習	CDデッキの使い方・演習	
4		講義と演習	朗読劇を通して学習したスキルの実践	
5		講義と演習	音楽再生ソフトの基礎-1A/朗読劇を通して学習したスキルの実践	
6		講義と演習	音楽再生ソフトの基礎-1B/朗読劇を通して学習したスキルの実践	
7		講義と演習	音楽再生ソフトの基礎-2A/朗読劇を通して学習したスキルの実践	
8		講義と演習	音楽再生ソフトの基礎-2B/朗読劇を通して学習したスキルの実践	
9		講義と演習	音楽再生ソフトの基礎-3A/朗読劇を通して学習したスキルの実践	
10		講義と演習	音楽再生ソフトの基礎-3B/朗読劇を通して学習したスキルの実践	
11		講義と演習	IEMの体験-1	
12		講義と演習	IEMの体験-2	
13		講義と演習	期末試験	
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

東京ダンス・俳優＆舞台芸術専門学校

科目名	劇場技術A(6)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	左右田
		授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
学科・専攻	メディア＆テクノロジー科(昼間部二)						
教員の略歴	音響業界歴41年 音響講師歴21年 有限会社バンデーロ代表取締役						
授業の学習 内容	将来、自主公演や劇団等の音響係になった際、より効果的に音を扱えるようになる為の基礎講座。音響機器を使用し、自分たちでオペレーションをやってみる。演劇における音響の基本を学び、演出効果としての音の活用方法を学ぶ。						
到達目標	音響の基本的な仕組みを理解する。音楽再生ソフトの基礎的な使い方を理解する。						
評価方法と基準	■評価方法 出席率50% 期末テスト50% ■評価基準 授業への取り組む姿勢。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	演習にて使用する機材の取り扱い方法	
2		講義と演習	PAミキサーの使い方・演習	
3		講義と演習	CDデッキの使い方・演習	
4		講義と演習	朗読劇を通して学習したスキルの実践	
5		講義と演習	音楽再生ソフトの基礎-1A/朗読劇を通して学習したスキルの実践	
6		講義と演習	音楽再生ソフトの基礎-1B/朗読劇を通して学習したスキルの実践	
7		講義と演習	音楽再生ソフトの基礎-2A/朗読劇を通して学習したスキルの実践	
8		講義と演習	音楽再生ソフトの基礎-2B/朗読劇を通して学習したスキルの実践	
9		講義と演習	音楽再生ソフトの基礎-3A/朗読劇を通して学習したスキルの実践	
10		講義と演習	音楽再生ソフトの基礎-3B/朗読劇を通して学習したスキルの実践	
11		講義と演習	IEMの体験-1	
12		講義と演習	IEMの体験-2	
13		講義と演習	期末試験	
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

東京ダンス・俳優＆舞台芸術専門学校

科目名	劇場技術B(5)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	左右田
		授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
学科・専攻	メディア＆テクノロジー科(昼間部二)						
教員の略歴	音響業界歴41年 音響講師歴21年 有限会社バンデロー代表取締役						
授業の学習 内容	将来、自主公演や劇団等の音響係になった際、より効果的に音を扱えるようになる為の基礎講座。音響機器を使用し、自分たちでオペレーションをやる。演劇における音響の基本を学び、演出効果としての音の活用方法を学ぶ。						
到達目標	音響の基本的な仕組みを理解する。音楽再生ソフトの基礎的な使い方を理解する。						
評価方法と基準	■評価方法 出席率50% 期末テスト50% ■評価基準 授業への取り組み姿勢。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	演習にて使用する機材の取り扱い方法	
2		講義・演習	PAミキサーの使い方・演習	
3		講義・演習	CDデッキの使い方・演習	
4		講義・演習	朗読劇を通して学習したスキルの実践	
5		講義・演習	音楽再生ソフトの基礎-1A/朗読劇を通して学習したスキルの実践	
6		講義・演習	音楽再生ソフトの基礎-1B/朗読劇を通して学習したスキルの実践	
7		講義・演習	音楽再生ソフトの基礎-2A/朗読劇を通して学習したスキルの実践	
8		講義・演習	音楽再生ソフトの基礎-2B/朗読劇を通して学習したスキルの実践	
9		講義・演習	音楽再生ソフトの基礎-3A/朗読劇を通して学習したスキルの実践	
10		講義・演習	音楽再生ソフトの基礎-3B/朗読劇を通して学習したスキルの実践	
11		講義・演習	IEMの体験-1	
12		講義・演習	IEMの体験-2	
13		講義・演習	期末試験	
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

東京ダンス・俳優 & 舞台芸術専門学校

科目名	劇場技術B(6)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	左右田
		授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
学科・専攻	メディア&テクノロジー科(昼間部二)						
教員の略歴	音響業界歴41年 音響講師歴21年 有限会社バンデロー代表取締役						
授業の学習 内容	将来、自主公演や劇団等の音響係になった際、より効果的に音を扱えるようになる為の基礎講座。音響機器を使用し、自分たちでオペレーションをやる。演劇における音響の基本を学び、演出効果としての音の活用方法を学ぶ。						
到達目標	音響の基本的な仕組みを理解する。音楽再生ソフトの基礎的な使い方を理解する。						
評価方法と基準	■評価方法 出席率50% 期末テスト50% ■評価基準 授業への取り組む姿勢。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	演習にて使用する機材の取り扱い方法	
2		講義と演習	PAミキサーの使い方・演習	
3		講義と演習	CDデッキの使い方・演習	
4		講義と演習	朗読劇を通して学習したスキルの実践	
5		講義と演習	音楽再生ソフトの基礎-1A/朗読劇を通して学習したスキルの実践	
6		講義と演習	音楽再生ソフトの基礎-1B/朗読劇を通して学習したスキルの実践	
7		講義と演習	音楽再生ソフトの基礎-2A/朗読劇を通して学習したスキルの実践	
8		講義と演習	音楽再生ソフトの基礎-2B/朗読劇を通して学習したスキルの実践	
9		講義と演習	音楽再生ソフトの基礎-3A/朗読劇を通して学習したスキルの実践	
10		講義と演習	音楽再生ソフトの基礎-3B/朗読劇を通して学習したスキルの実践	
11		講義と演習	IEMの体験-1	
12		講義と演習	IEMの体験-2	
13		講義と演習	期末試験	
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

東京ダンス・俳優&舞台芸術専門学校

科目名	劇場技術C(5)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	左右田
		授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
学科・専攻	メディア&テクノロジー科(昼間部二)						
教員の略歴	音響業界歴41年 音響講師歴21年 有限会社バンデロー代表取締役						
授業の学習 内容	将来、自主公演や劇団等の音響係になった際、より効果的に音を扱えるようになる為の基礎講座。音響機器を使用し、自分たちでオペレーションをやる。演劇における音響の基本を学び、演出効果としての音の活用方法を学ぶ。						
到達目標	音響の基本的な仕組みを理解する。音楽再生ソフトの基礎的な使い方を理解する。						
評価方法と基準	■評価方法 出席率50% 期末テスト50% ■評価基準 授業への取り組み姿勢。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	演習にて使用する機材の取り扱い方法	
2		講義・演習	PAミキサーの使い方・演習	
3		講義・演習	CDデッキの使い方・演習	
4		講義・演習	朗読劇を通して学習したスキルの実践	
5		講義・演習	音楽再生ソフトの基礎-1A/朗読劇を通して学習したスキルの実践	
6		講義・演習	音楽再生ソフトの基礎-1B/朗読劇を通して学習したスキルの実践	
7		講義・演習	音楽再生ソフトの基礎-2A/朗読劇を通して学習したスキルの実践	
8		講義・演習	音楽再生ソフトの基礎-2B/朗読劇を通して学習したスキルの実践	
9		講義・演習	音楽再生ソフトの基礎-3A/朗読劇を通して学習したスキルの実践	
10		講義・演習	音楽再生ソフトの基礎-3B/朗読劇を通して学習したスキルの実践	
11		講義・演習	IEMの体験-1	
12		講義・演習	IEMの体験-2	
13		講義・演習	期末試験	
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

東京ダンス・俳優&舞台芸術専門学校

科目名	劇場技術C(6)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	左右田
学科・専攻	メディア &テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	音響業界歴41年 音響講師歴21年 有限会社パンデロー代表取締役						
授業の学習 内容	将来、自主公演や劇団等の音響係になった際、より効果的に音を扱えるようになる為の基礎講座。音響機器を使用し、自分たちでオペレーションをやってみる。演劇における音響の基本を学び、演出効果としての音の活用方法を学ぶ。						
到達目標	音響の基本的な仕組みを理解する。音楽再生ソフトの基礎的な使い方を理解する。						
評価方法と基準	■評価方法 出席率50% 期末テスト50% ■評価基準 授業への取り組む姿勢。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	演習にて使用する機材の取り扱い方法	
2		講義と演習	PAミキサーの使い方・演習	
3		講義と演習	CDデッキの使い方・演習	
4		講義と演習	朗読劇を通して学習したスキルの実践	
5		講義と演習	音楽再生ソフトの基礎-1A/朗読劇を通して学習したスキルの実践	
6		講義と演習	音楽再生ソフトの基礎-1B/朗読劇を通して学習したスキルの実践	
7		講義と演習	音楽再生ソフトの基礎-2A/朗読劇を通して学習したスキルの実践	
8		講義と演習	音楽再生ソフトの基礎-2B/朗読劇を通して学習したスキルの実践	
9		講義と演習	音楽再生ソフトの基礎-3A/朗読劇を通して学習したスキルの実践	
10		講義と演習	音楽再生ソフトの基礎-3B/朗読劇を通して学習したスキルの実践	
11		講義と演習	IEMの体験-1	
12		講義と演習	IEMの体験-2	
13		講義と演習	期末試験	
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	演出ゼミ(5)	必修 選択	選択	年次	4	担当教員	三浦佑介
学科・専攻	メディア&テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	2002年より俳優・演出家として活動。蜷川幸雄氏に師事。演出作はストレートプレイ、翻訳劇、イベント、コンサートなど多数。						
授業の学習 内容	演技は基本的に行わず、演出側の思考と設計に重点を置く 「考えて分析する」「見抜く」「伝える」力を育てるゼミ形式 実演発表は行わず、ワーク中心・座学と観察ベースで学ぶ						
到達目標	演出家の役割と視点を理解する 演技・空間・構成の分析を言語化できる 他者の演技に的確なフィードバックができる シーン・作品を演出的視点で設計できる 自身の表現を客観的に俯瞰し調整できる						
評価方法と基準	平常点(出席・授業態度) 50% テスト成績 50%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	演出とは何か	
2		講義	演出家の視点で作品を観る①(空間・構図)	前回の復習
3		講義	演出家の視点で作品を観る②(動き・導線)	前回の復習
4		講義	シーンの目的と構成要素	前回の復習
5		講義	俳優とのコミュニケーション	前回の復習
6		講義	台本読解①: 状況・関係性・感情	前回の復習
7		講義	台本読解②: 演出プランへの展開	前回の復習
8		講義	空間と演技の関係(抽象／具体)	前回の復習
9		講義	動きと間の設計	前回の復習
10		講義	即興演技を演出視点で見る	前回の復習
11		演習	グループ演出ワーク①(3～4人構成)	前回の復習
12		演習	グループ演出ワーク②(プランの検討と改善)	前回の復習
13		講義・演習	振り返り／演出的思考と表現への応用	前回の復習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	演出ゼミ(6)	必修 選択	選択	年次	4	担当教員	三浦佑介
学科・専攻	メディア&テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	2002年より俳優・演出家として活動。蜷川幸雄氏に師事。演出作はストレートプレイ、翻訳劇、イベント、コンサートなど多数。						
授業の学習 内容	演技は基本的に行わず、演出側の思考と設計に重点を置く 「考えて分析する」「見抜く」「伝える」力を育てるゼミ形式 実演発表は行わず、ワーク中心・座学と観察ベースで学ぶ						
到達目標	演出家の役割と視点を理解する 演技・空間・構成の分析を言語化できる 他者の演技に的確なフィードバックができる シーン・作品を演出的視点で設計できる 自身の表現を客観的に俯瞰し調整できる						
評価方法と基準	平常点(出席・授業態度) 50% テスト成績 50%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	演出とは何か	
2		講義	演出家の視点で作品を観る①(空間・構図)	前回の復習
3		講義	演出家の視点で作品を観る②(動き・導線)	前回の復習
4		講義	シーンの目的と構成要素	前回の復習
5		講義	俳優とのコミュニケーション	前回の復習
6		講義	台本読解①:状況・関係性・感情	前回の復習
7		講義	台本読解②:演出プランへの展開	前回の復習
8		講義	空間と演技の関係(抽象／具体)	前回の復習
9		講義	動きと間の設計	前回の復習
10		講義	即興演技を演出視点で見る	前回の復習
11		演習	グループ演出ワーク①(3～4人構成)	前回の復習
12		演習	グループ演出ワーク②(プランの検討と改善)	前回の復習
13		講義・演習	振り返り／演出的思考と表現への応用	前回の復習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	JAZZ(7)	必修 選択	選択	年次	4	担当教員	沙也香
学科・専攻	メディア＆テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	ジャズダンスインストラクター歴 10年						
授業の学習 内容	1年次に学んだ基礎を再度確認理解し、さらに応用したものを踊れるようにする。						
到達目標	ジャズダンスの基礎の習得、更なる技術の向上、表現力の強化。						
評価方法と基準	出席率&授業態度:40% 期末テスト:60%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	1年次に行っていたアップの再確認・調整	身体の使い方の復習
2		講義・演習	ウォーミングアップのの応用（柔軟・ストレッチ）	各自再度確認・復習
3		講義・演習	ウォーミングアップの応用(筋力強化)	復習し毎日筋トレを行う
4		講義・演習	基礎の応用習得	復習・反復練習
5		講義・演習	ジャズダンスの振付（ターン・ジャンプ）	振付の確認・練習
6		講義・演習	ジャズダンスの振付(ターン・ジャンプ)	前の週の振りを思い出し繋げて復習
7		講義・演習	ジャズダンスの振付（ターン・ジャンプ）まとめ	細かい部分の確認・表現をつける練習
8		講義・演習	ジャズダンスの振付（応用）	振付の確認・練習
9		講義・演習	ジャズダンスの振付（応用）	前の週の振りを思い出し繋げて復習
10		講義・演習	ジャズダンスの振付(応用)	過去二回の振りを思い出し繋げて練習
11		講義・演習	ジャズダンスの振付（応用）まとめ	細かい部分の確認・表現をつける練習
12		講義・演習	前期のまとめ・期末テストの振付練習	テストに向けて練習し、各々の表現をつける
13		講義・演習	期末テスト	テストにおける反省点の練習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			前回の授業でおこなった振付、基礎や技の復習	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	JAZZ(8)	必修 選択	選択	年次	4	担当教員	沙也香
		授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
学科・専攻	メディア&テクノロジー科(昼間部二)						
教員の略歴	ジャズダンスインストラクター歴 10年						
授業の学習 内容	授業内で学んだ基礎を再度確認理解し、さらに応用し表現も加え、踊れるようにする。						
到達目標	ジャズダンスの基礎の習得、更なる技術の向上、表現力の強化。						
評価方法と基準	出席率&授業態度:40% 期末テスト:60%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	前期に行ったストレッチや基礎の復習	身体の使い方の復習
2		講義・演習	前期に行ったストレッチや基礎の復習	各自再度確認・復習
3		講義・演習	フロアでのスムーズな身体の動かし方を理解する	復習・反復練習
4		講義・演習	フロアでのスムーズな身体の動かし方を理解する	復習・反復練習
5		講義・演習	フロアにおける技を細かく分解し理解する	復習・反復練習
6		講義・演習	フロアにおける技を細かく分解し理解する	復習・反復練習
7		講義・演習	基礎の応用(ダブルターン)	振付の確認・練習
8		講義・演習	基礎の応用(ジャンプ)	振付の確認・練習
9		講義・演習	基礎の応用(ジャンプターン)	振付の確認・練習
10		講義・演習	基礎の応用(ターンからのジャンプ)	振付の確認・練習
11		講義・演習	基礎の応用(ターンからのジャンプ)	振付の確認・練習
12		講義・演習	1年間に学んだことの確認・まとめ	テストに向けて練習し、各々の表現をつける
13		講義・演習	1年間に学んだことの確認・まとめ	テストにおける反省点の練習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			反復練習の重要性を理解し、授業外で自主練習を行う。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	バレエ(7)	必修 選択	選択	年次	4	担当教員	秋山かおる
学科・専攻	メディア & テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	日本バレエ協会会員 プログレッシブバレエテクニック認定講師						
授業の学習 内容	◎クラシックバレエの基礎を学ぶ事を通し、ダンサーとしての筋力、姿勢、柔軟性、音楽性を養う ◎ バレエのクラスレッスンの特性として「右からやった事は左から、前からやった事は後ろからも同じ動きを必ず繰り返す」 内容となっており、レッスンを重ねる事で「自分の身体・筋肉を自由にコントロールして踊る」ことを身に着ける ◎JAZZやコンテンポラリーなど、他ジャンルのダンス振付の際にも「バレエ用語＝動きの名称」が使われる事も多い為、レッスンを 通して用語も学ぶ ◎具体的なレッスン内容は パーレッスン(約50分)＋センターブラクティス(約40分) ※ストレッチは慣れるまでは授業時間内で実施→ストレッチの種類ややり方を理解できたら授業前に自分でストレッチをし、パー レッスンから授業開始となります						
到達目標	①パーレッスン(プリエからグランバットマンまで)は前期に学んだ基礎を元に応用的なバにも挑戦する ②センターブラクティスについては前期に学んだ基礎を活かし、グランワルツまで幅広く踊れるようになる ③自分自身の骨格・筋肉の質や左右差を理解し「ケガをしないダンサー」の身体づくりの為のレッスンが出来るようになる						
評価方法と基準	実技試験60%(実技) 出席率40% ※技術の向上だけでなく、毎回の授業に臨む姿勢も含めて評価します。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	ストレッチの仕方、ポジションとパーレッスン	ストレッチとポジションの復習
2		演習	パーレッスン（ターンアウトの必要性を学ぶ）	ストレッチ+大腿骨の動かし方を研究
3		演習	バー+センターのアダージオとタンジュ	ストレッチ+左右の軸足の感覚を研究
4		演習	前回の内容にビルエットの基礎を追加	ストレッチ+ルルベの復習
5		演習	前回の内容にスモールジャンプを追加	ストレッチ+アームス（腕）の使い方を研究
6		演習	前回の内容にピケターンを追加	ストレッチ+ターンにおける首のつけ方を復習
7		演習	前回の内容にアレグロを追加	〃
8		演習	バー+センターは前回の内容に応用を加える	ストレッチ+顔のつけ方（方向）の復習
9		演習	バー+センターは前回の内容に応用を加える	ストレッチ+自分の弱点は何かを考え復習
10		演習	バー+センターは前回の内容に応用を加える	〃
11		演習	パーレッスン+試験課題としてのセンター	ストレッチ+試験課題の復習
12		演習	パーレッスン+試験課題としてのセンター	〃
13		演習	パーレッスン+ 実技試験	ストレッチ+前期で覚えた用語を確認・復習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			スタジオに入ったら授業が始まる前に自分たちでバーを設置し、各自でストレッチを始めること	
【使用教科書・教材・参考書】				
レッスン時の服装・髪型については教務の先生より詳しい指示がありますので、それに従って下さい				

科目名	バレエ(8)	必修 選択	選択	年次	4	担当教員	秋山かおる
学科・専攻	メディア＆テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	日本バレエ協会会員 プログレッシブバレエテクニック認定講師						
授業の学習 内容	◎クラシックバレエの基礎を学ぶ事を通し、ダンサーとしての筋力、姿勢、柔軟性、音楽性を養う ◎バレエのクラスレッスンの特性として「右からやった事は左から、前からやった事は後ろからも同じ動きを必ず繰り返す」 内容となっており、レッスンを重ねる事で「自分の身体・筋肉を自由にコントロールして踊る」ことを身に着ける ◎他ジャンルのダンス振付の際にも「バレエ用語＝動きの名称」が使われる事も多い為、レッスンを通して用語も学ぶ ◎具体的なレッスン内容は バーレッスン(約50分)＋センタープラクティス(約40分) ※前期より、音楽の使い方やステップの幅に応用性をもたせてゆく						
到達目標	①バーレッスン(プリエからグランバットマンまで)は前期に学んだ基礎を元に応用的なバにも挑戦する ②センタープラクティスについては前期に学んだ基礎を活かし、グランワルツまで幅広く踊れるようになる ③自分自身の骨格・筋肉の質や左右差を理解し「ケガをしないダンサー」の身体づくりの為のレッスンが出来るようになる						
評価方法及び基準	実技試験60%(実技) 出席率40% ※技術の向上だけでなく、毎回の授業に臨む姿勢も含めて評価します。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	前期の内容＋グランワルツについて	ストレッチ＋ステップの復習
2		演習	前回の内容＋グランワルツ（ダイナミックに）	ストレッチ＋ステップの復習
3		演習	バー＋センター(ターンに重点)	ストレッチ＋軸足ルルベの復習
4		演習	バー＋センター（アダージオに重点）	ストレッチ＋プロムナードの仕組みを復習
5		演習	バー＋センター（アレグロに重点）	ストレッチ＋アームス（腕）の使い方を研究
6		演習	バー＋センター(ジャンプに重点)	ストレッチ＋アントルラセの仕組みを復習
7		演習	バー＋センター（ジャンプに重点）	〃
8		演習	バー＋センターは今までの内容に応用を加える	ストレッチ＋顔のつけ方（方向）の復習
9		演習	バー＋センターは今までの内容に応用を加える	ストレッチ＋アームス（腕）の復習
10		演習	パーレッスン＋試験課題としてのセンター	ストレッチ＋試験課題の復習（表現の研究）
11		演習	パーレッスン＋試験課題としてのセンター	ストレッチ＋試験課題の復習（音楽性を踏まえ）
12		演習	パーレッスン＋ 実技試験	ストレッチ＋自分の弱点は何かを考えての復習
13		演習	パーレッスン＋センター	一年間のまとめとしてのクラスレッスン
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			スタジオに入ったら授業が始まる前に自分たちでバーを設置し、各自でストレッチを始めること	
【使用教科書・教材・参考書】				
レッスン時の服装・髪型については教務の先生より詳しい指示がありますので、それに従って下さい				

科目名	バレエ(7)	必修 選択	選択	年次	4	担当教員	下島功佐
学科・専攻	メディア&テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	ロシアワガノワバレエアカデミー留学卒業、元谷桃子バレエ団ソリスト						
授業の学習 内容	① バレエは、ダンス全般及び演技に共通して通用する部分が非常に多いので、将来、ダンス関係及び舞台関係への就職を少しでも考えているならば必須です。 ② ダンス全般の授業と関係します。しなやかで強い筋肉、軸のぶれない体幹、美しい身体のライン、音の聞き方感じ方、以上の体得という位置付けです。 ③ バレエは専門的且つ基礎的で地味な練習が多いが毎時間繰り返す事で精神力も鍛え、自分の身体、自分の可能性としっかりと向き合い、卒業後の進路の可能性を広げていってほしい。 ①～③をふまえて 柔軟性を高めるためのストレッチ、体幹強化とバレエの基礎知識習得の為のバーレッスン、バレエのステップへの理解を深める為、ジャンプ、回転も多用したセンターレッスン(バーレッスン、センターレッスン、共に音楽に合わせて行う)						
到達目標	当たり前ではあるが、休まず毎時間出席する事が第1目標。最終的にはバレエのポジション、ステップコンビネーションの説明の理解が出来、尚且つ実践できるようになる。						
評価方法と基準	定期テストの点数と普段の授業への取り組み方を総合的に評価						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・発表	腹筋、背筋、腹斜間の筋力強化の為のトレーニング パーレッスン、手のポジション(アンバー、アンナヴァン、アン オー、アラセゴン)足のポジション(1〜6番)の説明を重点的に	知っているストレッチをしておく。
2		講義・発表	プリエ:身体をまっすぐにたてる意識を持つ事を重点的に。	1で学んだストレッチ、筋力トレーニング。手のポジション、足のポ ジションの復習。
3		講義・発表	タンジュとジュテ:自分の前横後ろへ身体がぶれずに真っ直ぐに 足を出せる事を重点的に。	2で学んだストレッチ、筋力トレーニング。プリエの復習。
4		講義・発表	タンジュとジュテ:足の指、ドゥミをきちんと使えるように意識する ことを重点的に。	3で学んだストレッチ、筋力トレーニング。タンジュ、ジュテの復 習。
5		講義・発表	ロンデジャンプ:前横後ろのタンジュを連続して繋げて動かす事 を覚える、動かすときに身体、腰がブレない事を意識して。パッ セの説明。	4で学んだストレッチ、筋力トレーニング。タンジュ、ジュテの復 習。
6		講義・発表	フォンデュ:片足のプリエ、及びクベの形を理解、習得	5で学んだストレッチ、筋力トレーニング。ロンデジャンプ、パッセ の復習。
7		講義・発表	フラッペ:体幹がブレずに音、リズムに合わせてはつきりと素早く 足を動かせる。	6で学んだストレッチ、筋力トレーニング。フォンデュ、クベの復習
8		講義・発表	アダジオとグランバットマン:タンジュを通して足を高く上げ、キ ープ出来るように。素早く高く上げられるように。	7で学んだストレッチ、筋力トレーニング。フラッペの復習。
9		講義・発表	アダジオとグランバットマン:デベロップの習得。	8で学んだストレッチ、筋力トレーニング。アダジオ、グランバット マンの復習。
10		講義・発表	ルルベの確認。	9で学んだストレッチ、筋力トレーニング。デベロップの復習。
11		講義・発表	スシュとエシャッペの説明。	10で学んだストレッチ、筋力トレーニング。ルルベの復習。
12		講義・発表	シャンジュマンの説明。	11で学んだストレッチ、筋力トレーニング。スシュとエシャッペの 復習。
13		試験	12までのパーレッスン及びセンターレッスンの内容に対する理解 力の確認。	12で学んだストレッチ、筋力トレーニング。シャンジュマンの復 習。
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	バレエ(8)	必修 選択	選択	年次	4	担当教員	下島功佐
学科・専攻	メディア&テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	ロシアワガノワバレエアカデミー留学卒業、元谷桃子バレエ団ソリスト						
授業の学習 内容	① バレエは、ダンス全般及び演技に共通して通用する部分が非常に多いので、将来、ダンス関係及び舞台関係への就職を少しでも考えているならば必須です。 ② ダンス全般の授業と関係します。しなやかで強い筋肉、軸のぶれない体幹、美しい身体のライン、音の聞き方感じ方、以上の体得という位置付けです。 ③ バレエは専門的且つ基礎的で地味な練習が多いが毎時間繰り返す事で精神力も鍛え、自分の身体、自分の可能性としっかりと向き合い、卒業後の進路の可能性を広げていってほしい。 ①～③をふまえて 柔軟性を高めるためのストレッチ、体幹強化とバレエの基礎知識習得の為のバーレッスン、バレエのステップへの理解を深める為、ジャンプ、回転も多用したセンターレッスン(バーレッスン、センターレッスン、共に音楽に合わせて行う)						
到達目標	当たり前ではあるが、休まず毎時間出席する事が第1目標。最終的にはバレエのポジション、ステップコンビネーションの説明の理解が出来、尚且つ実践できるようになる。						
評価方法と基準	定期テストの点数と普段の授業への取り組み方を総合的に評価						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・発表	センターレッスンでの角度、身体の向きの説明、エファセ、クロワゼ、エカルテ等。	前期に学んだストレッチ、筋カトレーニング。
2		講義・発表	バーを使わずに体幹を保ってタンジュ、グランバットマンと片足でバッセのバランス。	1で学んだストレッチ、筋カトレーニング。センターレッスンでの身体の向き、角度の復習。
3		講義・発表	回転をする時の首から上、顔の使い方、アンデダンとアンデオールのビルエットの説明と実践。	2で学んだストレッチ、筋カトレーニング。センターでのタンジュ、グランバットマン、バッセのやり方の復習。
4		講義・発表	バーを使わずにアダジオ、デベロップの実践。	3で学んだストレッチ、筋カトレーニング。ビルエットのアンデオールとアンデダンの違いの復習。
5		講義・発表	センターでのスシュとエシャッペ、スモールジャンプ(シャンジュマンやスーブルソーなど)前後左右に動かないその場でやるもの、の説明と実践。	4で学んだストレッチ、筋カトレーニング。センターレッスンでのアダジオの復習。
6		講義・発表	グリッサードとアッサンブレの説明と実践。	5で学んだストレッチ、筋カトレーニング。スシュ、エシャッペとスモールジャンプの復習。
7		講義・発表	5.6.7の内容を応用したコンビネーション	6で学んだストレッチ、筋カトレーニング。グリッサードとアッサンブレの復習。
8		講義・発表	大きなジャンプ、グランワルツ、基本的なコンビネーションで。	7で学んだストレッチ、筋カトレーニング。アレグロジャンプの復習。
9		講義・発表	グランワルツを少し複雑なコンビネーションで。	8で学んだストレッチ、筋カトレーニング。グランワルツの復習。
10		講義・発表	シェネ、ピケアンデダン等、早い回転の連続技の説明と実践。	9で学んだストレッチ、筋カトレーニング。グランワルツの復習。
11		講義・発表	シェネとピケアンデダンのコンビネーション。	10で学んだストレッチ、筋カトレーニング。シェネとピケアンデダンの復習。
12		講義・発表	ジャンプとターンのコンビネーション。	11で学んだストレッチ、筋カトレーニング。連続回転コンビネーションの復習。
13		試験	後期12までのバーレッスン及びセンターレッスンの内容に対する理解力の確認	12で学んだストレッチ、筋カトレーニング。今までに習ったコンビネーションや回転技が出来るか試してみる
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	HIP HOP (7)	必修 選択	選択	年次	4	担当教員	YU JURRY
		授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
学科・専攻	メディア & テクノロジー科(昼間部二)						
教員の略歴	ダンサーや振付でLIVE等に参加(BTS、MIYAVI、KESHA、w-inds.など)						
授業の学習 内容	①基礎的なダンスを深めると共に魅せることを意識する ②ダンスに関しては全般 ③一線で活躍できるアーティスト ④単純な振り落としの授業ではなく、体の使い方なども含めた内容						
到達目標	ダンスの技術的向上、その習慣化						
評価方法と基準	実技テストによる採点と授業の出席率による平常点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	業界の仕事をすると言うこと。授業を受けるうえでの心構えと毎行行うストレッチ等説明	授業内容を自主練習
2		講義・演習	振付	授業内容を自主練習
3		講義・演習	振付の踊り込み	授業内容を自主練習
4		講義・演習	振付②	授業内容を自主練習
5		講義・演習	振付②踊り込みと考察	授業内容を自主練習
6		講義・演習	振付③	授業内容を自主練習
7		講義・演習	振付③踊り込みと考察	授業内容を自主練習
8		講義・演習	振付④	授業内容を自主練習
9		講義・演習	振付④踊り込みと考察	授業内容を自主練習
10		講義・演習	振付⑤	授業内容を自主練習
11		講義・演習	振付⑤踊り込みと考察	授業内容を自主練習
12		講義・演習	テスト振付	授業内容を自主練習
13		講義・演習	テスト	授業内容を自主練習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	HIP HOP (8)	必修 選択	選択	年次	4	担当教員	YU JURRY
学科・専攻	メディア & テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	ダンサーや振付でLIVE等に参加(BTS、MIYAVI、KESHA、w-inds.など)						
授業の学習 内容	①基礎的なダンスを深めると共に魅せることを意識する ②ダンスに関しては全般 ③一線で活躍できるアーティスト ④単純な振り落としの授業ではなく、体の使い方なども含めた内容						
到達目標	ダンスの技術的向上、その習慣化						
評価方法と基準	実技テストによる採点と授業の出席率による平常点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	ダンスの見直し	授業内容を自主練習
2		講義・演習	振付⑥	授業内容を自主練習
3		講義・演習	振付⑥踊り込みと考察	授業内容を自主練習
4		講義・演習	振付⑦	授業内容を自主練習
5		講義・演習	振付⑦踊り込みと考察	授業内容を自主練習
6		講義・演習	振付⑧	授業内容を自主練習
7		講義・演習	振付⑧踊り込みと考察	授業内容を自主練習
8		講義・演習	振付⑨	授業内容を自主練習
9		講義・演習	振付⑨踊り込みと考察	授業内容を自主練習
10		講義・演習	振付⑩	授業内容を自主練習
11		講義・演習	振付⑩踊り込みと考察	授業内容を自主練習
12		講義・演習	テスト振付	授業内容を自主練習
13		講義・演習	テスト	授業内容を自主練習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	FREESTYLE(7)	必修 選択	選択	年次	4	担当教員	松村武司
		授業 形態	実習	総時間 (単位)	30 2		
学科・専攻	メディア & テクノロジー科(昼間部二)						
教員の略歴	「地球ゴージャス」ミュージカル出演・「木村カエラ」バックダンサー・「サカナクション」ダンサー						
授業の学習 内容	ダンサーを職業とする為に必要な、技術・心構え・コミュニケーション力を授業内容全般を通して学んでいく。 身体を鍛え抜く事で精神力も鍛え、社会人として必要なマナーも学んで行く。業界で必要とされる人材の研究。						
到達目標	自身の個性を、自身のダンススキルで表現出来るようになる。将来の目標としている分野に進んで行けるよう、自身で考え行動して行ける人物になる。協調性を磨き良好なチームワークを体现する。						
評価方法と基準	定期テスト70%・出席率30%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		実習	DANCE基礎・筋トレ・技練・コレオ	ストレッチ、振付練習、スタイルの研究
2		実習	DANCE基礎・筋トレ・技練・コレオ	ストレッチ、振付練習、スタイルの研究
3		実習	DANCE基礎・筋トレ・技練・コレオ	ストレッチ、振付練習、スタイルの研究
4		実習	DANCE基礎・筋トレ・技練・コレオ	ストレッチ、振付練習、スタイルの研究
5		実習	DANCE基礎・筋トレ・技練・コレオ	ストレッチ、振付練習、スタイルの研究
6		実習	DANCE基礎・筋トレ・技練・コレオ	ストレッチ、振付練習、スタイルの研究
7		実習	DANCE基礎・筋トレ・技練・コレオ	ストレッチ、振付練習、スタイルの研究
8		実習	DANCE基礎・筋トレ・技練・コレオ	ストレッチ、振付練習、スタイルの研究
9		実習	DANCE基礎・筋トレ・技練・コレオ	ストレッチ、振付練習、スタイルの研究
10		実習	DANCE基礎・筋トレ・技練・コレオ	ストレッチ、振付練習、スタイルの研究
11		実習	DANCE基礎・筋トレ・技練・コレオ	ストレッチ、振付練習、スタイルの研究
12		実習	定期テスト	自身の踊りの研究
13		実習	前期まとめ	後期に向けての目標を立てる
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			色々なジャンルのエンターテイメントの研究	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	FREESTYLE(8)	必修 選択	選択	年次	4	担当教員	松村武司
		授業 形態	実習	総時間 (単位)	30 2		
学科・専攻	メディア & テクノロジー科(昼間部二)						
教員の略歴	「地球ゴージャス」ミュージカル出演・「木村カエラ」バックダンサー・「サカナクション」ダンサー						
授業の学習 内容	ダンサーを職業とする為に必要な、技術・心構え・コミュニケーション力を授業内容全般を通して学んでいく。 身体を鍛え抜く事で精神力も鍛え、社会人として必要なマナーも学んで行く。業界で必要とされる人材の研究。						
到達目標	自身の個性を、自身のダンススキルで表現出来るようになる。将来の目標としている分野に進んで行けるよう、自身で考え行動して行ける人物になる。協調性を磨き良好なチームワークを体現する。						
評価方法と基準	定期テスト70%・出席率30%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		実習	DANCE基礎・筋トレ・技練・コレオ	ストレッチ、振付練習、スタイルの研究
2		実習	DANCE基礎・筋トレ・技練・コレオ	ストレッチ、振付練習、スタイルの研究
3		実習	DANCE基礎・筋トレ・技練・コレオ	ストレッチ、振付練習、スタイルの研究
4		実習	DANCE基礎・筋トレ・技練・コレオ	ストレッチ、振付練習、スタイルの研究
5		実習	DANCE基礎・筋トレ・技練・コレオ	ストレッチ、振付練習、スタイルの研究
6		実習	DANCE基礎・筋トレ・技練・コレオ	ストレッチ、振付練習、スタイルの研究
7		実習	DANCE基礎・筋トレ・技練・コレオ	ストレッチ、振付練習、スタイルの研究
8		実習	DANCE基礎・筋トレ・技練・コレオ	ストレッチ、振付練習、スタイルの研究
9		実習	DANCE基礎・筋トレ・技練・コレオ	ストレッチ、振付練習、スタイルの研究
10		実習	DANCE基礎・筋トレ・技練・コレオ	ストレッチ、振付練習、スタイルの研究
11		実習	DANCE基礎・筋トレ・技練・コレオ	ストレッチ、振付練習、スタイルの研究
12		実習	定期テスト	自身の踊りの研究
13		実習	後期まとめ	次年度に向けての目標を立てる
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			色々なジャンルのエンターテイメントの研究	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	映像制作(7)	必修 選択	選択	年次	4	担当教員	HYUUGA
学科・専攻	メディア&テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	映像制作歴6年。MVを中心に、アーティストの世界観を映像で表現することを得意とし、これまでに多数の作品を手がける。 ダンサーやパフォーマーとのコラボレーションにも積極的に取り組んでいる。 本授業では、ダンサーの表現の幅を広げるための映像演出・表現について実践的に指導する。						
授業の学習 内容	①ダンサーとしてのセルフプロデュースの幅を広げる ②映像を通して「自分を表現する」ということへの別角度からのアプローチを学ぶ ③一定水準の映像を作れることになることで生徒が持つクリエイティブの地力を底上げをする 個人ワークを主体として自分の作りたいものをより深く探求・実現していく Adobe After Effect にも軽く触れ、ダイナミックリンクで可能性の幅を広げていく						
到達目標	・架空のクライアントを設け（モデルと仮定）、表現の意図を映像で可視化する力を身につける ・自身のクリエイティブの向上と共に自主制作作品を1本以上仕上げる						
評価方法と基準	授業態度（出席率も含む）50％ 筆記試験50％						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	授業説明、オーダーMTG、インプット_1	作品の文章化
2		講義・演習	インプット_2、プレスト_1	作品の明確化
3		講義・演習	プレスト_2、企画書作成	企画書のブラッシュアップ
4		講義・演習	企画書提出、ロードマップ作成	ロードマップのブラッシュアップ
5		講義・演習	日程調整、人員調達・配置	協力してくれる人たちへの連絡
6		講義・演習	撮影準備	必要な物の買い出しや準備
7		講義・演習	撮影_1	データ移動
8		講義・演習	撮影_2(予備日)、編集	データ移動
9		講義・演習	編集	編集残作業
10		講義・演習	編集	編集残作業
11		講義・演習	編集	編集残作業
12		講義・演習	最終調整	編集残作業
13		講義・演習	作品提出、総評	
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			宿題等は基本作らず空き時間での復習をし、自主的に覚えるように努力すること口	
【使用教科書・教材・参考書】				
PC、Adobe Premiere Pro、Adobe After Effect				

科目名	映像制作(8)	必修 選択	選択	年次	4	担当教員	HYUUGA
学科・専攻	メディア&テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	映像制作歴6年。MVを中心に、アーティストの世界観を映像で表現することを得意とし、これまでに多数の作品を手がける。 ダンサーやパフォーマーとのコラボレーションにも積極的に取り組んでいる。 本授業では、ダンサーの表現の幅を広げるための映像演出・表現について実践的に指導する。						
授業の学習 内容	①ダンサーとしてのセルフプロデュースの幅を広げる ②映像を通して「自分を表現する」ということへの別角度からのアプローチを学ぶ ③一定水準の映像を作れることになることで生徒が持つクリエイティブの地力を底上げをする 個人ワークを主体として自分の作りたいものをより深く探求・実現していく Adobe After Effectにも軽く触れ、ダイナミックリンクで可能性の幅を広げていく						
到達目標	・架空のクライアントを設け（ダンサーと仮定）、表現の意図を映像で可視化する力を身につける ・自身のクリエイティブの向上と共に自主制作作品を1本以上仕上げる						
評価方法と基準	授業態度（出席率も含む）50% 筆記試験50%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	授業説明、オーダーMTG、インプット_1	作品の文章化
2		講義・演習	インプット_2、プレスト_1	作品の明確化
3		講義・演習	プレスト_2、企画書作成	企画書のブラッシュアップ
4		講義・演習	企画書提出、ロードマップ作成	ロードマップのブラッシュアップ
5		講義・演習	日程調整、人員調達・配置	協力してくれる人たちへの連絡
6		講義・演習	撮影準備	必要な物の買い出しや準備
7		講義・演習	撮影_1	データ移動
8		講義・演習	撮影_2(予備日)、編集	データ移動
9		講義・演習	編集	編集残作業
10		講義・演習	編集	編集残作業
11		講義・演習	編集	編集残作業
12		講義・演習	最終調整	編集残作業
13		講義・演習	作品提出、総評	
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			宿題等は基本作らず空き時間での復習をし、自主的に覚えるように努力すること□	
【使用教科書・教材・参考書】				
PC、Adobe Premiere Pro、Adobe After Effects				

科目名	アクロバット(7)	必修 選択	選択	年次	4	担当教員	乙木 勇人
		授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
学科・専攻	メディア &テクノロジー科(昼間部二)						
教員の略歴	俳優として活動する他、監督としても自身でプロデュースを手がけるなどマルチに活動する。監督作品である映画「神と恩送り、」では東京、千葉、名古屋、京都、神戸で上映され第2回スポットライト映画祭では観客賞を受賞した。						
授業の学習 内容	オーディションや舞台などで俳優として必要になるため。 俳優科目との関係、 アクロバットという男女問わず武器になる技術を身に付ける。						
到達目標	俳優として必要な基礎体力と技術を身に付ける。 全体としての目標は正しい形の側転、出来る学生はバック転まで。						
評価方法と基準	基礎運動(安全性を重視) 50% 出席率 50%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	基礎のマット運動	なし
2		演習	基礎のマット運動	なし
3		演習	側転	なし
4		演習	側転	なし
5		演習	側転(コンビネーション)	なし
6		演習	側転	なし
7		演習	側転(学生に合わせて課題を変更)	なし
8		演習	側転(学生に合わせて課題を変更)	なし
9		演習	側転(学生に合わせて課題を変更)	なし
10		演習	側転(学生に合わせて課題を変更)	なし
11		演習	側転(学生に合わせて課題を変更)	なし
12		演習	側転(学生に合わせて課題を変更)	なし
13		演習	側転(学生に合わせて課題を変更)	なし
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	アクロバット(8)	必修 選択	選択	年次	4	担当教員	乙木勇人		
		授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位				
学科・専攻	メディア &テクノロジー科(昼間部二)								
教員の略歴	俳優として活動する他、監督としても自身でプロデュースを手がけるなどマルチに活動する。監督作品である映画「神と恩送り、」では東京、千葉、名古屋、京都、神戸で上映され第2回スポットライト映画祭では観客賞を受賞した。								
授業の学習 内容	オーディションや舞台などで俳優として必要になるため。 俳優科目との関係、 アクロバットという男女問わず武器になる技術を身に付ける。								
到達目標	俳優として必要な基礎体力と技術を身に付ける。 全体としての目標は正しい形の側転、出来る学生はバック転まで。								
評価方法と基準	基礎運動(安全性を重視) 50% 出席率 50%								

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	基礎のマット運動	なし
2		演習	基礎のマット運動	なし
3		演習	側転	なし
4		演習	側転	なし
5		演習	側転(コンビネーション)	なし
6		演習	側転	なし
7		演習	側転(学生に合わせて課題を変更)	なし
8		演習	側転(学生に合わせて課題を変更)	なし
9		演習	側転(学生に合わせて課題を変更)	なし
10		演習	側転(学生に合わせて課題を変更)	なし
11		演習	側転(学生に合わせて課題を変更)	なし
12		演習	側転(学生に合わせて課題を変更)	なし
13		演習	側転(学生に合わせて課題を変更)	なし
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	映画監督(8)	必修 選択	選択	年次	4	担当教員	乙木勇人
学科・専攻	メディア&テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	俳優として活動する他、監督としても自身でプロデュースを手がけるなどマルチに活動する。監督作品である映画「神と恩送り、」では東京、千葉、名古屋、京都、神戸で上映され第2回スポットライト映画祭では観客賞を受賞した。						
授業の学習 内容	現代のエンターテインメントの世界でたたかうために、0～1を生む力をつける。 映像・映画・俳優 科目との関係、 0～1を生む力がエンターテインメントの世界ではとても求められるから。						
到達目標	自分たちで考えて、0から映画を製作する。 (脚本、監督、編集、出演、映画祭エントリーまで)						
評価方法と基準	出席率(100%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	短編映画の作り方 & 目標設定	なし
2		演習	アイデア出し、役割決め	なし
3		演習	ログライン制作	なし
4		演習	脚本会議	なし
5		演習	ロケハン、キャスティング	なし
6		演習	小道具と衣装決め、制作	なし
7		演習	脚本会議、芝居稽古	なし
8		演習	脚本会議、芝居稽古	なし
9		演習	本編撮影	なし
10		演習	本編撮影	なし
11		演習	作品編集	なし
12		演習	作品編集	なし
13		演習	作品鑑賞	なし
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	映画監督(8)	必修 選択	選択	年次	4	担当教員	乙木勇人
学科・専攻	メディア＆テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	俳優として活動する他、監督としても自身でプロデュースを手がけるなどマルチに活動する。監督作品である映画「神と恩送り、」では東京、千葉、名古屋、京都、神戸で上映され第2回スポットライト映画祭では観客賞を受賞した。						
授業の学習 内容	現代のエンターテインメントの世界でたたかうために、0～1を生む力をつける。 映像・映画・俳優 科目との関係、 0～1を生む力がエンターテインメントの世界ではとても求められるから。						
到達目標	自分たちで考えて、0から映画を製作する。 (脚本、監督、編集、出演、映画祭エントリーまで)						
評価方法と基準	出席率(100%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	短編映画の作り方 & 目標設定	なし
2		演習	アイデア出し、役割決め	なし
3		演習	ログライン制作	なし
4		演習	脚本会議	なし
5		演習	ロケハン、キャスティング	なし
6		演習	小道具と衣装決め、制作	なし
7		演習	脚本会議、芝居稽古	なし
8		演習	脚本会議、芝居稽古	なし
9		演習	本編撮影	なし
10		演習	本編撮影	なし
11		演習	作品編集	なし
12		演習	作品編集	なし
13		演習	作品鑑賞	なし
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	アフレコワークショップ(7)	必修 選択	選択	年次	4	担当教員	世田杏恵 中山知佳 門田有美		
		授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 (4)				
学科・コース	メディア & テクノロジー科(昼間部二)								
教員の略歴									
授業の学習 内容	アニメーションやゲーム、声優のマイク前でのアテレコ演習を行い、マイク前での演技や環境、マイクワークを体感する。 毎回異なる台本、アニメーションを使用し、実際にアフレコ演習を行う。 声優として必要な、収録現場での立ち振る舞いや好感度について学ぶ。								
到達目標	声優としての表現の探求、マイク前での発声を学ぶことができる。 そのためのトレーニングの指示。 自分が持っている声の性質、心の性質について発見し、自己研鑽ができるようになる。								
評価方法と基準	実技テストによる採点								

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	授業の進め方、説明。オーディション 自分についてどれだけ理解し、表現できるか	台本を自分で取得すること 事前準備(作品調査・役作り・台本チェック)
2		講義・演習	オーディション作品のアフレコ演習 自己評価と他己評価について	台本を自分で取得すること 事前準備(作品調査・役作り・台本チェック)
3		講義・演習	アフレコ演習1 セリフ、マイクワークを理解し、台本を読解する	台本を自分で取得すること 事前準備(作品調査・役作り・台本チェック)
4		講義・演習	アフレコ演習2 スタジオマナー・演出に対しての態度など、基本的なマナーにつ いて	台本を自分で取得すること 事前準備(作品調査・役作り・台本チェック)
5		講義・演習	アフレコ演習3 演出に対しての瞬発力を養う	台本を自分で取得すること 事前準備(作品調査・役作り・台本チェック)
6		講義・演習	アフレコ演習4 演出を理解して、瞬発力とともに対応する力を養う	台本を自分で取得すること 事前準備(作品調査・役作り・台本チェック)
7		講義・演習	アフレコ演習5 大人数でのアテレコ演習	台本を自分で取得すること 事前準備(作品調査・役作り・台本チェック)
8		講義・演習	アフレコ演習6 音響監督と声優	台本を自分で取得すること 事前準備(作品調査・役作り・台本チェック)
9		講義・演習	アフレコ演習7 演じ分けとマイクワーク	台本を自分で取得すること 事前準備(作品調査・役作り・台本チェック)
10		講義・演習	アフレコ演習8 台本を深く読み込む マイクワークを身につける	台本を自分で取得すること 事前準備(作品調査・役作り・台本チェック)
11		講義・演習	アフレコ演習9 実践を通じてマイク前での表現技法を覚える	台本を自分で取得すること 事前準備(作品調査・役作り・台本チェック)
12		講義・演習	アフレコ演習10 実践を通じてマイク前での表現技法を覚える	台本を自分で取得すること 事前準備(作品調査・役作り・台本チェック)
13		講義・演習	アフレコ演習11、振り返り、総括 ディレクションに対しての瞬発力を試す	台本を自分で取得すること 事前準備(作品調査・役作り・台本チェック)
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			プロ同様のスケジュールリング(1週間～2日)で原稿配布・キャストイングを発表。プロの現場と思って、各自予習と準備をすること	
【使用教科書・教材・参考書】				
配布台本を各自用意(キャストイング発表と共に、教務室へ自主的に取りに行く)				

科目名	アフレコワークショップ(8)	必修 選択	選択	年次	4	担当教員 世田杏恵 中山知佳 門田有美
		授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 (4)	
学科・コース	メディア & テクノロジー科(昼間部二)					
教員の略歴						
授業の学習 内容	アニメーションやゲーム、声優のマイク前でのアテレコ演習を行い、マイク前での演技や環境、マイクワークを体感する。 毎回異なる台本、アニメーションを使用し、実際にアフレコ演習を行う。 声優として必要な、収録現場での立ち振る舞いや好感度について学ぶ。					
到達目標	声優としての表現の探求、マイク前での発声を学ぶことができる。 そのためのトレーニングの指示。 自分が持っている声の性質、心の性質について発見し、自己研鑽ができるようになる。					
評価方法と基準	実技テストによる採点					

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	授業の進め方、説明。オーディション 自分についてどれだけ理解し、表現できるか	台本を自分で取得すること 事前準備(作品調査・役作り・台本チェック)
2		講義・演習	オーディション作品のアフレコ演習 自己評価と他己評価について	台本を自分で取得すること 事前準備(作品調査・役作り・台本チェック)
3		講義・演習	アフレコ演習1 セリフ、マイクワークを理解し、台本を読解する	台本を自分で取得すること 事前準備(作品調査・役作り・台本チェック)
4		講義・演習	アフレコ演習2 スタジオマナー・演出に対しての態度など、基本的なマナーにつ いて	台本を自分で取得すること 事前準備(作品調査・役作り・台本チェック)
5		講義・演習	アフレコ演習3 演出に対しての瞬発力を養う	台本を自分で取得すること 事前準備(作品調査・役作り・台本チェック)
6		講義・演習	アフレコ演習4 演出を理解して、瞬発力とともに対応する力を養う	台本を自分で取得すること 事前準備(作品調査・役作り・台本チェック)
7		講義・演習	アフレコ演習5 大人数でのアテレコ演習	台本を自分で取得すること 事前準備(作品調査・役作り・台本チェック)
8		講義・演習	アフレコ演習6 音響監督と声優	台本を自分で取得すること 事前準備(作品調査・役作り・台本チェック)
9		講義・演習	アフレコ演習7 演じ分けとマイクワーク	台本を自分で取得すること 事前準備(作品調査・役作り・台本チェック)
10		講義・演習	アフレコ演習8 台本を深く読み込む マイクワークを身につける	台本を自分で取得すること 事前準備(作品調査・役作り・台本チェック)
11		講義・演習	アフレコ演習9 実践を通じてマイク前での表現技法を覚える	台本を自分で取得すること 事前準備(作品調査・役作り・台本チェック)
12		講義・演習	アフレコ演習10 実践を通じてマイク前での表現技法を覚える	台本を自分で取得すること 事前準備(作品調査・役作り・台本チェック)
13		講義・演習	アフレコ演習11、振り返り、総括 ディレクションに対しての瞬発力を試す	台本を自分で取得すること 事前準備(作品調査・役作り・台本チェック)
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			プロ同様のスケジュールリング(1週間～2日)で原稿配布・キャストイングを発表。プロの現場と思って、各自予習と準備をすること	
【使用教科書・教材・参考書】				
配布台本を各自用意(キャストイング発表と共に、教務室へ自主的に取りに行く)				

科目名	演劇ワークショップ(7)	必修 選択	選択	年次	4	担当教員	三浦佑介
		授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 (4)		
学科・コース	メディア & テクノロジー科(昼間部二)						
教員の略歴	2002年より俳優・演出家として活動。蛭川幸雄氏に師事。演出作はストレートプレイ、翻訳劇、イベント、コンサートなど多数。						
授業の学習 内容	講師は「ファシリテーター」的立場で、評価より創造の促進を重視 台本を使わず、自己発信型・参加型の授業を展開 発表は行わず、「体験→言語化→共有→再体験」のプロセスを重視 将来的な現場での即応力・創作現場での柔軟性を身につける内容						
到達目標	即興力・創造力・状況適応力を高める 自己の演技を客観的に見つめ、言語化できる 他者との関係性を即興で構築し、協働的に演技を発展させられる テキストに縛られない表現の自由を体感する プロ現場に近い柔軟さ・判断力・対応力を獲得する						
評価方法と基準	出席率(100%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	「反応する力」導入	
2		講義・演習	状況即興①:空間と身体で状況を作る	
3		講義・演習	状況即興②:会話のないシーン	
4		講義・演習	状況即興③:感情の流れと変化	
5		講義・演習	関係性を演じる①:関係性のレベル変化	
6		講義・演習	関係性を演じる②:即興から短い場面を創作	
7		講義・演習	状況と目的の複雑性	
8		講義・演習	グループ創作①:テーマ提示→即興	
9		講義・演習	グループ創作②:構成と演出を考える	
10		講義・演習	自己の演技の分析①(動画・録画使用)	
11		講義・演習	自己の演技の分析②:他者との比較・議論	
12		講義・演習	自由課題ワーク:興味ある形で創作即興	
13		講義・演習	まとめと今後への応用	
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	演劇ワークショップ(8)	必修 選択	選択	年次	4	担当教員	三浦佑介
学科・コース	メディア＆テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 (4)		
教員の略歴	2002年より俳優・演出家として活動。蜷川幸雄氏に師事。演出作はストレートプレイ、翻訳劇、イベント、コンサートなど多数。						
授業の学習 内容	発表形式の作品化は行わず、プロセスの深まりと創作体験の共有を重視します 「言葉にならないものを言葉にする」力と、「かたちにならないものを構成する」感性の育成が中心 「表現者＝創造者」としての意識変化が期待されます						
到達目標	演技だけでなく演出視点・構成力・空間意識を統合した創作ができる 他者のアイデアを受け入れながらグループで創作的合意形成ができる テーマ・世界観をもとに短い演劇的構成を創造できる 自分の表現を言語化・客観視し、他者に共有できる 創作プロセスを重視し、失敗・試行錯誤から学ぶ力を育てる						
評価方法と基準	出席率(100%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	創作における「責任」	
2		講義・演習	創作即興①:テーマに基づく身体・対話の探索	
3		講義・演習	創作即興②:時間・空間を扱う	
4		講義・演習	創作即興③:言葉と沈黙の設計	
5		講義・演習	グループ決定と企画立案①	
6		講義・演習	グループ創作①:試作と素材生成	
7		講義・演習	グループ創作②:構成の検討・抜き出し	
8		講義・演習	創作中間共有:他グループに途中経過を見せる	
9		講義・演習	グループ創作③:修正・整理	
10		講義・演習	グループ創作④:全体の動き・空間設計	
11		講義・演習	創作ワーク:他グループの演出をしてみる	
12		講義・演習	最終調整と通し稽古(通し見せ)	
13		講義・演習	総まとめ:創作を通して得たもの	
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	アクティング(7)	必修 選択	選択	年次	4	担当教員	三浦佑介
		授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 (4)		
学科・コース	メディア & テクノロジー科(昼間部二)						
教員の略歴	2002年より俳優・演出家として活動。蜷川幸雄氏に師事。演出作はストレートプレイ、翻訳劇、イベント、コンサートなど多数。						
授業の学習 内容	俳優として、自分の課題を見つけ、さらにそれに則したものを提案し、形にすることを学ぶ。「複数の人間で創る」演劇を通して、俳優の仕事をしていくために必要な動きを実践する。年間を通じ、成果物を最低2つと定め、それを創り上げることで、自主的な動きを身につける。						
到達目標	表現者として自分の課題を見つけ、解決に向かって提案することができる俳優になることを目標とし、揺れ続ける芸能界へ漕ぎ出しても、自分で発見・研鑽を続け、多くの関係者の中で動ける表現者になることを目指す。受動的ではなく能動的な俳優を目指すことができるようになる。						
評価方法と基準	実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	残り1年間のをどう有意義に過ごしていくか考え、「目標を決定」すること、今の自分への課題を見つける	自身の課題を基に、クラスと発表するための課題を探す
2		講義・演習	課題を提案しあい、クラスで発表する内容を決める	決まった課題台本を作成、または用意する
3		講義・演習	発表のための稽古① 台本読み・台本への向き合い方を学ぶ	課題台本の読み込み、セリフを覚える
4		講義・演習	発表のための稽古② 立ち稽古・ダメ出しの捉え方を学ぶ	課題台本の読み込み、セリフを覚える
5		講義・演習	発表のための稽古③ 立ち稽古・他のキャストとのコミュニケーションを学ぶ	課題台本の読み込み、セリフを覚える 衣裳や小道具等の準備を実施する
6		講義・演習	発表のための稽古④ 通し稽古・全体を通じての作品の捉え方を学ぶ	課題台本の読み込み、ミザンスを覚える 衣裳や小道具等の準備を実施する
7		講義・演習	発表のための稽古⑤ 通し稽古からのフィードバックを分析し演習	課題台本の読み込み、ミザンスを覚える 衣裳や小道具等の準備を実施する
8		講義・演習	発表のための稽古⑥ フィードバックから得たものを元に研鑽稽古	課題台本の読み込み、ミザンスを覚える 衣裳や小道具等の準備を実施する
9		講義・演習	発表のための稽古⑦ ここまで出てきた問題点のクリアの仕方を考える	課題台本の読み込み、ミザンスを覚える 衣裳や小道具等の準備を実施する
10		講義・演習	発表のための稽古⑧ お客様に見せることを意識した作りを行う	課題台本の読み込み、ミザンスを覚える 衣裳や小道具等の準備を実施する
11		講義・演習	発表のための稽古⑨ 最後の詰め稽古・自身の課題の解消のためのアクション	課題台本の読み込み、ミザンスを覚える 衣裳や小道具等の準備を実施する
12		講義・演習	発表のための稽古⑩ 最後の詰め稽古・自身の課題の解消のためのアクション	内容は授業内で発表
13		講義・演習	発表を通してのフィードバック 自身の目標に対しての達成度を考える	後期に向けた題材探し
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
自分たちで決定した台本を持参すること、適時衣裳と小道具の用意				

東京ダンス・俳優＆舞台芸術専門学校

科目名	アクティング(8)	必修 選択	選択	年次	4	担当教員	三浦佑介
		授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 (4)		
学科・コース	メディア & テクノロジー科(昼間部二)						
教員の略歴	2002年より俳優・演出家として活動。蜷川幸雄氏に師事。演出作はストレートプレイ、翻訳劇、イベント、コンサートなど多数。						
授業の学習 内容	俳優として、自分の課題を見つけ、さらにそれに則したものを提案し、形にすることを学ぶ。「複数の人間で創る」演劇を通して、俳優の仕事をしていくために必要な動きを実践する。年間を通じ、成果物を最低2つと定め、それを創り上げることで、自主的な動きを身につける。						
到達目標	表現者として自分の課題を見つけ、解決に向かって提案することができる俳優になることを目標とし、揺れ続ける芸能界へ漕ぎ出しても、自分で発見・研鑽をし続け、多くの関係者の中で動ける表現者になることを目指す。受動的ではなく能動的な俳優を目指すことができるようになる。						
評価方法と基準	実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	卒業後、社会人として芸能界に足を踏み入れた後をイメージし、現在の自分から自分の課題を見つける	自身の課題を基に、クラスと発表するための課題を探す
2		講義・演習	課題を提案しあい、クラスで発表する内容を決める	決まった課題台本を作成、または用意する
3		講義・演習	発表のための稽古① 台本読み・台本への向き合い方を学ぶ	課題台本の読み込み、セリフを覚える
4		講義・演習	発表のための稽古② 立ち稽古・ダメ出しの捉え方を学ぶ	課題台本の読み込み、セリフを覚える
5		講義・演習	発表のための稽古③ 立ち稽古・他のキャストとのコミュニケーションを学ぶ	課題台本の読み込み、セリフを覚える 衣裳や小道具等の準備を実施する
6		講義・演習	発表のための稽古④ 通し稽古・全体を通じての作品の捉え方を学ぶ	課題台本の読み込み、ミザンスを覚える 衣裳や小道具等の準備を実施する
7		講義・演習	発表のための稽古⑤ 通し稽古からのフィードバックを分析し演習	課題台本の読み込み、ミザンスを覚える 衣裳や小道具等の準備を実施する
8		講義・演習	発表のための稽古⑥ フィードバックから得たものを元に研鑽稽古	課題台本の読み込み、ミザンスを覚える 衣裳や小道具等の準備を実施する
9		講義・演習	発表のための稽古⑦ ここまで出てきた問題点のクリアの仕方を考える	課題台本の読み込み、ミザンスを覚える 衣裳や小道具等の準備を実施する
10		講義・演習	発表のための稽古⑧ お客様に見せることを意識した作りを行う	課題台本の読み込み、ミザンスを覚える 衣裳や小道具等の準備を実施する
11		講義・演習	発表のための稽古⑨ 現在の問題点の洗い出し(俳優として、大人として)	課題台本の読み込み、ミザンスを覚える 衣裳や小道具等の準備を実施する
12		講義・演習	発表のための稽古⑨ 現在の問題点の洗い出し(俳優として、大人として)	課題台本の読み込み、ミザンスを覚える 衣裳や小道具等の準備を実施する
13		講義・演習	発表のための稽古⑩ 最後の詰め稽古・自身の課題の解消のためのアクション	課題台本の読み込み、ミザンスを覚える 衣裳や小道具等の準備を実施する
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
自分たちで決定した台本を持参すること、適時衣裳と小道具の用意				

科目名	ヴォイストレーニング(7)	必修 選択	必修	年次	4	担当教員	KYO-HEY
学科・専攻	メディア&テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	*実務経験(Dance & Vocal) : WDC東北予選POP SIDE 優勝、アメリカNYC「BATTLE 101」 BEST 8、その他、優勝8回、 準優勝5回の経歴有り 2018年9月 1st ALBUM CD「MUSEUM」リリース(iTunes Store・R&B／ソウル トップアルバム・日本・6位) 2019年 ヴォーカルグループ「イエローソーダ」として東京、名古屋、京都、群馬の4都市ツアー開催 2021年6月 2ndアルバム「Inside」リリース(iTunes Store・R&B/ソウル トップアルバム) 2021年10月 「Lovely Place」リリース(iTunes Store・R&B/ソウル トップアルバム) 2022年8月 NY Apollo Theater Amateur Night 出演 (2018年4月～NSM,DA,TSM渋谷にてVocal&Dance講師を行なっている。)						
授業の学習 内容	①ヴォーカリストとして必要な実戦に活かせる知識を習得する。 ②自らスキル向上、調整を行えるようにアーティストマインドも含め習得する。						
到達目標	ステージパフォーマンス強化を目的とする。 ダンスにヴォーカルを融合させた場合のステージングスキル、 ヴォーカルスキル、ダンススキル、セルフプロデュース力を向上させる。						
評価方法と基準	・課題成果「出席・授業態度」:40%・実技試験:60%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	個人目標設定を行う	
2		演習	横隔膜を意識した腹式呼吸が出来るようになる	次の講義までに復習を要する
3		演習	ボディマップを正確に理解する	次の講義までに復習を要する
4		演習	筋感覚を意識することで包括的認識力を知る	次の講義までに復習を要する
5		演習	歌唱時の正しい口の形を知る	次の講義までに復習を要する
6		演習	正しい口の形を意識した歌唱が出来る	次の講義までに復習を要する
7		演習	共鳴(頭部)について理解する	次の講義までに復習を要する
8		演習	歌唱前のストレッチから正しい体の使い方のアプローチ	次の講義までに復習を要する
9		演習	AO関節のバランスを取れるようになる(首の無駄な緊張を	次の講義までに復習を要する
10		演習	腰椎と胸郭のバランス、股関節のバランスを理解する	次の講義までに復習を要する
11		演習	プレスとリズムの関係性を知る	次の講義までに復習を要する
12		演習	試験	
13		演習	試験総括(改善点を知る)	
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習		・パフォーマンスをする楽曲は歌詞を暗記して来ること ・歌詞をノートに書いて持って来ること		
【使用教科書・教材・参考書】				
iPad(カラオケ音源)、マイク、キーボード				

科目名	ヴォイストレーニング(8)	必修 選択	必修	年次	4	担当教員	KYO-HEY
学科・専攻	メディア&テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	*実務経験(Dance & Vocal) : WDC東北予選POP SIDE 優勝、アメリカNYC「BATTLE 101」 BEST 8、その他、優勝8回、 準優勝5回の経歴有り 2018年9月 1st ALBUM CD「MUSEUM」リリース(iTunes Store・R&B／ソウル トップアルバム・日本・6位) 2019年 ヴォーカルグループ「イエローソーダ」として東京、名古屋、京都、群馬の4都市ツアー開催 2021年6月 2ndアルバム「Inside」リリース(iTunes Store・R&B/ソウル トップアルバム) 2021年10月 「Lovely Place」リリース(iTunes Store・R&B/ソウル トップアルバム) 2022年8月 NY Apollo Theater Amateur Night 出演 (2018年4月～NSM,DA,TSM渋谷にてVocal&Dance講師を行なっている。)						
授業の学習 内容	①ヴォーカリストとして必要な実戦に活かせる知識を習得する。 ②自らスキル向上、調整を行えるようにアーティストマインドも含め習得する。						
到達目標	ステージパフォーマンス強化を目的とする。 ダンスにヴォーカルを融合させた場合のステージングスキル、 ヴォーカルスキル、ダンススキル、セルフプロデュース力を向上させる。						
評価方法と基準	・課題成果「出席・授業態度」:40%・実技試験:60%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	共鳴の仕組み、効果を知る	次の講義までに復習を要する
2		演習	鼻腔共鳴が出来るようになる	次の講義までに復習を要する
3		演習	頭部共鳴(ヘッドボイス)が出来るようになる	次の講義までに復習を要する
4		演習	母音歌唱を通してメロディのコード感を理解する	次の講義までに復習を要する
5		演習	膝関節と足関節のバランスと体重が伝わる道筋を理解する	次の講義までに復習を要する
6		演習	腕構造を理解しブレスを改善することで豊かな表現力を習得する	次の講義までに復習を要する
7		演習	胸部共鳴が出来るようになる	次の講義までに復習を要する
8		演習	ビブラートの仕組み、練習法を知る	次の講義までに復習を要する
9		演習	ビブラートが出来るようになる	次の講義までに復習を要する
10		演習	リズムを意識したビブラートを出来るようになる	次の講義までに復習を要する
11		演習	フェイクの仕組み、練習法を知る	次の講義までに復習を要する
12		演習	試験	
13		演習	試験総括(改善点を知る)	
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習		・パフォーマンスをする楽曲は歌詞を暗記して来ること ・歌詞をノートに書いて持って来ること		
【使用教科書・教材・参考書】				
iPad(カラオケ音源)、マイク、キーボード				

科目名	テーマパークアクティング(7)	必修 選択	選択	年次	4	担当教員	鹿島 良太
学科・専攻	メディア & テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	大手テーマパークやメディアなどで20年に渡りMC・アクターで活躍						
授業の学習 内容	本授業では、テーマパークにおける演技者としての表現力・即興力・キャラクター維持力を育成する。ゲスト対応に特化したリアルタイムの演技や、キャラクター設定に基づく一貫性のある表現、状況変化への柔軟な対応を中心に、身体・声・リアクションを通して「生きた演技」を習得する。 舞台・映像とは異なる、接客性＋演技性＋即興性が求められるテーマパーク独自のアクティングを深く体験する。						
到達目標	テーマパークアクターに求められる役割とスキルを理解する 一貫性あるキャラクターを構築・維持できるようになる 声・身体・表情を使ったリアルな感情表現ができる 状況に応じて即興的に演技を展開できるようになる 観客との非劇場的距離感(近さ・多方向性)に対応した表現ができる						
評価方法と基準	平常点(出席・授業態度) 50% テスト成績 50%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	オリエンテーション／テーマパークアクティングとは	
2		演習	キャラクター演技の基礎①:設定と身体の使い方	前回の復習
3		演習	キャラクター演技の基礎②:声・口調・テンション	前回の復習
4		演習	表情・目線・笑顔のコントロール	前回の復習
5		演習	感情の切り替えとリアクション練習	前回の復習
6		演習	即興演技①:シチュエーション対応	前回の復習
7		演習	即興演技②:予測不能な質問・反応に対応	前回の復習
8		演習	年齢別・属性別ゲスト対応練習	前回の復習
9		演習	キャラクター維持カトレーニング	前回の復習
10		演習	ストーリーを伝える演技	前回の復習
11		演習	ペア演技:関係性を感じさせる演技	前回の復習
12		演習	集団内での空気づくりと調和演技	前回の復習
13		演習	総合演技トレーニング	前回の復習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	テーマパークアクティング(8)	必修 選択	選択	年次	4	担当教員	鹿島 良太
学科・専攻	メディア&テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	大手テーマパークやメディアなどで20年に渡りMC・アクターで活躍						
授業の学習 内容	本授業では、テーマパークアクターとしての演技力を一段階高め、キャラクターの「継続力」「関係性の構築」「複数人物との共存」に重点を置く。観客との即興的やりとり、ストーリー性を伴うインタラクティブな演技、状況ごとのキャラ応答を繰り返し訓練し、実戦に近い対応力を育成する。 また、セリフや筋書きがない中で「意味を生む」「空気を支配する」演技感覚も磨く。						
到達目標	キャラクターの演技を中～長時間持続させる技術を習得する 状況に応じた即興的ストーリー展開力を獲得する 相手役・ゲストとの関係性の変化を演技に反映できるようになる 空間把握力・距離感の演技的コントロールを体得する 台本に頼らずテーマ性ある短編シーンを構成・演技できる						
評価方法と基準	平常点(出席・授業態度) 50% テスト成績 50%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	オリエンテーション／応用で磨く力とは	
2		演習	キャラクター持続演技①:時間経過の中で演技続ける	前回の復習
3		演習	キャラクター持続演技②:感情・状況の変化に対応	前回の復習
4		演習	即興対応トレーニング①:ゲストが起点の展開	前回の復習
5		演習	即興対応トレーニング②:他キャラとの掛け合い即興	前回の復習
6		演習	ストーリーメイキング演技①:物語の起承転結をつくる	前回の復習
7		演習	ストーリーメイキング演技②:3人以上での展開	前回の復習
8		演習	キャラクター×空間演技:設定を生かした演技構築	前回の復習
9		演習	状況演技①:トラブル・ハプニング時の対応力	前回の復習
10		演習	状況演技②:時間制限／切り上げ演技の工夫	前回の復習
11		演習	アンサンブル演技①:無言・無台詞での集団演技	前回の復習
12		演習	アンサンブル演技②:テーマ別・短編演技構成	前回の復習
13		演習	総まとめ:自由演技・個別フィードバック	前回の復習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	演出ゼミ(7)	必修 選択	選択	年次	4	担当教員	三浦佑介
学科・専攻	メディア＆テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	2002年より俳優・演出家として活動。蜷川幸雄氏に師事。演出作はストレートプレイ、翻訳劇、イベント、コンサートなど多数。						
授業の学習 内容	演技は基本的に行わず、演出側の思考と設計に重点を置く 「考えて分析する」「見抜く」「伝える」力を育てるゼミ形式 実演発表は行わず、ワーク中心・座学と観察ベースで学ぶ						
到達目標	演出家の役割と視点を理解する 演技・空間・構成の分析を言語化できる 他者の演技に的確なフィードバックができる シーン・作品を演出的視点で設計できる 自身の表現を客観的に俯瞰し調整できる						
評価方法と基準	平常点(出席・授業態度) 50% テスト成績 50%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	演出とは何か	
2		講義	演出家の視点で作品を観る①(空間・構図)	前回の復習
3		講義	演出家の視点で作品を観る②(動き・導線)	前回の復習
4		講義	シーンの目的と構成要素	前回の復習
5		講義	俳優とのコミュニケーション	前回の復習
6		講義	台本読解①:状況・関係性・感情	前回の復習
7		講義	台本読解②:演出プランへの展開	前回の復習
8		講義	空間と演技の関係(抽象／具体)	前回の復習
9		講義	動きと間の設計	前回の復習
10		講義	即興演技を演出視点で見る	前回の復習
11		演習	グループ演出ワーク①(3～4人構成)	前回の復習
12		演習	グループ演出ワーク②(プランの検討と改善)	前回の復習
13		講義・演習	振り返り／演出的思考と表現への応用	前回の復習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	演出ゼミ(8)	必修 選択	選択	年次	4	担当教員	三浦佑介
学科・専攻	メディア＆テクノロジー科(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	2002年より俳優・演出家として活動。蜷川幸雄氏に師事。演出作はストレートプレイ、翻訳劇、イベント、コンサートなど多数。						
授業の学習 内容	演技は基本的に行わず、演出側の思考と設計に重点を置く 「考えて分析する」「見抜く」「伝える」力を育てるゼミ形式 実演発表は行わず、ワーク中心・座学と観察ベースで学ぶ						
到達目標	演出家の役割と視点を理解する 演技・空間・構成の分析を言語化できる 他者の演技に的確なフィードバックができる シーン・作品を演出的視点で設計できる 自身の表現を客観的に俯瞰し調整できる						
評価方法と基準	平常点(出席・授業態度) 50% テスト成績 50%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	演出とは何か	
2		講義	演出家の視点で作品を観る①(空間・構図)	前回の復習
3		講義	演出家の視点で作品を観る②(動き・導線)	前回の復習
4		講義	シーンの目的と構成要素	前回の復習
5		講義	俳優とのコミュニケーション	前回の復習
6		講義	台本読解①:状況・関係性・感情	前回の復習
7		講義	台本読解②:演出プランへの展開	前回の復習
8		講義	空間と演技の関係(抽象／具体)	前回の復習
9		講義	動きと間の設計	前回の復習
10		講義	即興演技を演出視点で見る	前回の復習
11		演習	グループ演出ワーク①(3～4人構成)	前回の復習
12		演習	グループ演出ワーク②(プランの検討と改善)	前回の復習
13		講義・演習	振り返り／演出的思考と表現への応用	前回の復習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				